

2. 竪穴住居跡

3軒確認した。調査区中央～南部に約10m前後の間隔を空けて分布し、重複関係はない。いずれも平面形は円形を基調とし、長軸7.24～8.86mの規模である。地山を床として中央に地床炉を持ち、壁面の一部に張り出し部を設けるもの(SI1)が見られる。柱穴は主柱穴4基からなるもの(SI1・22)と、比較的規模の小さな柱穴を環状に配置するもの(SI20)がある。各住居とも床面に伴う遺物の出土は少ないが、SI20竪穴住居跡では床面から炭化材・焼骨・焼土が多く出土している。また、SI1・20竪穴住居跡では廃絶後の堆積土から縄文土器などの遺物がまとまって出土している。以下、各遺構について詳述する。

【SI1 竪穴住居跡】 (第87・88図, 写真図版12～17)

位置: S-32・E-5

規模: 長軸7.24m、短軸6.08m、面積26.57㎡以上

形態: 竪穴の平面形は略円形で、北側に張り出し部(幅1.90m、奥行0.70m)がある。壁面の立ち上がりは北側の一部のみ残存する。主柱穴4基が変形状に配置され、小柱穴4基を伴う。床面のほぼ中央に地床炉1基があり、周囲に硬化面を確認した。

柱穴: 4基の主柱穴を菱形に配置する(P1～4)。掘方の平面形は長軸50～60cmの略円形・楕円形で、深さ64～108cmである。P2～4で柱材の抜き取り穴、P1～3で径14～20cmの柱痕跡を確認した。小柱穴4基(P5～8)はP1・3・4に隣接して各1基、P1・2の中間付近に1基を配置している。掘方は長軸32～40cmの略円形・楕円形で、深さ48～96cmである。いずれも柱材の抜き取り穴を確認した。

壁面: 北側の一部のみ残存し、地山を壁とする。残存壁高は最大0.14mである。

床面: 地山を床とし、ほぼ平坦である。北側の張り出し部周辺のみ掘方埋土が認められる。中央部から西寄りのP7柱穴付近にかけての長軸3.50m、短軸3.20mの範囲で明瞭な硬化面を確認した。

炉跡: 中央部に地床炉1基(F1)がある。炉底面はほぼ平坦である。長軸82cm、短軸45cmの不整形の赤色硬化範囲を確認した。赤色化の深度は最大12cmである。

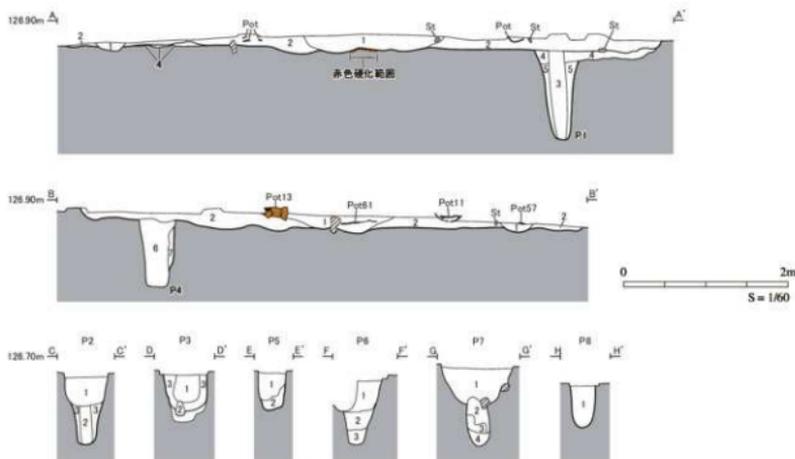
堆積土: 住居内堆積土は2層に細分される。ローム・焼土粒、焼骨片を少量含む黒色・黒褐色シルトである。

出土遺物: 床面に伴う遺物は少ないが、廃絶直後の堆積土から縄文土器の復元個体15点などがまとまって出土している。

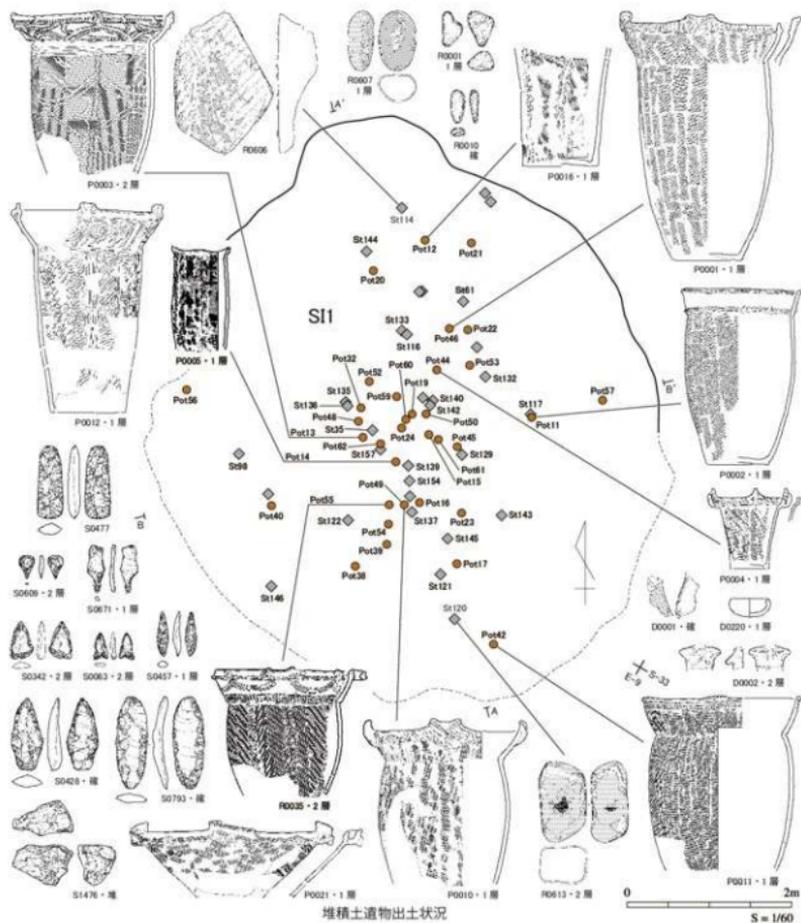
遺物の数量は縄文土器77.5kg・土製品3点・石器103点・礫石器59点、石製品1点である。このうち、縄文土器83点(第3分冊: 図版1～11、第4分冊: 写真図版1・18～27)、土製品3点(図版276、写真図版258)、石器10点(図版297、写真図版289)、礫石器6点(図版374・375、写真図版400)を図示した。

縄文土器は深鉢・浅鉢・台付浅鉢があり、Ⅲ群1類で12点、Ⅴ群1類で3点の略完形・復元個体がある。略完形・復元個体を中心としたⅢ群1類の土器が主体である。土製品は土偶・ミニチュア土器があり、土偶は大型品の臀部の一部(D0001)、中型品の胴上部(D0002)が見られる。後者は乳房が棒状に突出する。石器は石鏃・尖頭器・石錐・石筈・楔形石器・不定形石器・両面加工石器・二次加工ある剥片・微細剥離ある剥片・剥片・石核がある。礫石器は石皿・台石・敲石・磨石類がある。R0613は輝石安山岩製の台石で、線状潰痕が顕著に認められる。石製品は円盤状石製品がある。その他、焼骨(哺乳類)が出土している。また、縄文土器深鉢(P0010)・ミニチュア土器(D0220)で堅果類、縄文土器深鉢(P0038)でウリ科種子の圧痕を確認した。年代測定: AMS測定により、堆積土2層出土土器付着炭化物で4,460±30yrBP(P0037: Ⅲ群1類)、堆積土1層出土土器付着炭化物で4,470±30yrBP(P0010: Ⅲ群1類)・4,470±30yrBP(P2201: Ⅴ群2類)の放射性炭素年代が得られている。暦年較正年代(1σ)は5,275～4,983calBP、5,276～5,039calBP、5,277～5,043calBPの間にそれぞれ複数の範囲で示される。

機能時期: 廃絶直後の堆積土出土遺物と放射性炭素年代から、3-2期に位置付けられる。



第87図 SI1 竪穴住居跡 (1)



堆積土遺物出土状況

S11 貯/注/埋跡 P00 A-A' B-B'			S11 貯/注/埋跡 P5 E-E'				
No.	土色	土質	含有物等(備考)	No.	土色	土質	含有物等(備考)
1	10YR2/1 栗色	シルト	ローム・焼土粒、焼片少量。(柱状)	1	10YR2/2 栗褐色	シルト	ローム・炭化物粒極少量。(柱状)
2	10YR2/2 栗褐色	シルト	ローム・焼土粒極少量。(柱状)	2	10YR3/2 栗褐色	シルト	ロームブロック少量。(柱状)
3	10YR3/2 栗褐色	シルト	ロームブロック・粒少量。(P1 柱状)	S11 貯/注/埋跡 P0 F-F'			
4	10YR3/2 栗褐色	シルト	ロームブロック主。(柱頭・P1 柱頭共通)	No.	土色	土質	含有物等(備考)
5	10YR4/1 赭灰色	シルト	ロームブロック多量。(P1 柱状)	1	10YR3/1 栗褐色	シルト	ロームブロック少量。(柱状)
6	10YR4/2 灰褐色	シルト	ローム粒・小ブロック均。(P4 柱状)	2	10YR3/2 栗褐色	シルト	ロームブロック・粒。(柱状)
7	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	砂質ローム主。(P4 柱状)	3	10YR4/2 灰褐色	シルト	ロームブロック主。(柱状)
S11 貯/注/埋跡 P2 C-C'			S11 貯/注/埋跡 P7 C-C'				
No.	土色	土質	含有物等(備考)	No.	土色	土質	含有物等(備考)
1	10YR4/1 赭灰色	シルト	ロームブロック・粒少量。焼片極少量。(柱状)	1	10YR4/1 赭灰色	シルト	ローム粒均。(柱状)
2	10YR2/2 栗褐色	シルト	ロームブロック少量。(柱状)	2	10YR3/1 栗褐色	シルト	ローム粒均。(柱状)
3	10YR3/2 栗褐色	シルト	ロームブロック。(柱状)	3	10YR2/1 栗色	シルト	ロームブロック・粒少量。(柱状)
4	10YR3/1 栗褐色	シルト	ロームブロック多量。(柱状)	4	10YR3/1 栗褐色	シルト	ロームブロック多量。(柱状)
S11 貯/注/埋跡 P3 D-D'			S11 貯/注/埋跡 P8 H-H'				
No.	土色	土質	含有物等(備考)	No.	土色	土質	含有物等(備考)
1	10YR2/2 栗褐色	シルト	ローム・炭化物粒少量。(柱状)	1	10YR3/2 栗褐色	シルト	ロームブロック・粒少量。(丸高)
2	10YR4/1 赭灰色	シルト	ローム粒均。(柱状)				
3	10YR2/1 栗色	シルト	ローム粒少量。(柱状)				

第88図 S11 竪穴住居跡(2)

遺構と遺物の詳説
竪穴住居跡

【S120 竪穴住居跡】(第89～94図、写真図版17～22)

位置：S-30・E-21

規模：長軸7.30m、短軸7.00m、面積約34.09㎡

形態：竪穴の平面形は略円形で、壁面の立ち上がりは比較的明瞭である。多数の柱穴・小柱穴を確認したが、重複が著しく複数時期の変遷が考えられる。北部に小型のフラスコ状土坑1基がある。床面の中央部に地床があり、周囲に硬化面を確認した。

柱穴：74基を確認した。掘方の平面形は長軸15～56cmの略円形・楕円形で、深さ12～84cmである。37基で柱材の抜き取り穴、24基で径10～32cmの柱痕跡を確認した。重複が著しく、複数時期の変遷が考えられる。掘方および柱痕跡の規模と配置から、五角形に配置されるP1・7・8・37・56の5基が主柱穴の可能性があり、これに近接する位置に小柱穴の集中部が見られる(P8周辺：P13・14・21・22・24、P7周辺：P6・29・30・31・39・84、P1周辺：P20・63・86、P37周辺：P12・15・16・23・35・40・44)。また、北側では主柱穴と同等の規模の柱穴が弧状に巡る(P2・4・10・32)。これらは重複関係から相対的に新しく、住居の拡張または改修に伴いP1・7・56に替わって掘り直された主柱穴の可能性はある。

壁面：地山を壁とする。残存壁高は最大0.34mである。

床面：地山を床とし、ほぼ平坦である。中央部の長軸4.25m、短軸3.65mの範囲で明瞭な硬化面を確認した。また、硬化面の直上には炭化材と焼土の分布が認められ、南側に骨片集中を確認した。

炉跡：中央やや東寄りに地床炉1基(F1)がある。炉底面はほぼ平坦である。長軸60cm、短軸30cmの不整形の赤色硬化範囲を確認した。赤色化の深度は最大10cmである。

土坑：住居北部に小型のフラスコ状土坑1基(K5)がある。開口部は長軸140cm、短軸136cmの不整形円形で、くびれ部が径77cmの略円形、底面が長軸130cm、短軸110cmの不整形円形である。断面形は深さ68cmの鼓形を呈し、東壁面にP88柱穴を避けて掘り込まれている。堆積土は9層に細分される。ローム・黒色シルトブロック、焼土粒を含む黒褐色・暗褐色シルトなどである。

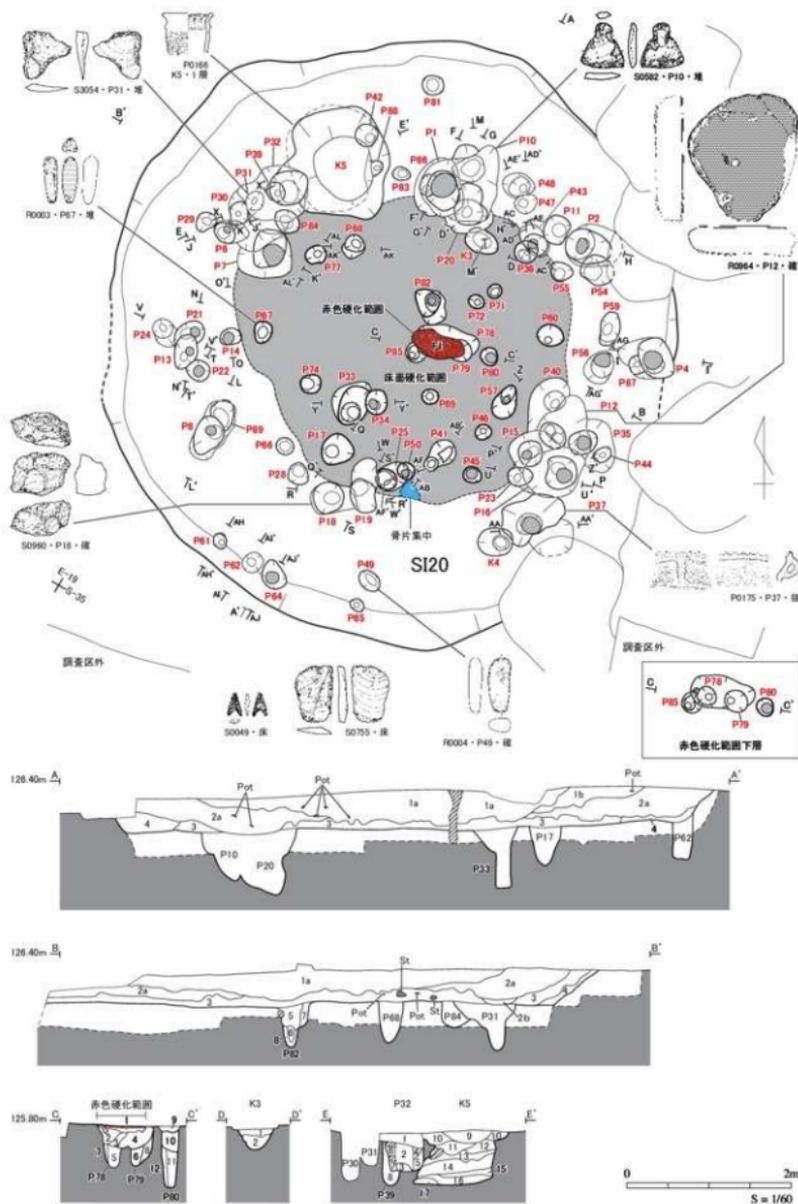
骨片集中：住居南側の床面に骨片集中1か所を確認した。ニホンジカ、イノシシ、哺乳綱がある。加工痕のあるニホンジカの角、カットマークのある哺乳綱の四肢骨がある。

堆積土：住居内堆積土は6層に細分される。ローム・焼土ブロック、炭化物・焼骨片を含む黒褐色・暗褐色シルトである。床面直上および床面の大部分を覆う堆積土3層は焼土ブロック、炭化物片と焼土・炭化物粒を多量に含む。

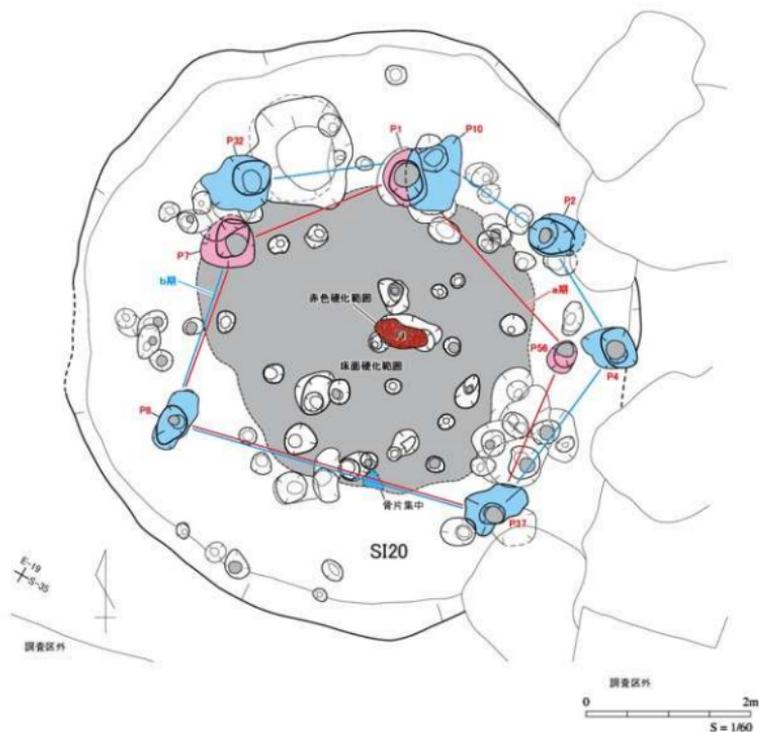
出土遺物：床面に伴う遺物は少なく、廃絶直後の堆積土から縄文土器の復元個体10点などがまとめて出土している。

遺物の数量は縄文土器95.1kg、土製品10点、石器447点、礫石器115点である。このうち、縄文土器97点(第3分冊：図版11～19、第4分冊：写真図版1・28～35)、土製品7点(図版276、写真図版258)、石器22点(図版298～300、写真図版290～292)、礫石器15点(図版375～377、写真図版401・402)を図示した。

縄文土器は深鉢・浅鉢・小型深鉢・壺があり、IV群1類で9点、V群2類で1点の完形・略完形・復元個体がある。完形・略完形・復元個体を中心としたIV群1類の土器が主体である。土製品は土偶・ミニチュア土器・耳飾・三脚形土製品がある。土偶は小型品の胴部(D0003・D0004)、大型品の頭部(D0006)、脚部(D0007)が見られ、脚部には横位集合沈線文を施文する。耳飾(D0131)は表面に漆状塗膜が見られる。石器は石鎌・尖頭器・石錐・石匙・楔形石器・打製石斧・磨製石斧・不定形石器・両面加工石器・二次加工ある剥片・微細剥離ある剥片・剥片・石核がある。S0998は硬質砂岩製の打製石斧である。製品に近い形状の垂円礫を素材として選択し、刃部を作出するもので、未成品と考えられる。また、図示していないがアオトラ石の可能性がある緑色岩製の磨製石斧の破片(S1033)がある。礫石器は石皿・蔽石・磨石類がある。その他、焼成粘土塊

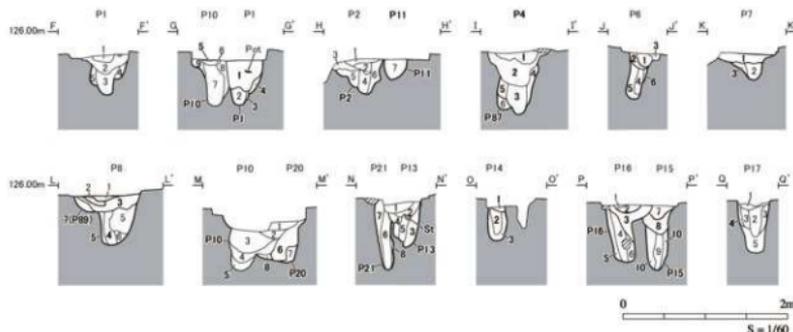


第89図 SI20 竪穴住居跡(1)



S20 野付/山形跡 AA・BB				S20 野付/山形跡 K3 D			
No	土色	土質	含有物等(備考)	No	土色	土質	含有物等(備考)
1a	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・炭化物・焼土粒・焼骨片少量。(住層)	10	10YR3/4 暗褐色	シルト	ローム粒・小ブロック。(P80 柱状)
1b	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム粒・小ブロック。炭化物粒極少量。(住層)	11	10YR3/4 暗褐色	シルト	ローム粒少量。(P80 柱状)
2a	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・炭化物・焼土粒・焼骨片。(住層)	12	10YR4/6 褐色	シルト	ロームブロック。(P80 柱状)
2b	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒、ローム小ブロック、焼骨片、炭化物粒少量。(住層)	S20 野付/山形跡 K5 E			
3	10YR2/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック、炭化物片、焼土・炭化物粒多量。ローム粒・小ブロック。焼骨片少量。(住層)	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒少量。焼土粒極少量
4	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック、ローム粒少量。焼骨片極少量。(住層)	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	ローム小ブロック多量。ローム粒。
5	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒多量。ロームブロック。焼土・炭化物粒少量。(P82 柱状)	S20 野付/山形跡 K5・P32・P39 E			
6	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒。炭化物粒少量。焼骨片極少量。(P82 柱状)	No	土色	土質	含有物等(備考)
7	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック多量。ローム粒少量。(P82 柱状)	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック・粒。(P32 柱状)
8	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム小ブロック多量。(P82 柱状)	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	ローム粒少量。(P32 柱状)
S20 野付/山形跡 中跡 CC				4	10YR3/2 黒褐色	シルト	ロームブロック。(P32 柱状)
No	土色	土質	含有物等(備考)	5	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック。(P32 柱状)
1	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土ブロック多量。焼土粒。黒褐色・灰褐色土ブロック、炭化物粒。焼骨片極少量。(P78・P79 柱状)	6	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック多量。(P32 柱状)
2	10YR3/4 暗褐色	シルト	ローム粒。焼土粒。灰褐色土少量。(P78・P79 柱状)	7	10YR4/4 褐色	シルト	ロームブロック多量。(P32 柱状)
3	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム粒。炭化物粒少量。焼土粒極少量。(P78・P79 柱状)	8	黒褐色	シルト	ローム粒少量。(P39 柱状)
4	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒・小ブロック。焼土・炭化物粒極少量。(P78 柱状)	9	10YR3/2 黒褐色	シルト	ローム粒。炭化物片。(K5 1層)
5	10YR3/3 暗褐色	シルト	ロームブロック。炭土少量。(P79 柱状)	10	10YR3/2 黒褐色	シルト	ロームブロック。ローム・焼土粒少量。(K5 2層)
6	10YR3/4 暗褐色	シルト	ローム粒・小ブロック。焼土・炭化物粒極少量。(P78 柱状)	11	10YR3/3 暗褐色	シルト	ロームブロック多量。黒褐色土ブロック。(K5 3層)
7	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック。(P79 柱状)	12	10YR3/2 黒褐色	シルト	ロームブロック・粒。黒褐色土ブロック。(K5 4層)
8	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック。(P79 柱状)	13	10YR4/3 灰色・黒褐色	シルト	ローム粒・小ブロック多量。黒褐色土ブロック。(K5 5層)
9	10YR4/6 褐色	シルト	ロームブロック、焼土小ブロック少量、焼骨片極少量。(P80 柱状)	14	10YR3/2 黒褐色	シルト	ロームブロック・粒。(K5 6層)
				15	10YR3/3 暗褐色	シルト	ロームブロック。(K5 7層)
				16	10YR3/2 黒褐色	シルト	ローム粒。(K5 8層)
				17	10YR4/6 褐色	シルト	ロームブロック。(K5 9層)

第90図 SI20 竪穴住居跡(2)



S20 壁/柱回廊 P1 F/F

No.	土色	土質	含有物等(備考)
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒少量。(柱礎)
2	10YR2/4 暗褐色	シルト	ロームブロック・粒少量。(柱礎)
3	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒・小ブロック少量。(柱礎)
4	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒均。(柱礎)
5	10YR2/4 暗褐色	シルト	ローム粒多量。(柱礎)

S20 壁/柱回廊 P1・P10 G/G

No.	土色	土質	含有物等(備考)
1	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・焼土・焼瓦片、ローム小ブロック少量。(P1柱礎)
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒・小ブロック少量。(P1柱礎)
3	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック・粒。(P1柱礎)
4	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック・粒。(P1柱礎)
5	10YR2/2 黒褐色	シルト	ロームブロック・粒。(P1柱礎)
6	黒褐色	暗褐色土粒少量。(P10柱礎)	
7	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒。(P10柱礎)
8	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒・小ブロック少量。(P10柱礎)
9	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック多量。(P10柱礎)
10	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック多量。(P10柱礎)

S20 壁/柱回廊 P2・P11 F/F

No.	土色	土質	含有物等(備考)
1	10YR2/4 暗褐色	シルト	ローム粒。(P2柱礎)
2	10YR4/4 褐色	シルト	ローム粒・大ブロック多量。(P2柱礎)
3	10YR2/4 暗褐色	シルト	ローム粒少量。(P2柱礎)
4	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム粒少量。(P2柱礎)
5	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム大ブロック少量、ローム粒少量。(P2柱礎)
6	10YR2/4 暗褐色	シルト	ローム粒。(P2柱礎)
7	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒極少量。(P11柱礎か)

S20 壁/柱回廊 P4 F/F

No.	土色	土質	含有物等(備考)
1	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒多量、ローム小ブロック少量。(P4柱礎)
2	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム大ブロック少量、ローム粒少量。(P4柱礎)
3	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック多量、ローム粒均。(P4柱礎)
4	10YR2/4 暗褐色	シルト	ロームブロック多量、ローム粒。(P4柱礎)
5	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム粒・小ブロック。(P4柱礎)
6	10YR2/4 暗褐色	シルト	ロームブロック多量。(P4柱礎)

S20 壁/柱回廊 P6 F/F

No.	土色	土質	含有物等(備考)
1	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック・粒。(柱礎)
2	10YR2/3 暗褐色	シルト	ロームブロック・粒少量。(柱礎)
3	10YR2/3 暗褐色	シルト	ロームブロック多量、ローム粒。(柱礎)
4	7.5YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック・粒少量。(柱礎)
5	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム粒。(柱礎)
6	10YR2/4 暗褐色	シルト	ローム粒。(柱礎)

S20 壁/柱回廊 P7 K/K

No.	土色	土質	含有物等(備考)
1	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム粒・小ブロック、炭化物・焼土粒少量。(柱礎)
2	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム粒・小ブロック。(柱礎)
3	10YR2/2 黒褐色	シルト	ロームブロック多量。(柱礎)

S20 壁/柱回廊 P8 L/L

No.	土色	土質	含有物等(備考)
1	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム粒、ローム小ブロック少量。(P8柱礎)
2	10YR2/3 暗褐色	シルト	ロームブロック・粒。(P8柱礎)
3	10YR2/4 暗褐色	シルト	ローム・炭化物粒。(P8柱礎)
4	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームと土塊。(柱礎)

S20 壁/柱回廊 P10・P20 M/M

No.	土色	土質	含有物等(備考)
5	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム小ブロック多量、ローム粒、炭褐色土、焼物片少量。(P8柱礎)
6	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム大ブロック少量。(P8柱礎)
7	10YR2/4 暗褐色	シルト	ローム大ブロック多量。(P8柱礎)

S20 壁/柱回廊 P10・P20 M/M

No.	土色	土質	含有物等(備考)
1	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム粒多量、ローム大ブロック少量。(P10柱礎)
2	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム大ブロック多量、ローム粒少量。(P10柱礎)
3	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム粒・小ブロック少量。(炭褐色土層にP10柱礎)
4	10YR2/3 暗褐色	シルト	ロームブロック多量、(炭褐色土層にP10柱礎)
5	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム粒多量、ローム小ブロック少量。(P10柱礎)
6	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム粒均。(ローム大ブロック少量。(P20柱礎)
7	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム大ブロック多量、ローム粒少量。(P20柱礎)
8	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム小ブロック少量。(P20柱礎)

S20 壁/柱回廊 P13・P21 M/M

No.	土色	土質	含有物等(備考)
1	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム粒少量。(P13柱礎)
2	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム大ブロック少量。(P13柱礎)
3	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム粒。(P13柱礎)
4	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム小ブロック多量。(P13柱礎)
5	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム大ブロック少量。(P13柱礎)
6	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム粒均。(ローム小ブロック少量。(P21柱礎)
7	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム粒、下部にロームブロック多量。(P21柱礎)
8	10YR4/4 褐色	シルト	ローム大ブロック少量。(P21柱礎)

S20 壁/柱回廊 P14 G/G

No.	土色	土質	含有物等(備考)
1	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム・焼土・炭化物粒。(柱礎)
2	10YR2/4 暗褐色	シルト	ローム粒・小ブロック、焼土粒少量。(柱礎)
3	10YR4/3 灰色 暗褐色	シルト	ローム大ブロック多量。(柱礎)

S20 壁/柱回廊 P15・P16 F/F

No.	土色	土質	含有物等(備考)
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム大ブロック。(P16柱礎)
2	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒、ローム小ブロック、炭化物・焼土粒少量。(P16柱礎)
3	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム大ブロック・粒、炭化物粒、焼物片少量。(P16柱礎)
4	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム大ブロック・粒少量。(P16柱礎)
5	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム大ブロック多量。(P16柱礎)
6	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム大ブロック。(P16柱礎)
7	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒、ローム大ブロック、炭褐色土少量、焼土粒極少量。(P15柱礎)
8	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム粒、ローム大ブロック、炭化物粒少量。(P15柱礎)

S20 壁/柱回廊 P15・P16 F/F

No.	土色	土質	含有物等(備考)
9	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム大ブロック多量、ローム粒。(P15柱礎)
10	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム大ブロック多量、ローム粒、炭化物片少量。(P15柱礎)

S20 壁/柱回廊 P17 Q/Q

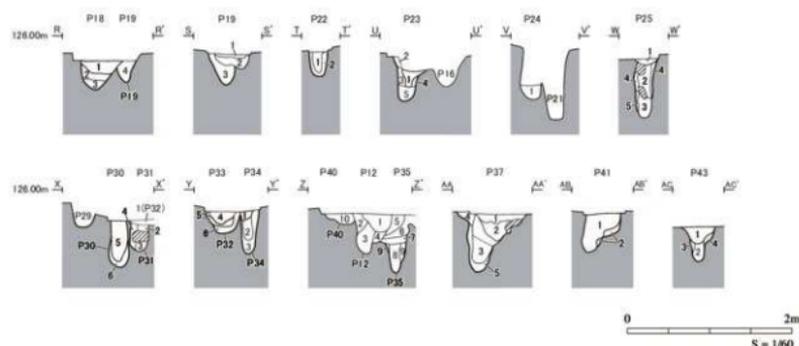
No.	土色	土質	含有物等(備考)
1	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム・焼土粒。(柱礎)
2	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム大ブロック多量、炭化物少量。(柱礎)
3	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム小ブロック多量、ローム粒。(柱礎)
4	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム粒と土塊。(柱礎)
5	暗褐色	ローム粒。(柱礎)	

第91図 S120 壁六住居跡(3)

第3章 調査の成果

4点(写真図版282)・焼骨(イノシシ・ニホンジカ・哺乳類)・炭化材(クリ)・炭化種実(オニグルミ)が出土している。また、縄文土器深鉢で種実圧痕(P0135:イネ科有ふ果、P0097:堅果類、P0101:不明種実)を確認した。

年代測定: AMS測定により、堆積土3層出土炭化材で $4.410 \pm 30\text{yrBP}$ ・ $4.390 \pm 30\text{yrBP}$ ・ $4.370 \pm 30\text{yrBP}$ 、同層出土焼骨で $4.440 \pm 30\text{yrBP}$ ・ $4.420 \pm 30\text{yrBP}$ ・ $4.410 \pm 30\text{yrBP}$ 、堆積土2a層出土土器付炭化物で $4.430 \pm 30\text{yrBP}$ ・ $4.380 \pm 30\text{yrBP}$ (P0097:IV群1類)の放射性炭素年代が得られている。暦年較正年代(1σ)



S20 野付住居跡 P18・P19 北東			S20 野付住居跡 P23・P34 Y-Y		
No.	土色	土質	No.	土色	土質
1	10YR2/3 黒褐色	シルト	1	10YR2/3 黒褐色	シルト
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	2	10YR2/3 黒褐色	シルト
3	10YR2/3 黒褐色	シルト	3	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト
4	10YR3/4 暗褐色	シルト	4	10YR2/3 黒褐色	シルト
S20 野付住居跡 P19 5S			S20 野付住居跡 P12・P35・P40 Z-Z		
No.	土色	土質	含有物等(備考)		
1	10YR2/3 黒褐色	シルト	1	10YR2/3 黒褐色	シルト
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	2	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト
3	10YR3/4 暗褐色	シルト	3	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト
S20 野付住居跡 P22 TT			S20 野付住居跡 P23 北西		
No.	土色	土質	含有物等(備考)		
1	10YR2/3 黒褐色	シルト	1	10YR2/3 黒褐色	シルト
2	10YR3/4 暗褐色	シルト	2	10YR2/3 黒褐色	シルト
S20 野付住居跡 P23 北西			S20 野付住居跡 P24 V-V		
No.	土色	土質	含有物等(備考)		
1	10YR2/3 黒褐色	シルト	1	10YR2/3 黒褐色	シルト
2	10YR3/4 暗褐色	シルト	2	10YR2/3 黒褐色	シルト
3	10YR3/4 暗褐色	シルト	3	10YR3/4 暗褐色	シルト
4	10YR3/4 暗褐色	シルト	4	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト
5	10YR2/3 黒褐色	シルト	5	10YR4/4 褐色	シルト
S20 野付住居跡 P24 V-V			S20 野付住居跡 P37 AA-AA		
No.	土色	土質	含有物等(備考)		
1	10YR2/3 黒褐色	シルト	1	10YR2/3 黒褐色	シルト
S20 野付住居跡 P25 W-W			S20 野付住居跡 P43 AB-AB		
No.	土色	土質	含有物等(備考)		
1	10YR2/3 黒褐色	シルト	1	10YR2/2 黒褐色	シルト
2	10YR3/4 暗褐色	シルト	2	10YR3/4 暗褐色	シルト
3	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	3	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト
4	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	4	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト
5	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	5	10YR4/4 褐色	シルト
S20 野付住居跡 P30・P31 北西			S20 野付住居跡 P43 AC-AC		
No.	土色	土質	含有物等(備考)		
1	10YR2/3 黒褐色	シルト	1	10YR2/3 黒褐色	シルト
2	10YR3/4 暗褐色	シルト	2	10YR2/3 黒褐色	シルト
3	10YR3/4 暗褐色	シルト	3	10YR3/4 暗褐色	シルト
4	10YR2/3 黒褐色	シルト	4	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト
5	10YR2/3 黒褐色	シルト			
6	10YR2/4 暗褐色	シルト			

第92図 S120 野付住居跡(4)

は5,041～4,892calBP, 5,028～4,878calBP, 4,960～4,874calBP, 5,260～4,971calBP, 5,211～4,894calBP, 5,038～4,888calBP, 5,213～4,892calBP, 4,969～4,875calBPの間にそれぞれ1つまたは複数の範囲で示される。

機能時期：廃絶直後の堆積土出土遺物と放射性炭素年代から、4-1期に位置付けられる。

【SI22 竪穴住居跡】(第95～97図, 写真図版23～26)

位置：S-13・W-O-E

規模：長軸8.86m, 短軸7.78m, 面積約47.73㎡

形態：竪穴の平面形は略円形を呈する。壁面の立ち上がりは比較的明瞭であるが、西半部では外傾しており崩壊の影響と考えられる。主柱穴4基が方形に配置される。床面の中央部に地床が1基がある。

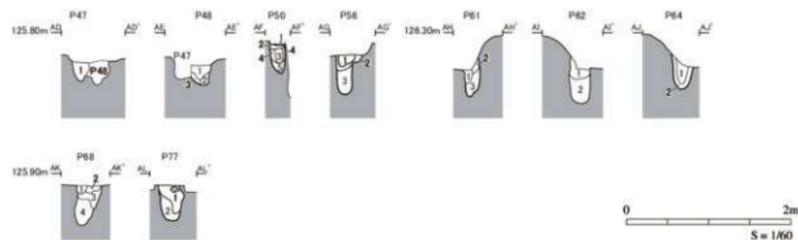
柱穴：主柱穴7基, 小柱穴1基を確認した。主柱穴は4基を方形に配置し、同位置での掘り直しを含めて最大3時期の変遷が確認できる(北東側：P1a→P1b, 北西側：P11→P10, 南西側：P7・P12→P8)。掘方の平面形は長軸78～94cmの隅丸方形・略円形・楕円形で、深さ72～92cmである。7基で柱材の抜き取り穴、2基で径16～27cmの柱痕跡を確認した。小柱穴は北東壁際に1基(P2)を配置する。平面形は径45cmの略円形で、深さは32cmである。柱材の抜き取り穴を確認した。

壁面：地山を壁とする。残存壁高は最大0.63mである。

床面：地山を床とし、ほぼ平坦である。明瞭な硬化面は確認されなかった。

炉跡：中央部に地床が1基(F1)がある。炉底面はごく浅く皿状に窪む。径113cmの略円形を呈する赤色硬化範囲を確認した。赤色化の深度は最大4cmである。

土坑：住居北東側のP1柱穴と一部重複して土坑2基(K1・K2)がある。いずれもP1柱穴より古い。K1土坑

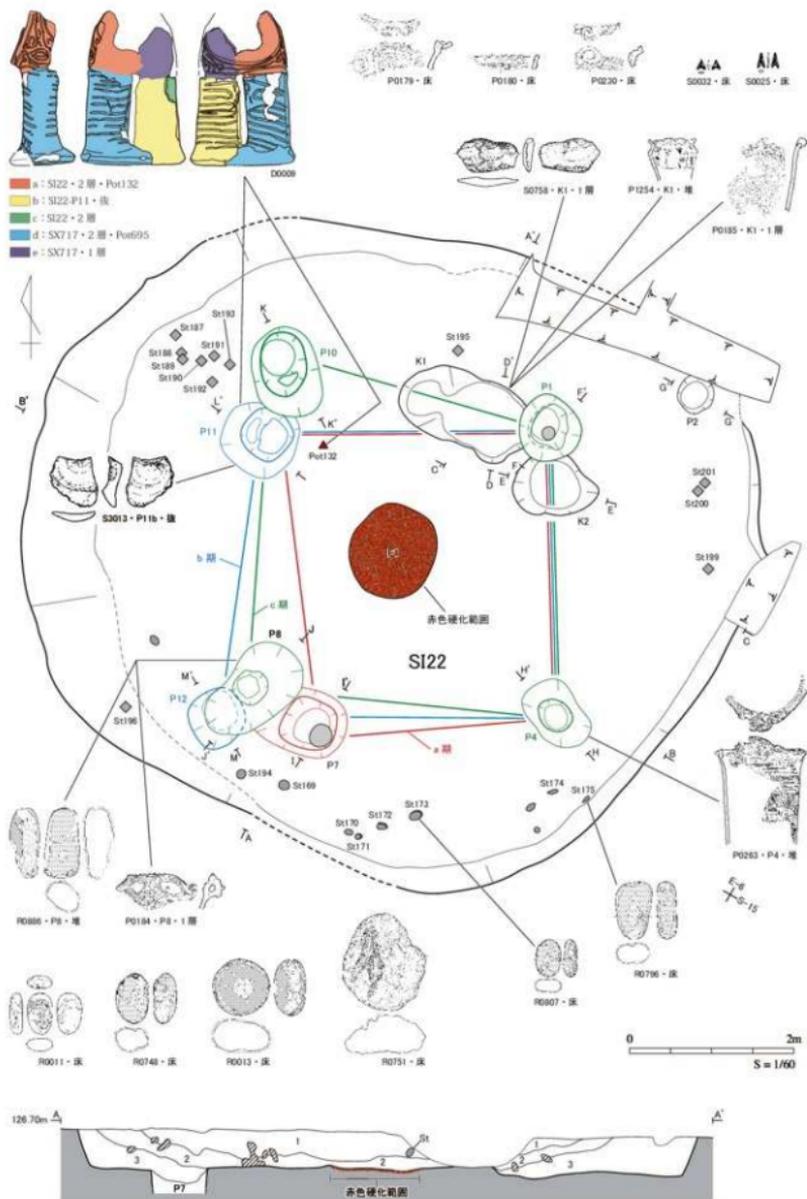


SI20 竪穴住居跡 P47 AD-AF			SI20 竪穴住居跡 P61 AH-AF		
No.	土色	土性	No.	土色	土性
1	10YR2/3 暗褐色	シルト	1	10YR2/3 暗褐色	シルト
		含有物等(備考)			含有物等(備考)
		ローム・炭化物・焼土粒, ローム小ブロック少量。(柱痕)			ローム粒多量, 炭化物片輪少量。(柱痕)
SI20 竪穴住居跡 P48 AH-AF			SI20 竪穴住居跡 P62 AH-AF		
No.	土色	土性	No.	土色	土性
1	10YR2/3 暗褐色	シルト	1	10YR2/3 暗褐色	シルト
		含有物等(備考)			含有物等(備考)
		ローム粒・小ブロック少量, 炭化物・焼土粒輪少量。(柱痕)			ローム粒, ロームアブロック少量。(柱痕)
2	10YR2/3 暗褐色	シルト	2	10YR3/3 暗褐色	シルト
		含有物等(備考)			含有物等(備考)
		ローム小ブロック少量, 炭化物粘輪少量。(柱痕)			ローム粒, 炭化物片少量。(柱痕)
3	10YR3/3 暗褐色	シルト	2	10YR2/3 暗褐色	シルト
		含有物等(備考)			含有物等(備考)
		ローム小ブロック少量, 炭化物粘輪少量。(柱痕)			ロームアブロック少量, 暗褐色土少量, 炭化物粘輪少量。(柱痕)
SI20 竪穴住居跡 P50 AF-AF			SI20 竪穴住居跡 P64 AH-AF		
No.	土色	土性	No.	土色	土性
1	10YR3/4 暗褐色	シルト	1	10YR2/3 暗褐色	シルト
		含有物等(備考)			含有物等(備考)
		ロームブロック, 炭化物・焼土粒少量。(柱痕)			ロームアブロック粒, 炭化物片少量。(柱痕)
2	10YR4/4 褐色	シルト	2	10YR3/3 暗褐色	シルト
		含有物等(備考)			含有物等(備考)
		ローム小ブロック。(柱痕)			ロームアブロック少量。(柱痕)
3	10YR3/4 暗褐色	シルト	2	10YR3/3 暗褐色	シルト
		含有物等(備考)			含有物等(備考)
		ロームアブロック・粒, 炭化物・焼土粒少量。(柱痕)			ロームアブロック少量。(柱痕)
4	10YR2/3 暗褐色	シルト	5	10YR4/3 赤褐色	シルト
		含有物等(備考)			含有物等(備考)
		ローム小ブロック多量。(柱痕)			ロームブロック多量。(柱痕)
5	10YR4/3 赤褐色	シルト			
		含有物等(備考)			
		ロームブロック多量。(柱痕)			
SI20 竪穴住居跡 P56 AG-AG			SI20 竪穴住居跡 P68 AA-AK		
No.	土色	土性	No.	土色	土性
1	10YR2/3 暗褐色	シルト	1	10YR2/3 暗褐色	シルト
		含有物等(備考)			含有物等(備考)
		ローム粒, ローム小ブロック少量, 炭化物・焼土粒輪少量。(柱痕)			ローム・炭化物粒, 炭化物土ブロック, 焼土粒少量。(柱痕)
2	10YR3/3 暗褐色	シルト	2	10YR3/4 暗褐色	シルト
		含有物等(備考)			含有物等(備考)
		ローム粒少量, ローム小ブロック多量。(柱痕)			ロームアブロック少量, 炭化物・焼土粒輪少量。(柱痕)
3	10YR2/3 暗褐色	シルト	3	10YR3/3 暗褐色	シルト
		含有物等(備考)			含有物等(備考)
		ロームブロック・粒, 焼土粒少量。(柱痕)			ローム粒少量, 炭化物粘輪少量。(柱痕)
4	10YR2/3 暗褐色	シルト	4	10YR2/3 暗褐色	シルト
		含有物等(備考)			含有物等(備考)
		ロームブロック・粒, 焼土粒少量。(柱痕)			ローム粒, 炭化物多量, ロームアブロック・大ブロック(柱痕)
SI20 竪穴住居跡 P77 AH-AF			SI20 竪穴住居跡 P77 AH-AF		
No.	土色	土性	No.	土色	土性
1	10YR2/3 暗褐色	シルト	1	10YR2/3 暗褐色	シルト
		含有物等(備考)			含有物等(備考)
		ローム・炭化物・焼土粒。(柱痕)			ローム・炭化物・焼土粒。(柱痕)
2	10YR3/3 暗褐色	シルト	2	10YR3/3 暗褐色	シルト
		含有物等(備考)			含有物等(備考)
		ローム粒・小ブロック。(柱痕)			ローム粒・小ブロック。(柱痕)

第93図 SI20 竪穴住居跡(5)

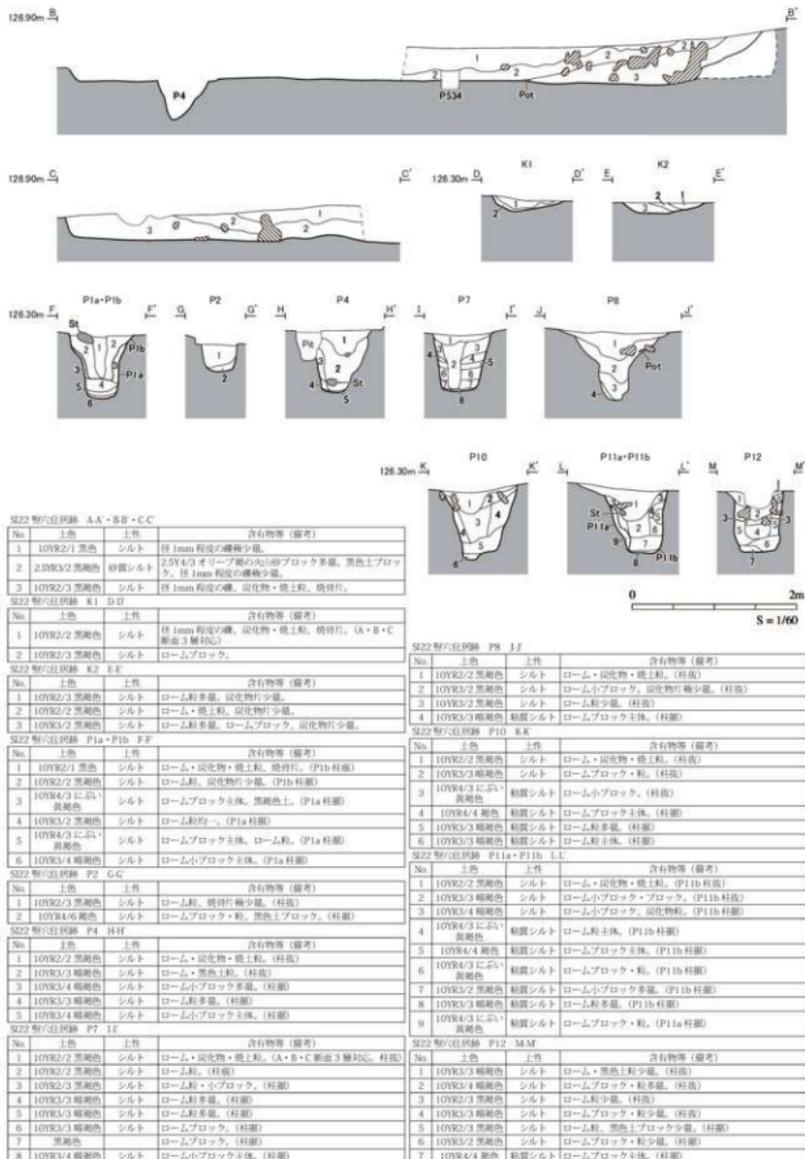


第94図 SI20 竪穴住居跡 (6)



第95図 SI22 竪穴住居跡(1)

第3章 調査の成果



第96図 S122 竪穴住居跡 (2)

第3章 調査の成果

は平面形が長軸 166cm 以上、短軸 90cm の不整楕円形で、断面形は深さ 16cm の皿状を呈する。堆積土は 2 層に細分される。1 層は床面を覆う住居内堆積土 3 層に対応し、2 層はロームブロックを含む黒褐色シルトである。K2 土坑は平面形が長軸 105cm、短軸 70cm 以上の不整楕円形で、断面形は深さ 12cm の皿状を呈する。堆積土は 3 層に細分され、ローム・焼土粒、炭化物片を含む黒褐色シルトである。

堆積土：住居内堆積土は 3 層に細分される。小礫を含む黒色・黒褐色シルトおよび黒褐色砂質シルトである。2 層に火山砂ブロックを多量に含み、3 層は炭化物・焼土粒、焼骨片を含む。

出土遺物：床面に伴う遺物は少なく、廃絶直後の堆積土から縄文土器の復元個体 8 点などが出土している。

遺物の数量は縄文土器 125.5kg、土製品 18 点、石器 657 点、礫石器 205 点である。このうち、縄文土器 91 点（第 3 分冊：図版 20～27、第 4 分冊：写真図版 2・35～42）、土製品 11 点（図版 277・278、写真図版 259・260）、石器 57 点（図版 300～305、写真図版 292～296）、礫石器 21 点（図版 377～380、写真図版 402～404）を図示した。

縄文土器は深鉢・小型深鉢・浅鉢があり、IV 群 1 類で 7 点、V 群 2 類で 1 点の略完形・復元個体がある。略完形・復元個体を中心とした IV 群 1 類の土器が主体で、このうち堆積土上層出土の土器はやや新しい様相を示す。土製品は土偶・ミニチュア土器・耳飾・円環形土製品・管状土製品がある。土偶には大型品の臀部・脚部があり、SX717 遺物包含層から出土した破片（臀部・脚部）と接合して脚部幅 14.2cm、奥行 8.7cm、残存高 21.1cm の下半身に復元される（D0009）。側腰部に渦巻状沈線文、脚部に横位集合沈線文を施文する。石器は石鎌・尖頭器・石錐・石匙・石篋・楔形石器・磨製石斧・不定形石器・両面加工石器・二次加工ある剥片・微細剥離ある剥片・剥片・石核がある。S0982 は泥質ホルンフェルス製の乳棒状磨製石斧で基部側に敲打による整形の痕跡を残し、刃部側は平滑に研磨されている。使用による刃部の損傷が顕著に認められる。S0387 は栃木県高野山産黒曜石製の石核である。礫石器は石皿・台石・有溝砥石・敲石・磨石類がある。その他、焼成粘土塊 3 点（写真図版 282）、焼骨（イノシシ・ニホンジカ・哺乳類）、炭化材（クリ）が出土している。また、縄文土器深鉢（P0380）で不明種実の圧痕を確認した。

年代測定：AMS 測定により、堆積土 3 層出土土器付着炭化物で $4,420 \pm 30$ yrBP（P0208：IV 群 1 類）、堆積土 2 層出土木炭で $4,510 \pm 30$ yrBP・ $4,450 \pm 30$ yrBP の放射性炭素年代が得られている。暦年較正年代（1 σ ）は 5,211～4,892calBP、5,292～5,064calBP、5,265～4,973calBP の間にそれぞれ複数の範囲で示される。

機能時期：廃絶直後の堆積土出土遺物と放射性炭素年代から、4-1 期に位置付けられる。

3. 掘立柱建物跡

11 軒確認した。建物の平面形から掘立柱建物跡 A～C の 3 種類に分類している。

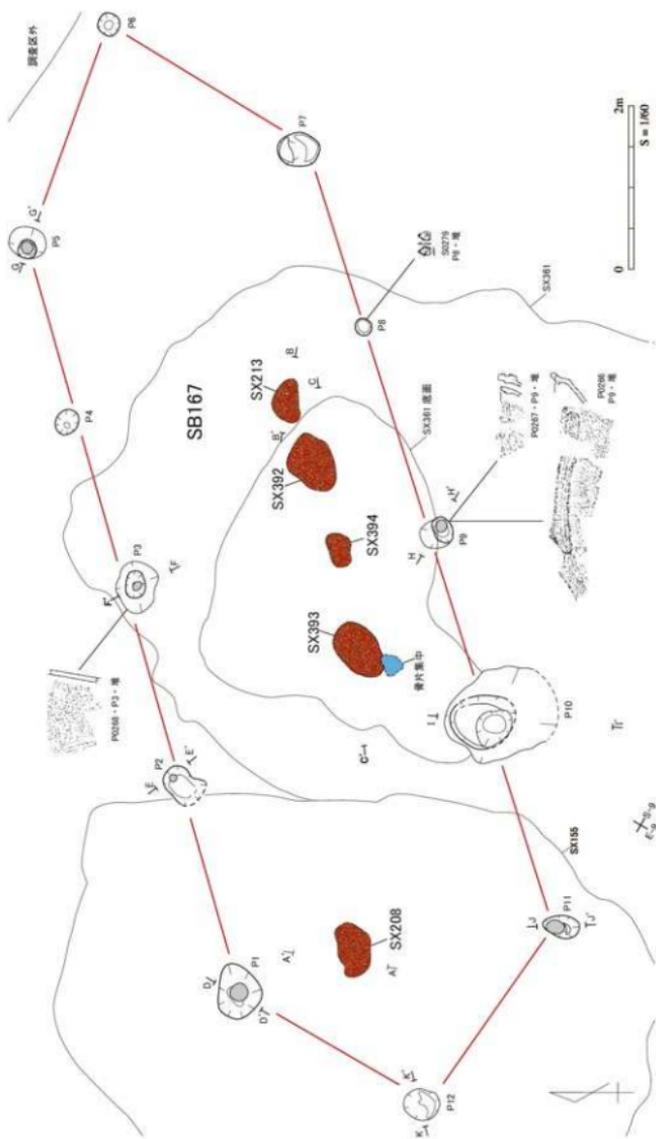
(1) 掘立柱建物跡 A

6 軒確認した。縦長の六角形（亀甲形）に柱穴を配置する建物で、床面に地床炉を伴う。調査区東部に数 m 間隔で並列するように分布し、ほぼ同位置での重複関係も認められる（SB256 と SB363、SB358 と SB362）。建物内の中軸線付近に線状に配置された複数基の地床炉を伴う。床面に伴う遺物はごく少量で、柱穴と炉跡上面から若干の遺物が出土している。また、廃絶後の堆積土および床面を被覆する遺物包含層（SX14・17・290・361・717）は焼骨片を多量に含み、縄文土器などの遺物がまとまって出土している。以下、各遺構について詳述する。

【SB167 掘立柱建物跡】（第 98・99 図、写真図版 27）

位置：S・3・E・9

規模：主軸柱間（P6-P12：7.80m 程度）、桁行 4 間（P1-P5：9.45m）、梁行 1 間（P1-P11：3.97m）、面積約 44.88㎡



第98図 SB167掘立柱建物跡, SX208・213・392・393・394炉跡(1)

第3章 調査の成果

方向：E-16°-N

形態：12本柱で構成される建物で、平面形は縦長の六角形（亀甲形）を呈する。建物内の床面はごく浅く皿状に窪み、中央部の床面に地床が5基を付設する。

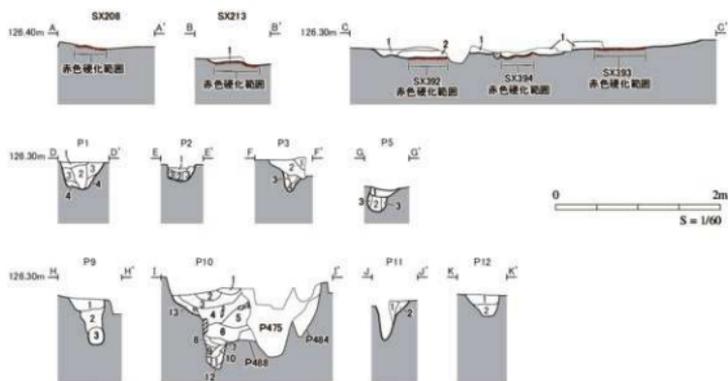
柱穴：12基を確認した。新しい遺構との重複により残存状況にばらつきがある。掘方の平面形は長軸28～78cmの略円形・楕円形で、深さ17～109cmである。7基で柱材の抜き取り穴、6基で径9～23cmの柱痕跡を確認した。

壁面：立ち上がりは確認されなかった。

床面：地山を床とし、ごく浅く皿状に窪む。明瞭な硬化面は確認されなかった。

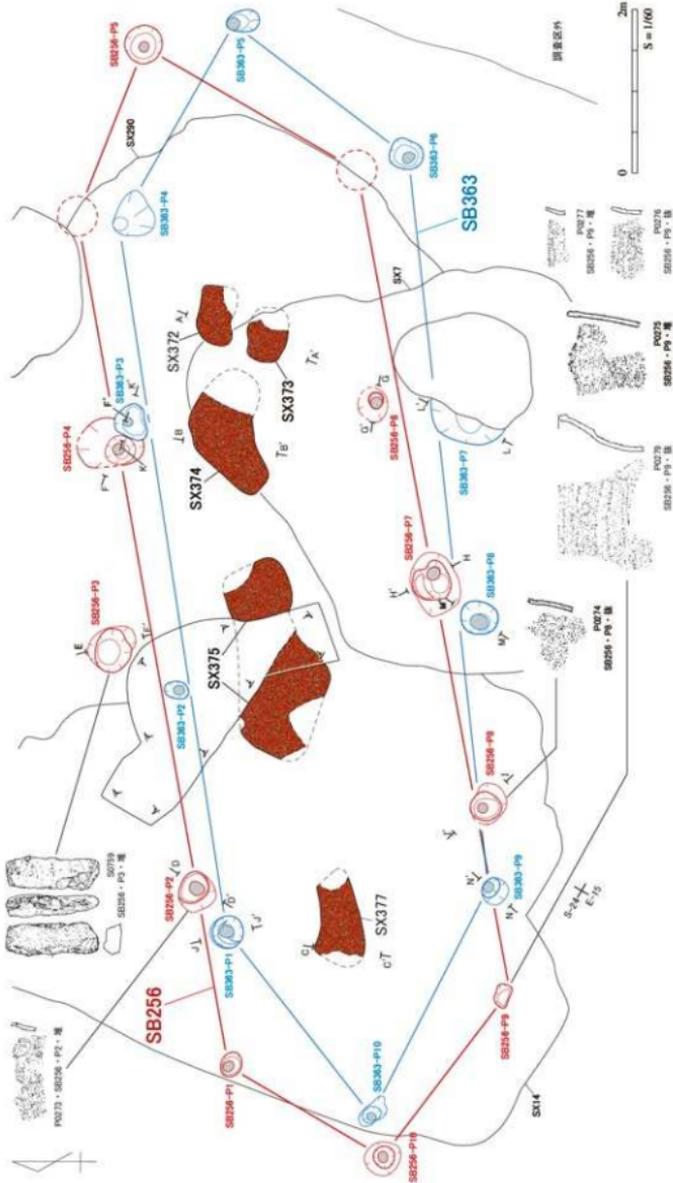
炉跡：地床が5基を確認した。西部の建物中軸線付近に1基（SX208）、中央部の中軸線南側に4基（SX213・392・393・394）が線状に並ぶ。平面形が長軸0.37～0.64mの楕円形ないし不整形を呈する赤色硬化範囲で、赤色化の深度は最大16cmである。

骨片集中：SX393が跡南側の床面で焼骨片集中を確認した。ニホンジカ、イノシシ、哺乳綱がある。



SX213 炉跡 B-B				SB167 平壇柱跡群 P9 H-H			
No.	土色	土質	含有物等（備考）	No.	土色	土質	含有物等（備考）
1	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	小塊、炭化物粒、焼骨片稀少量、(SX361)塵	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	暗褐色土、ローム粒、炭化物粒少量、(柱痕)
SX392・SX393・SX394 赤色硬化範囲 C-C				2	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム粒、暗褐色土、炭化物粒少量、(柱痕)
No.	土色	土質	含有物等（備考）	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック、ローム粒少量、(柱痕)
1	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	小塊、炭化物粒、焼骨片稀少量、(SX361)塵	SB167 平壇柱跡群 P10 I-I			
2	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・焼土・炭化物粒、焼土痕少量	No.	土色	土質	含有物等（備考）
SB167 平壇柱跡群 P1 D-D				1	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒少量、(柱痕)
No.	土色	土質	含有物等（備考）	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	ローム粒・小ブロック少量、(柱痕)
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・焼土粒、ロームブロック少量、(柱痕)	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム小ブロック少量、(柱痕)
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック少量、炭化物粒、(柱痕)	4	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック・粒少量、(柱痕)
3	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック少量、ローム粒、(柱痕)	5	10YR4/6 褐色	シルト	ローム粒・粒、ローム小ブロック少量、(柱痕)
4	10YR3/3 暗褐色	シルト	ロームブロック土塊、(柱痕)	6	10YR4/6 褐色	シルト	ロームブロック土塊、炭化物粒少量、(柱痕)
SB167 平壇柱跡群 P2 E-E				7	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック少量、(柱痕)
No.	土色	土質	含有物等（備考）	8	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒少量、ロームブロック少量、炭化物粒少量、(柱痕)
1	10YR3/2 黒褐色	シルト	ロームブロック、ローム粒少量、(柱痕)	9	10YR4/6 褐色	シルト	ロームブロック土塊、(柱痕)
2	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック少量、焼骨片、炭化物粒少量、(柱痕)	10	10YR4/4 褐色	シルト	ローム粒土塊、暗褐色土ブロック少量、(柱痕)
3	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒・粒、黒色土ブロック、(柱痕)	11	10YR3/4 暗褐色	シルト	ローム粒少量、ロームブロック少量、(柱痕)
SB167 平壇柱跡群 P3 F-F				12	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム粒土塊、(柱痕)
No.	土色	土質	含有物等（備考）	13	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック少量、(柱痕)
1	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム小ブロック、(柱痕)	SB167 平壇柱跡群 P11 J-J			
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒少量、ローム小ブロック、炭化物粒少量、(柱痕)	No.	土色	土質	含有物等（備考）
3	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム小ブロック、(柱痕)	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック・粒少量、(柱痕)
4	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック少量、暗褐色土和砂少量、(柱痕)	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック・粒少量、(柱痕)
SB167 平壇柱跡群 P5 G-G				SB167 平壇柱跡群 P12 K-K			
No.	土色	土質	含有物等（備考）	No.	土色	土質	含有物等（備考）
1	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒少量、炭化物粒少量、焼土粒少量、(柱痕)	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック・粒少量、焼土粒少量、(柱痕)
2	10YR3/3 暗褐色	シルト	ロームブロック・粒、炭化物粒少量、(柱痕)	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック少量、(柱痕)
3	10YR3/4 暗褐色	シルト	ローム粒、(柱痕)				

第99図 SB167 掘立柱建物跡、SX208・213・392・393・394 炉跡 (2)



第100図 SB256・363 掘立柱建物跡、SX372・373・374・375・377 炉跡 (1)

第3章 調査の成果

堆積土：床面直上を遺物包含層（SX361）によって被覆されている。

出土遺物：床面に伴う遺物はなく、柱穴堆積土からごく少量出土している。遺物の数量は縄文土器 1.5kg、石器 3点、礫石器 3点である。このうち、縄文土器 3点（第3分冊：図版 28、第4分冊：写真図版 43）、石器 1点（図版 306、写真図版 297）を図示した。縄文土器は深鉢・浅鉢の破片で、やや大型の破片にⅢ群 1類の土器がある。石器は石鍬・剥片がある。礫石器は磨石類・石皿がある。その他、焼骨（哺乳類）が出土している。

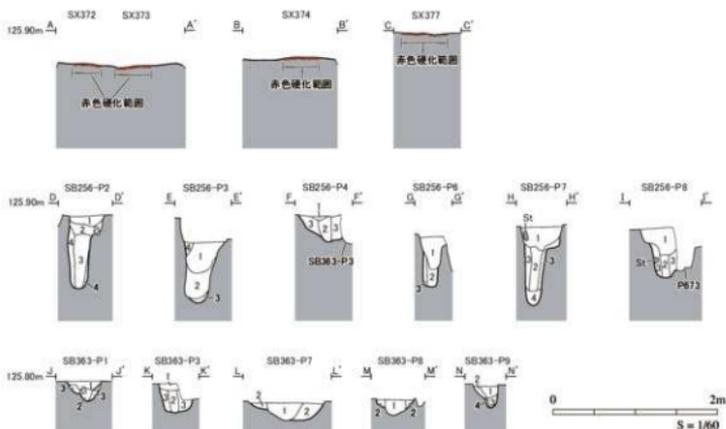
機能時期：廃絶後の堆積土に相当する遺物包含層の形成時期から、2-2期に位置付けられる可能性がある。

[SB256 掘立柱建物跡]（第100・101、写真図版 27・28）

位置：S-18・E-16

規模：主軸柱間（P5-P10：13.93m）、桁行3間（P1-P4：7.68m）、梁行1間（P2-P8：3.64m）、面積約 41.38㎡

方向：E - 11.5° - N



SB256 平軸柱間跡 P2 D-D'			SB256 平軸柱間跡 P8 J-J'				
No.	土色	上層	含有物等 (備考)	No.	土色	上層	含有物等 (備考)
1	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック・砂少量、炭化物粒少量。(柱底)	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒。(柱底)
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒、炭化物・焼土粒少量。(柱底)	2	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒・小ブロック。(柱底)
3	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック・粒、炭化物粒少量。(柱底)	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック多量。(柱底)
4	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック多量。(柱底)				
SB256 平軸柱間跡 P3 E-E'			SB363 平軸柱間跡 P1 J-J'				
No.	土色	上層	含有物等 (備考)	No.	土色	上層	含有物等 (備考)
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒、ローム小ブロック・焼骨片。(柱底)	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ロームブロック。(柱底)
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒多量、ローム小ブロック少量。(柱底)	2	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒。(柱底)
3	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック多量、焼骨片。(柱底)	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック多量。(柱底)
4	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック多量。(柱底)				
SB256 平軸柱間跡 P4 F-F'			SB363 平軸柱間跡 P3 K-K'				
No.	土色	上層	含有物等 (備考)	No.	土色	上層	含有物等 (備考)
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	焼土・炭化物粒少量。(柱底)	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・焼土・炭化物粒、焼骨片少量。(柱底)
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック・粒多量。(柱底)	2	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック。(柱底)
3	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック。(柱底)	3	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・黒褐色土ブロック。(柱底)
SB256 平軸柱間跡 P6 G-G'			SB363 平軸柱間跡 P7 L-L'				
No.	土色	上層	含有物等 (備考)	No.	土色	上層	含有物等 (備考)
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒・小ブロック多量。(柱底)	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ロームブロック多量、焼土粒少量。(柱底)
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム小ブロック少量。(柱底)	2	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック多量。(柱底)
3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	ローム小ブロック主体。(柱底)				
SB256 平軸柱間跡 P7 H-H'			SB363 平軸柱間跡 P6 M-M'				
No.	土色	上層	含有物等 (備考)	No.	土色	上層	含有物等 (備考)
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム小ブロック、炭化物粒、焼骨片少量。(柱底)	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	含有物等 (備考)
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・小ブロック。(柱底)	2	10YR2/3 黒褐色	シルト	含有物等 (備考)
3	10YR3/4 暗褐色	シルト	ローム小ブロック多量。(柱底)	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム小ブロック・砂粒少量。(柱底)
4	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	均質土。(柱底)	2	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム小ブロック。(柱底)
SB256 平軸柱間跡 P8 I-I'			SB363 平軸柱間跡 P9 N-N'				
No.	土色	上層	含有物等 (備考)	No.	土色	上層	含有物等 (備考)
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒少量。(柱底)	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒少量。(柱底)
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム小ブロック多量。(柱底)	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	ローム小ブロック多量。(柱底)
3	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック。(柱底)	3	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック。(柱底)
4	10YR3/4 暗褐色	シルト	ローム粒多量。(柱底)	4	10YR3/4 暗褐色	シルト	ローム粒多量。(柱底)

第101図 SB256・363 掘立柱建物跡、SX372・373・374・377 炉跡 (2)

形態：10～12本柱で構成される建物で、平面形は縦長の六角形（亀甲形）を呈する。建物内の床面はごく浅く皿状に窪み、中央部の床面に地床炉4基を付設する。

柱穴：10基を確認した。主軸柱との位置関係から、東側柱列（P4・6）の東側に各1基の柱穴が存在した可能性がある。新しい遺構との重複により残存状況にばらつきがある。掘方の平面形は長軸21～81cmの略円形・楕円形で、深さ18～95cmである。7基で柱材の抜き取り穴、8基で径12～16cmの柱痕跡を確認した。

壁面：立ち上がりは確認されなかった。

床面：地山を床とする。ごく浅く皿状に窪む。明瞭な硬化面は確認されなかった。

炉跡：地床炉4基を確認した（SX372・374・375・377）。建物中軸線付近に線状に並ぶ。平面形が長軸0.72～2.33m、短軸0.40～1.10mの長楕円形・不整楕円形ないし不整形を呈する赤色硬化範囲で、赤色化の深度は最大11cmである。

堆積土：床面直上を遺物包含層（SX14・290）によって被覆されている。

出土遺物：床面に伴う遺物はなく、柱穴堆積土と炉跡上面から出土している。遺物の数量は縄文土器1.4kg、石器38点、礫石器5点である。このうち、縄文土器6点（第3分冊：図版28、第4分冊：写真図版43）、石器1点（図版306、写真図版297）を図示した。縄文土器は深鉢の破片で、やや大型の破片にⅢ群3類の土器がある。石器は磨製石斧・不定形石器・剥片・石核がある。礫石器は磨石類・石皿がある。その他、炭化材（クリ）が出土している。

年代測定：AMS測定により、P9柱穴の柱材抜き取り痕跡堆積土出土木炭で4,590±30yrBPの放射性炭素年代が得られている。暦年較正年代（1σ）は5,438～5,298calBPの間に2つの範囲で示される。

機能時期：柱穴抜き取り痕跡の出土遺物と廃絶後の堆積土に相当する遺物包含層の形成時期および放射性炭素年代から、2-2～3-1期に位置付けられる可能性がある。遺構の新旧関係ではSX372炉跡がSK315プラスチック土坑（2-2期）より古く位置付けられる。以上より機能時期は2-2期と考えられる。

【SB358 掘立柱建物跡】（第102・103、写真図版29）

位置：S-14・E-9

規模：主軸柱間（P7-P14：12.48m）、桁行5間（P1-P6：11.19m程度）、梁行1間（P6-P8：3.90m）、面積約41.75㎡

方向：E-6.2°-N

形態：14本柱で構成される建物で、平面形は縦長の六角形（亀甲形）を呈する。建物内の床面はごく浅く皿状に窪み、中央部の床面に地床炉2基を付設する。

柱穴：14基を確認した。新しい遺構との重複により残存状況にばらつきがある。掘方の平面形は長軸24～53cmの略円形・楕円形で、深さ21～85cmである。12基で柱材の抜き取り穴、10基で径6～36cmの柱痕跡を確認した。

壁面：立ち上がりは確認されなかった。

床面：地山を床とする。ごく浅く皿状に窪む。明瞭な硬化面は確認されなかった。

炉跡：地床炉2基を確認した。建物中軸線付近の東部に1基（SX200）、西部に1基（SX304）が位置する。平面形が長軸0.43～0.92m程度、短軸0.71m程度の楕円形ないし長楕円形を呈する赤色硬化範囲で、赤色化の深度は最大9cmである。

骨片集中：SX304炉跡上面から西側の床面で焼骨片集中を確認した。ニホンジカ、哺乳綱がある。

堆積土：床面直上を遺物包含層（SX17）によって被覆されている。

出土遺物：床面に伴う遺物はなく、柱穴堆積土と炉跡上面から出土している。遺物の数量は縄文土器2.9kg、石器27点、礫石器8点である。このうち、縄文土器5点（第3分冊：図版29、第4分冊：写真図版44）、石器1点（図

第3章 調査の成果

版306、写真図版297)、礫石器3点(図版382、写真図版406)を図示した。縄文土器は深鉢・浅鉢の破片である。石器は尖頭器・二次加工ある剥片・微細剥離ある剥片・剥片がある。礫石器は磨石類・敲石・石皿がある。その他、焼成粘土塊1点、焼骨(哺乳綱)が出土している。

年代測定: AMS測定により、SX304 炉跡上面焼骨片集中出土土木炭で4,510 ± 30yrBPの放射性炭素年代が得られている。暦年較正年代(1σ)は5,290 ~ 5,060calBPの間に4つの範囲で示される。

機能時期: 廃絶後の堆積土に相当する遺物包含層の形成時期および放射性炭素年代から、概ね3期に位置付けられる。

【SB362 掘立柱建物跡】(第102・103図, 写真図版30)

位置: S-12・E-9

規模: 主軸柱間(P5-P10: 11.53m程度)、桁行3間(P1-P4: 8.16m程度)、梁行1間(P1-P9: 4.56m)、面積約40.88㎡

方向: E-7°-N

形態: 10本柱で構成される建物で、平面形は縦長の六角形(亀甲形)を呈する。建物内の床面はごく浅く皿状に窪み、中央部の床面に地床炉3基を付設する。

柱穴: 10基を確認した。新しい遺構との重複により残存状況にばらつきがある。掘方の平面形は長軸19 ~ 132cmの略円形・楕円形で、深さ18 ~ 117cmである。9基で柱材の抜き取り穴、7基で径11 ~ 26cmの柱痕跡を確認した。

壁面: 立ち上がりは確認されなかった。

床面: 地山を床とする。ごく浅く皿状に窪む。明瞭な硬化面は確認されなかった。

炉跡: 地床炉3基を確認した。建物中軸線付近の西側に2基(SX295・296)が並び、やや離れて東側に1基(SX294)が位置する。平面形が長軸1.08 ~ 2.32m程度、短軸0.70 ~ 1.84mの楕円形ないし不整形を呈する赤色硬化範囲で、赤色化の深度は最大10cmである。

堆積土: 床面直上を遺物包含層(SX17)によって被覆されている。

出土遺物: 床面に伴う遺物はなく、柱穴堆積土から出土している。遺物の数量は縄文土器3.1kg、石器35点、礫石器7点である。このうち、縄文土器5点(第3分冊: 図版29、第4分冊: 写真図版44)、石器1点(図版306、写真図版297)、礫石器3点(図版382、写真図版406)を図示した。縄文土器は深鉢・浅鉢の破片である。石器は石鏃・楔形石器・不定形石器・二次加工ある剥片・剥片がある。礫石器は磨石類・石皿がある。その他、焼骨(ニホンジカ・哺乳綱)が出土している。

機能時期: 廃絶後の堆積土に相当する遺物包含層の形成時期および重複するSB358掘立柱建物跡の機能時期から、概ね3期に位置付けられる。

【SB363 掘立柱建物跡】(第100・101図, 写真図版28)

位置: S-19・E-16

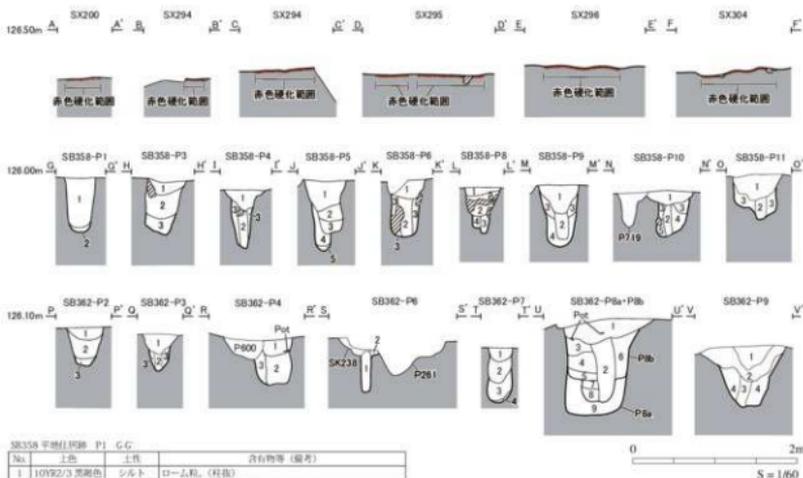
規模: 主軸柱間(P5-P10: 13.50m)、桁行3間(P1-P4: 8.87m程度)、梁行1間(P1-P9: 3.25m)、面積約38.75㎡

方向: E-7°-N

形態: 10本柱で構成される建物で、平面形は縦長の六角形(亀甲形)を呈する。建物内の床面はごく浅く皿状に窪み、中央部の床面に地床炉1基を付設する。

柱穴: 10基を確認した。新しい遺構との重複により残存状況にばらつきがある。掘方の平面形は長軸23 ~ 95cmの略円形・楕円形で、深さ24 ~ 48cmである。6基で柱材の抜き取り穴、8基で径12 ~ 21cmの柱痕跡を確認した。

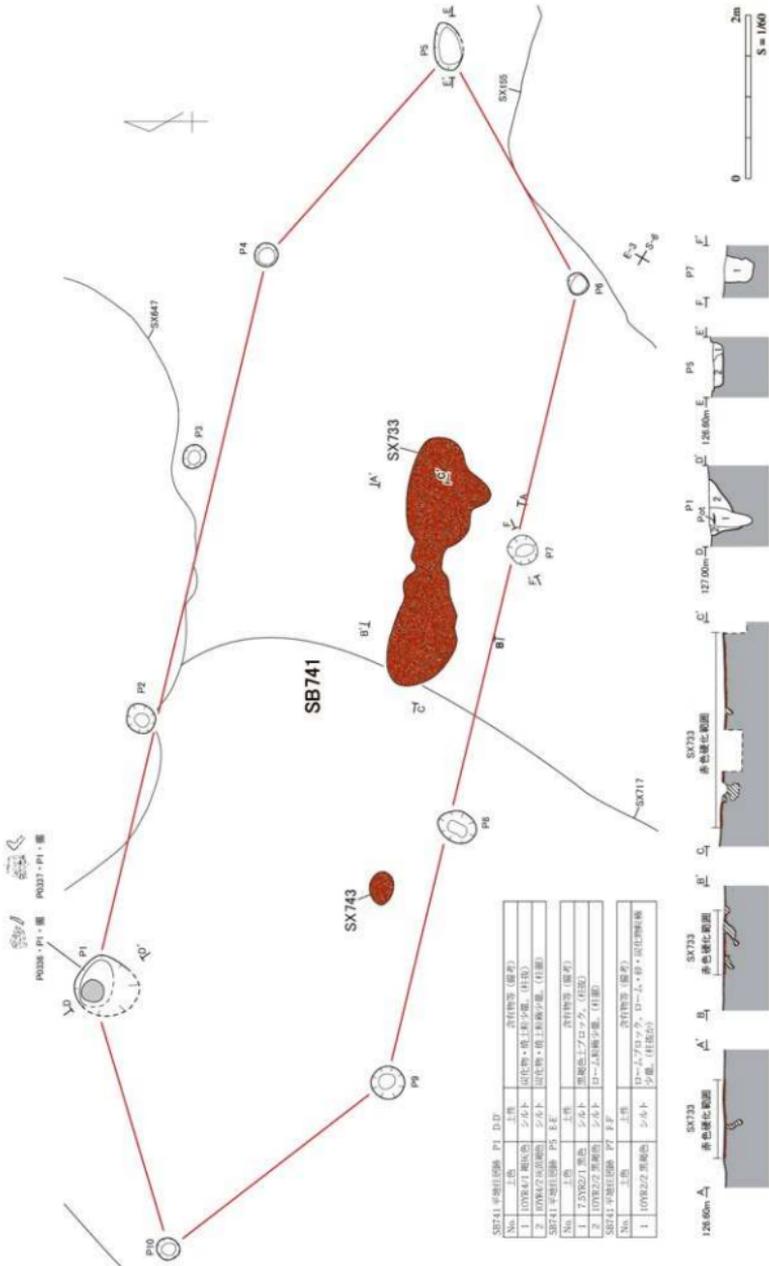
第3章 調査の成果



SB358 平準目録 P1 G.G		含有物等 (備考)	
No.	土色	土質	
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒、(柱状)
2	10YR4/4 褐色	シルト	ローム粒主体、(柱状)
SB358 平準目録 P2 H.H		含有物等 (備考)	
No.	土色	土質	
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒少量、焼骨片少量、(柱状)
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック、粒、焼骨片少量、(柱状)
3	10YR3/3 暗褐色	シルト	ロームブロック、粘多量、(柱状)
SB358 平準目録 P4 H.H		含有物等 (備考)	
No.	土色	土質	
1	黒褐色	シルト	ロームブロック、砂粒多量、(柱状)
2	暗褐色	シルト	ロームブロック少量、(柱状)
3	暗褐色	シルト	ロームブロック多量、(柱状)
SB358 平準目録 P5 J.J		含有物等 (備考)	
No.	土色	土質	
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒、焼骨片少量、(柱状)
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・黒色シルト粒、(柱状)
3	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒少量、(柱状)
4	10YR3/2 暗褐色	シルト	ローム粒、(柱状)
5	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム粒主体、(柱状)
SB358 平準目録 P6 K.K		含有物等 (備考)	
No.	土色	土質	
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	暗褐色土ブロック、炭化物片少量、(柱状)
2	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物・ローム粒少量、(柱状)
3	10YR2/2 黒褐色	シルト	ロームブロック、粒、(柱状)
SB358 平準目録 P8 L.L		含有物等 (備考)	
No.	土色	土質	
1	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・炭化物・焼土粒少量、(柱状)
2	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・炭化物・焼土粒少量、焼骨片少量、(柱状)
3	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒、ローム小ブロック、焼骨片少量、(柱状)
4	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒、焼骨片少量、(柱状)
SB358 平準目録 P9 M.M		含有物等 (備考)	
No.	土色	土質	
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒多量、炭化物粒少量、(柱状)
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック、(柱状)
3	10YR3/1 黒褐色	シルト	ローム粒多量、(柱状)
4	10YR3/1 黒褐色	シルト	ロームブロック、粒、(柱状)
SB358 平準目録 P10 N.N		含有物等 (備考)	
No.	土色	土質	
1	暗褐色	シルト	ローム粒多量、ローム・炭化物土ブロック、(柱状)
2	暗褐色	シルト	ローム粒・小ブロック多量、(柱状)
3	褐色	シルト	ロームブロック・珠、暗褐色土ブロック、(柱状)
4	暗褐色	シルト	ロームブロック・粒、炭化物土ブロック、(柱状)
5	暗褐色	シルト	ローム小ブロック多量、(柱状)
SB358 平準目録 P11 O.O		含有物等 (備考)	
No.	土色	土質	
1	暗褐色	シルト	ローム・砂粒、黒褐色土ブロック、(柱状)
2	黒褐色	シルト	ローム粒多量、(柱状)
3	黒褐色	シルト	ロームブロック多量、(柱状)

SB362 平準目録 P2 P.P		含有物等 (備考)	
No.	土色	土質	
1	10YR2/3 黒褐色	シルト	炭化物粒、小塊、焼骨片、(柱状)
2	10YR3/3 暗褐色	シルト	ロームブロック、(柱状)
3	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム粒、(柱状)
SB362 平準目録 P3 Q.Q		含有物等 (備考)	
No.	土色	土質	
1	黒褐色	シルト	砂粒、暗褐色土ブロック多量、(柱状)
2	暗褐色	シルト	ローム粒少量、(柱状)
3	暗褐色	シルト	ローム粒多量、(柱状)
SB362 平準目録 P4 R.R		含有物等 (備考)	
No.	土色	土質	
1	10YR3/1 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒、焼骨片少量、(柱状)
2	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒少量、(柱状)
3	10YR3/2 暗褐色	シルト	ロームブロック・粒、(柱状)
SB362 平準目録 P6 S.S		含有物等 (備考)	
No.	土色	土質	
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒多量、(柱状)
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	砂粒少量、(柱状)
SB362 平準目録 P7 T.T		含有物等 (備考)	
No.	土色	土質	
1	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム粒、小塊、(柱状)
2	10YR3/3 暗褐色	シルト	ロームブロック、粒、炭化物粒少量、(柱状)
3	10YR4/4 褐色	粘質シルト	ローム粒多量、(柱状)
4	10YR2/2 黒褐色	粘質シルト	炭質土ブロック、(柱状)
SB362 平準目録 P8a・P8b・U.U		含有物等 (備考)	
No.	土色	土質	
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒、小塊、焼骨片少量、(P8b 柱状)
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒、ロームブロック少量、焼骨片少量、(P8b 柱状)
3	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒少量、(P8b 柱状)
4	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック土体、(P8b 柱状)
5	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒、(P8b 柱状)
6	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒、ロームブロック少量、焼骨片少量、(P8b 柱状)
7	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム小ブロック主体、(P8b 柱状)
8	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒多量、(P8b 柱状)
9	10YR4/4 褐色	シルト	ローム小ブロック主体、暗褐色土ブロック、(P8a 柱状)
SB362 平準目録 P9 V.V		含有物等 (備考)	
No.	土色	土質	
1	黒褐色	シルト	ローム・砂・炭化物粒、焼骨片、暗褐色土ブロック少量、(柱状)
2	黒褐色	シルト	ローム・暗褐色土ブロック、焼骨片、砂粒少量、(柱状)
3	黒褐色	シルト	ローム小ブロック、焼骨片少量、(柱状)
4	暗褐色	シルト	ローム粒・小ブロック多量、(柱状)

第103図 SB358・362 掘立柱建物跡、SX200・294・295・296・304 炉跡 (2)



第104図 SB741 掘立柱礎跡、SX733・SX743 炉跡

壁面：立ち上がりは確認されなかった。

床面：地山を床とする。ごく浅く皿状に窪む。明瞭な硬化面は確認されなかった。

炉跡：地床が1基を確認した（SX373）。東側の建物中軸線付近に位置する。平面形が長軸0.44m以上の不整形を呈する赤色硬化範囲で、赤色化の深度は最大4cmである。

堆積土：床面直上を遺物包含層（SX14・290）によって被覆されている。

出土遺物：床面に伴う遺物はなく、柱穴堆積土から出土している。遺物の数量は縄文土器0.1kg、石器2点である。図示した遺物はない。石器は剥片がある。

機能時期：廃絶後の堆積土に相当する遺物包含層の形成時期から、2-2～3-1期に位置付けられる可能性がある。遺構の新旧関係ではSX373炉跡がSK315フラスコ状土坑（2-2期）より古く位置付けられる。以上より機能時期は2-2期と考えられる。

【SB741 掘立柱建物跡】（第104図、写真図版36）

位置：S-4・W-4

規模：主軸柱間（P5-P10：15.12m程度）、桁行2間（P1-P4：9.26m程度）、梁行1間（P1-P9：3.79m程度）、面積約48.25㎡

方向：W - 13.2° - N

形態：10本柱で構成される建物で、平面形は縦長の六角形（亀甲形）を呈する。建物内の床面はごく浅く皿状に窪み、中央南寄りの床面に長楕円形に連結した地床が2基を付設する。

柱穴：10基を確認した。新しい遺構との重複により残存状況にばらつきがある。掘方の平面形は長軸27～74cmの略円形・楕円形で、深さ13～56cmである。2基で柱材の抜き取り穴、1基で径28cmの柱痕跡を確認した。

壁面：立ち上がりは確認されなかった。

床面：地山を床とする。ほぼ平坦である。

炉跡：地床が2基（SX733・743）を確認した。中央部から西側の南寄りに直線上に並ぶ。SX733は平面形が長軸3.05m、短軸1.00mの不整形楕円形を呈する赤色硬化範囲で、赤色化の深度は最大40cmである。SX743は平面形が長軸0.40m、短軸0.29mの楕円形を呈する。

堆積土：床面直上を遺物包含層（SX717）の一部および基本層によって被覆されている。

出土遺物：床面に伴う遺物はなく、炉跡上面と柱穴堆積土から出土している。遺物の数量は縄文土器0.1kg、石器3点、礫石器2点である。このうち、縄文土器2点（第3分冊：図版33、第4分冊：写真図版47）を図示した。縄文土器は深鉢があり、すべて破片資料であるが柱穴掘方埋土および炉跡直上でⅡ群1類、確認面でⅣ群1類の土器が見られる。石器は不定形石器・剥片がある。礫石器は石皿・磨石類がある。

機能時期：柱穴掘方埋土・炉跡直上の出土遺物および廃絶後の堆積土に相当する遺物包含層の形成時期から、2-2期に位置付けられる可能性がある。

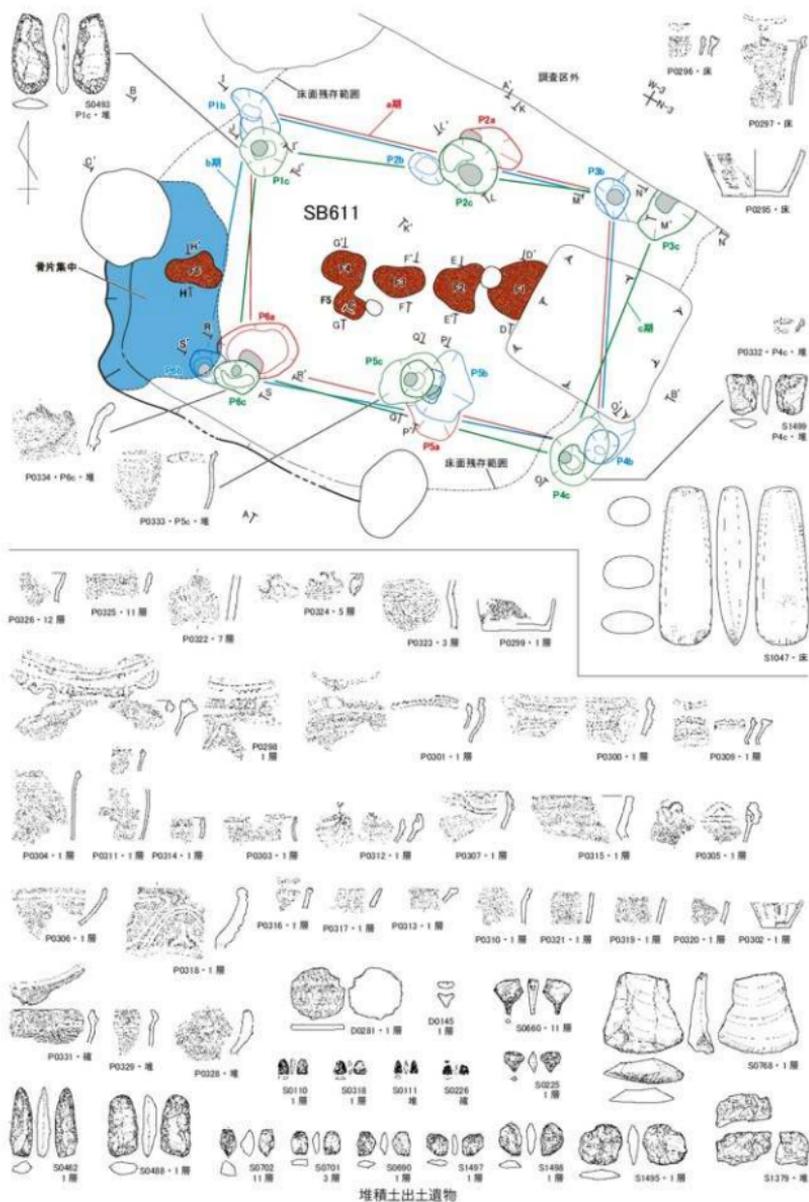
(2) 掘立柱建物跡B

1軒確認した。長方形に柱穴を配置する建物で、建物内の中軸線付近の床面に線状に配置された複数基の地床を伴う。床面に伴う遺物はごく少量で、柱穴から若干の遺物が出土している。廃絶後の堆積土は焼骨を多量に含み、縄文土器などの遺物がややまとまって出土している。以下、詳述する。

【SB611 掘立柱建物跡】（第105・106、写真図版31～35）

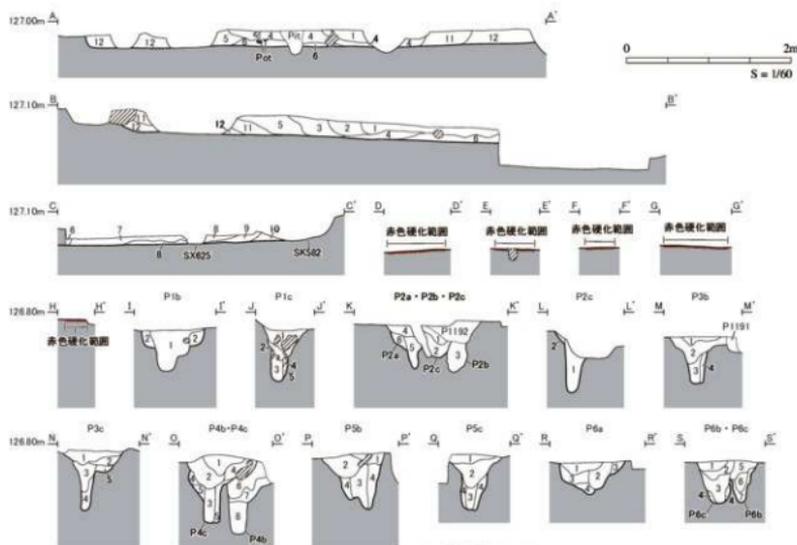
位置：N-O-S・W-5

規模：桁行2間（P1c-P3c：4.95m）、梁行1間（P1c-P6c：2.75m）、面積22.55㎡以上



第105図 SB611 掘立柱建物跡(1)

第3章 調査の成果



掘立柱建物跡

SB611 平掘住居跡 A・S・B・C			含有物等 (備考)		
No.	土色	土層			
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	焼土粒少量, 炭化物粒少量。		
2	10YR2/2 黒褐色	シルト	焼土粒多量, ローム・炭化物粒。		
3	10YR2/2 黒褐色	シルト	焼褐色土多量, ローム粒少量, 炭化物粒少量。		
4	10YR3/3 黒褐色	シルト	焼土粒, 焼褐色土ブロック多量, ローム・炭化物粒, 焼土ブロック。		
5	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒, 炭化物・焼土粒少量。		
6	10YR2/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック, 焼土・炭化物粒多量, 焼褐色土ブロック。		
7	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・焼土粒多量, 炭化物粒, 焼土片。		
8	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・焼土粒, 焼土ブロック, 焼土片多量, 炭化物粒。		
9	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・焼土粒, 焼土片多量。		
10	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒, 焼土片, 炭化物粒少量。		
11	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒, 焼土粒粒少量。		
12	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒, 炭化物粒。		
SB611 平掘住居跡 P1b・L1			含有物等 (備考)		
No.	土色	土層			
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム小ブロック多量, 炭化物粒少量。(柱底)		
2	10YR2/2 黒褐色	シルト	ロームブロック多量。(柱底)		
SB611 平掘住居跡 P1c・L1			含有物等 (備考)		
No.	土色	土層			
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒, 炭化物粒少量。(柱底)		
2	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒多量。(柱底)		
3	10YR2/2 黒褐色	シルト	ロームブロック多量, 炭化物粒少量。(柱底)		
4	10YR2/2 黒褐色	シルト	ロームブロック多量。(柱底)		
5	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒, ローム小ブロック少量。(柱底)		
SB611 平掘住居跡 P2a・P2b・P2c・K			含有物等 (備考)		
No.	土色	土層			
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒, 炭化物粒少量。(P2a 柱底)		
2	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒, 炭化物粒少量。(P2c 柱底)		
3	10YR2/2 黒褐色	シルト	ロームブロック多量, 焼褐色土ブロック少量。(P2b 柱底)		
4	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム小ブロック少量。(P2a 柱底)		
5	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒多量。(P2a 柱底)		
6	10YR2/2 黒褐色	シルト	ロームブロック多量。(P2a 柱底)		
SB611 平掘住居跡 P2c・L1			含有物等 (備考)		
No.	土色	土層			
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム小ブロック多量。(柱底)		
2	10YR2/2 黒褐色	シルト	焼褐色土ブロック多量, ロームブロック, 炭化物粒少量。(柱底)		
SB611 平掘住居跡 P2b・MM			含有物等 (備考)		
No.	土色	土層			
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒, 炭化物粒少量。(柱底)		
2	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム小ブロック少量。(柱底)		
3	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒多量, ローム小ブロック。(柱底)		
4	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム小ブロック。(柱底)		
SB611 平掘住居跡 P3c・N・N'			含有物等 (備考)		
No.	土色	土層			
1	10YR2/1 黒色	シルト	焼褐色土ブロック。(柱底)		
2	10YR2/2 黒褐色	シルト	焼褐色土ブロック多量。(柱底)		
3	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック多量。(柱底)		
4	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒多量。(柱底)		
5	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック多量。(柱底)		
SB611 平掘住居跡 P4b・P4c・Q			含有物等 (備考)		
No.	土色	土層			
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒多量, 炭化物粒, 土粒(柱底)		
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒多量, 炭化物粒。(P4c 柱底)		
3	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒多量, ロームブロック。(P4c 柱底)		
4	10YR3/3 暗褐色	シルト	ロームブロック多量, ローム粒多量, 炭化物粒少量。(P4c 柱底)		
5	10YR4/6 褐色	シルト	ロームブロック土層。(P4c 柱底)		
6	10YR3/3 暗褐色	シルト	ロームブロック土層, 粒多量, 炭化物粒少量, 焼土粒少量。(P4b 柱底)		
7	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック土層。(P4b 柱底)		
8	10YR3/3 暗褐色	シルト	ロームブロック・粒多量。(P4b 柱底)		
SB611 平掘住居跡 P5c・P・F			含有物等 (備考)		
No.	土色	土層			
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒少量。(柱底)		
2	10YR2/2 黒褐色	シルト	焼褐色土ブロック, 炭化物粒少量。(柱底)		
3	10YR2/1 黒色	シルト	ローム小ブロック多量, 焼褐色土ブロック, 炭化物粒少量。(柱底)		
4	10YR2/2 黒褐色	シルト	焼褐色土ブロック多量, ローム粒, 炭化物粒少量。(柱底)		
SB611 平掘住居跡 P5c・Q・Q'			含有物等 (備考)		
No.	土色	土層			
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒少量, 炭化物粒少量。(柱底)		
2	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒, 焼褐色土ブロック多量, 炭化物粒少量。(柱底)		
3	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒, 炭化物粒少量。(柱底)		
4	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック多量, 炭化物粒少量。(柱底)		
SB611 平掘住居跡 P6a・B・R			含有物等 (備考)		
No.	土色	土層			
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒, 炭化物粒多量, ロームブロック, 焼土粒。(柱底)		
2	10YR3/3 暗褐色	シルト	ロームブロック・粒, 炭化物粒多量。(柱底)		
3	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒, 炭化物粒多量, ロームブロック。(柱底)		
4	10YR4/6 褐色	シルト	ロームブロック多量, 炭化物粒少量。(柱底)		
SB611 平掘住居跡 P6b・P6c・S・S'			含有物等 (備考)		
No.	土色	土層			
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒, 炭化物粒少量。(P6c 柱底)		
2	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒多量, 炭化物・焼土粒少量。(P6c 柱底)		
3	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム小ブロック多量, 炭化物粒少量。(P6b 柱底)		
4	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック土層。(P6c 柱底)		
5	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒多量, 焼土粒少量。(P6b 柱底)		
6	10YR2/1 黒色	シルト	ロームブロック多量。(P6b 柱底)		
7	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック多量, 炭化物粒少量。(P6 b 柱底)		

第106図 SB611 掘立柱建物跡 (2)

方向：W-2.4°-N

形態：緩斜面の一部を階段状に掘り込んで構築した平坦面を床とする。6本柱で構成される建物で、平面形は長方形を呈する。建物内の床面は東へ向かって僅かに傾斜しており、長軸方向の中軸線付近の床面に地床が6基を付設する。なお、位置関係からSX647 竪穴状遺構は本遺構の床面構築に伴う掘方の可能性がある。

柱穴：15基を確認した。6基の主柱穴を長方形に配置し、最大3時期の変遷が確認できる（a期→b期→c期）。

掘方の平面形は長軸68～84cmの略円形・楕円形で、深さ64～104cmである。14基で柱材の抜き取り穴、10基で径14～31cmの柱痕跡を確認した。

壁面：建物南西側をL字形に巡る壁面の立ち上がりを確認した。床面からほぼ垂直～外傾気味に立ち上がり、残存壁高は最大36cmである。

床面：地山を床とする。緩傾斜面を階段状に削り取って構築され、南北方向で見るとほぼ平坦であるが、東に向かって僅かに傾斜している。明瞭な硬化面は確認されなかった。

炉跡：地床が6基（F1～F6）を確認した。建物中軸線付近の中央部に5基（F1～F5）が線状に並び、やや離れて西部に1基（F6）が位置する。長軸62～80cm、短軸0.14～0.70mの楕円形ないし不整形を呈する赤色硬化範囲で、赤色化の深度は最大12cmである。

堆積土：遺構内堆積土は12層に細分される。いずれも黒褐色シルトで、西部の床面を覆う8・9層中に焼骨片を多量に含む。

出土遺物：床面に伴う遺物は少なく、大半が廃絶後の堆積土から出土している。

遺物の数量は縄文土器28.8kg、土製品5点、石器485点、礫石器92点である。このうち、縄文土器37点（第3分冊：図版30～32、第4分冊：写真図版44～47）、土製品2点（図版279、写真図版260）、石器19点（図版306～308、写真図版297～299）、礫石器16点（図版383～385、写真図版406～408）を図示した。

縄文土器は深鉢・小型深鉢・浅鉢があり、すべて破片資料であるがIV群1類の土器が主体を占めている。土製品はミニチュア土器・三脚形土製品・土器片加工品（円盤形）がある。石器は石鏃・尖頭器・石錐・石匙・石鏃・楔形石器・磨製石斧・不定形石器・両面加工石器・二次加工ある剥片・微細刺剣ある剥片・剥片・石核がある。母岩4aに分類される碧玉（黄）製の石核4点と剥片11点からなる接合資料がある（接合資料22）。床面から花崗閃緑岩製の乳棒状磨製石斧（S1047）が出土している。礫石器は石皿・敲石・磨石類がある。その他、焼成粘土塊3点（写真図版282・283）、焼骨（ニホンジカ・哺乳類）、炭化種実（オニグルミ）が出土している。また、縄文土器深鉢（P0299）でミズキ核の圧痕を確認した。

年代測定：AMS測定により、炉跡（F4）上面出土木炭で、 $4,550 \pm 30\text{yrBP}$ 、 $4,440 \pm 30\text{yrBP}$ の放射性炭素年代が得られている。暦年較正年代（1 σ ）は5,310～5,076calBP、5,260～4,971calBPの間にそれぞれ複数の範囲で示される。

機能時期：廃絶後の堆積土出土遺物および放射性炭素年代から、4・2期に位置付けられる。

(3) 掘立柱建物跡C

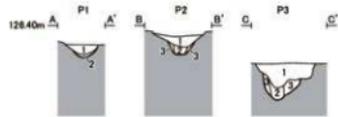
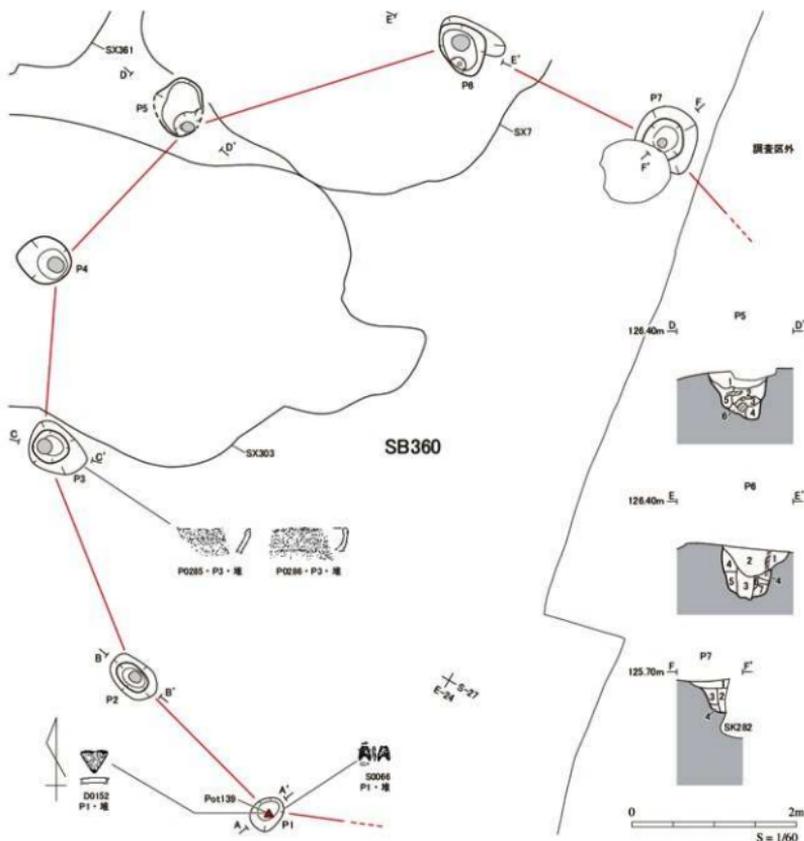
4棟確認した。環状に柱穴を配置する建物である。調査区東部に分布し、2棟（SB364・740）が近接するが柱穴の直接的な重複関係はない。主柱穴のみで構成されるもの（SB360）と、小柱穴を伴うもの（SB364・366・740）とがある。柱穴からごく少量の遺物が出土している。以下、各遺構について詳述する。

【SB360 掘立柱建物跡】（第107図、写真図版37）

位置：S-24・E-23

規模：長軸（P1-7）9.55m程度、短軸（P4-）7.18m以上、面積40.00m²以上

形態：7本柱以上で構成される建物で、東側が調査区外へ延びている。平面形は直径4.8～5.5m程度の環状を



SB360 掘立柱建物跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	含有物等 (備考)
1	10YR2/1 黒色	シルト	黒褐色土、ローム粒少量、(柱底)
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒少量、(柱底)

SB360 掘立柱建物跡 P2 B-B'

No.	土色	土性	含有物等 (備考)
1	10YR1.7/1 黒色	シルト	黒褐色土ブロック少量、ローム粒少量、(柱底)
2	10YR1.7/1 黒色	シルト	ローム粒少量、(柱底)
3	10YR1.7/1 黒色	シルト	暗褐色土ブロック少量、ローム粒少量、(柱底)

SB360 掘立柱建物跡 P3 C-C'

No.	土色	土性	含有物等 (備考)
1	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・焼土粒少量、炭化物粒少量、(柱底)
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック・粒、(柱底)
3	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック少量、ローム粒、(柱底)

SB360 掘立柱建物跡 P5 D-D'

No.	土色	土性	含有物等 (備考)
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・焼土粒少量、炭化物粒少量、(柱底)
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒少量、ロームブロック、炭化物粒少量、焼土粒少量、(柱底)
3	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒少量、ローム小ブロック少量、炭化物粒少量、(柱底)
4	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒少量、(柱底)
5	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム粒少量、ローム小ブロック少量、炭化物粒少量、(柱底)
6	10YR4/6 褐色	シルト	ロームブロック少量、(柱底)

SB360 掘立柱建物跡 P6 E-E'

No.	土色	土性	含有物等 (備考)
1	10YR2/3 黒褐色	シルト	炭化物粒、ローム・ブロック・粒、焼骨片少量、(柱底)
2	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒、焼土粒、焼骨片少量、(柱底)
3	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物粒、ローム・焼土粒、ロームブロック、焼骨片少量、(柱底)
4	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土・炭化物粒、ロームブロック・粒、焼骨片少量、(柱底)
5	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物粒、ローム・ブロック・粒、焼土粒、焼骨片少量、(柱底)
6	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム・ブロック・粒、炭化物粒、焼骨片少量、(柱底)
7	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック、炭化物・焼土粒少量、焼骨少量、(柱底)

SB360 掘立柱建物跡 P7 F-F'

No.	土色	土性	含有物等 (備考)
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・焼土粒少量、黒褐色土鈣質ブロック少量、(柱底)
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック、焼土粒少量、ローム・焼土粒少量、(柱底)
3	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・ブロック・粒、(柱底)
4	10YR3/3 暗褐色	シルト	ロームブロック少量、(柱底)

第107図 SB360 掘立柱建物跡

遺構と遺物の詳細
掘立柱建物跡

呈するとみられ、柱間寸法はP1柱穴から時計回りに2.32m—3.07m—2.20m—2.30m—3.48m—2.72mである。柱配置から東側に5基程度の柱穴が存在し、12本柱程度で構成される建物と推定される。壁面の立ち上がりおよび床面、炉跡などの施設は確認されなかった。

柱穴：7基を確認した。新しい遺構との重複により残存状況にばらつきがある。掘方の平面形は長軸43～70cmの略円形・楕円形で、深さ20～66cmである。7基で柱材の抜き取り穴、6基で径12～21cmの柱痕跡を確認した。

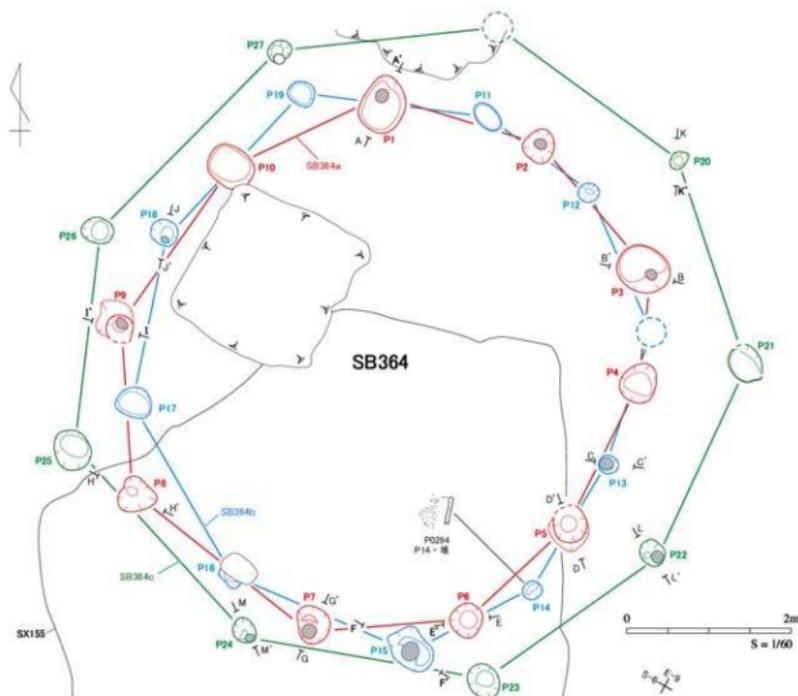
出土遺物：柱穴堆積土から縄文土器0.6kg、土製品1点、石器8点、礫石器1点が出土している。このうち、縄文土器2点（第3分冊：図版33、第4分冊：写真図版47）、土製品1点（図版279、写真図版260）、石器1点（図版309、写真図版300）を図示した。縄文土器は深鉢の破片で、柱穴堆積土でⅡ群2類・Ⅲ群1類の土器が見られる。土製品は土器片加工品（三角形：D0152）で、土器片を素材として側面に研磨を加える。石器は石鏃・楔形石器・剥片がある。礫石器は石皿がある。

機能時期：推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の新旧関係ではSI20 竪穴住居跡（4-1期）およびSX7 竪穴状遺構（4-2期）より新しく位置付けられる。以上より機能時期は4-2期以降と考えられる。

【SB364 掘立柱建物跡】（第108・109図、写真図版37）

位置：S・4・E-3

規模：（柱列a）長軸（P3-8）6.84m程度、短軸（P1-5）5.73m程度、面積約30.88㎡



第108図 SB364 掘立柱建物跡 (1)

(柱列b) 長軸 (P15-19) 6.99m 程度、短軸 (P13-17) 5.82m 程度、面積 31.00m²程度

(柱列c) 長軸 (P23-27) 8.16m 程度、短軸 (P20-25) 8.07m 程度、面積 44.13m²程度

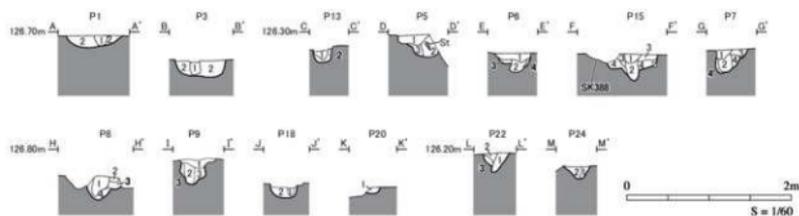
形態：環状に柱穴を配置する建物で、3条の柱列(柱列a・b・c)が重複する。柱列a・bは同位置で重複し、柱穴が交互に配置される関係にあることから、同時に機能した可能性がある。柱列cは柱列a・bの外側にあり、建て替えの可能性がある。

柱列aは10本柱で構成される(P1～10)。平面形は直径6.0～6.5m程度の環状を呈し、柱間寸法はP1から時計回りに2.01m－2.09m－1.37m－1.92m－1.66m－1.94m－2.76m－2.06m－2.33m－2.03mである。

柱列bは10本柱で構成され、東側の1基(P12－13間)が残存しないとみられる(P11～19)。平面形は直径6.1～7.0m程度の環状を呈し、柱間寸法はP13から時計回りに1.75m－1.69m－2.37m－2.43m－2.06m－2.43m－2.29m－1.53mである。

柱列cは9本柱で構成され、北側の1基(P27－20間)が擾乱によって壊されているとみられる(P20～27)。平面形は直径8.1～8.2m程度の環状を呈し、柱間寸法はP20から時計回りに2.68m－2.57m－2.56m－2.91m－3.18m－2.66m－1.43mである。壁面の立ち上がりおよび床面、石碁などの施設は確認されなかった。

柱穴：柱列aで10基、柱列bで9基、柱列cで8基を確認した。新しい遺構との重複により残存状況にばらつ



SB364 掘立柱建物跡 P1 A-A'			SB364 掘立柱建物跡 P12 G-G'						
No.	土色	土質	含有物等(備考)	No.	土色	土質	含有物等(備考)		
1	10YR2/3 黒褐色	シルト	均質土。(柱底)	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒、焼酎片少量。(柱底)		
2	7.5YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック。(柱底)	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック、炭化物粒、焼酎片少量。(柱底)		
SB364 掘立柱建物跡 P5 B-B'			SB364 掘立柱建物跡 P14 H-H'						
No.	土色	土質	含有物等(備考)	No.	土色	土質	含有物等(備考)		
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒少量。(柱底)	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物粒少量、焼酎片少量。(柱底)		
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒少量。(柱底)	2	10YR2/3 黒褐色	シルト	炭化物粒少量、ローム粒少量。(柱底)		
SB364 掘立柱建物跡 P7 C-C'			SB364 掘立柱建物跡 P16 I-I'						
No.	土色	土質	含有物等(備考)	No.	土色	土質	含有物等(備考)		
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ロームブロック、炭化物粒少量、ローム粒少量。(柱底)	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物粒、黒褐色土ブロック、黒色土ブロック、ローム粒少量。(柱底)		
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック・粒少量。(柱底)	2	10YR2/3 黒褐色	シルト	黒褐色土ブロック、ローム粒少量。(柱底)		
SB364 掘立柱建物跡 P9 D-D'			SB364 掘立柱建物跡 P17 J-J'						
No.	土色	土質	含有物等(備考)	No.	土色	土質	含有物等(備考)		
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒、焼酎片少量。(柱底)	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	均質土。(柱底)		
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒少量。(柱底)	2	10YR2/3 黒褐色	シルト	暗褐色土少量。(柱底)		
3	7.5YR2/3 暗褐色	シルト	炭化物、ローム粒少量。(柱底)	SB364 掘立柱建物跡 P20 K-K'					
SB364 掘立柱建物跡 P10 E-E'			SB364 掘立柱建物跡 P17 J-J'						
No.	土色	土質	含有物等(備考)	No.	土色	土質	含有物等(備考)		
1	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム粒・小ブロック少量、焼土・炭化物粒少量。(柱底)	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	暗褐色土小ブロック。(柱底)		
2	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック多量。(柱底)	SB364 掘立柱建物跡 P22 L-L'					
3	10YR3/3 暗褐色	シルト	ロームブロック多量、暗褐色土少量。(柱底)	No.	土色	土質	含有物等(備考)		
4	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック多量。(柱底)	1	10YR1/7 白色	シルト	ローム粒少量、炭褐色土少量。(柱底)		
SB364 掘立柱建物跡 P11 F-F'			SB364 掘立柱建物跡 P24 M-M'						
No.	土色	土質	含有物等(備考)	No.	土色	土質	含有物等(備考)		
1	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック・粒多量、炭化物粒。(柱底)	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック・粒多量、炭化物粒少量。(柱底)		
2	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック多量、ローム・炭化物粒。(柱底)	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック・粒少量、炭化物粒少量。(柱底)		
3	10YR3/4 暗褐色	シルト	ローム・炭化物粒。(柱底)	SB364 掘立柱建物跡 P24 M-M'					
4	10YR4/6 褐色	シルト	ロームブロック土塊、炭化物粒。(柱底)	No.	土色	土質	含有物等(備考)		
						1	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック・粒多量、炭化物粒少量。(柱底)
						2	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック・粒少量、炭化物粒少量。(柱底)

第109図 SB364 掘立柱建物跡(2)

きがある。掘方の平面形は柱列aで長軸39～66cmの楕円形・不整楕円形、柱列bで長軸24～57cmの略円形・楕円形・不整楕円形、柱列cで長軸24～51cmの楕円形・不整楕円形を呈する。深さは柱列aで14～36cm、柱列bで8～34cm、柱列cで7～26cmである。柱列a・bでは相対的に柱列bの柱穴が小規模である。柱列cでは大小の柱穴が交互に配置される傾向が見られる。柱列aの5基で柱材の抜き取り穴、5基で径15～18cmの柱痕跡、柱列bの2基で柱材の抜き取り穴、3基で径9～24cmの柱痕跡、柱列cの2基で径11～13cmの柱痕跡を確認した。

出土遺物: 柱穴堆積土から縄文土器0.9kg、石器8点が出土している。このうち、縄文土器1点(第3分冊:図版33、第4分冊:写真図版47)を図示した。縄文土器は深鉢の破片である。石器は二次加工ある剥片・微細剥離ある剥片・剥片がある。

機能時期: 推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の重複関係ではSK116 フラスコ状土坑(3-1期)より新しく、SK90 フラスコ状土坑(3-2期)より古く位置付けられる。以上より機能時期は3-1～3-2期と考えられる。

【SB366 掘立柱建物跡】(第110図, 写真図版37)

位置: S-17・E-5

規模: (柱列a) 長軸(P3-6) 4.86m程度、短軸3.99m程度、面積約14.50㎡

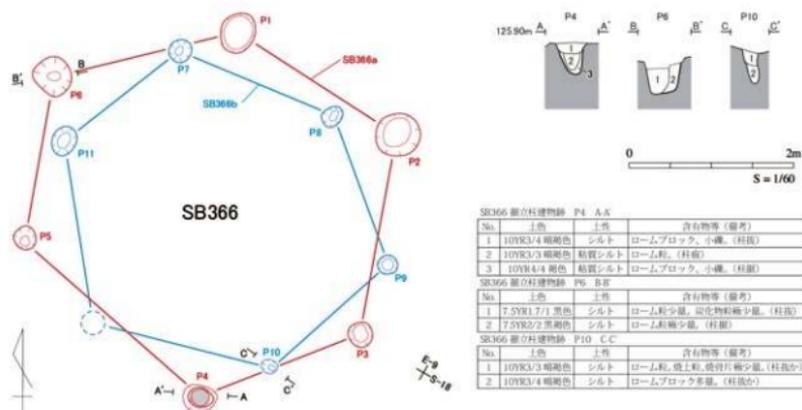
(柱列b) 長軸(P9-11) 4.25m程度、短軸3.60m程度、面積10.75㎡程度

形態: 環状に柱穴を配置する建物で、2条の柱列(柱列a・b)が重複する。柱列a・bは同一位置で重複し、柱穴が交互に配置される関係にあることから、同時に機能した可能性がある。

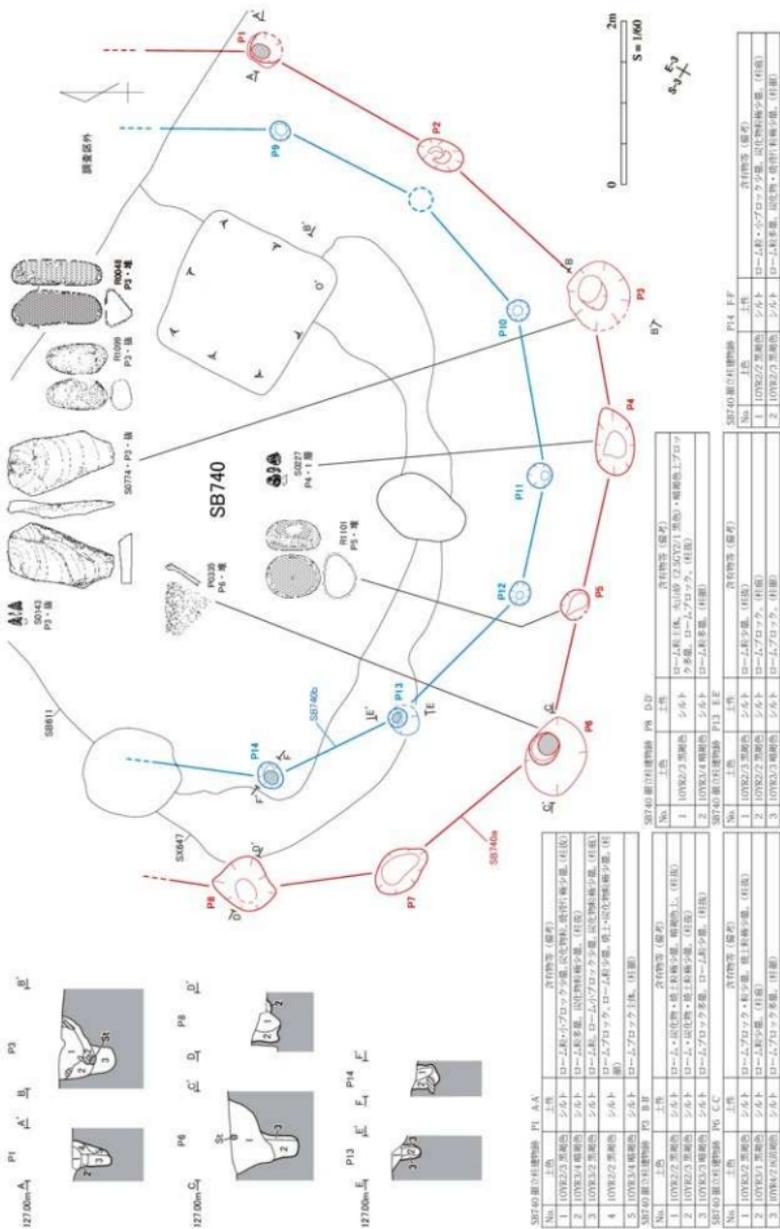
柱列aは6本柱で構成される(P1～6)。平面形は直径4.0～4.9m程度の環状を呈し、柱間寸法はP1から時計回りに2.31m-2.48m-2.08m-2.85m-2.05m-2.30mである。

柱列bは6本柱で構成され、南西側の1基(P10-11間)が残存しないとみられる(P7～11)。平面形は直径3.6～4.3m程度の環状を呈し、柱間寸法はP11から時計回りに1.78m-2.04m-1.94m-1.91mである。壁面の立ち上がりおよび床面、炉跡などの施設は確認されなかった。

柱穴: 柱列aで6基、柱列bで5基を確認した。新しい遺構との重複により残存状況にばらつきがある。掘方の平面形は柱列aで長軸30～59cmの略円形・不整楕円形、柱列bで長軸19～67cmの略円形・楕円形を呈する。深さは柱列aで17～59cm、柱列bで9～49cmである。柱列a・bでは相対的に柱列bの柱穴が



第110図 SB366 掘立柱建物跡



第111図 SB740 掘立柱建物跡

小規模である。柱列aの2基で柱材の抜き取り穴、1基で径22cmの柱痕跡、柱列bの1基で柱材の抜き取り穴を確認した。

出土遺物：柱穴堆積土から縄文土器0.6kg、石器6点、礫石器1点が出土している。図示した遺物はない。石器は二次加工ある剥片・剥片がある。礫石器は磨石類がある。

機能時期：特徴の明らかな出土遺物に乏しく不詳である。遺構の重複関係ではSX17遺物包含層（3～4期）より古く位置付けられる。以上より機能時期は3期以前と考えられる。

【SB740 掘立柱建物跡】（第111図、写真図版37）

位置：S-1・W-5

規模：（柱列a）長軸（P1-8）13.00m程度、短軸（P4-）4.40m以上、面積約47.50㎡以上

（柱列b）長軸（P9-14）7.95m程度、短軸3.25m以上、面積約20.00㎡以上

形態：環状に柱穴を配置する建物とみられ、北側が調査区外へ延びている。2条の柱列（柱列a・b）が重複する。柱列a・bの柱位置は概ね対応関係にあり、内側の柱列bの柱穴は相対的に小規模であることから、同時に機能した可能性も考えられる。

柱列a（P1～8）は8本柱以上で構成される。平面形は直径13.00m程度の環状を呈するとみられ、柱間寸法はP1から時計回りに2.44m－2.52m－1.94m－1.96m－1.79m－2.41m－1.89mである。

柱列b（P9～14）は柱列aの内側を巡る。6本柱以上で構成され、柱配置からP9－10間とP12－13間に各1基が存在したとみられる。平面形は直径8.0m程度の環状を呈し、柱間寸法はP10から時計回りに3.60m－2.06m－1.50m－2.11m－1.70mである。壁面の立ち上がりおよび床面、灰跡などの施設は確認されなかった。

柱穴：柱列aで8基、柱列bで6基を確認した。新しい遺構との重複により残存状況にばらつきがある。掘方の平面形は柱列aで長軸39～84cmの略円形・楕円形・不整楕円形、柱列bで長軸23～36cmの略円形・楕円形を呈する。深さは柱列aで17～61cm、柱列bで14～37cmである。柱列a・bでは相対的に柱列bの柱穴が小規模である。柱列aの4基で柱材の抜き取り穴、2基で径21～27cmの柱痕跡、柱列bの1基で柱材の抜き取り穴、2基で径12～18cmの柱痕跡を確認した。

出土遺物：柱穴堆積土から縄文土器0.1kg、石器7点、礫石器7点が出土している。このうち、縄文土器1点（第3分冊：図版33、第4分冊：写真図版47）、石器3点（図版309、写真図版300）、礫石器3点（図版385、写真図版409）を図示した。縄文土器は浅鉢の破片である。石器は石鏃・楔形石器・不定形石器・二次加工ある剥片・剥片がある。礫石器は磨石類がある。その他、焼骨（哺乳類）が出土している。

機能時期：推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の重複関係ではSX17遺物包含層（2～3期）より古く位置付けられる。以上より機能時期は2期以前と考えられる。

4. 竪穴状遺構

10基確認した。竪穴住居状の掘り込みを持つが、明瞭な柱穴を伴わない。平面形は楕円形ないしは不整楕円形を呈し、長軸5.88～7.60m以上、短軸2.98～6.91m、深さ0.12～0.59mの規模である。竪穴の底面は地山を床としており、ほぼ平坦である。床面の中央部に地床炉をもつもの（SX4・622・1018）が見られる。床面に伴う遺物の出土は少なく、堆積土から縄文土器などの遺物がややまとまって出土している。以下、主要な遺構について詳述する。

【SX2 竪穴状遺構】（第112・113図、写真図版38・39）

位置：S-23・W-0-E

規模：長軸6.68m、短軸6.36m、面積約30.82㎡

第3章 調査の成果

形態：平面形は隅丸方形に近い楕円形を呈する。壁面の立ち上がりは比較的明瞭である。床面はほぼ平坦である。

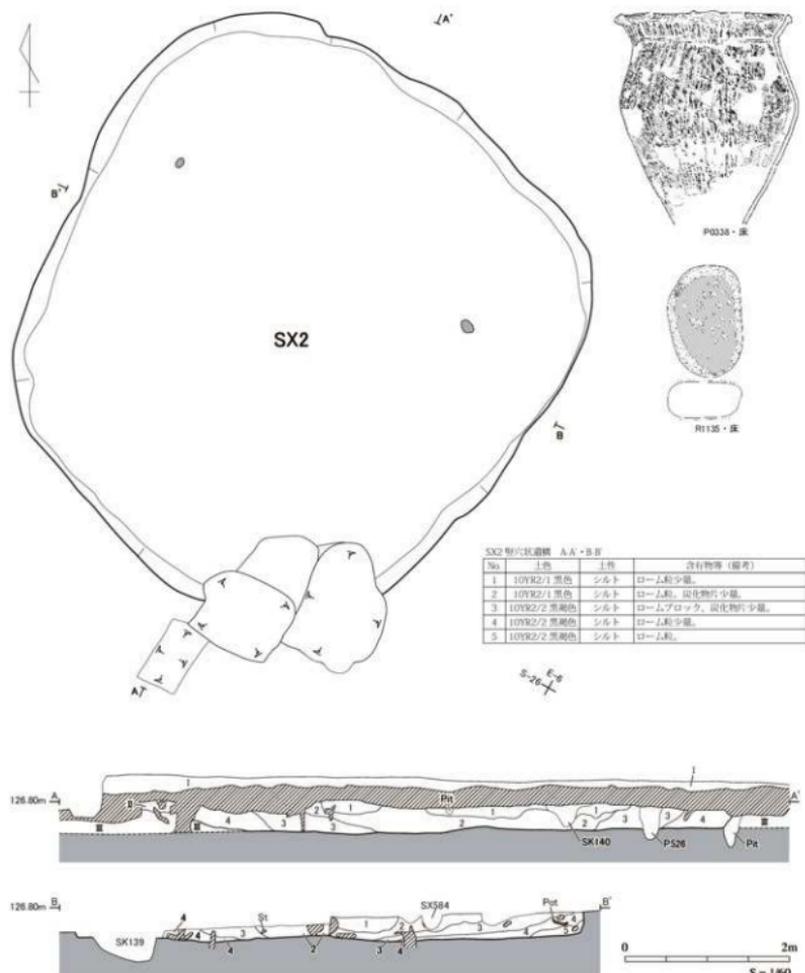
柱穴、竈跡などの施設は確認されなかった。

壁面：地山を壁とする。残存壁高は最大0.33mである。

床面：地山を床とする。ほぼ平坦である。明瞭な硬化面は確認されなかった。

堆積土：5層に細分される。ロームブロック、炭化物片を少量含む黒色・黒褐色シルトである。

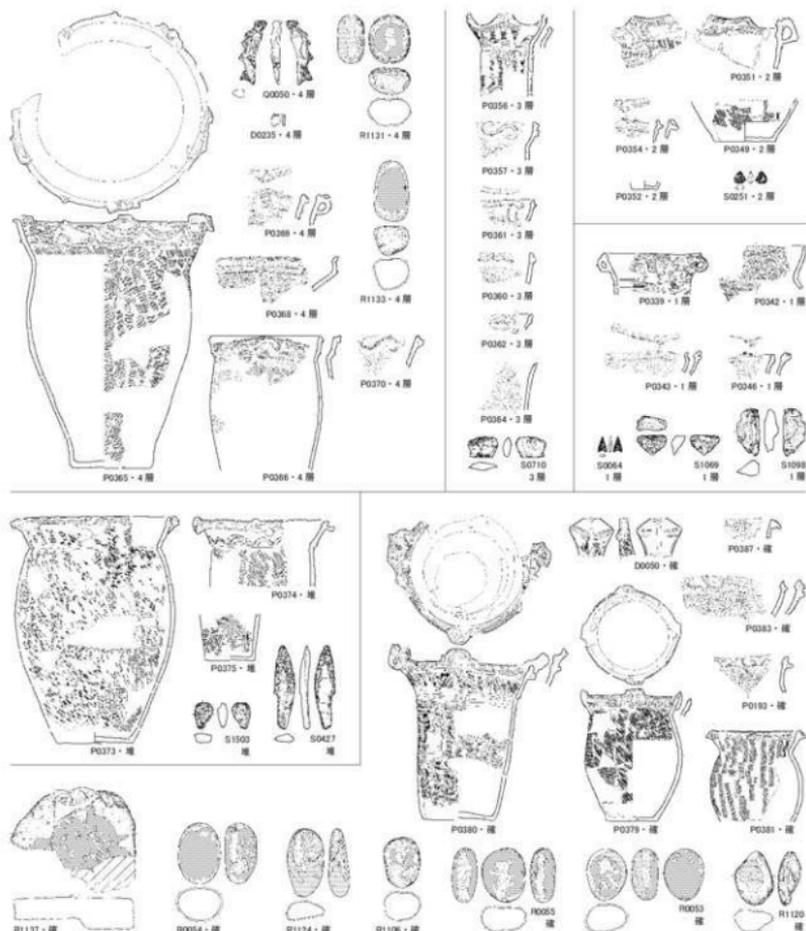
出土遺物：床面および廃絶後の堆積土から残存の良好な縄文土器の復元個体8点などが出土している。



第112図 SX2竪穴状遺構(1)

遺物の数量は縄文土器 46.5kg、土製品 2点、石器 82点、礫石器 42点、石製品 1点である。このうち、縄文土器 38点（第3分冊：図版 34～40、第4分冊：写真図版 2・48～54）、土製品 2点（図版 279、写真図版 261）、石器 7点（図版 310、写真図版 301）、礫石器 10点（図版 386・387、写真図版 410・411）、石製品 1点（図版 450、写真図版 462）を図示した。

縄文土器は深鉢・小型深鉢・浅鉢があり、Ⅲ群 1類で3点、Ⅳ群 1類で5点の完形・略完形・復元個体がある。完形・略完形・復元個体を中心としたⅣ群 1類の土器が主体である。なお、Ⅲ群 1類として分類した土器もこれらと共通する特徴が見られることからほぼ同時期のものと考えられる。土製品は土偶・ミニチュア



堆積土出土遺物

第113図 SX2 竪穴状遺構 (2)

土器がある。土偶は大型品の胴上部(D0050)で、隆帯による乳房と沈線による正中線が見られる。石器は石鎌・尖頭器・楔形石器・不定形石器・磨製石斧・二次加工ある剥片・微細剥離ある剥片・剥片がある。礫石器は石皿・敲石・磨石類がある。石製品は異形石器がある。その他、炭化材(ヤマグツ)が出土している。また、縄文土器深鉢(P0374)でサンショウ属?果実の圧痕を確認した。

機能時期:床面および廃絶後の堆積土出土遺物から、4-1期に位置付けられる。

[SX3 竪穴状遺構] (第114図, 写真図版40・41)

位置:S-20・E-7

規模:長軸6.56m以上、短軸4.92m以上、面積23.69㎡程度

形態:平面形は隅丸長方形に近い不整形円形を呈する。壁面の立ち上がりは外傾気味となるが、比較的明瞭である。床面はほぼ平坦である。柱穴、か跡などの施設は確認されなかった。

壁面:地山を壁とする。残存壁高は最大0.38mである。

床面:地山を床とする。ほぼ平坦である。明瞭な硬化面は確認されなかった。

堆積土:8層に細分される。ローム・炭化物粒を含む黒色・黒褐色シルトである。2・3層に火山砂ブロックを含む。

出土遺物:床面および廃絶後の堆積土下層に伴う遺物は少ない。堆積土上層・確認面から縄文土器深鉢の復元個体2点(P0391・0403)などが出土している。

遺物の数量は縄文土器15.1kg、石器89点、礫石器14点である。このうち、縄文土器16点(第3分冊:図版41・42、第4分冊:写真図版54・55)、石器6点(図版310、写真図版301)、礫石器4点(図版387・388、写真図版411)を図示した。

縄文土器は深鉢・小型深鉢・浅鉢があり、復元個体1点(P0391)を含むIV群1類の土器が主体である。

石器は石鎌・石錐・石鏡・楔形石器・磨製石斧・不定形石器・両面加工石器・二次加工ある剥片・微細剥離ある剥片・剥片がある。礫石器は石皿・磨石類がある。その他、焼骨(ニホンジカ)が出土している。

機能時期:堆積土上層出土遺物から4-2期に位置付けられる可能性がある。

[SX4 竪穴状遺構] (第115図, 写真図版41・42)

位置:S-18・W-O-E

規模:長軸4.12m以上、短軸4.05m以上、面積11.73㎡以上

形態:平面形は隅丸長方形に近い不整形円形を呈する。壁面の立ち上がりは比較的明瞭であるが、東半部では外傾しており崩壊の影響と考えられる。床面はほぼ平坦である。床面の中央部に地床炉1基があり、東壁際に小型の土坑1基を伴う。柱穴は確認されなかった。

壁面:地山を壁とする。残存壁高は最大0.46mである。

床面:地山を床とする。ほぼ平坦である。炉跡北側の一部に明瞭な硬化面を確認した。中央部の床面直上に炭化物片の分布が認められた。

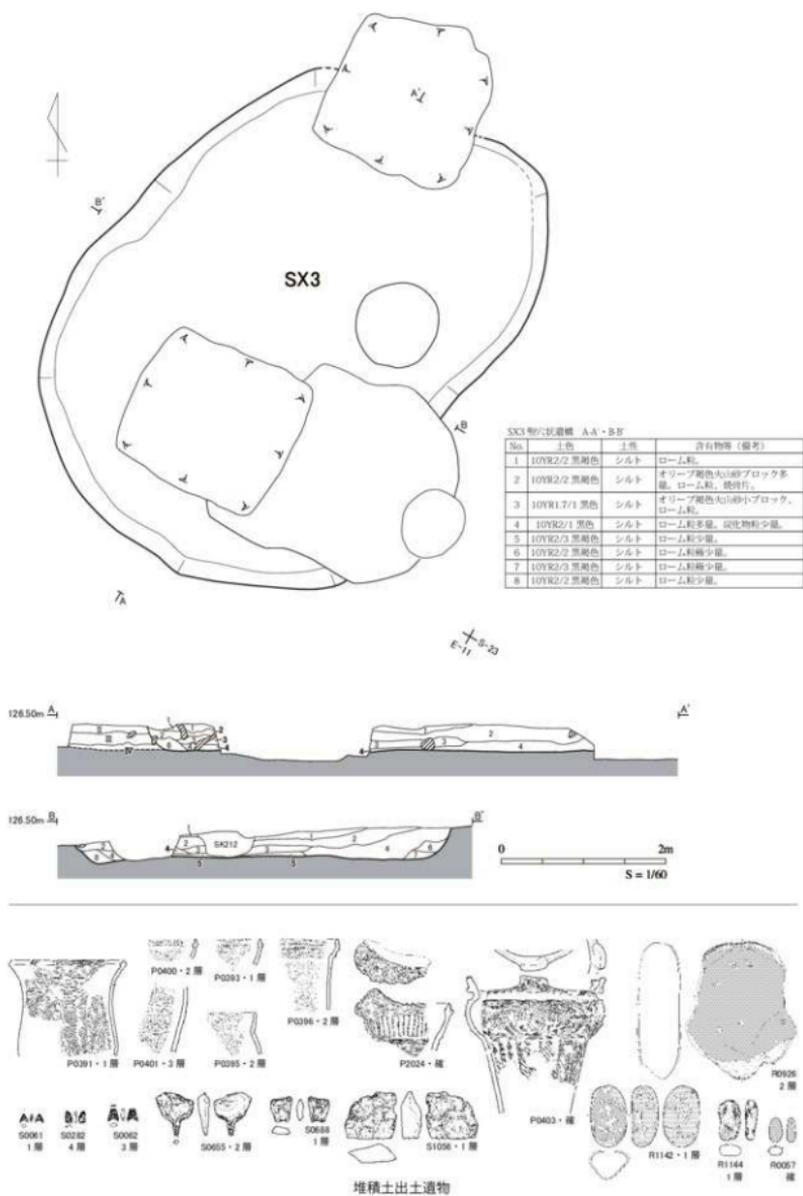
炉跡:中央部に地床炉1基(F1)がある。炉底面はほぼ平坦である。長軸45cm、短軸34cmの不整形円形の赤色硬化範囲を確認した。赤色化の深度は最大5cmである。

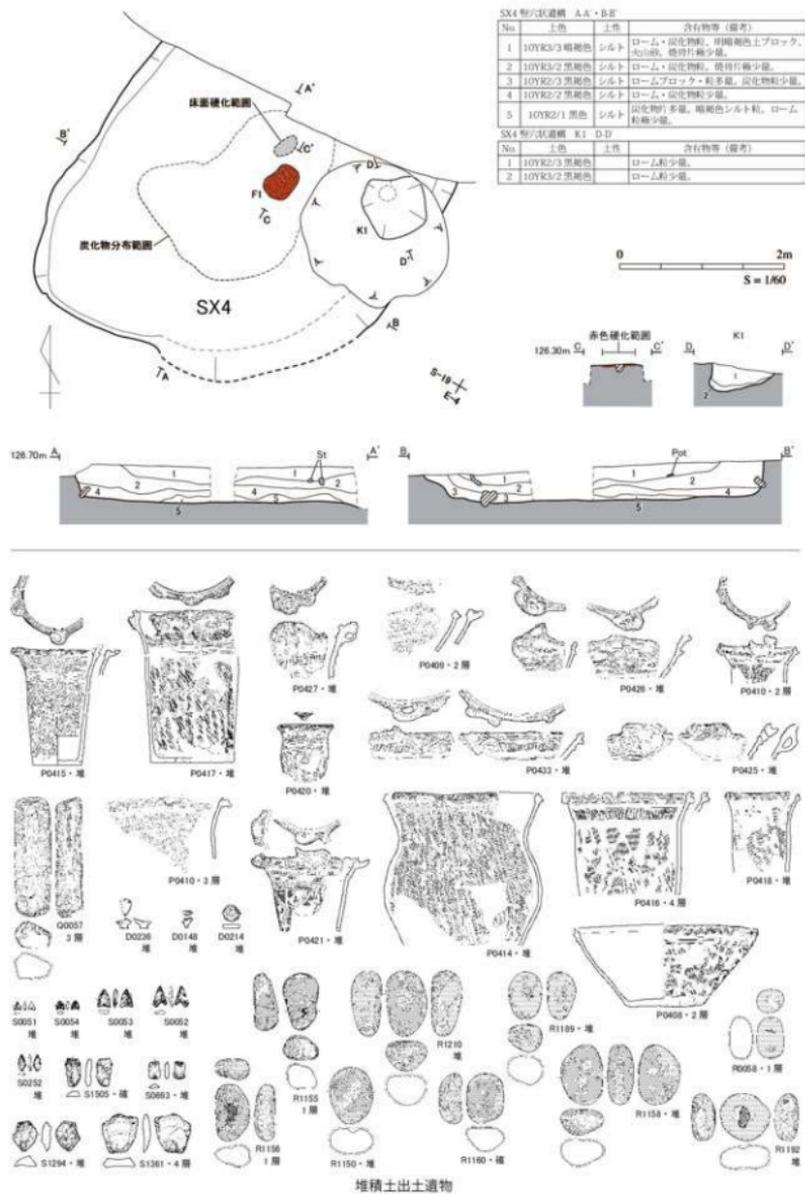
土坑:東壁際に小型の土坑1基(K1)がある。平面形は長軸78cm、短軸77cmの不整形で、断面形は深さ34cmの楕円状を呈し北壁面が抉れる。堆積土は2層に細分され、ローム粒を含む黒褐色土である。

堆積土:5層に細分される。ローム粒、炭化物・焼骨片などを含む黒色・黒褐色シルトである。1層に火山砂ブロックを含み、4層は炭化物層である。

出土遺物:床面に伴う遺物はなく、廃絶後の堆積土から残存の良好な縄文土器の復元個体10点などが出土している。

遺物の数量は縄文土器34.2kg、土製品5点、石器192点、礫石器73点、石製品1点である。このうち、縄文土器24点(第3分冊:図版43~47、第4分冊:写真図版3・56~59)、土製品3点(図版279、写真図版261)、

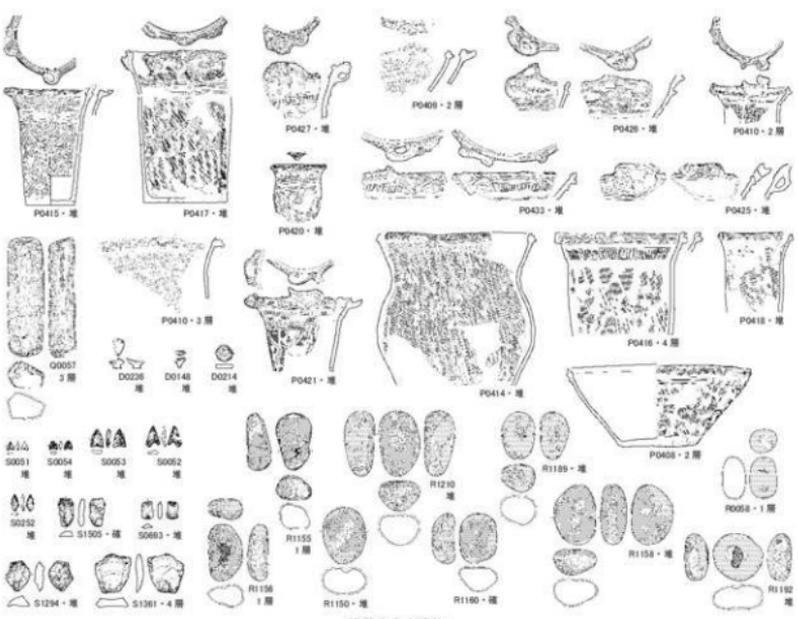




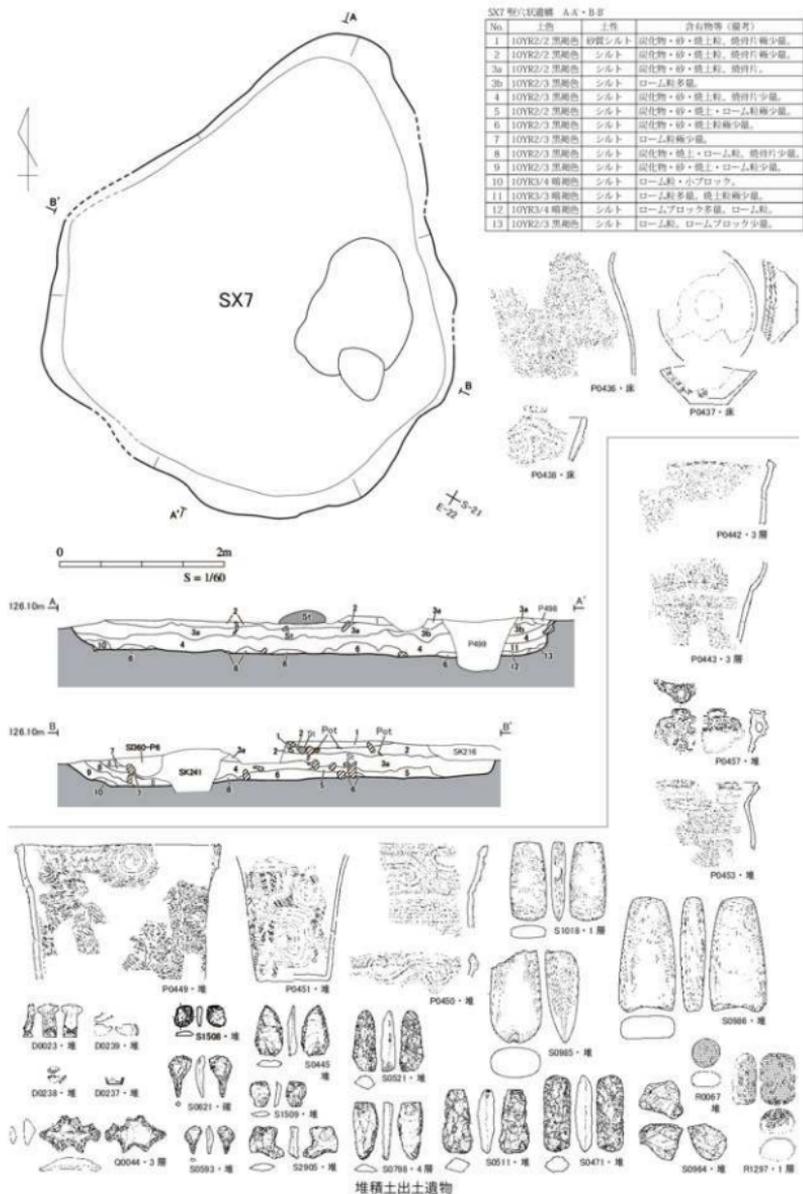
SX4 型穴遺構 A.A・B.B'			
No.	土色	土質	含有物等(備考)
1	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム・炭化物粒、市販褐色土アロック、丸山砂、植物片粒少量。
2	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒、植物片粒少量。
3	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・アロック、粒少量、炭化物粒少量。
4	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒少量。
5	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物粒多量、暗褐色シルト粒、ローム粒粒少量。

SX4 型穴遺構 K1 D.D'			
No.	土色	土質	含有物等(備考)
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒少量。
2	10YR3/2 暗褐色	シルト	ローム粒少量。

遺構と遺物の詳細
型穴状遺構



堆積土出土遺物
第115図 SX4 型穴状遺構



第116図 SX7 竪穴状遺構

石器 11 点 (図版 311、写真図版 301・302)、礫石器 11 点 (図版 388・389、写真図版 412・413)、石製品 1 点 (図版 450、写真図版 462) を図示した。

縄文土器は深鉢・小型深鉢・浅鉢・小型浅鉢があり、Ⅲ群 1 類で 3 点、Ⅳ群 1 類で 7 点の略完形・復元個体がある。略完形・復元個体を中心としたⅣ群 1 類の土器が主体である。なお、Ⅲ群 1 類として分類した土器もこれらと共通する特徴が見られることからほぼ同時期のものと考えられる。土製品は土偶・ミニチュア土器・三脚形土製品・土器片加工品(円盤形)がある。石器は石鏃・石錐・楔形石器・磨製石斧・不定形石器・二次加工ある剥片・微細剥離ある剥片・剥片がある。図示していないが、宮城県蔵王産黒曜石製の剥片(S0371)がある。礫石器は石皿・蔽石・磨石類がある。石製品は棒状石製品(Q0057)で、溶結凝灰岩の柱状節理による棒状垂直線を素材とし、下端部に敲打痕とこれに伴う剥離痕が見られる。その他、焼成粘土塊 1 点(写真図版 283)・焼骨(ニホンジカ?・哺乳類)・炭化材(クリ)が出土している。

年代測定: AMS 測定により、堆積土 4 層(炭化物層)の骨片集中出土木炭で $4,440 \pm 30$ yrBP の放射性炭素年代が得られている。暦年較正年代(1 σ)は 5,214 ~ 4,967calBP の間に 2 つの範囲で示される。

機能時期: 廃絶後の堆積土出土遺物から、4-1 期に位置付けられる。

【SX7 竪穴状遺構】(第 116 図, 写真図版 43・44)

位置: S-20・E-18

規模: 長軸 5.88m、短軸 5.19m、面積約 18.00m²

形態: 平面形は不整形円形を呈する。壁面の立ち上がりは比較的明瞭である。床面はほぼ平坦であるが、南東に向かって僅かに傾斜する。柱穴、か跡などの施設は確認されなかった。

壁面: 地山を壁とする。残存壁高は最大 0.43m である。

床面: 地山を床とする。ほぼ平坦であるが、南東に向かって僅かに傾斜する。明瞭な硬化面は確認されなかった。

堆積土: 13 層に細分される。ローム粒、焼土・炭化物粒、焼骨片などを含む黒褐色・暗褐色シルト、砂質シルトである。

出土遺物: 床面に伴う遺物は少なく、廃絶後の堆積土から縄文土器の復元個体 2 点などが出土している。

遺物の数量は縄文土器 71.9kg、土製品 5 点、石器 318 点、礫石器 127 点、石製品 1 点である。このうち、縄文土器 47 点(第 3 分冊: 図版 47 ~ 51、第 4 分冊: 写真図版 59 ~ 63)、土製品 4 点(図版 280、写真図版 261)、石器 18 点(図版 311 ~ 313、写真図版 302 ~ 304)、礫石器 11 点(図版 390・391、写真図版 413 ~ 414)、石製品 1 点(図版 450、写真図版 462) を図示した。

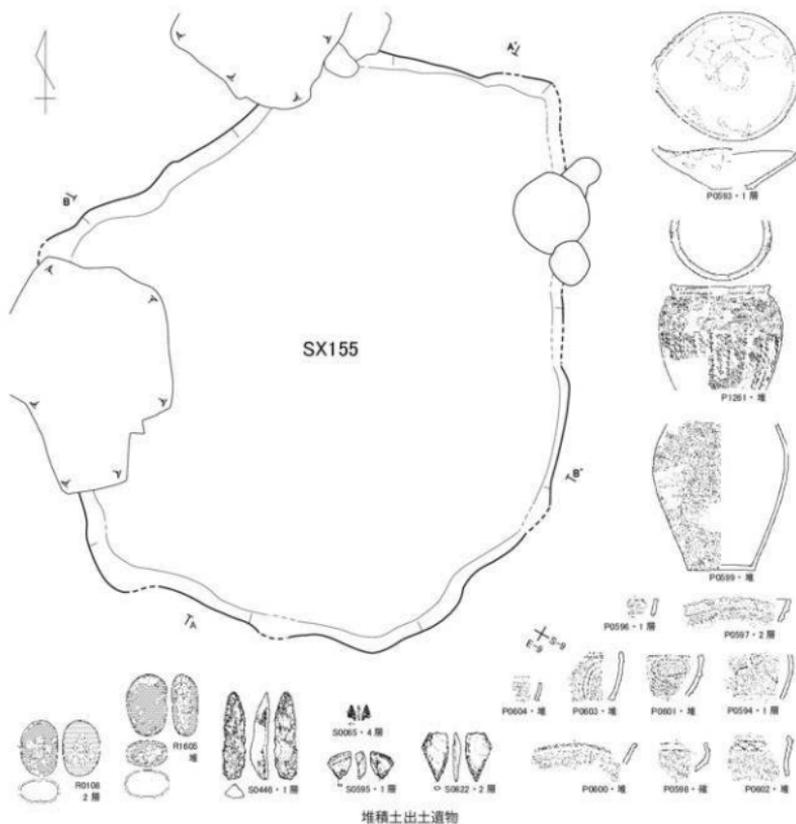
縄文土器は深鉢・小型深鉢・浅鉢・小型皿があり、Ⅲ群 3 類で 1 点、Ⅳ群 1 類で 2 点の復元個体がある。復元個体と大型破片を中心としたⅣ群 1 類の土器が主体である。土製品は土偶・ミニチュア土器がある。土偶は頭部のみを欠く小型品(D0023)で、隆帯による乳房と正中線が見られ、脚部に横位集合沈線文を施文する。石器は石鏃・尖頭器・石錐・石鏟・楔形石器・磨製石斧・不定形石器・両面加工石器・二次加工ある剥片・微細剥離ある剥片・剥片・石核がある。S0985 は硬質凝灰岩製の乳棒状磨製石斧で基部を欠損、S0986 はドレライト製の定角式磨製石斧で刃部を欠損する。S1018 は粘板岩製の小型の定角式磨製石斧である。礫石器は石皿・蔽石・磨石類がある。石製品は異形石器がある。その他、焼成粘土塊 4 点(写真図版 283)・焼骨(哺乳類)・炭化種実(クリ)が出土している。

年代測定: AMS 測定により、堆積土出土土器付着炭化物で $4,440 \pm 30$ yrBP (P2211: Ⅳ群 1 類) の放射性炭素年代が得られている。暦年較正年代(1 σ)は 5,260 ~ 4,966calBP の間に 4 つの範囲で示される。

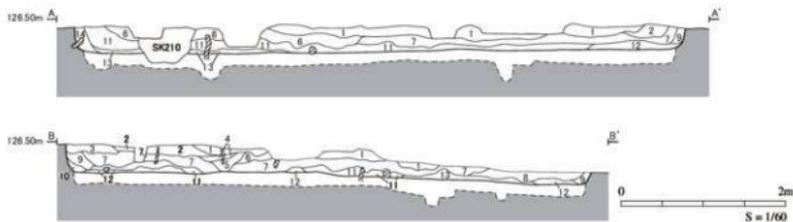
機能時期: 堆積土出土遺物から、4-2 期に位置付けられる。

【SX155 竪穴状遺構】(第 117 図, 写真図版 45)

位置: S-7・E-4



堆積土出土遺物



SX155 竪穴遺構 A-A・B-B

No.	土色	土質	含有物等(備考)	No.	土色	土質	含有物等(備考)
1	10YR2/3 黒褐色	シルト	径2~5mm程度炭化物片少量, ローム粒, 焼骨片,	8	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒, 焼骨片極少量,
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒, 焼骨片, 径3~7mm程度の炭化物片,	9	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒少量,
3	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム, 炭化物粒, 焼骨片少量,	10	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム小ブロック, 焼骨片極少量,
4	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒, 炭化物粒少量,	11	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒少量, 炭化物粒, 焼骨片極少量,
5	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒, 炭化物粒少量,	12	10YR2/4 暗褐色	シルト	ロームブロック・粒少量,
6	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒, 焼骨片,	13	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック・粒少量, 焼骨片極少量,
7	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒, 焼骨片少量,	14	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒少量,

第117図 SX155 竪穴遺構

第3章 調査の成果

規模：長軸 7.56m、短軸 6.91m、面積約 32.63㎡

形態：平面形は不整楕円形を呈する。壁面の立ち上がりは比較的明瞭である。床面はほぼ平坦であるが、東に向かって僅かに傾斜する。柱穴、炉跡などの施設は確認されなかった。

壁面：地山を壁とする。残存壁高は最大 0.35m である。

床面：地山を床とする。南北方向で見るとほぼ平坦であるが、東に向かって僅かに傾斜する。明瞭な硬化面は確認されなかった。

堆積土：14 層に細分される。ローム粒、炭化物・焼骨片などを含む黒褐色・暗褐色シルトである。

出土遺物：床面に伴う遺物はなく、廃絶後の堆積土から縄文土器の復元個体 3 点などが出土している。遺物の数量は縄文土器 11.3kg、石器 40 点、礫石器 15 点である。このうち、縄文土器 13 点（第 3 分冊：図版 51～53、第 4 分冊：写真図版 63・64）、石器 4 点（図版 313、写真図版 304）、礫石器 2 点（図版 391、写真図版 415）を図示した。縄文土器は深鉢・浅鉢があり、Ⅱ群 1 類で 2 点、Ⅴ群 2 類で 1 点の復元個体がある。石器は石鏃・尖頭器・石錐・石鐮・楔形石器・不定形石器・二次加工ある剥片・剥片がある。礫石器は石皿・鼓石・磨石類がある。その他、焼骨（哺乳類）が出土している。

機能時期：堆積土出土遺物から、2-2 期に位置付けられる。

【SX510 竪穴状遺構】（第 118 図、写真図版 46）

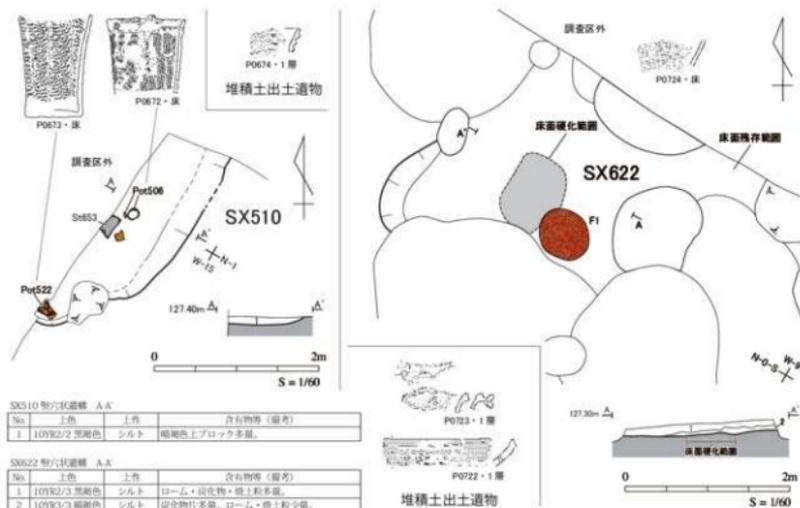
位置：N-2・W-17

規模：長軸 2.80m 以上、短軸 0.91m 以上、面積 2.28㎡以上

形態：大部分が調査区外の北西側へ延びており、一部のみの確認のため平面形は不詳である。壁面の立ち上がりはあまり明瞭でない。床面はほぼ平坦である。柱穴、炉跡などの施設は確認されなかった。

壁面：地山を壁とする。残存壁高は最大 0.19m である。

床面：地山を床とする。ほぼ平坦である。明瞭な硬化面は確認されなかった。



堆積土：1層で、暗褐色土ブロックを含む黒褐色シルトである。

出土遺物：床面から縄文土器の復元個体2点などが出土している。遺物の数量は縄文土器3.1kg、礫石器2点である。このうち、縄文土器3点（第3分冊：図版54、第4分冊：写真図版65）を図示した。縄文土器は深鉢があり、

Ⅱ群1類、Ⅴ群2類で各1点の復元個体がある。礫石器は石皿がある。

機能時期：床面出土遺物から、2-2期に位置付けられる。

【SX622 竪穴状遺構】（第118図、写真図版46）

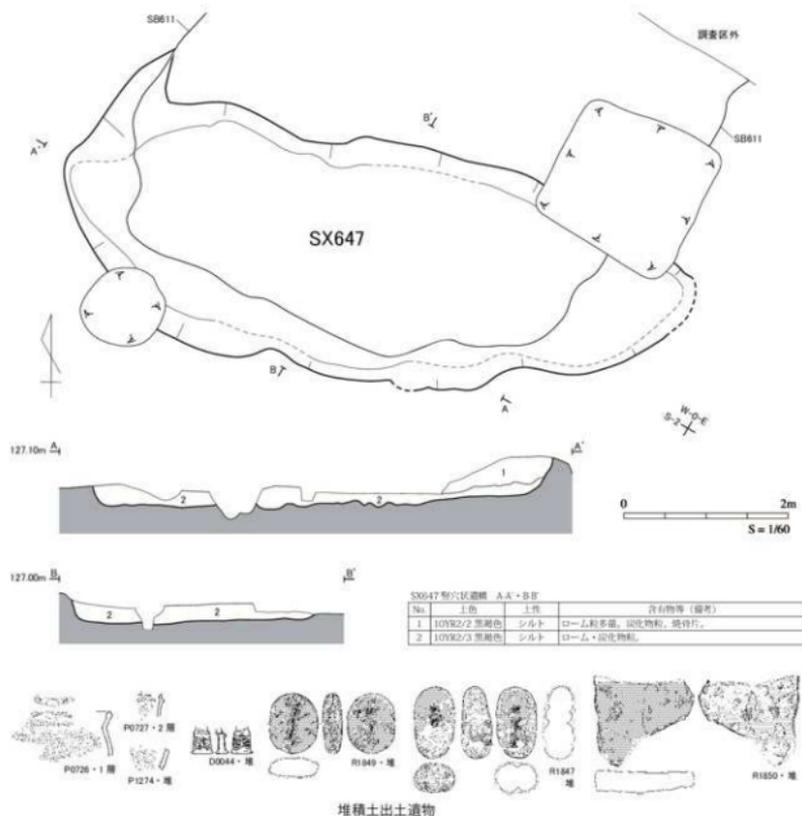
位置：N-1・W-13

規模：長軸4.68m以上、短軸2.97m以上、面積5.81m以上

形態：北側が調査区外へ延びており、確認した範囲の大部分が新しい遺構に壊されているため、平面形は不詳である。床面はほぼ平坦である。地床が1基と床面の明瞭な硬化を確認した。柱穴は確認されなかった。

壁面：ごく一部で立ち上がりを確認した。地山を壁とする。残存壁高は最大0.12mである。

床面：地山を床とする。ほぼ平坦である。炉跡西側の一部に明瞭な硬化面を確認した。

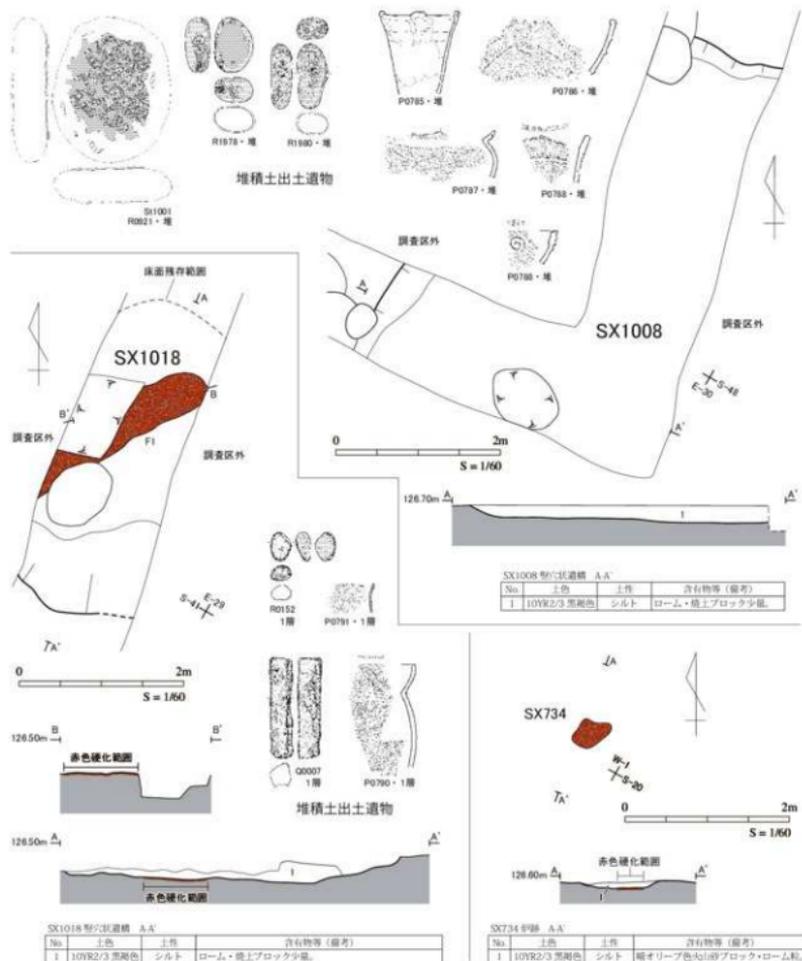


第3章 調査の成果

炉跡:地床炉1基(F1)がある。炉底面は平坦である。長軸65cm、短軸57cmの楕円形の赤色硬化範囲を確認した。赤色化の深度は最大3cmである。

堆積土:2層に細分される。ローム粒、炭化物片、焼土粒を多く含む黒褐色・暗褐色シルトである。

出土遺物:床面に伴う遺物は少なく、廃絶後の堆積土などから少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器1.2kg、石器6点、礫石器7点である。このうち、縄文土器3点(第3分冊:図版54、第4分冊:写真図版65)、礫石器1点(図版392、写真図版415)を図示した。縄文土器は深鉢の破片である。石器は二次加工ある剥片・微細剥離ある剥片・剥片がある。礫石器は敲石・磨石類がある。その他、焼成粘土塊1点(写真図版283)が



第120図 SX1008・1018 型穴遺構、SX734 炉跡

土している。

機能時期：推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の重複関係ではSK511土坑(2-2期)より古く位置付けられる。

以上より機能時期は2-2期以前と考えられる。

【SX647 竪穴状遺構】 (第119図, 写真図版46・47)

位置：S-2・W-5

規模：長軸7.60m以上、短軸2.98m、面積14.26㎡程度

形態：平面形は不整形円形を呈する。壁面の立ち上がりは比較的明瞭である。床面はやや凹凸が見られる。柱穴、炉跡などの施設は確認されなかった。位置関係からSB611掘立柱建物跡床面構築に伴う掘方の可能性も考えられる。

壁面：地山を壁とする。残存壁高は最大0.59mである。

床面：地山を床とする。やや凹凸が見られ、南に向かって僅かに傾斜する。明瞭な硬化面は確認されなかった。

堆積土：2層に細分される。ローム・炭化物粒、焼骨片を含む黒褐色シルトである。

出土遺物：床面に伴う遺物はなく、廃絶後の堆積土から少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器4.1kg、土製品1点、石器31点、礫石器13点である。このうち、縄文土器7点(第3分冊:図版54・55、第4分冊:写真図版65)、土製品1点(図版280、写真図版262)、礫石器3点(図版392、写真図版415・416)を図示した。縄文土器は深鉢・浅鉢の破片がある。土製品は土偶で、中型品の下半身である(D0044)。側腹部に渦巻状沈線文、脚部に横位集合沈線文を施す。石器は剥片がある。礫石器は石皿・磨石類がある。その他、焼骨(哺乳類)が出土している。

機能時期：推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の重複関係ではSX717遺物包含層(2~3期)より新しく、SB611掘立柱建物跡(4-2期)より古く位置付けられる。以上より機能時期は2期以降4-2期以前と考えられる。

【SX1008 竪穴状遺構】 (第120図, 写真図版48)

位置：S-47・E-28

規模：長軸5.47m以上、短軸3.86m以上、面積9.76㎡以上

形態：一部のみ確認のため、平面形は不詳である。壁面の立ち上がりはあまり明瞭でない。床面はほぼ平坦であるが、東に向かって僅かに傾斜する。柱穴、炉跡などの施設は確認されなかった。

壁面：地山を壁とする。残存壁高は最大0.29mである。

床面：地山を床とする。ほぼ平坦であるが、東に向かって僅かに傾斜する。明瞭な硬化面は確認されなかった。

堆積土：1層でローム・焼土ブロックを含む黒褐色シルトである。

出土遺物：床面に伴う遺物はなく、廃絶後の堆積土から縄文土器の復元個体1点などが出土している。遺物の数量は縄文土器5.2kg、石器37点、礫石器6点である。このうち、縄文土器5点(第3分冊:図版55、第4分冊:写真図版66)、礫石器3点(図版393、写真図版416)を図示した。縄文土器は深鉢があり、Ⅱ群1類の復元個体1点、Ⅲ群1類の大型破片2点などである。石器は楔形石器・不定形石器・微細刺剣ある剥片・剥片がある。礫石器は石皿・磨石類がある。

機能時期：堆積土出土遺物から、概ね3期に位置付けられる。

【SX1018 竪穴状遺構】 (第120図, 写真図版48)

位置：S-40・E-27

規模：長軸4.02m以上、短軸1.50m以上、面積5.07㎡以上

形態：一部のみ確認のため、平面形は不詳である。壁面の立ち上がりはあまり明瞭でない。床面はほぼ平坦であるが、南に向かって僅かに傾斜する。地床炉1基を確認した。柱穴は確認されなかった。

壁面：地山を壁とする。残存壁高は最大0.24mである。

床面:地山を床とする。ほぼ平坦であるが、南に向かって僅かに傾斜する。明瞭な硬化面は確認されなかった。
炉跡:地床炉1基(F1)がある。炉底面は平坦である。長軸200cm以上、短軸50cmの長楕円形の赤色硬化範囲を確認した。赤色化の深度は最大12cmである。

堆積土:1層でローム・焼土ブロックを含む黒褐色シルトである。

出土遺物:床面に伴う遺物はなく、堆積土から縄文土器の破片などが出土している。遺物の数量は縄文土器1.2kg、石器8点、礫石器1点、石製品1点である。このうち、縄文土器2点(第3分冊:図版55、第4分冊:写真図版66)、礫石器1点(図版393、写真図版416)、石製品1点(図版450、写真図版462)を图示した。縄文土器は深鉢で、II群2類の大型破片である。石器は剥片がある。礫石器は敲石がある。石製品は棒状石製品(Q0007)で、溶結凝灰岩の柱状節理による棒状角礫を素材とし、稜上に剥離や研磨を加える。

年代測定:AMS測定により、堆積土出土土器付着炭化物で4,460±30yrBP(P0790:II群2類)の放射性炭素年代が得られている。暦年較正年代(1σ)は5,273～4,980calBPの間に4つの範囲で示される。

機能時期:堆積土出土遺物から、概ね2期に位置付けられる。

5. 炉跡

18基確認した。単独で確認した1基(SX734)を除いては、既述の通り掘立柱建物跡(SB167・256・358・362・363・741)の床面に伴うものと考えられる。このほか、掘立柱建物跡1軒(SB611:6基)、竪穴住居跡3軒(SI1・20・22:各1基)、竪穴状遺構3基(SX4・622・1018:各1基)、土坑1基(SK1007:1基)の床面・底面に炉跡を伴う。確認した炉跡はいずれも上面が平坦あるいはごく浅く浅く皿状に窪む地床炉で、石組みなどの施設を伴うものはなく赤色硬化範囲のみを確認している。各遺構に伴う炉跡については所属遺構ごとに記述し、ここでは単独で確認したSX734炉跡についてのみ述べる。

【SX734 炉跡】(第120図)

位置:S-19・W-2

規模:長軸0.50m、短軸0.35m

形態:平面形が不整形円形を呈する赤色硬化範囲で、赤色化の深度は最大13cmである。

出土遺物:炉跡上面から縄文土器0.4kg、石器4点が出土している。图示した遺物はない。石器は剥片がある。

機能時期:推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の重複関係ではSX4竪穴状遺構(4-1期)より古く位置付けられる。以上より機能時期は4-1期以前と考えられる。

6. フラスコ状土坑

56基確認した。調査区西部に8基、東部に48基が集中的に分布し、複数基の重複関係も見られる。平面形は略円形を基調とし、断面形は上部が窄まり底面が広い袋状を呈する。主に袋状部分の形態により三角フラスコ形・鼓形・スタンプ形・ピーカー形に区分される。平面規模は直径1.2～2.4m程度、深さは最大で1.8mに及ぶものがあるが、平均的な規模は直径1.5m、深さ1.2m程度である。底面は平坦で、中央部にピットや放射状の浅い溝を伴うものが少数見られる。また、礫層上面まで掘り込まれ、底面に大小の礫が露出するものも見られる。底面からの遺物の出土はごく少なく、SK28・133・315・606・612・721フラスコ状土坑などでは廃絶後の堆積土から縄文土器などの遺物がまともに出土している。なお、I区南東隅土坑群(SK83・84・86・124・368・369・370フラスコ状土坑)については、遺構掘削時には大型の性格不明遺構(SX371)として一括して掘り下げを行っており、壁面および断面観察の結果7基以上のフラスコ状土坑の重複が判明したものである。以下、各遺構について詳述する。

【SK28 フラスコ状土坑】 (第121図, 写真図版49・50)

位置: S-26・E-23

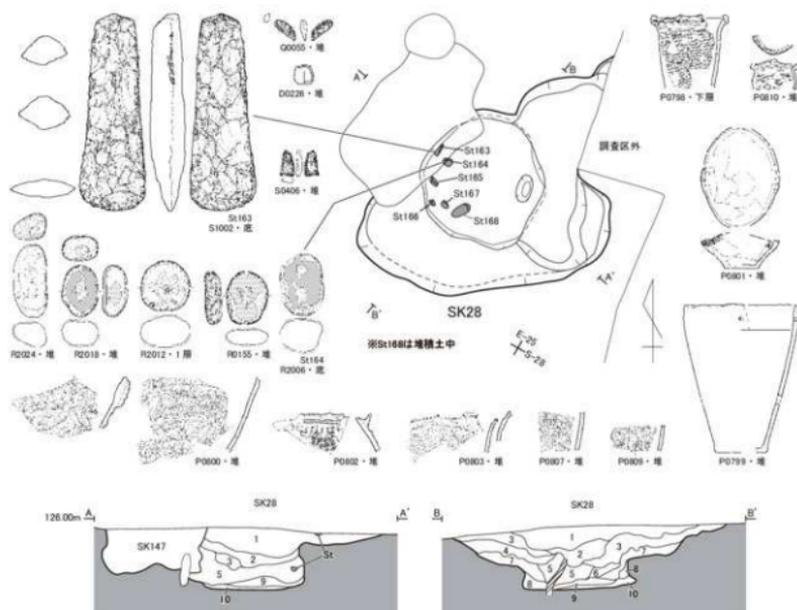
規模: 最大長 3.24m 以上, 最大幅 2.30m, 面積 5.03m²以上, 容積 1.37m³程度

形態: 平面形は不整形で、断面形は深さ 0.81m のピーカー形を呈する。底面は径 1.50m 前後の円形を呈し、平坦である。底面の東壁寄りに柱穴状の掘り込み 1 基を伴う。遺物の出土状況から墓壇に転用されたものとも考えられる。

堆積土: 10 層に細分される。ローム・黒褐色土・焼土ブロック、炭化物粒、焼骨片を含む黒褐色・暗褐色シルトである。2~10 層は人為の埋土と考えられ、3・9 層では焼土ブロックを多量に含む。

出土遺物: 底面の西壁寄りから石器 1 点 (打製石斧: S1002)、礫石器 4 点 (磨石類: R2006・2014・2015・2017)、石製品 1 点 (棒状石製品: Q0015) が出土している。このほか、堆積土などからも多くの遺物が出土している。

遺物の数量は縄文土器 12.7kg, 土製品 3 点, 石器 95 点, 礫石器 18 点, 石製品 2 点である。このうち、縄文土器 20 点 (第 3 分冊: 図版 56・57, 第 4 分冊: 写真図版 67・68)、土製品 1 点 (図版 280, 写真図版 262)、石器 2 点 (図版 314, 写真図版 305)、礫石器 5 点 (図版 394, 写真図版 417)、石製品 1 点 (図版 450, 写真図版 462) を図示した。



SK28 フラスコ状土坑 A-A'・B-B'

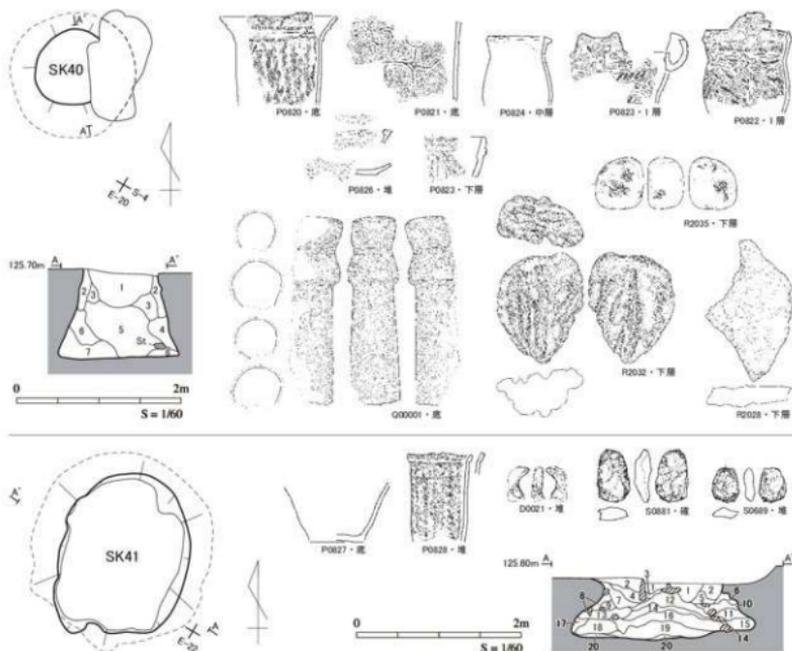
Str.	土色	土性	含有物等 (備考)
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒少量, 焼骨片粒少量。
2	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒少量, 焼骨片粒少量。(人高)
3	10YR2/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック多量, 炭化物粒。(人高)
4	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・炭化物・焼土粒, 焼土小ブロック少量。(人高)
5	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒, ローム小ブロック少量。(人高)
6	10YR2/3 黒褐色	シルト	焼土ブロック多量, 炭化物粒少量。(人高)

Str.	土色	土性	含有物等 (備考)
7	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒。(人高)
8	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック, ローム粒少量。(人高)
9	10YR2/3 黒褐色	シルト	焼土ブロック多量, 炭化物粒, 黒褐色土少量。(人高)
10	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒・小ブロック, 焼土粒少量。(人高)

第121図 SK28 フラスコ状土坑

第3章 調査の成果

縄文土器は深鉢・小型深鉢・浅鉢があり、Ⅲ群1類で1点(P0801)、Ⅳ群1類で2点(P0798・0810)、Ⅴ群2類で1点(P0799)の復元個体がある。復元個体を含むⅣ群1類の土器が主体である。土製品は土偶・ミニチュア土器がある。石器は石鏃・楔形石器・打製石斧・二次加工ある剥片・微細剥離ある剥片・剥片がある。S1002は珪質頁岩製の大型打製石斧で長さ20.0cm、幅6.5cm、厚さ3.5cm、重量468.0gである。全体に入念な調整が施され、刃部がやや楕形に開く均整の取れた形態である。礫石器は磨石類がある。石製品は異形石器・棒状石製品がある。棒状石製品(Q0015)は片岩製で長さ37.1cm、幅16.0cm、厚さ13.1cmの棒状を呈する。石材のマサ化による表面の崩壊が著しいため図示しなかった。その他、焼成粘土口土器(写真図版284)・焼骨(イ



SK40 フラスコ状土坑 表A

No.	土色	土性	含有物等(備考)
1	10YR3/1 黒褐色	シルト	焼土粒少量、炭化物・焼片粒少量。(人高)
2	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック多量。(面)
3	10YR3/2 黒褐色	シルト	ローム粒、焼土粒少量。(面)
4	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム小ブロック、ローム粒少量、焼土粒少量。(人高)
5	10YR2/1 黒色	シルト	焼片粒少量、焼土粒少量。(人高)
6	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム粒少量、焼土粒少量。(人高)
7	10YR4/1 黒灰色	シルト	焼土粒少量、炭化物粒少量。(人高)
8	10YR2/2 黒褐色	シルト	ロームブロック、焼土粒少量。(面)

SK41 フラスコ状土坑 表A

No.	土色	土性	含有物等(備考)
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒、ローム小ブロック・ブロック粒少量
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒、炭化物・焼土粒少量
3	10YR3/1 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒少量
4	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム・炭化物粒少量
5	10YR3/4 暗褐色	シルト	暗褐色土ブロック、ローム・炭化物粒、ロームブロック少量
6	10YR3/3 暗褐色	シルト	ロームブロック・粘多量。(面)
7	10YR3/3 暗褐色	シルト	ロームブロック・粘
8	10YR3/3 暗褐色	シルト	ロームブロック・粘、焼土粒少量

No.	土色	土性	含有物等(備考)
9	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム粒少量
10	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック・粘多量、暗褐色土ブロック少量、炭化物粒少量。(面)
11	10YR4/3 上赤い黄褐色	シルト	ロームブロック多量、炭化物粒、凝灰質小礫粒少量。(面)
12	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒少量、ロームブロック、焼土粒少量。(人高)
13	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック多量、炭化物・焼土粒少量、凝灰質小礫粒少量。(面)
14	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック、炭化物粒少量、暗褐色土ブロック、焼土粒少量。(人高)
15	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック、炭化物粒少量。(人高)
16	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒、炭化物・焼土粒少量、ロームブロック粒少量。(人高)
17	10YR3/4 暗褐色	シルト	ローム小ブロック多量、ローム粒、炭褐色土ブロック、(面)
18	10YR2/2 黒褐色	シルト	暗褐色土小ブロック、ローム・炭化物粒少量。(人高)
19	10YR3/3 暗褐色	シルト	ロームブロック多量、暗褐色土ブロック、ローム粒少量、炭化物・焼土粒少量。(人高)
20	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック多量、ローム・黒褐色土小ブロック粒少量。(人高)

第122図 SK40・41 フラスコ状土坑

ノシシ・哺乳綱)・炭化材(クリ)が出土している。

機能時期：堆積土出土遺物から、4-1期に位置付けられる。

【SK40 フラスコ状土坑】 (第122図, 写真図版50)

位置：S-3・E-18

規模：最大長1.54m、最大幅1.53m、面積約1.58㎡、容積約1.19㎡

形態：平面形は略円形で、断面形は深さ1.02mの鼓形を呈する。底面は略円形を呈し、平坦である。

堆積土：8層に細分される。ロームブロック、焼土粒、炭化物・焼骨片を含む黒色・黒褐色・暗褐色・褐灰色シルトである。1・4～7層は人為的埋土、2・3・8層は崩落土と考えられる。

出土遺物：底面から縄文土器深鉢の復元個体1点(P0820)、大型破片1点(P0821)、石製品1点(石棒：Q0001)が出土している。このほか、堆積土などからも多くの遺物が出土している。

遺物の数量は縄文土器7.2kg、石器7点、礫石器20点、石製品1点である。このうち、縄文土器7点(第3分冊：図版57・58、第4分冊：写真図版68・69)、礫石器5点(図版395・396、写真図版417・418)、石製品1点(図版451、写真図版462)を図示した。

縄文土器は深鉢・浅鉢があり、Ⅱ群1類(P0824)、Ⅲ群1類(P0820)、Ⅳ群1類(P0822)で各1点の復元個体がある。主体は復元個体と大型破片(P0821)を含むⅣ群1類の土器である。石器は不定形石器・剥片・石核がある。礫石器は石皿・台石・有溝砥石・磨石類がある。石製品は有頭石棒の頭部(Q0001)で、SK633土坑出土の軸部(Q0070)、SX717遺物包含層出土の軸部下端部(Q0069)と接合関係を持つ。デイサイトの柱状節理礫を素材として敲打による人間的整形加工を施し、長さ37.7cm、幅10.8cm、厚さ9.6cmで頭部は中位で括れる鼓形を呈する。その他、焼成粘土塊1点(写真図版284)・焼骨(哺乳綱)が出土している。

機能時期：底面および堆積土出土遺物から、4-2期に位置付けられる。

【SK41 フラスコ状土坑】 (第122図, 写真図版51)

位置：S-8・E-20

規模：最大長2.44m、最大幅2.18m、面積約3.43㎡、容積約1.75㎡

形態：平面形は楕円形で、断面形は深さ0.74mの三角フラスコ形を呈する。底面は不整略円形を呈し、平坦である。

堆積土：20層に細分される。ロームブロック、黒褐色・暗褐色土ブロック、炭化物・焼土粒を含む黒褐色・暗褐色・鈍い黄褐色シルトである。6・10・11・13・17層は崩落土、12・14～16・18～20層は人為的埋土と考えられる。

出土遺物：底面から縄文土器深鉢の大型破片(P0827)、堆積土から縄文土器深鉢の復元個体(P0828)、大型破片(P0833)各1点などが出土している。遺物の数量は縄文土器3.9kg、土製品1点、石器16点、礫石器3点である。このうち、縄文土器5点(第3分冊：図版59、第4分冊：写真図版70)、土製品1点(図版280、写真図版262)、石器2点(図版314、写真図版305)を図示した。縄文土器は深鉢・浅鉢で、Ⅲ群1類の復元個体1点(P0828)がある。土製品は土偶で、中型品の胴部の一部(D0021)である。石器は石筥・楔形石器・二次加工ある剥片・剥片がある。礫石器は敲石・磨石類がある。

機能時期：堆積土出土遺物から、3-1期に位置付けられる。

【SK43 フラスコ状土坑】 (第123図, 写真図版51)

位置：S-23・E-16

規模：最大長1.74m、最大幅1.46m、面積約1.72㎡、容積約1.64㎡

形態：平面形は不整楕円形で、断面形は深さ1.32mの三角フラスコ形を呈する。底面は径約1.5mの略円形を呈し、平坦である。

堆積土：12層に細分される。ロームブロック、炭化物・焼土粒を含む黒褐色シルト、黒褐色・暗褐色粘質シル

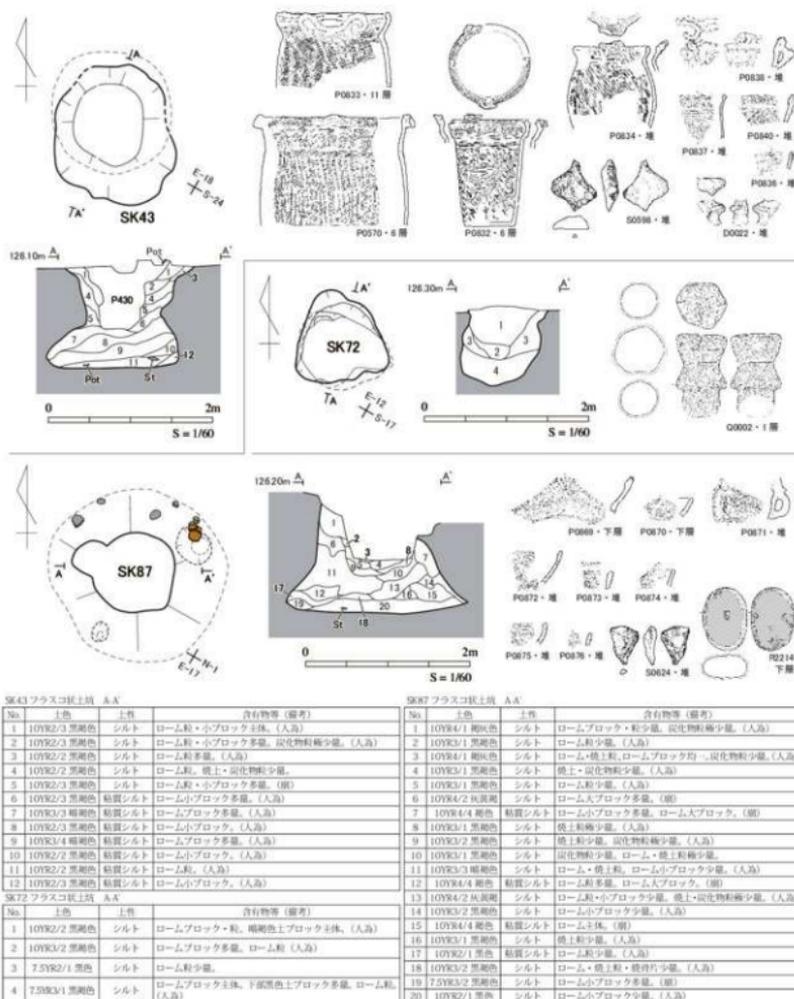
第3章 調査の成果

トである。1～3・6～12層は人為的埋土、5層は崩落土と考えられる。

出土遺物：堆積土から縄文土器深鉢の復元個体4点（P0570・0832・0833・0834）などが出土している。

遺物の数量は縄文土器5.4kg、土製品1点、石器14点、礫石器5点である。このうち、縄文土器9点（第3分冊：図版59・60、第4分冊：写真図版3・70・71）、土製品1点（図版280、写真図版262）、石器1点（図版315、写真図版305）を図示した。

縄文土器は深鉢で、IV群1類の復元個体4点（P0570・0832・0833・0834）がある。破片資料も含めて



第123図 SK43・72・87 フラスコ状土坑

IV群1類の土器が主体である。土製品は土偶で、中型品の胴上部の一部(D0022)である。押圧縄文による施文が見られる。石器は石錐・磨製石斧・微細剥離ある剥片・剥片がある。礫石器は石皿・磨石類がある。

機能時期：堆積土出土遺物から、4-1期に位置付けられる。

【SK72 フラスコ状土坑】 (第123図, 写真図版51)

位置：S-16・E-11

規模：最大長1.20m、最大幅1.04m、面積約0.78㎡、容積約0.47㎡

形態：平面形は不整形円で、断面形は深さ1.01mのピーカー形を呈する。底面は不整形円で、皿状に窪む。

堆積土：4層に細分される。ロームブロック、暗褐色土・黒色土ブロックを含む黒色・黒褐色シルトである。1・2・4層は人為的埋土と考えられる。

出土遺物：堆積土などから少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器0.3kg、石器3点、礫石器1点、石製品1点である。このうち、石製品1点(第3分冊：図版451、第4分冊：写真図版463)を図示した。石器は剥片がある。礫石器は磨石類がある。石製品は有頭石棒の頭部(Q0002)である。溶結凝灰岩の柱状節理礫を素材として敲打による人なな整形加工を施し、残存長16.7cm、幅10.4cm、厚さ9.3cmで頭部は中位で括れる鼓形を呈する。

機能時期：推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の重複関係ではSX17遺物包含層(3～4期)より新しく位置付けられる。以上より機能時期は3期以降と考えられる。

【SK87 フラスコ状土坑】 (第123図, 写真図版52)

位置：N-2・E-15

規模：最大長2.20m、最大幅2.08m、面積約2.89㎡、容積2.70㎡以上

形態：平面形は略円形で、断面形は深さ1.54mの三角フラスコ形を呈する。底面は略円形を呈し、平坦である。底面の北東部・南西部に柱穴状の掘り込み各1基を伴う。

堆積土：20層に細分される。ロームブロック、焼土・炭化物粒、焼骨片を含む黒色・黒褐色・暗褐色・褐色・褐色・灰褐色シルト、粘質シルトである。1～5・8・9・11・13・14・16～18・20層は人為的埋土、6・7・12・15・19層は崩落土と考えられる。

出土遺物：堆積土などから少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器3.7kg、石器10点、礫石器6点である。このうち、縄文土器8点(第3分冊：図版61、第4分冊：写真図版71)、石器1点(図版315、写真図版305)、礫石器1点(図版396、写真図版418)を図示した。縄文土器は深鉢・浅鉢の破片で、III群1類の土器が主体である。石器は石錐・石鏡・二次加工ある剥片・剥片がある。礫石器は石皿・磨石類がある。その他、焼骨(ニホンジカ)が出土している。

機能時期：堆積土出土遺物から、3-1期に位置付けられる。

【SK90 フラスコ状土坑】 (第124図, 写真図版52)

位置：S-4・E-6

規模：最大長1.72m、最大幅1.66m、面積約1.85㎡、容積1.43㎡以上

形態：平面形は略円形で、断面形は深さ0.90mの鼓形を呈する。底面は略円形を呈し、平坦である。底面の中央部・北東部に柱穴状の掘り込み各1基を伴う。

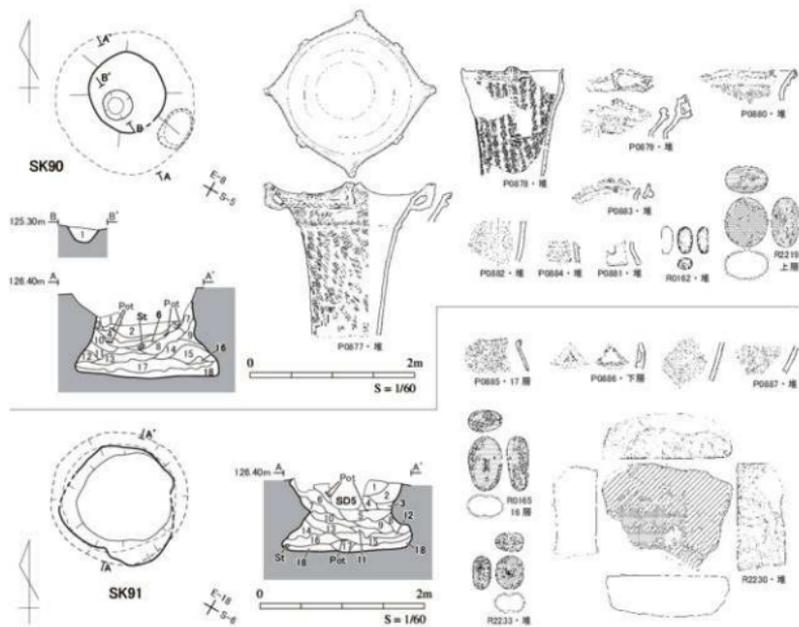
堆積土：18層に細分される。ロームブロック、黒褐色・暗褐色・褐色・黄褐色土ブロック、焼土粒、炭化物・焼骨片を含む黒色・黒褐色・暗褐色シルトである。1・2・4～6・8・11・13～18層は人為的埋土、3・7・9・10・12層は崩落土と考えられる。14層は炭化物粒を多量に含む。また、底面の柱穴状の掘り込み部の堆積土は1層でロームブロック、炭化物片、焼土粒を含む黒褐色シルトである。

出土遺物：堆積土から縄文土器深鉢の復元個体2点(P0877・O878)などが出土している。

第3章 調査の成果

遺物の数量は縄文土器 8.2kg、土製品 1点、石器 17点、礫石器 9点である。このうち、縄文土器 8点(第3分冊: 図版 61・62、第4分冊: 写真図版 4・71・72)、礫石器 2点(図版 396、写真図版 418)を図示した。

縄文土器は深鉢・台付土器で、略完形・復元個体 2点 (PO877・0878) を含む皿群 1 類の土器が主体である。土製品はミニチュア土器である。石器は楔形石器・両面加工石器・刺片がある。礫石器は敲石・磨石類がある。その他、焼骨(ニホンジカ・哺乳類)・炭化材(クリ)が出土している。また、縄文土器深鉢 (PO877)



SK90 フラスコ状土坑 A-A'			SK91 フラスコ状土坑 A-A'		
No	土色	土性	No	土色	土性
1	7.5YR2/2 黒褐色	シルト	1	10YR2/3 黒褐色	シルト
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	2	10YR2/3 黒褐色	シルト
3	10YR3/2 暗褐色	シルト	3	10YR2/3 黒褐色	シルト
4	10YR3/2 暗褐色	シルト	4	10YR3/3 暗褐色	シルト
5	10YR2/2 黒褐色	シルト	5	7.5YR3/2 黒褐色	シルト
6	10YR1.7/1 黒色	シルト	6	10YR2/3 黒褐色	シルト
7	7.5YR1.7/1 黒色	シルト	7	10YR2/3 黒褐色	シルト
8	10YR2/3 黒褐色	シルト	8	10YR3/4 暗褐色	シルト
9	10YR2/3 黒褐色	シルト	9	10YR2/3 黒褐色	シルト
10	10YR2/3 黒褐色	シルト	10	10YR2/3 黒褐色	シルト
11	10YR2/3 黒褐色	シルト	11	10YR3/3 暗褐色	シルト
12	10YR2/3 黒褐色	シルト	12	10YR4/3 濃い黄褐色	シルト
13	10YR2/3 黒褐色	シルト	13	10YR2/3 黒褐色	シルト
14	10YR2/3 黒褐色	シルト	14	10YR2/3 黒褐色	シルト
15	10YR2/3 黒褐色	シルト	15	10YR2/2 黒褐色	シルト
16	10YR2/3 黒褐色	シルト	16	10YR2/2 黒褐色	シルト
17	10YR2/3 黒褐色	シルト	17	10YR2/2 黒褐色	シルト
18	10YR2/3 黒褐色	シルト	18	10YR2/2 黒褐色	シルト
SK90 フラスコ状土坑 断面小穴 A-B			SK91 フラスコ状土坑 断面小穴 A-B		
No	土色	土性	No	土色	土性
1	10YR2/3 黒褐色	シルト	1	10YR2/2 黒褐色	シルト
			2	10YR2/2 黒褐色	シルト

第124図 SK90・91 フラスコ状土坑

で堅果類の圧痕を確認した。

機能時期：堆積土出土遺物から、3-2期に位置付けられる。

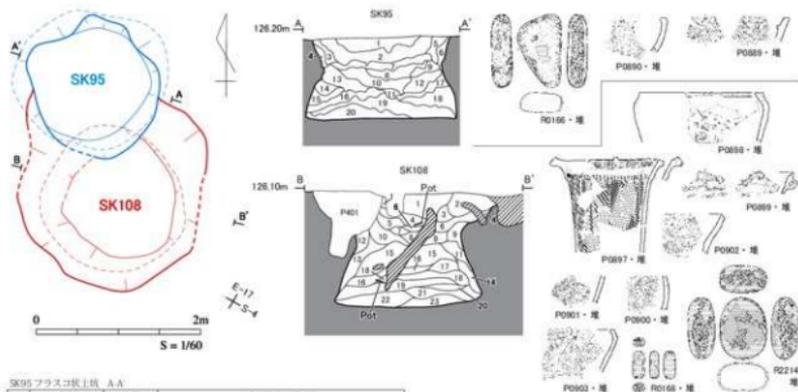
【SK91 フラスコ状土坑】(第124図, 写真図版52・53)

位置：S・5・E-16

規模：最大長1.68m、最大幅1.58m、面積約1.81㎡、容積約1.21㎡

形態：平面形は不整形形で、断面形は深さ0.90mの三角フラスコ形を呈する。底面は略円形を呈し、平坦である。堆積土：18層に細分される。ローム・焼土ブロック、黒色・黒褐色土ブロック、灰褐色粘土ブロック、炭化物片、小礫を含む黒褐色・暗褐色・鈍い黄褐色シルトである。1・9～18層は人為的埋土、8層は崩落土と考えられる。1層は焼土ブロック、10・16層は炭化物粒を多量に含む。

出土遺物：堆積土などから少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器3.0kg、土製品1点、石器11点、礫石器9点である。このうち、縄文土器3点(第3分冊：図版63、第4分冊：写真図版72)、礫石器3点(図版397、写真図版419)を図示した。縄文土器は深鉢の破片(P0885・0887：IV群1類)である。土製品はミニチュア土器である。石器は剥片がある。礫石器は石皿・敲石・磨石類がある。その他、焼骨(哺乳類)・炭



SK95 フラスコ状土坑 A-A'

No.	土色	土質	含有物等(備考)
1	10YR2/3 栗褐色	シルト	ローム・粒。炭化物片、暗褐色土・黒色土ブロック、焼土類(10YR2/4) 礫少量。
2	10YR3/4 暗褐色	シルト	ローム・黒色土・黒褐色土ブロック、炭化物片、ローム粒。(人高)
3	7.5YR2/2 黒褐色	シルト	ロームブロック主体、黒色土ブロック、炭化物片。(人高)
4	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム粒少量。(人高)
5	7.5YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・粒。炭化物片、ロームブロック少量。(人高)
6	10YR2/3 栗褐色	シルト	ローム粒少量。(人高)
7	10YR2/3 栗褐色	シルト	ローム・焼土上ブロック、炭化物片、ローム粒少量。(人高)
8	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック・粒主体、炭化物片。(人高)
9	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック・粒。炭化物片少量。(人高)
10	7.5YR2/2 黒褐色	シルト	ロームブロック・粒、黒色土ブロック、炭化物片。(人高)
11	7.5YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・黒色土、ロームブロック、炭化物片、灰白土(10YR8/1) 粒少量。(人高)
12	10YR2/3 栗褐色	シルト	ローム・焼土上ブロック(5YR4/6)、黒色土・栗褐色土ブロック、ロームブロック少量、灰白土(10YR8/1) 粒少量。(人高)
13	10YR2/3 栗褐色	シルト	ローム・焼土上(5YR4/6)、ロームブロック、炭化物片灰白土(10YR8/1) 粒少量。(人高)
14	7.5YR2/2 黒褐色	シルト	ロームブロック・粒、炭化物片。
15	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム・粒。炭化物片、焼土上ブロック少量。
16	7.5YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・粒。炭化物片、焼土上ブロック少量。
17	7.5YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・粒。炭化物片、焼土上ブロック少量。
18	10YR2/3 栗褐色	シルト	ローム・明褐色土(7.5YR5/6) 粒、ロームブロック、炭化物片。(人高)
19	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック・粒主体、黒褐色土ブロック。(人高)
20	10YR2/3 栗褐色	シルト	ローム・焼土上(5YR5/8)、ロームブロック。(人高)

SK108 フラスコ状土坑 B-B'

No.	土色	土質	含有物等(備考)
1	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック・小ブロック多量。(人高)
2	10YR2/3 栗褐色	シルト	ローム粒。
3	10YR3/4 暗褐色	シルト	ローム粒。
4	10YR4/6 暗褐色	粘質シルト	ロームブロック主体、暗褐色土ブロック少量。(人高)
5	10YR3/4 暗褐色	シルト	ローム粒主体、炭化物・焼土粒少量。(人高)
6	7.5YR2/2 黒褐色	シルト	ローム小ブロック多量、炭化物・焼土粒少量。(人高)
7	10YR3/4 暗褐色	シルト	ローム粒多量、炭化物・焼土粒少量。(人高)
8	10YR2/3 栗褐色	シルト	ローム・炭化物、焼土片少量。
9	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	ロームブロック・粒主体、炭化物少量。(人高)
10	10YR2/3 栗褐色	粘質シルト	ロームブロック・粒主体、炭化物少量。(人高)
11	10YR2/3 栗褐色	粘質シルト	ロームブロック・粒主体、炭化物少量。(人高)
12	10YR4/6 暗褐色	粘質シルト	ロームブロック主体、黒色土ブロック少量。(人高)
13	10YR2/3 栗褐色	シルト	ローム・黒色土・炭化物粒少量。(人高)
14	7.5YR2/2 黒褐色	粘質シルト	ローム粒多量。(人高)
15	10YR3/3 暗褐色	シルト	暗褐色土ブロック多量、ローム粒・炭化物粒、焼土片少量。(人高)
16	7.5YR2/2 黒褐色	粘質シルト	暗褐色土ブロック少量。(人高)
17	10YR2/3 栗褐色	粘質シルト	ローム粒多量。(人高)
18	10YR2/3 栗褐色	粘質シルト	ローム粒少量、炭化物粒少量。(人高)
19	10YR2/3 栗褐色	シルト	ロームブロック多量、炭化物粒少量。(人高)
20	10YR2/3 栗褐色	粘質シルト	ロームブロック多量。(人高)
21	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	ロームブロック主体。(人高)
22	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	ローム粒多量、ローム土ブロック少量。(人高)
23	10YR2/3 栗褐色	粘質シルト	ローム小ブロック少量。(人高)

第125図 SK95・108 フラスコ状土坑

化材(クリ)が出土している。

年代測定: AMS測定により、堆積土17層下部出土木炭で、 $4,530 \pm 30$ yrBPの放射性炭素年代が得られている。

暦年較正年代(1 σ)は5,303~5,068calBPの間に4つの範囲で示される。

機能時期: 堆積土出土遺物から、4-2期に位置付けられる可能性がある。

[SK95 フラスコ状土坑] (第125図、写真図版53)

位置: S・2・E-14

規模: 最大長1.86m、最大幅1.74m、面積約1.94㎡、容積約2.16㎡

形態: 平面形は不整形形で、断面形は深さ1.03mの鼓形を呈する。底面は不整形形を呈し、平坦である。

堆積土: 20層に細分される。ローム・焼土ブロック、黒色・黒褐色・暗褐色土ブロック、灰白土・明褐色土粒、炭化物・焼骨片を含む黒褐色・暗褐色シルトである。2・7~13・18・19・20層は人為的埋土、3~6・15層は崩落土と考えられる。

出土遺物: 堆積土などから少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器2.8kg、石器8点、礫石器3点である。このうち、縄文土器3点(第3分冊: 図版63、第4分冊: 写真図版72)、礫石器1点(図版398、写真図版419)を図示した。縄文土器は深鉢の破片(P0890: II群1類、P0889: III群2類)である。石器は不定形石器・剥片がある。礫石器は磨石類がある。その他、焼骨(哺乳綱)が出土している。

機能時期: 推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の重複関係ではSK108 フラスコ状土坑(3-2期)より新しく位置付けられる。以上より機能時期は3-2期以降と考えられる。

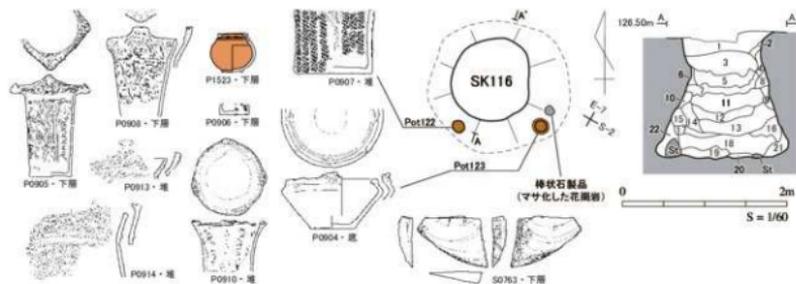
[SK108 フラスコ状土坑] (第125図、写真図版54)

位置: S・3・E-15

規模: 最大長2.40m、最大幅2.32m、面積約3.97㎡、容積2.97㎡程度

形態: 平面形は不整形形で、断面形は深さ1.47mの鼓形を呈する。底面は径約1.8mの略円形を呈し、平坦である。

堆積土: 23層に細分される。ロームブロック、黒色・暗褐色土ブロック、焼土粒、炭化物・焼骨片を含む黒褐色・



SK116 フラスコ状土坑 A-A

No.	土色	土質	含有物等(備考)	No.	土色	土質	含有物等(備考)
1	7.5YR2/1 黒色	シルト	ローム・炭化物粒。(人高)	12	7.5YR3/1 黒褐色	シルト	ローム粒、炭化物片、下部ロームブロック多量。(人高)
2	10YR2/2 黒褐色	シルト	暗褐色土小ブロック多量、炭化物片。(人高)	13	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物片多量、ローム粒。(人高)
3	10YR2/3 黒褐色	シルト	下部ロームブロック多量、ローム粒、炭化物片。(人高)	14	10YR2/1 黒色	シルト	ローム粒多量。(人高)
4	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック多量。(人高)	15	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒。(層)
5	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒、炭化物片、下部ロームブロック多量。(人高)	16	10YR2/2 黒褐色	シルト	ロームブロック多量、ローム粒、炭化物片。(人高)
6	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック多量、黒褐色土ブロック。(人高)	17	10YR3/2 黒褐色	シルト	ローム粒、炭化物片少量。(人高)
7	10YR3/2 黒褐色	シルト	ローム粒、炭化物片、下部褐色土多量。(人高)	18	10YR3/1 黒褐色	シルト	ローム粒、炭化物片。(人高)
8	7.5YR4/4 褐色	シルト	ロームブロック多量、黒褐色土。(層)	19	10YR3/1 黒褐色	シルト	ローム粒、黒褐色土、炭化物。(人高)
9	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック多量、黒色土。(層)	20	10YR2/1 黒色	シルト	ローム粒。(人高)
10	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック多量。(層)	21	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物片多量、ローム粒。(人高)
11	7.5YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物片多量、ローム粒、焼土粒少量。(人高)	22	10YR3/1 黒褐色	シルト	ロームブロック多量、ローム粒、炭化物。(層)

第126図 SK116 フラスコ状土坑

暗褐色・褐色シルト・粘質シルトである。1・4～7・10・13～23層は人為的埋土、9・11・12層は崩落土と考えられる。

出土遺物: 堆積土などから縄文土器深鉢の復元個体2点 (P0897・0898) などが出土している。遺物の数量は縄文土器4.5kg、石器1点、礫石器9点である。このうち、縄文土器7点 (第3分冊: 図版63、第4分冊: 写真図版73)、礫石器2点 (図版398、写真図版420) を図示した。縄文土器は深鉢で、Ⅲ群1類 (P0897)、Ⅲ群2類 (P0898) の復元個体各1点がある。石器は剥片がある。礫石器は石皿・敲石・磨石類がある。その他、炭化材 (クリ) が出土している。

年代測定: AMS測定により、底面付近出土木炭で4,540 ± 30yrBPの放射性炭素年代が得られている。暦年較正年代 (1σ) は5,309～5,073calBPの間に3つの範囲で示される。

機能時期: 堆積土出土遺物および放射性炭素年代から、3-2期に位置付けられる。

【SK116 フラスコ状土坑】 (第126図, 写真図版54)

位置: S-2・E-5

規模: 最大長1.72m、最大幅1.64m、面積約1.91㎡、容積約1.68㎡

形態: 平面形は略円形で、断面形は深さ1.58mの鼓形を呈する。底面は略円形を呈し、平坦で一部に地山礫が露出している。

堆積土: 22層に細分される。ロームブロック、黒色・黒褐色・暗褐色・褐色土ブロック、焼土・炭化物粒を含む黒色・黒褐色・暗褐色・褐色シルトである。1～7・11～14・16～21層は人為的埋土、8～10・15・22層は崩落土と考えられる。11・13・21層は炭化物粒を多量に含む。

出土遺物: 底面から縄文土器浅鉢1点 (P0904)、堆積土下層から深鉢2点 (P0905・0908)、小型台付壺1点 (P1523) の復元個体が出土している。このほか、堆積土などからも多くの遺物が出土している。

遺物の数量は縄文土器8.3kg、石器18点、礫石器6点である。このうち、縄文土器17点 (第3分冊: 図版64・65、第4分冊: 写真図版4・73・74)、石器1点 (図版315、写真図版306) を図示した。

縄文土器は深鉢・小型深鉢・浅鉢・小型台付壺があり、Ⅲ群1類で2点 (P0908・0910)、Ⅲ群2類で1点 (P0904)、Ⅳ群1類で1点 (P0905)、Ⅴ群1類で1点 (P1523) の完形・略完形・復元個体がある。底面および堆積土出土土器の主体はⅢ群1類の土器である。なお、Ⅳ群1類として分類した土器も出土状況からこれらとほぼ同時期のものである可能性がある。小型台付壺 (P1523) は頸部に鐮状の隆帯と小孔が巡り、内外面に赤彩の痕跡が見られる。石器は磨製石斧・不定形石器・剥片・石核がある。礫石器は石皿・磨石類がある。その他、炭化材 (クリ・ニレ属) が出土している。

年代測定: AMS測定により、底面出土木炭で4,520 ± 30yrBP、堆積土出土土器付着炭化物で4,360 ± 30yrBP (P0909: Ⅲ群1類) の放射性炭素年代が得られている。暦年較正年代 (1σ) は5,295～5,065calBP、4,960～4,869calBPの間にそれぞれ複数の範囲で示される。これらの年代は誤差の範囲でも重ならない。土器付着炭化物の年代は土器の型式編年から想定される年代よりも新しく、4期で示される放射性炭素年代および暦年較正年代範囲と近似していることから、何らかの理由で4期に由来する炭素が測定された可能性がある。

機能時期: 底面・堆積土出土遺物および放射性炭素年代から、3-1期に位置付けられる。

【SK122 フラスコ状土坑】 (第127図, 写真図版54・55)

位置: S-12・E-21

規模: 最大長1.76m、最大幅1.38m以上、面積約1.67㎡、容積約1.62㎡

形態: 平面形は不整形円形で、断面形は深さ0.92mの鼓形を呈する。底面は略円形を呈し、平坦である。

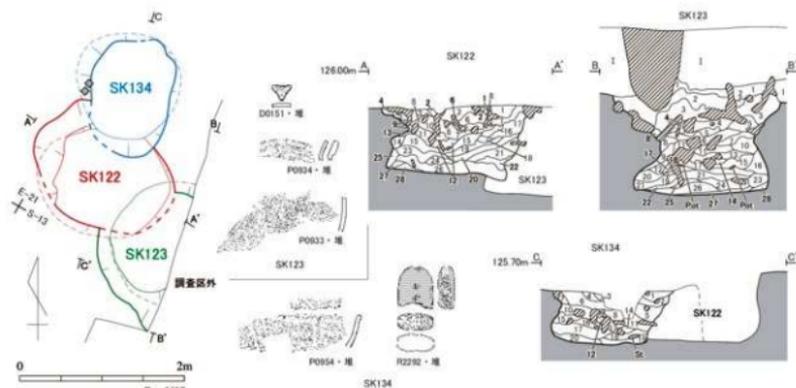
堆積土: 28層に細分される。ローム・暗褐色土ブロック、焼土・炭化物粒を含む黒色・黒褐色・暗褐色・褐色シルトである。1～3・6・7・10・12・18～26層は人為的埋土、9・13・14・27・28層は崩落土と考え

第3章 調査の成果

られる。18・19・26層は焼土・炭化物粒を多量に含む。

出土遺物：堆積土などから出土している。遺物の数量は縄文土器2.4kg、石器13点、礫石器7点である。図示した遺物はない。石器は楔形石器・二次加工ある剥片・剥片がある。礫石器は石皿・磨石類がある。

機能時期：推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の重複関係ではSK123 フラスコ状土坑（3期?）より新しく位置付けられる。以上より機能時期は3期以降である可能性がある。



SK122 フラスコ状土坑 A-A'			SK123 フラスコ状土坑 C-C'		
No.	土層	含有物等 (備考)	No.	土層	含有物等 (備考)
1	10YR3/4 暗褐色	ローム土, 炭化物粒少量, (人高)	11	10YR3/4 暗褐色	ロームブロック多量, 炭化物粒少量, (人高)
2	10YR3/4 暗褐色	シルト	12	10YR4/6 褐色	シルト
3	10YR2/2 黒紫色	シルト	13	10YR2/3 黒紫色	シルト
4	10YR3/3 黒紫色	シルト	14	10YR2/3 黒紫色	シルト
5	10YR2/3 黒紫色	シルト	15	10YR2/3 黒紫色	シルト
6	10YR3/4 暗褐色	シルト	16	10YR2/3 黒紫色	シルト
7	10YR3/4 暗褐色	シルト	17	10YR2/3 黒紫色	シルト
8	10YR2/3 黒紫色	シルト	18	10YR2/3 黒紫色	シルト
9	10YR3/4 暗褐色	シルト	19	10YR4/6 褐色	シルト
10	10YR2/1 黒色	シルト	20	10YR2/3 黒紫色	シルト
11	10YR2/3 黒紫色	シルト	21	10YR2/3 黒紫色	シルト
12	10YR3/4 暗褐色	シルト	22	10YR2/3 黒紫色	シルト
13	10YR4/4 褐色	シルト	23	10YR2/3 黒紫色	シルト
14	10YR3/4 暗褐色	シルト	24	10YR2/3 黒紫色	シルト
15	10YR3/4 暗褐色	シルト	25	10YR2/3 黒紫色	シルト
16	10YR2/3 黒紫色	シルト	26	10YR3/4 暗褐色	シルト
17	10YR2/3 黒紫色	シルト	27	10YR2/3 黒紫色	シルト
18	10YR3/4 暗褐色	シルト	28	10YR2/3 黒紫色	シルト
19	10YR2/3 黒紫色	シルト	29	10YR2/3 黒紫色	シルト
20	10YR2/3 黒紫色	シルト			
21	10YR3/4 暗褐色	シルト			
22	10YR3/4 暗褐色	シルト			
23	10YR2/3 黒紫色	シルト			
24	10YR3/4 暗褐色	シルト			
25	10YR3/3 黒紫色	シルト			
26	10YR3/4 暗褐色	シルト			
27	10YR4/6 褐色	シルト			
28	10YR3/4 暗褐色	シルト			
29	10YR2/3 黒紫色	シルト			
30	10YR2/3 黒紫色	シルト			
31	10YR3/4 暗褐色	シルト			
32	10YR2/3 黒紫色	シルト			
33	10YR2/3 黒紫色	シルト			
34	10YR2/3 黒紫色	シルト			
35	10YR2/3 黒紫色	シルト			
36	10YR2/3 黒紫色	シルト			
37	10YR2/3 黒紫色	シルト			
38	10YR2/3 黒紫色	シルト			
39	10YR3/3 黒紫色	シルト			
40	10YR2/3 黒紫色	シルト			
41	10YR2/3 黒紫色	シルト			
42	10YR2/3 黒紫色	シルト			
43	10YR2/3 黒紫色	シルト			
44	10YR2/3 黒紫色	シルト			
45	10YR2/3 黒紫色	シルト			
46	10YR2/3 黒紫色	シルト			
47	10YR2/3 黒紫色	シルト			
48	10YR2/3 黒紫色	シルト			
49	10YR3/3 黒紫色	シルト			
50	10YR2/3 黒紫色	シルト			

第127図 SK122・123・134 フラスコ状土坑

遺構と遺物の詳細

フラスコ状土坑

【SK123 フラスコ状土坑】 (第127図, 写真図版54・55)

位置: S-12・E-22

規模: 最大長2.11m以上, 最大幅0.95m以上, 面積0.88㎡以上, 容積約2.49㎡

形態: 平面形は略円形を呈するとみられる。断面形は調査区壁断面で深さ1.42mの三角フラスコ形を呈する。底面は略円形を呈するとみられ、平坦である。

堆積土: 28層に細分される。ローム・焼土ブロック、黒褐色・暗褐色土ブロック、焼土・炭化物粒・焼骨片を含む黒色・黒褐色・暗褐色・褐色シルト・砂質シルトである。4～11・13～18・21・22・25層は人為的埋土、12・19・20・26・28層は崩落土と考えられる。

出土遺物: 堆積土などから出土している。遺物の数量は縄文土器2.0kg、土製品1点、石器4点、礫石器4点である。このうち、縄文土器2点(第3分冊: 図版66, 第4分冊: 写真図版74)、土製品1点(図版281, 写真図版262)を図示した。縄文土器は深鉢の破片(P0933: II群2類・P0934: III群1類)である。土製品は土器片加工品(三角形: D0151)である。土器片を素材として側面に研磨を加える。石器は不定形石器・剥片がある。礫石器は台石・磨石類がある。

機能時期: 堆積土出土遺物から、3期に位置付けられる可能性がある。

【SK126 フラスコ状土坑】 (第128図, 写真図版56)

位置: S-1・E-15

規模: 最大長1.92m, 最大幅1.74m, 面積約2.12㎡, 容積2.61㎡程度

形態: 平面形は不整形で、断面形は深さ1.35mの三角フラスコ形を呈する。底面は略円形を呈し、平坦であるが北東部に大型の地山礫が露出している。

堆積土: 15層に細分される。ロームブロック、炭化物・焼土粒、焼骨片を含む黒色・黒褐色・暗褐色シルト・粘質シルトである。2・8・9・11～15層は人為的埋土、4・6・10層は崩落土と考えられる。

出土遺物: 堆積土などから出土している。遺物の数量は縄文土器4.1kg、石器16点、礫石器12点である。このうち、縄文土器6点(第3分冊: 図版66, 第4分冊: 写真図版75)、礫石器4点(図版398, 写真図版420)を図示した。縄文土器は深鉢・浅鉢があり、III群1類で1点の復元個体(P0936)がある。石器は不定形石器・微細剥離ある剥片・剥片がある。礫石器は敲石・磨石類がある。

年代測定: AMS測定により、堆積土16層出土木炭で4,480±30yrBPの放射性炭素年代が得られている。暦年較正年代(1σ)は5,277～5,047calBPの間に3つの範囲で示される。

機能時期: 堆積土出土遺物および放射性炭素年代から、3-2期に位置付けられる。

【SK133 フラスコ状土坑】 (第128図, 写真図版56・57)

位置: S-32・E-24

規模: 最大長1.77m, 最大幅1.50m, 面積1.67㎡以上, 容積0.99㎡程度

形態: 平面形は不整形で、断面形は調査区壁断面で深さ1.32mの三角フラスコ形を呈する。底面は略円形を呈し、平坦である。底面の中央部に柱穴1基、溝6条を伴う。

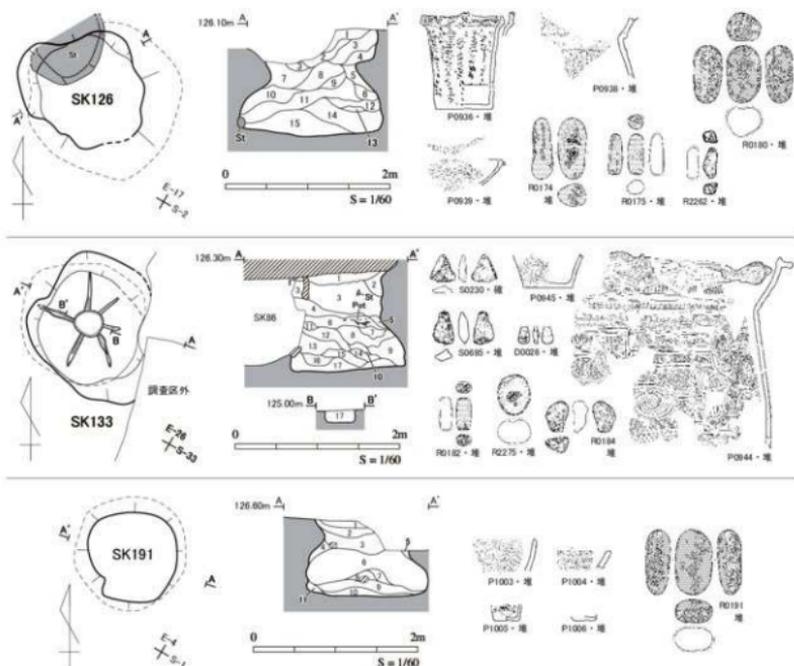
堆積土: 17層に細分される。ローム・暗褐色土ブロック、焼土粒、炭化物・焼骨片を含む黒褐色・暗褐色シルトである。4・6～17層は人為的埋土、5層は崩落土と考えられる。6層は多量の炭化物と縄文土器の大型破片(P0944)を含む。

出土遺物: 堆積土などから多くの遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器11.5kg、土製品1点、石器52点、礫石器16点である。このうち、縄文土器10点(第3分冊: 図版66・67, 第4分冊: 写真図版75・76)、土製品1点(図版281, 写真図版262)、石器2点(図版315, 写真図版306)、礫石器3点(図版399, 写真図版420)を図示した。縄文土器は深鉢の破片で、大型破片(P0944)を含むIV群1類の土器が主体である。土製品は土偶で、

第3章 調査の成果

小型品の下半身（D0026）である。石器は石鏃・楔形石器・不定形石器・二次加工ある剥片・微細網離ある剥片・剥片がある。礫石器は磨石類・敲石・石皿がある。その他、焼骨（哺乳類）が出土している。

機能時期：堆積土出土遺物から、4-2期に位置付けられる。



SK126 フラスコ状土坑 A-A'			
No.	土色	土性	含有物等 (備考)
1	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック多量。
2	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック多量。(人高)
3	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム土・小ブロック、炭化物・焼土和礫量。
4	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	ローム土ブロック少量。(層)
5	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム土主体、ロームブロック少量、炭化物和礫量。
6	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	ローム土主体、ロームブロック少量。(層)
7	10YR3/4 暗褐色	シルト	ローム土多量、ロームブロック少量、炭化物和礫量。
8	10YR2/3 黒褐色	粘質シルト	ローム土主体、炭化物和礫量。(人高)
9	10YR2/2 黒褐色	粘質シルト	ロームブロック多量、焼骨片少量。(人高)
10	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	ローム土ブロック多量。(層)
11	10YR1/7 黄色	粘質シルト	ローム土ブロック、炭化物和礫量。(人高)
12	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	ローム土多量、ローム土ブロック少量。(人高)
13	10YR2/2 黒褐色	粘質シルト	ローム土主体、ローム土ブロック少量、炭化物和礫量。(人高)
14	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	ローム土主体、ローム土ブロック多量、炭化物和礫量。(人高)
15	10YR2/2 黒褐色	粘質シルト	ローム土主体、ローム土ブロック少量。(人高)
SK133 フラスコ状土坑 A-A'			
No.	土色	土性	含有物等 (備考)
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・炭化物和礫少量。
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・炭化物、焼骨片少量。
3	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・炭化物、ローム土ブロック多量、焼骨片少量、焼土和礫少量。
4	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム土ブロック多量、炭化物和礫量。
5	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム土多量。(層)
6	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム土ブロック少量。(層)
7	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム土・小ブロック、炭化物和礫少量。(人高)
8	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム土多量。(人高)
9	10YR3/2 黒褐色	シルト	ローム土多量、炭化物和礫少量。(人高)
10	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム土多量。(人高)
11	10YR4/4 褐色	シルト	ローム土多量。(人高)
SK191 フラスコ状土坑 A-A'			
No.	土色	土性	含有物等 (備考)
1	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム。(人高)
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム土・小ブロック。(人高)
3	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム土・炭化物、ローム土ブロック。(人高)
4	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム土多量。(層)
5	10YR4/4 褐色	シルト	ローム土ブロック少量。(層)
6	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム土・小ブロック、炭化物和礫少量。(人高)
7	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム土・焼土和礫少量。(人高)
8	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム土多量。(人高)
9	10YR3/2 黒褐色	シルト	ローム土多量、炭化物和礫少量。(人高)
10	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム土多量。(人高)
11	10YR4/4 褐色	シルト	ローム土多量。(人高)

第128図 SK126・133・191 フラスコ状土坑

【SK134 フラスコ状土坑】(第127図, 写真図版54・55)

位置: S-11・E-21

規模: 最大長 1.47m、最大幅 1.26m、面積約 0.97㎡

形態: 平面形は楕円形で、断面形は深さ 0.69m のピーカー形を呈する。底面は略円形を呈し、平坦である。

堆積土: 20層に細分される。ロームブロック、黒色・黒褐色・暗褐色土ブロック、焼土・炭化物粒を含む黒褐色・暗褐色シルトである。7層は崩落土、これ以外はすべて人為的埋土と考えられる。

出土遺物: 堆積土などから出土している。遺物の数量は縄文土器 1.5kg、石器 4点、礫石器 10点である。このうち、縄文土器 1点(第3分冊: 図版67, 第4分冊: 写真図版77)、礫石器 1点(図版399, 写真図版421)を図示した。縄文土器は深鉢の破片(P0954: Ⅲ群1類)である。石器は微細剥離ある剥片・剥片がある。礫石器は磨石類がある。

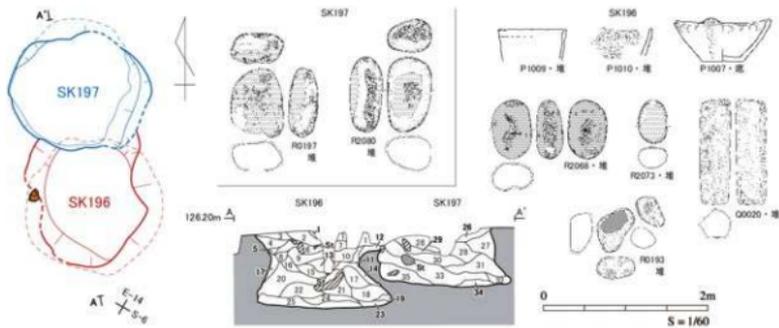
機能時期: 堆積土出土遺物から、3期に位置付けられる可能性がある。

【SK191 フラスコ状土坑】(第128図, 写真図版57)

位置: N-O-S・E-3

規模: 最大長 1.40m、最大幅 1.36m、面積約 1.37㎡、容積 0.30m³程度

形態: 平面形は略円形で、断面形は深さ 1.02m の三角フラスコ形を呈する。底面は略円形を呈し、平坦である。



SK196・SK197 フラスコ状土坑 A-A'

No.	土色	土性	含有物等(備考)	No.	土色	土性	含有物等(備考)
1	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒, 炭化物粒少量。(SK196-1層, 人高)	21	10YR4/6 褐色	シルト	ロームブロック多量, 褐色土ブロック少量。(SK196-21層, 人高)
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム主塊, 褐色土ブロック, 炭化物粒。(SK196-2層, 人高)	22	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム粒, ロームブロック, 黒褐色土ブロック少量, 黒色土粒少量。(SK196-22層, 人高)
3	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒, 炭化物粒極少量。(SK196-3層)	23	10YR4/3 に近い 黄褐色	シルト	ロームブロック多量, 暗褐色土ブロック少量, 炭化物粒少量。(SK196-23層, 人高)
4	暗褐色	シルト	9層に広がる。(SK196-4層)	24	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム・炭化物粒, 褐色土。(SK196-24層, 人高)
5	黒褐色	シルト	10層に広がる。(SK196-5層)	25	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色土多量, 褐色土, ローム・炭化物粒少量。(SK196-25層, 人高)
6	10YR2/2 黒褐色	シルト	褐色土少量, ローム, 炭化物粒極少量。(SK196-6層, 人高)	26	10YR3/4 暗褐色	シルト	ローム粒・炭化物粒, ロームブロック少量。(SK197-1層, 人高)
7	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム土ブロック, 褐色土, 軽石粒少量。(SK196-6層, 人高)	27	10YR3/4 黄褐色	シルト	ローム粒, 褐色土ブロック, 炭化物粒, 黒褐色土ブロック少量。(SK197-2層, 人高)
8	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム土ブロック少量, 褐色土土ブロック少量, 炭化物粒少量。(SK196-9層, 人高)	28	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム・炭化物粒少量。(SK197-3層)
9	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム, 褐色土ブロック少量, 炭化物粒少量。(SK196-9層, 人高)	29	10YR3/4 暗褐色	シルト	ローム粒, 褐色土少量, 炭化物粒少量。(SK197-4層, 人高)
10	7.5YR2/2 黄褐色	シルト	ローム・炭化物粒極少量。(SK196-10層, 人高)	30	10YR4/4 褐色	シルト	ロームブロック主塊, 暗褐色土ブロック。(SK197-5層, 人高)
11	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム・炭化物粒少量, ロームブロック少量。(SK196-11層, 人高)	31	10YR4/3 に近い 黄褐色	シルト	ローム粒多量, 褐色土, 暗褐色土ブロック, 炭化物粒極少量。(SK197-6層, 人高)
12	10YR2/2 黒褐色	シルト	暗褐色土ブロック少量, ローム粒少量。(SK196-12層)	32	10YR3/4 暗褐色	シルト	ローム粒, 炭化物粒少量。(SK197-7層, 人高)
13	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム・炭化物粒極少量。(SK196-13層, 人高)	33	10YR2/3 黒褐色	シルト	暗褐色土ブロック多量, ロームブロック・粒, 炭化物粒少量。(SK197-8層, 人高)
14	10YR3/4 暗褐色	シルト	ローム土ブロック, 炭化物粒少量。(SK196-14層, 層)	34	10YR3/3 暗褐色	シルト	ロームブロック多量, 暗褐色土ブロック少量。(SK197-9層, 人高)
15	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム土・ローム土ブロック, 炭化物粒少量。(SK196-15層, 人高)	35	10YR4/4 褐色	シルト	ロームブロック多量, 炭化物粒, 暗褐色土ブロック極少量。(SK197-10層, 層)
16	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム土, 炭化物粒少量。(SK196-16層, 人高)				
17	10YR4/6 褐色	シルト	ローム主塊, 暗褐色土土ブロック少量。(SK196-17層, 層)				
18	10YR5/6 黄褐色	シルト	ローム主塊, 暗褐色土少量。(SK196-18層, 層)				
19	10YR5/6 黄褐色	シルト	暗褐色土・褐色土粒極少量。(SK196-19層, 層)				
20	10YR4/3 に近い 黄褐色	シルト	ロームブロック主塊, 炭化物粒, 暗褐色土ブロック少量, 長褐色土粒少量。(SK196-20層, 人高)				

第129図 SK196・197 フラスコ状土坑

堆積土：11層に細分される。ロームブロック、焼土・炭化物粒を含む黒褐色・暗褐色・褐色シルトである。4・5層は崩落土、それ以外はすべて人為的埋土と考えられる。

出土遺物：堆積土などから出土している。遺物の数量は縄文土器 1.8kg、石器 1点、礫石器 3点である。このうち、縄文土器 4点（第3分冊：図版 68、第4分冊：写真図版 77）、礫石器 1点（図版 399、写真図版 421）を図示した。縄文土器は深鉢（P1003：Ⅱ群 1類）、小型深鉢（P1005）の破片である。石器は剥片がある。礫石器は磨石類がある。

機能時期：堆積土出土遺物から、2・2期に位置付けられる可能性がある。

【SK196 フラスコ状土坑】（第129図、写真図版 57・58）

位置：S・5・E・12

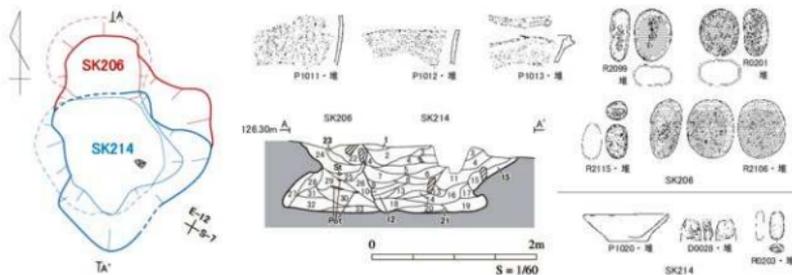
規模：最大長 1.68m、最大幅 1.66m、面積約 1.76㎡、容積 0.39m³程度

形態：平面形は不整形円形を呈するとみられる。断面形は深さ 0.94m の三角フラスコ形を呈する。底面は略円形を呈し、平坦である。

堆積土：23層に細分される。ロームブロック、黒色・黒褐色・暗褐色・褐色土ブロック、軽石粒、炭化物粒を含む黒褐色・暗褐色・褐色・にぶい黄褐色・黄褐色シルトである。1・2・4～8・11・13・14・18～23層は人為的埋土、12・15～17層は崩落土と考えられる。

出土遺物：底面から縄文土器浅鉢の復元個体 1点（P1007）が出土している。このほか、堆積土などから少量の遺物が出土している。

遺物の数量は縄文土器 0.7kg、石器 4点、礫石器 15点、石製品 1点である。このうち、縄文土器 3点（第3分冊：図版 68、第4分冊：写真図版 77）、礫石器 3点（図版 399、写真図版 421）、石製品 1点（図版 452、写真図版 463）を図示した。



SK206・SK214 フラスコ状土坑 A-A

No.	土層	土質	含有物等 (備考)	No.	土層	土質	含有物等 (備考)
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒、(SK214 1層)	18	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒、炭化物粒多量、(SK214 18層、人高)
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒多量、炭化物粒、焼土粒、(SK214 2層)	19	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム粒、炭化物粒、ローム大ブロック少量、(SK214 19層、人高)
3	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒	20	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物粒多量、ローム粒少量、(SK214 20層、人高)
4	10YR2/3 黒褐色	シルト	黄褐色土小砂ブロック、ローム粒少量、炭化物粒、焼土粒少量、(SK214 4層)	21	10YR4/6 褐色	シルト	ロームブロック多量、炭化物粒、(SK214 21層、人高)
5	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム粒多量、(SK214 5層)	22	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒、(SK206 1層、人高)
6	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒、焼土粒極少量、(SK214 6層、人高)	23	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒、焼土粒少量、(SK206 2層、人高)
7	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒、(SK214 7層、人高)	24	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒、ロームブロック、焼土粒少量、炭化物粒少量、(SK206 3層、人高)
8	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム・焼土粒、炭化物粒、(SK214 8層、人高)	25	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒多量、ロームブロック少量、炭化物粒、(SK206 4層、人高)
9	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒多量、ローム中ブロック、(SK214 9層、人高)	26	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒、炭化物粒多量、(SK206 5層、人高)
10	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物粒多量、ローム粒、(SK214 10層、人高)	27	10YR2/2 黒褐色	シルト	ロームブロック多量、(SK206 6層、人高)
11	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒多量、炭化物粒少量、(SK214 11層、人高)	28	10YR2/2 黒褐色	シルト	ロームブロック、炭化物粒少量、(SK206 7層、人高)
12	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒、(SK214 12層、人高)	29	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒、炭化物粒少量、(SK206 8層、人高)
13	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物粒多量、ローム粒、(SK214 13層、人高)	30	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・焼土粒、炭化物粒少量、(SK206 9層、人高)
14	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒、炭化物粒極少量、(SK214 14層、人高)	31	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・焼土粒少量、炭化物粒少量、(SK206 10層、人高)
15	10YR3/4 暗褐色	シルト	ローム粒、炭化物粒、焼土粒少量、(SK214 15層、人高)	32	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・小ブロック少量、焼土粒極少量、(SK206 11層、人高)
16	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム粒、炭化物粒少量、(SK214 16層、人高)	33	10YR2/2 黒褐色	シルト	ロームブロック、炭化物粒、(SK206 12層、人高)
17	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム大ブロック多量、炭化物粒極少量、(SK214 17層、人高)				

第 130 図 SK206・214 フラスコ状土坑

縄文土器は深鉢・浅鉢があり、浅鉢はⅢ群2類の復元個体1点(P1007)がある。石器は両面加工石器・剥片がある。礫石器は石皿・敲石・磨石類がある。石製品は棒状石製品(Q0020)である。溶結凝灰岩の柱状節理による棒状亜角礫を素材とし、上下両端に剥離痕が見られる。その他、炭化材(クワ)が出土している。また、縄文土器深鉢(P1009)で堅果類の圧痕を確認した。

機能時期：底面出土遺物から3-1期に位置付けられる。

【SK197 フラスコ状土坑】(第129図、写真図版58)

位置：S-3・E-12

規模：最大長1.65m、最大幅1.50m、面積約1.67㎡、容積約1.15㎡

形態：平面形は不整楕円形で、断面形は深さ0.73mの鼓形を呈する。底面は略円形を呈し、平坦である。

堆積土：10層に細分される。ロームブロック、黒褐色・暗褐色・褐色土ブロック、炭化物粒を含む黒褐色・暗褐色・褐色・にぶい黄褐色シルトである。1・2・4～9層は人為的埋土、10層は崩落土と考えられる。

出土遺物：堆積土などから出土している。遺物の数量は縄文土器2.7kg、礫石器7点である。このうち、礫石器2点(第3分冊：図版400、第4分冊：写真図版421)を図示した。礫石器は磨石類がある。その他、焼骨(哺乳類)が出土している。

機能時期：推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の重複関係ではSK196 フラスコ状土坑(3-1期)より新しく位置付けられる。以上より機能時期は3-1期以降と考えられる。

【SK206 フラスコ状土坑】(第130図、写真図版59)

位置：S-6・E-10

規模：最大長1.98m以上、最大幅1.04m以上、面積0.88㎡程度

形態：平面形は略円形で、断面形は深さ0.88mの三角フラスコ形を呈する。底面は略円形を呈し、平坦である。

堆積土：12層に細分される。ロームブロック、焼土・炭化物粒を含む黒褐色シルトである。1～5・8・9・11・12層は人為的埋土、6・7層は崩落土と考えられる。5層は炭化物片を多量に含む。

出土遺物：堆積土などから出土している。遺物の数量は縄文土器5.4kg、石器10点、礫石器18点である。このうち、縄文土器7点(第3分冊：図版68、第4分冊：写真図版77)、礫石器5点(図版400、写真図版422)を図示した。縄文土器は深鉢の破片(P1013・1016；Ⅳ群1類など)である。石器は二次加工ある剥片・剥片がある。礫石器は石皿・敲石・磨石類がある。その他、焼骨(イノシシ・ニホンジカ・哺乳類)が出土している。

機能時期：堆積土出土遺物から、4期に位置付けられる可能性がある。

【SK214 フラスコ状土坑】(第130図、写真図版59)

位置：S-6・E-10

規模：最大長1.84m、最大幅1.76m以上、面積約1.99㎡、容積約1.36㎡

形態：平面形は不整形で、断面形は深さ0.89mのスタンプ形を呈する。底面は略円形を呈し、平坦である。

堆積土：21層に細分される。ロームブロック、焼土粒、炭化物片を含む黒褐色・暗褐色・褐色シルトである。6～16・18～21層は人為的埋土、17層は崩落土と考えられる。10・13・20層は炭化物片を多量に含む。

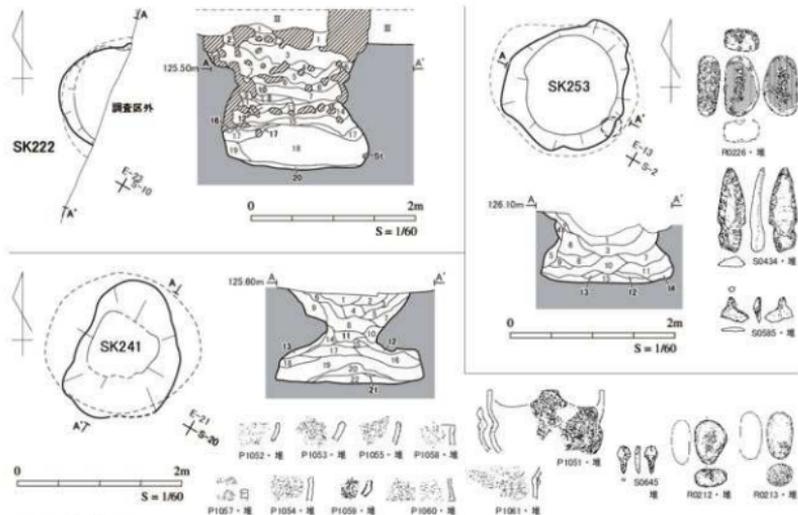
出土遺物：堆積土などから出土している。遺物の数量は縄文土器1.5kg、土製品3点、石器8点、礫石器5点、石製品2点である。このうち、縄文土器1点(第3分冊：図版69、第4分冊：写真図版78)、土製品2点(図版281、写真図版262)、礫石器1点(図版400、写真図版422)、石製品2点(図版452、写真図版463)を図示した。

縄文土器は浅鉢があり、Ⅴ群2類の復元個体1点(P1020)がある。土製品は土偶で、中型品の胴下部(D0028)、脚部の一部(D0027)がある。中型品の胴下部(D0028)は下腹部に左右一対の膨らみを持ち、脚部に横位集合沈線、側腹部に渦巻状沈線文を施す。石器は不定形石器・剥片がある。礫石器は敲石・磨石類がある。石製品は棒状石製品(Q0012+Q0067)である。デイサイトの柱状節理による棒状亜角礫を素

第3章 調査の成果

材とし、上端部に剝離痕が見られる。上部 1/3 ほどで折損した後、折損面に複数回の剝離を加えている。その他、焼骨（哺乳類）が出土している。

機能時期：推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の重複関係ではSK274 フラスコ状土坑（4-2期）より新しく位置付けられる。以上より機能時期は4-2期以降と考えられる。



SK222 フラスコ状土坑 A-A				SK253 フラスコ状土坑 A-A			
No.	土色	土質	含有物等(備考)	No.	土色	土質	含有物等(備考)
1	10YR2/3 黒褐色	砂質シルト	ローム・黒色土粒稀少量。	8	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム小ブロック、炭化物、焼骨片稀少量。(人高)
2	10YR2/3 黒褐色	黒褐色土小ブロック		9	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック・粒、焼土・炭化物粒稀少量。
3	10YR3/4 暗褐色	シルト	下部コアブロック多量、ロームブロック、ローム粒、炭化物粒少量。(人高)	10	10YR4/4 褐色	シルト	ロームブロック土体、暗褐色土。(人高)
4	10YR3/4 暗褐色	シルト	ローム・黒褐色土ブロック、ローム粒、黒色砂質土少量。(人高)	11	10YR2/2 黒褐色	シルト	ロームブロック・粒、炭化物粒稀少量。(人高)
5	7.5YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒、ローム・黒褐色土ブロック、炭化物。(人高)	12	7.5YR2/2 黒褐色	シルト	ロームブロック多量、炭化物粒稀少量。(人高)
6	10YR2/3 黒褐色	シルト	暗褐色土多量、炭化物粒、ローム粒少量。(人高)	13	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	ローム結多量、炭化物粒稀少量。(人高)
7	10YR2/3 黒褐色	シルト	暗褐色土、暗褐色土、ローム土粒少量。(人高)	14	10YR3/1 黒褐色	シルト	ローム粒少量、炭化物粒、焼骨片稀少量。(人高)
8	10YR2/3 暗褐色	シルト	ロームブロック・粒、炭化物粒少量。(人高)	15	7.5YR2/1 黒褐色	シルト	炭化物粒、ローム土粒稀少量。(人高)
9	7.5YR3/3 黒褐色	シルト	ロームブロック・粒、暗褐色土。(人高)	16	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物粒、ロームブロック和少量、炭化物粒稀少量。(人高)
10	10YR2/3 暗褐色	シルト	ロームブロック・粒土体、黒褐色土少量。(人高)	17	7.5YR3/2 黒褐色	シルト	ロームブロック多量、炭化物粒稀少量。(人高)
11	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック多量、ローム土粒少量。(人高)	18	7.5YR2/2 黒褐色	シルト	粒、ローム粒少量、炭化物粒稀少量。(人高)
12	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック、黒褐色土。(人高)	19	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	ローム土多量、暗褐色土。(人高)
13	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック多量、ローム粒少量。(人高)	21	10YR2/3 暗褐色	シルト	ロームブロック多量。(人高)
14	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒、砂質ロームブロック少量、炭化物粒稀少量。(人高)	22	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム小ブロック、炭化物粒少量。
SK241 フラスコ状土坑 A-A				SK253 フラスコ状土坑 A-A			
No.	土色	土質	含有物等(備考)	No.	土色	土質	含有物等(備考)
1	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック・粒、炭化物粒、焼土粒少量、焼骨片、黒色土ブロック稀少量。(人高)	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒多量、焼土粒、焼骨片少量。
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・焼土・炭化物粒少量、焼骨片稀少量。	2	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒少量、暗褐色土小ブロック。(人高)
3	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒、焼土粒稀少量。	3	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・炭化物・焼土粒、焼土ブロック稀少量。(人高)
4	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒、炭化物粒少量、焼土粒、焼骨片稀少量。(人高)	4	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒多量、焼土粒少量、炭化物粒少量。(人高)
5	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒、炭化物粒少量。	5	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・小ブロック、暗褐色土小ブロック、炭化物粒少量。(人高)
6	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒、焼骨片稀少量。	6	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・炭化物・焼土粒少量、焼骨片稀少量。(人高)
7	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒、焼土粒少量、ローム小ブロック、焼骨片稀少量。	7	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・炭化物・焼土粒少量、炭化物粒少量。(人高)
8	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒、焼土粒少量。	8	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・炭化物・焼土粒少量、炭化物粒少量。(人高)
9	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒、焼土粒少量。	9	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・炭化物・焼土粒少量、炭化物粒少量。(人高)
10	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒、焼土粒少量。	10	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・炭化物・焼土粒少量、炭化物粒少量。(人高)
11	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒、焼土粒少量。	11	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・炭化物・焼土粒少量、炭化物粒少量。(人高)
12	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒、焼土粒少量。	12	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・炭化物・焼土粒少量、炭化物粒少量。(人高)
13	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒、焼土粒少量。	13	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・炭化物・焼土粒少量、炭化物粒少量。(人高)
14	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒、焼土粒少量。	14	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・炭化物・焼土粒少量、炭化物粒少量。(人高)
15	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒、焼土粒少量。	15	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・炭化物・焼土粒少量、炭化物粒少量。(人高)

第131図 SK222・241・253 フラスコ状土坑

【SK222 フラスコ状土坑】 (第131図、写真図版60)

位置：S-9・E-22

規模：最大長1.56m以上、最大幅0.80m以上、面積0.60㎡以上、容積2.73㎡以上

形態：平面形は略円形を呈するとみられる。断面形は調査区壁断面で深さ1.78mの三角フラスコ形を呈する。底面は略円形を呈するとみられ、平坦である。

堆積土：20層に細分される。ローム・砂質ロームブロック、黒色・黒褐色・暗褐色・褐色土ブロック、炭化物片を含む黒褐色・暗褐色・褐色・にぶい黄褐色シルト・砂質シルトである。3～15・18・20層は人為的埋土、16・17・19層は崩落土と考えられる。

出土遺物：堆積土などからごく少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器0.2kg、石器1点、礫石器2点である。図示した遺物はない。石器は剥片がある。礫石器は磨石類がある。

機能時期：推定の根拠に乏しく不詳である。

【SK241 フラスコ状土坑】 (第131図、写真図版60)

位置：S-19・E-19

規模：最大長1.86m、最大幅1.72m、面積約2.19㎡、容積約1.71㎡

形態：平面形は不整形円形で、断面形は深さ1.23mのスタンプ形を呈する。底面は略円形を呈し、平坦である。

堆積土：22層に細分される。ロームブロック、黒色・暗褐色土ブロック、軽石、焼土・炭化物粒、焼骨片を含む黒色・黒褐色・暗褐色・褐色シルトである。1・4・8・11・14～21層は人為的埋土、10・12・13層は崩落土と考えられる。

出土遺物：堆積土などから出土している。遺物の数量は縄文土器33kg、石器14点、礫石器6点である。このうち、縄文土器11点(第3分冊：図版69、第4分冊：写真図版78)、石器1点(図版315、写真図版306)、礫石器2点(図版401、写真図版422)を図示した。縄文土器は深鉢があり、大型破片(P1051)を含むⅡ群2類の土器が主体である。石器は石鏃・石錐・石筥・剥片がある。礫石器は敲石・磨石類がある。その他、焼骨(哺乳綱)が出土している。

機能時期：堆積土出土遺物から、2-2期に位置付けられる。

【SK242 フラスコ状土坑】 (第132図、写真図版61)

位置：S-10・E-18

規模：最大長1.86m、最大幅1.68m、面積約2.12㎡、容積1.38㎡程度

形態：平面形は楕円形で、断面形は深さ0.98mの鼓形を呈する。底面は略円形を呈し、平坦である。

堆積土：27層に細分される。ロームブロック、焼土・炭化物粒、焼骨片を含む黒色・黒褐色・暗褐色・褐色シルトである。8・9・11～15・17・18層は人為的埋土、21・23・24・26層は崩落土と考えられる。

出土遺物：堆積土などから出土している。遺物の数量は縄文土器2.1kg、石器6点、礫石器17点、石製品1点である。このうち、縄文土器1点(第3分冊：図版69、第4分冊：写真図版78)、石器1点(図版315、写真図版306)、石製品1点(図版452、写真図版463)を図示した。縄文土器は深鉢の破片(P1062：Ⅰ群2類)である。石器は石鏃・微細剥離ある剥片・剥片がある。S0119は山形県月山産黒曜石製の石鏃である。礫石器は敲石・磨石類がある。石製品は円盤状石製品(Q0061)がある。

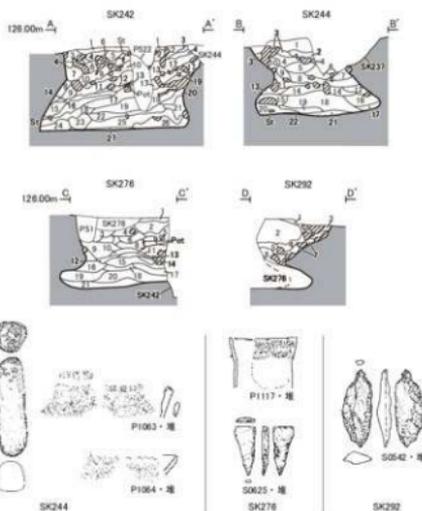
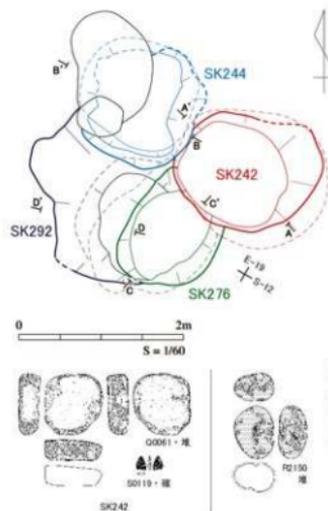
機能時期：推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の重複関係ではSK276 フラスコ状土坑(2-2期?)より新しく、SK244 フラスコ状土坑(2-2期)より古く位置付けられる。以上より機能時期は2-2期である可能性がある。

【SK244 フラスコ状土坑】 (第132図、写真図版61・62)

位置：S-10・E-16

規模：最大長1.40m、最大幅1.28m、面積約1.30㎡、容積1.21㎡程度

第3章 調査の成果



SK242 フラスコ状土坑 A-A'

No.	土色	土層	含有物等(備考)	No.	土色	土層	含有物等(備考)
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・炭化物・焼土粒稀少量。	14	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒・炭化物粒・ローム小ブロック・焼付片稀少量。(人高)
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒稀少量。	15	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム小・焼土小ブロック。炭化物粒少量。(人高)
3	10YR2/3 黒褐色	シルト	炭化物粒。焼付片稀少量。	16	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物粒。ローム小ブロック少量。焼付片稀少量。
4	10YR2/3 黒褐色	シルト	焼付片稀少量。	17	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム小ブロック。炭化物粒。焼土小ブロック少量。
5	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒少量。焼土粒稀少量。	18	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒。焼付片。焼土粒稀少量。(人高)
6	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒少量。	19	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム小ブロック。炭化物粒。(人高)
7	10YR2/2 黒褐色	シルト	ロームブロック・粒少量。炭化物・焼土粒稀少量。	20	10YR4/6 褐色	シルト	ロームブロック。焼付片稀少量。(層)
8	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム小ブロック。炭化物粒。(人高)	21	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒少量。(人高)
9	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック。(人高)	22	10YR2/4 暗褐色	シルト	ローム・炭化物粒稀少量。(人高)
10	10YR2/2 黒褐色	シルト	ロームブロック。炭化物粒少量。	SK242 フラスコ状土坑 C-C'			
11	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒。焼付片少量。(人高)				

SK244 フラスコ状土坑 B-B'

No.	土色	土層	含有物等(備考)	No.	土色	土層	含有物等(備考)
12	10YR2/2 黒褐色	シルト	ロームブロック・粒。炭化物粒。焼付片稀少量。(人高)	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒・小ブロック。焼土・炭化物粒稀少量。(人高)
13	10YR4/4 褐色	シルト	ロームブロック多量。(人高)	2	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム小ブロック多量。焼土・炭化物粒少量。(人高)
14	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒・炭化物粒。ロームブロック。(人高)	3	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒少量。焼土粒稀少量。
15	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック。炭化物粒。焼付片稀少量。(人高)	4	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒。(人高)
16	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック・粒少量。炭化物粒稀少量。	5	10YR2/1 黒色	シルト	ローム粒少量。炭化物粒稀少量。(人高)
17	10YR2/3 暗褐色	シルト	ロームブロック・粒多量。炭化物粒稀少量。(人高)	6	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒・小ブロック。炭化物粒稀少量。
18	10YR2/2 黒褐色	シルト	ロームブロック・粒。炭化物粒稀少量。(人高)	7	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒。
19	10YR2/2 黒褐色	シルト	ロームブロック・粒。焼付片稀少量。	8	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒・小ブロック多量。炭化物粒少量。(人高)
20	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒少量。焼付片稀少量。	9	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒・小ブロック少量。
21	10YR4/6 褐色	シルト	ロームブロック多量。炭化物粒少量。(層)	10	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・炭化物・焼土粒。焼付片稀少量。(人高)
22	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒・ロームブロック。焼付片稀少量。	11	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム小ブロック多量。(人高)
23	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック。(層)	12	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒。(人高)
24	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック。(層)	13	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒少量。(人高)
25	10YR2/2 黒褐色	シルト	焼付片稀少量。	14	10YR2/1 黒色	シルト	ローム・炭化物・焼土粒。焼付片稀少量。(人高)
26	10YR4/6 褐色	シルト	ロームブロック多量。焼付片稀少量。(層)	15	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒少量。炭化物粒稀少量。
27	黒褐色	シルト	ローム粒少量。ローム小ブロック稀少量。	16	10YR2/3 黒褐色	シルト	炭化物粒稀少量。(人高)

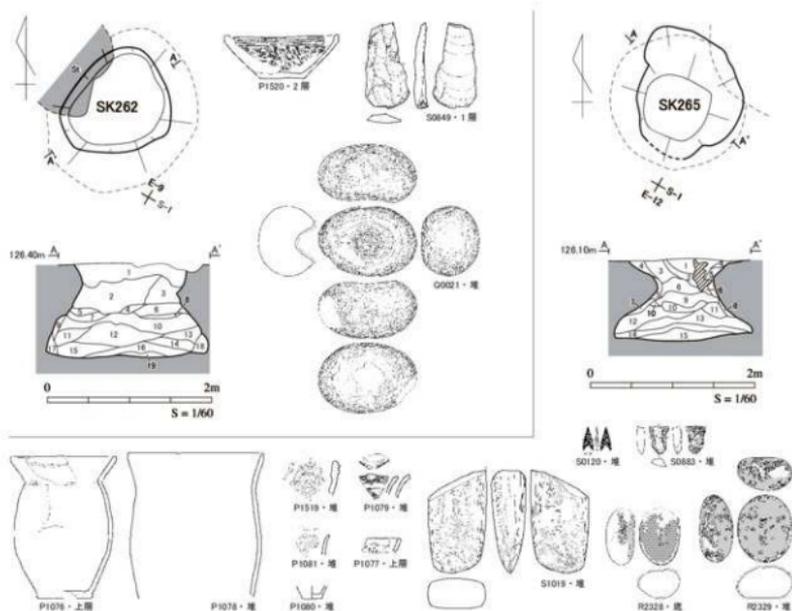
SK244 フラスコ状土坑 B-B'

No.	土色	土層	含有物等(備考)	No.	土色	土層	含有物等(備考)
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒少量。焼土・炭化物粒。焼付片稀少量。	17	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム小ブロック多量。(人高)
2	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒。炭化物粒。焼付片稀少量。(人高)	18	10YR2/3 黒褐色	シルト	焼土粒稀少量。(人高)
3	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒稀少量。	19	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム小ブロック少量。(人高)
4	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒少量。炭化物粒。焼付片稀少量。	20	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック多量。(人高)
5	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒。焼土粒稀少量。	21	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック多量。(人高)
6	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒。炭化物粒稀少量。	SK292 フラスコ状土坑 D-D'			
7	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒。(人高)				
8	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物粒少量。ローム粒・小ブロック。焼付片稀少量。(人高)				
9	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒少量。炭化物粒稀少量。				
10	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒。焼付片稀少量。(層)				
11	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック・粒少量。焼土・炭化物粒。焼付片稀少量。(人高)				
12	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物粒多量。ローム小ブロック。(人高)				
13	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒少量。焼土・炭化物粒。焼付片稀少量。(人高)				

第132図 SK242・244・276・292 フラスコ状土坑

形態：平面形は略円形を呈するとみられる。断面形は深さ0.92mの三角ラスコ形を呈する。底面は略円形を呈し、平坦である。

堆積土：22層に細分される。ローム・焼土ブロック、焼土・炭化物粒、焼骨片を含む黒褐色・暗褐色・褐色シルトである。2・7・8・11～15・18・19・21・22層は人為的埋土、10・20層は崩落土と考えられる。8・12層は炭化物粒を多量に含む。



SK262 フラスコ状土坑 AA'			
No.	土色	土性	含有物等(備考)
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物粒、ローム粒少量、焼土粒極少量。
2	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒・大ブロック、炭化物粒少量、焼土粒、焼骨片少量。(人高)
3	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒多量、ローム小ブロック、炭化物粒、焼土粒少量。(人高)
4	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒、ローム大ブロック、炭化物粒少量、焼土粒極少量。(人高)
5	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム、炭化物粒少量、ローム小ブロック、焼土粒極少量。(人高)
6	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒、炭化物粒少量、焼土粒、焼骨片極少量。(人高)
7	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒・大ブロック多量、炭化物粒少量、焼土粒極少量。(人高)
8	10YR3/4 暗褐色	シルト	ローム大ブロック主体、ローム粒多量、黒褐色土、炭化物粒少量。(人高)
9	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒多量、ロームブロック、炭化物粒少量。(人高)
10	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム、炭化物粒、ロームブロック多量、焼土粒極少量。(人高)
11	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒、ロームブロック、炭化物粒少量、焼土粒、焼骨片極少量。(人高)
12	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム、炭化物粒少量、ローム大ブロック極少量。(人高)
13	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム、炭化物粒少量、ローム大ブロック少量。(人高)
14	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒多量、ローム小ブロック、炭化物粒・焼土粒少量。(人高)
15	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒多量、ロームブロック、炭化物粒少量。(人高)
16	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒・小ブロック・大ブロック多量、炭化物粒少量、焼土粒極少量。(人高)
17	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒、炭化物粒少量。(人高)

SK265 フラスコ状土坑 AA'			
No.	土色	土性	含有物等(備考)
18	10YR3/4 暗褐色	シルト	ローム粒・大ブロック多量、炭化物粒極少量。(人高)
19	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム粒・小ブロック、炭化物粒少量。(人高)

SK265 フラスコ状土坑 AA'			
No.	土色	土性	含有物等(備考)
1	10YR3/2 黒褐色	シルト	ローム粒、炭化物・焼土粒少量、ローム小ブロック、焼土粒極少量。(人高)
2	黒褐色	シルト	ローム粒多量、炭化物粒、焼骨片少量、ローム・ローム粒・ローム大ブロック。(人高)
3	黒褐色	シルト	ローム粒、暗褐色土ブロック少量、炭化物・焼土粒、焼骨片極少量。(人高)
4	暗褐色	シルト	ローム粒、炭化物粒極少量、焼土粒極少量。
5	暗褐色	シルト	ローム、黒褐色土ブロック多量、ローム粒少量、炭化物・焼土粒少量。(人高)
6	黒褐色	シルト	ローム粒、炭化物粒、黒色土ブロック少量、ローム小ブロック、焼骨片少量、焼土粒少量。(人高)
7	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム小ブロック多量、黒褐色土ブロック。(人高)
8	10YR3/2 黒褐色	シルト	ローム大ブロック、暗褐色土ブロック多量、炭化物粒極少量。(人高)
9	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物粒、ローム・小ブロック少量、焼土粒、焼骨片極少量。(人高)
10	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	ローム小ブロック多量、黒褐色土ブロック、炭化物粒少量、焼土粒少量。(人高)
11	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム小ブロック・ブロック、炭化物粒。(人高)
12	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒、ロームブロック、焼骨片少量。(人高)
13	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム大ブロック・粒、炭化物粒、焼骨片極少量。(人高)
14	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム大ブロック主体、炭化物粒少量。(人高)
15	10YR3/2 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒、ローム小ブロック、焼骨片極少量。(人高)

第133図 SK262・265 フラスコ状土坑

出土遺物: 堆積土などから少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器 0.5kg、礫石器 7点である。このうち、縄文土器 2点 (第3分冊: 図版 69、第4分冊: 写真図版 78)、礫石器 2点 (図版 401、写真図版 422) を図示した。縄文土器は深鉢の破片 (P1063: II群 I類) である。礫石器は石皿・磨石類がある。その他、焼骨 (哺乳類) が出土している。

機能時期: 堆積土出土遺物から、2-2期に位置付けられる。

【SK253 フラスコ状土坑】 (第131図, 写真図版 62・63)

位置: S-1・E-11

規模: 最大長 1.96m、最大幅 1.68m、面積約 2.16㎡、容積 1.46㎡程度

形態: 平面形は不整形で、断面形は深さ 0.88m の三角フラスコ形を呈する。底面は不整形を呈し、平坦である。

底面の北東部に柱穴 1基を伴う。

堆積土: 15層に細分される。ローム・暗褐色土・焼土ブロック、焼土・炭化物粒、焼骨片を含む黒褐色シルトである。3・5～11層は人為的埋土、4層は崩落土と考えられる。

出土遺物: 堆積土などから出土している。遺物の数量は縄文土器 4.3kg、石器 28点、礫石器 7点である。このうち、縄文土器 3点 (第3分冊: 図版 69、第4分冊: 写真図版 78)、石器 2点 (図版 315、写真図版 306)、礫石器 2点 (図版 401、写真図版 423) を図示した。縄文土器は深鉢の破片 (P1066・1067: I群 I類) である。石器は尖頭器・石匙・楔形石器・二次加工ある剥片・微細剥離ある剥片・剥片・石核がある。礫石器は石皿・敲石・磨石類がある。その他、焼骨 (イノシシ・ニホンジカ・哺乳類) が出土している。

機能時期: 推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の重複関係では SX361 遺物包含層 (2-2期) より新しく位置付けられる。以上より機能時期は 2-2期以降と考えられる。

【SK262 フラスコ状土坑】 (第133図, 写真図版 63)

位置: N-O-S・E-8

規模: 最大長 2.10m、最大幅 1.70m、面積約 2.28㎡、容積約 2.24㎡

形態: 平面形は不整形で、断面形は深さ 1.88m の三角フラスコ形を呈する。底面は不整形を呈し、平坦であるが北東部に大型の地山礫が露出している。

堆積土: 19層に細分される。ロームブロック、焼土・炭化物粒、焼骨片を含む黒褐色・暗褐色シルトである。2～8・10～16・19層は人為的埋土、9・17・18層は崩落土と考えられる。10層は炭化物粒を多量に含む。

出土遺物: 堆積土などから出土している。遺物の数量は縄文土器 4.2kg、石器 13点、礫石器 4点、石製品 1点である。このうち、縄文土器 3点 (第3分冊: 図版 70、第4分冊: 写真図版 78)、石器 1点 (図版 316、写真図版 306)、石製品 1点 (図版 453、写真図版 464) を図示した。縄文土器は深鉢・浅鉢があり、III群 I類の復元個体 1点 (P1520) がある。石器は石鎌・不定形石器・二次加工ある剥片・剥片がある。礫石器は石皿・磨石類がある。石製品は乳鉢状石製品 (R0021) で、凝灰岩の楕円礫の正面中央部に断面 U 字型の凹部を作出する。

機能時期: 堆積土出土遺物から、3-2期に位置付けられる。

【SK265 フラスコ状土坑】 (第133図, 写真図版 64)

位置: N-1・E-11

規模: 最大長 1.70m、最大幅 1.62m、面積約 1.82㎡、容積約 1.05㎡

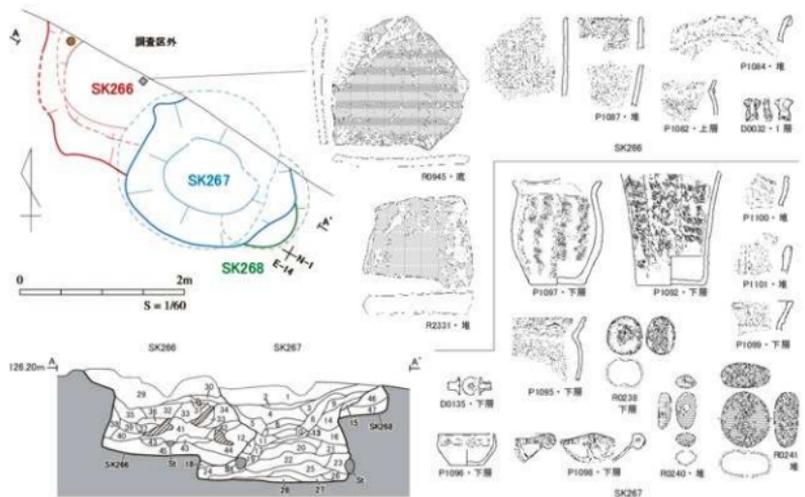
形態: 平面形は不整形で、断面形は深さ 0.99m の三角フラスコ形を呈する。底面は略円形を呈し、平坦である。

堆積土: 15層に細分される。ロームブロック、黒色・黒褐色・暗褐色土ブロック、焼土粒、炭化物・焼骨片を含む黒褐色・暗褐色・にぶい黄褐色シルト、極暗褐色土である。2・3・6・9～15層は人為的埋土、5・7・8層が崩落土と考えられる。

出土遺物: 堆積土などから出土している。遺物の数量は縄文土器 6.5kg、石器 18点、礫石器 11点である。こ

のうち、縄文土器7点(第3分冊:図版70、第4分冊:写真図版79)、石器3点(図版316、写真図版306・307)、礫石器2点(図版402、写真図版423)を図示した。

縄文土器は深鉢で、V群2類の復元個体1点(P1078)、II群2類の破片2点(P1079・1519)がある。また堆積土上層の遺物にIII群1類の復元個体1点(P1076)がある。石器は石薙・磨製石斧・二次加工する剥片・剥片・石核がある。S1019は緑色岩(アオトラ石)製の定角式磨製石斧で、基部を欠損する。図示していないが、宮城県東洋産黒曜石製の剥片(S0366)がある。礫石器は礫石・磨石類がある。その他、焼成粘土塊1点(写



SK266・SK267・SK268 フラスコ状土器 大古		SK266		SK267		SK268	
No.	土色	土器	含有物等(備考)	No.	土色	土器	含有物等(備考)
1	10YR2/3 栗褐色	シルト	ローム粘多量。ローム小ブロック。炭化物粒。焼土粒少量。(SK267-1層)	21	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム粘・小ブロック多量。炭化物粒少量。(SK267-21層、面)
2	10YR2/1 黒色	シルト	焼土粒、ローム・炭化物粒。暗褐色土ブロック少量。焼土ブロック稀少。(SK267-2層、人込)	22	10YR2/2 栗褐色	シルト	炭化物粒多量。ローム・焼土粒少量。(SK267-22層、人込)
3	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム粘・大ブロック多量。炭化物粒少量。焼土粒稀少。(SK267-3層、人込)	23	10YR2/2 栗褐色	シルト	ローム・炭化物粒少量。焼土粒少量。(SK267-23層、人込)
4	10YR3/2 栗褐色	シルト	ローム粘多量。炭化物粒。ローム小ブロック。焼土粒少量。焼土粒稀少。(SK267-4層、人込)	24	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム粘。ローム小ブロック少量。炭化物粒稀少。(SK267-24層、人込)
5	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム大ブロック多量。ローム粘。炭化物粒少量。焼土粒稀少。(SK267-5層、人込)	25	10YR2/2 栗褐色	シルト	炭化物粒。ローム粘・暗褐色土ブロック少量。(SK267-25層、人込)
6	10YR2/3 栗褐色	シルト	ローム・炭化物粒。暗褐色土ブロック。(SK267-6層、人込)	26	10YR2/2 栗褐色	シルト	ローム・炭化物粒。炭化物少量。(SK267-26層、人込)
7	10YR2/2 栗褐色	シルト	炭化物粒多量。ローム粘。暗褐色土ブロック少量。(SK267-7層、人込)	27	10YR2/3 栗褐色	シルト	ローム粘・小ブロック多量。炭化物粒稀少。(SK267-27層)
8	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム粘。炭化物粒。暗褐色土ブロック少量。(SK267-8層、人込)	28	10YR2/2 栗褐色	シルト	ローム粘・小ブロック。炭化物粒少量。(SK267-28層)
9	暗褐色			29	10YR2/3 栗褐色	シルト	ローム粘・小ブロック。炭化物粒少量。(SK266-1層)
10	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム粘少量。(SK267-9層、人込)	30	10YR2/3 栗褐色	シルト	ロームブロック多量。(SK266-2層、人込)
11	10YR2/2 栗褐色	シルト	ローム粘多量。ローム小ブロック少量。炭化物粒。(SK267-10層、人込)	31	10YR2/2 栗褐色	シルト	ローム・暗褐色土ブロック。炭化物粒。栗褐色土少量。(SK266-3層、人込)
12	10YR2/2 栗褐色	シルト	ローム粘・小ブロック。暗褐色土ブロック。炭化物粒少量。(SK267-11層、人込)	32	10YR2/2 栗褐色	シルト	ローム粘多量。ロームブロック少量。焼土粒少量。(SK266-4層、人込)
13	10YR2/3 栗褐色	シルト	ローム粘・小ブロック。炭化物粒。(SK267-12層、人込)	33	10YR2/3 栗褐色	シルト	ローム粘多量。ローム・焼土粒少量。炭化物粒少量。(SK266-5層、人込)
14	10YR3/2 暗褐色	シルト	ローム粘・小ブロック。暗褐色土ブロック。炭化物粒少量。(SK267-13層、人込)	34	10YR2/2 栗褐色	シルト	ローム・炭化物粒。ロームブロック。焼土粒少量。(SK266-6層)
15	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム粘少量。(SK267-14層)	35	10YR2/2 栗褐色	シルト	ロームブロック。炭化物粒少量。(SK266-7層、人込)
16	10YR6/4 濃い黄褐色	シルト	暗褐色土・黒褐色土ブロック。(SK267-15層、面)	36	10YR2/2 栗褐色	シルト	ロームブロック多量。焼土粒少量。(SK266-8層、人込)
17	10YR2/3 栗褐色	シルト	炭化物粒多量。ローム粘。暗褐色土ブロック少量。(SK267-17層、人込)	37	10YR2/3 栗褐色	シルト	ロームブロック。炭化物粒少量。(SK266-9層)
18	2.5YR4/6 オリーブ褐色	シルト	ロームブロック状。(SK267-18層、面)	38	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック多量。(SK266-10層、面)
19	10YR2/2 栗褐色	シルト	炭化物粒。ローム粘・小ブロック。炭化物粒少量。(SK267-19層、人込)	39	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック多量。(SK266-11層、面)
20	10YR2/2 栗褐色	シルト	ローム・炭化物粒。焼土粒少量。ローム小ブロック稀少。(SK267-20層、人込)	40	10YR4/4 暗褐色	シルト	暗褐色土ブロック稀少。(SK266-12層、面)
				41	10YR2/2 栗褐色	シルト	ロームブロック。炭化物粒少量。(SK266-13層)
				42	10YR3/2 暗褐色	シルト	ロームブロック多量。炭化物粒少量。(SK266-14層、面)
				43	10YR3/3 暗褐色	シルト	ロームブロック多量。炭化物粒少量。(SK266-15層)
				44	10YR4/6 暗褐色	シルト	ロームブロック多量。炭化物粒・小ブロック少量。(SK266-16層、面)
				45	10YR2/2 栗褐色	シルト	ロームブロック。炭化物粒少量。(SK266-17層、人込)
				46	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム粘・ローム小ブロック。焼土粒少量。(SK268-1層)
				47	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム粘・ローム小ブロック少量。炭化物粒・焼土粒稀少。(SK268-2層、人込)

第134図 SK266・267・268 フラスコ状土坑

第3章 調査の成果

真図版 284) が出土している。

機能時期：堆積土出土遺物から、2-2 期に位置付けられる可能性がある。

【SK266 フラスコ状土坑】 (第 134 図, 写真図版 64)

位置：N-2・E-11

規模：最大長 1.80m 以上、最大幅 1.32m 以上、面積 1.44m²以上

形態：平面形は不整形を呈するとみられる。断面形は深さ 1.08m の鼓形を呈する。底面は略円形を呈するとみられ、平坦である。

堆積土：17 層に細分される。ロームブロック、黒褐色・暗褐色土ブロック、炭化物・焼骨片を含む黒褐色・暗褐色・褐色シルトである。2・3・5・7・8・17 層は人為的埋土、10～12・14・16 層は崩落土と考えられる。なお、本遺構の一部を壊して構築された SK267 フラスコ状土坑との重複部分では、SK267 フラスコ状土坑廃絶後の埋没過程もしくは埋没後に本遺構堆積土の一部が沈み込み変形した状況が確認できる。

出土遺物：堆積土などから出土している。遺物の数量は縄文土器 3.7kg、土製品 1 点、石器 13 点、礫石器 6 点である。このうち、縄文土器 6 点 (第 3 分冊：図版 71、第 4 分冊：写真図版 79)、土製品 1 点 (図版 281、写真図版 263)、礫石器 2 点 (図版 402・403、写真図版 423・424) を図示した。縄文土器は深鉢の破片 (P1084：Ⅱ群 1 類、P1087：Ⅱ群 2 類) がある。土製品は土偶である。小型品の胴部 (D0032) で、胴部に C 字状・L 字状沈線文、側腹部に渦巻状沈線文、脚部に横集合沈線文を施文する。石器は不定形石器・剥片がある。礫石器は石皿・磨石類がある。

機能時期：堆積土出土遺物から、2-2 期に位置付けられる。

【SK267 フラスコ状土坑】 (第 134 図, 写真図版 64)

位置：N-2・E-12

規模：最大長 2.08m、最大幅 1.98m、面積約 2.48m²、容積約 2.05m³

形態：平面形は不整形で、断面形は深さ 1.28m の鼓形を呈する。底面は略円形を呈し、平坦である。SK266 フラスコ状土坑の一部を壊して構築されており、本遺構廃絶後の埋没過程もしくは埋没後に北西側壁面内傾部にかかる SK266 フラスコ状土坑の堆積土が沈み込み変形した状況が確認できる。

堆積土：28 層に細分される。ロームブロック、黒褐色・暗褐色土ブロック、焼土・炭化物粒を含む黒色・黒褐色・暗褐色・オリーブ褐色・にぶい黄褐色シルトである。2～13・17・19・20・22～26 層は人為的埋土、16・18・21 層は崩落土と考えられる。7・13・17・22 層は炭化物粒を多量に含む。

出土遺物：堆積土などから出土している。

遺物の数量は縄文土器 7.3kg、土製品 1 点、石器 16 点、礫石器 22 点、石製品 1 点である。このうち、縄文土器 14 点 (第 3 分冊：図版 71・72、第 4 分冊：写真図版 80)、土製品 1 点 (図版 281、写真図版 263)、石器 1 点 (図版 316、写真図版 307)、礫石器 3 点 (図版 403、写真図版 424)、石製品 1 点 (図版 453、写真図版 464) を図示した。

縄文土器は深鉢・小型深鉢・浅鉢・小型浅鉢がある。復元個体を含むⅢ群 1 類 (小型深鉢：P1097)・2 類 (小型浅鉢：P1096) の土器が主体である。土製品は耳飾である。石器は石錐・磨製石斧・二次加工ある剥片・剥片・石核がある。礫石器は石皿・敲石・磨石類がある。石製品は棒状石製品である。その他、縄文土器深鉢 (P1098) で堅果類の圧痕を確認した。

機能時期：堆積土出土遺物から、3-1 期に位置付けられる。

【SK268 フラスコ状土坑】 (第 134 図, 写真図版 64・65)

位置：N-2・E-13

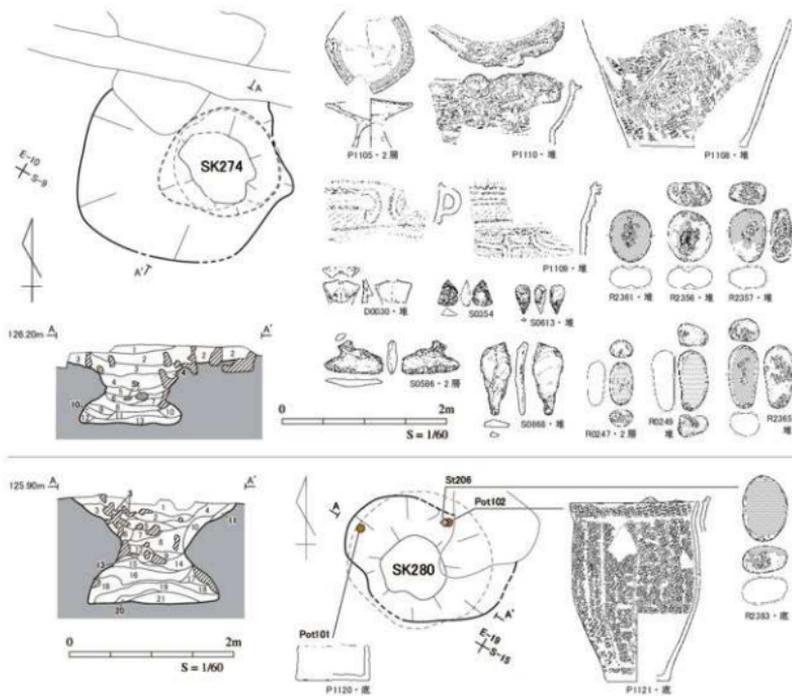
規模：最大長 1.20m 以上、最大幅 0.88m 以上、面積 0.63m²以上

形態：平面形は略円形を呈するとみられる。深さ 0.38m である。底面は略円形を呈するとみられ、平坦である。

堆積土：2層に細分される。ロームブロック、炭化物・焼土粒を含む暗褐色シルトである。2層が人為的埋土と考えられる。

出土遺物：堆積土などからごく少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器0.2kgで、このうち深鉢の破片1点（P1103：Ⅱ群2類、第3分冊：図版72、第4分冊：写真図版81）を図示した。

機能時期：堆積土出土遺物から、2-2期に位置付けられる可能性がある。



SK274 フラスコ状土坑 AA'

No.	土色	土質	含有物等 (備考)
1	10YR2/2 黒褐色	粘質シルト	オリーブ褐色火山砂アロック。
2	10YR3/1 黒褐色	粘質シルト	オリーブ褐色火山砂アロック多量。炭化物片、小礫。
3	10YR2/3 黒褐色	粘質シルト	焼土ブロック、焼土粒、ローム・炭化物粒、小礫少量。
4	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム・炭化物粒、小礫多量。焼付片。
5	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム粒。炭化物片。(人高)
6	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒。炭化物片多量。(人高)
7	10YR3/4 暗褐色	シルト	ローム粒多量。
8	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	ロームブロック・粒多量。(人高)
9	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	ロームブロック。(人高)
10	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	ローム粒。焼土。
11	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	ローム粒。炭化物片。(人高)
12	10YR4/4 暗褐色	粘質シルト	ロームブロック多量。(層)
13	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	ロームブロック・粒。

SK280 フラスコ状土坑 AA'

No.	土色	土質	含有物等 (備考)
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒少量。炭化物・焼土粒少量。
2	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・炭化物・焼土粒少量。
3	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック。炭化物粒少量。

No.	土色	土質	含有物等 (備考)
4	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒・小アロック。炭化物粒少量。
5	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒少量。
6	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック多量。(層)
7	10YR2/2 黒褐色	シルト	ロームブロック・粒少量。炭化物・焼土粒少量。
8	10YR2/3 黒褐色	シルト	暗褐色土ブロック多量。ローム粒。炭化物粒少量。
9	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒。暗褐色土ブロック。
10	暗褐色	シルト	ロームブロック多量。黒褐色土・暗褐色土ブロック。(層)
11	黒褐色	ローム	炭化物粒少量。
12	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒少量。
13	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム粒少量。炭化物粒多量。
14	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム粒少量。暗褐色土ブロック。
15	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒少量。
16	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム小ブロック少量。
17	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム小ブロック少量。炭化物粒少量。(層)
18	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒少量。(人高)
19	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム粒多量。
20	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒少量。(人高)
21	10YR3/4 暗褐色	シルト	ローム粒多量。(人高)

第135図 SK274・280 フラスコ状土坑

【SK274 フラスコ状土坑】 (第135図, 写真図版65)

位置: S-7・E-11

規模: 最大長 2.61m, 最大幅 2.24m 以上, 面積約 4.30㎡, 容積 1.29㎡以上

形態: 平面形は不整形円形で, 断面形は深さ 0.99m のスタンプ形を呈する。底面は径約 1.3m の略円形を呈し, 平坦である。

堆積土: 13層に細分される。ローム・オリブ褐色火山砂・焼土ブロック、小礫、炭化物・焼骨片を含む黒褐色・暗褐色・褐色シルト・砂質シルト・粘質シルトである。5・6・8・9・11層は人為的埋土、10・12層は崩落土と考えられる。2層にオリブ褐色火山砂ブロック、4層に小礫、6層に炭化物片を多量に含む。

出土遺物: 堆積土などから多くの遺物が出土している。

遺物の数量は縄文土器 9.2kg、土製品 2点、石器 47点、礫石器 25点である。このうち、縄文土器 11点 (第3分冊: 図版 73・74, 第4分冊: 写真図版 81・82)、土製品 1点 (図版 281, 写真図版 263)、石器 4点 (図版 316・317, 写真図版 307)、礫石器 6点 (図版 404, 写真図版 424・425) を図示した。

縄文土器は深鉢・浅鉢・台付浅鉢があり、大型破片 (P1108・1109・1110) を含むⅣ群Ⅰ類の土器が主体である。土製品は土偶がある。大型品の胴上部 (D0030) で、乳房がW字状に突出し、沈線による正中線、剣先状・菱形状沈線文が見られる。胴部に菱形状・剣先状沈線文を施文する。石器は石鏃・石錐・石匙・楔形石器・磨製石斧・不定形石器・二次加工ある剥片・微細剥離ある剥片・剥片・石核がある。図示していないがアオトラ石の可能性のある緑色岩製の磨製石斧 (S1035) がある。礫石器は石皿・敲石・磨石類がある。その他、焼骨 (ニホンジカ・哺乳類)・炭化材 (クリ) が出土している。

機能時期: 堆積土出土遺物から、4-2期に位置付けられる。

【SK276 フラスコ状土坑】 (第132図, 写真図版 61・62)

位置: S-12・E-17

規模: 最大長 1.84m, 最大幅 1.32m, 面積約 1.52㎡

形態: 平面形は楕円形で, 断面形は深さ 0.88m のスタンプ形を呈する。底面は不整形円形を呈し, 平坦である。

堆積土: 21層に細分される。ロームブロック、焼土・炭化物粒、焼骨片を含む黒色・黒褐色・暗褐色シルトである。

1・2・4～6・8・10～21層は人為的埋土と考えられる。

出土遺物: 堆積土などから出土している。遺物の数量は縄文土器 1.9kg, 石器 9点、礫石器 6点である。このうち、縄文土器 4点 (第3分冊: 図版 74, 第4分冊: 写真図版 82)、石器 1点 (図版 317, 写真図版 307)、礫石器 2点 (図版 404, 写真図版 425) を図示した。縄文土器は深鉢の破片 (P1117・1119: Ⅱ群Ⅰ類) がある。石器は石錐・二次加工ある剥片・剥片がある。礫石器は石皿・磨石類がある。

機能時期: 堆積土出土遺物から、2-2期に位置付けられる可能性がある。

【SK280 フラスコ状土坑】 (第135図, 写真図版 65・66)

位置: S-14・E-17

規模: 最大長 2.08m 以上, 最大幅 1.67m, 面積約 1.85㎡, 容積約 1.73㎡

形態: 平面形は楕円形で, 断面形は深さ 1.29m の三角フラスコ形を呈する。底面は略円形を呈し, 平坦である。

堆積土: 21層に細分される。ロームブロック、黒褐色・暗褐色土ブロック、焼土・炭化物粒を含む黒褐色・暗褐色シルトである。6・10・17層は崩落土、18～21層は人為的埋土と考えられる。

出土遺物: 底面から縄文土器深鉢の大型破片 1点 (P1121) と底部 (P1120) が出土している。このほか、堆積土などからも少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器 5.4kg, 石器 3点、礫石器 9点である。このうち、縄文土器 4点 (第3分冊: 図版 75, 第4分冊: 写真図版 83)、礫石器 2点 (図版 405, 写真図版 425) を図示した。縄文土器は深鉢の大型破片 (P1121: Ⅱ群Ⅰ類)、底部 (P1120) である。石器は剥片がある。礫石器

は石皿・蔽石・磨石類がある。その他、炭化種実（オニグルミ・トチノキ）が出土している。

機能時期：底面出土遺物から2-2期に位置付けられる可能性がある。

【SK282 フラスコ状土坑】（第136図、写真図版66）

位置：S-20・E-22

規模：最大長1.32m、最大幅1.28m、面積約1.27㎡、容積0.77㎡程度

形態：平面形は楕円形で、断面形は深さ0.70mの三角フラスコ形を呈する。底面は略円形を呈し、平坦である。

堆積土：11層に細分される。ローム・黒褐色土・焼土ブロック、炭化物片を含む黒褐色・暗褐色・褐色シルトである。7・8・10・11層は人為的埋土、5・6・9層は崩落土と考えられる。

出土遺物：底面（P1124）、堆積土（P1125）で縄文土器深鉢の復元個体各1点が出土している。このほか、堆積土などからも少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器5.1kg、石器14点、礫石器4点である。このうち、縄文土器2点（第3分冊：図版76、第4分冊：写真図版84）を図示した。縄文土器は深鉢があり、Ⅲ群1類の復元個体1点（P1125）がある。石器は打製石斧・二次加工ある剥片・微細剥離ある剥片・剥片がある。礫石器は磨石類がある。その他、炭化種実（オニグルミ・クリ・トチノキ）が出土している。

機能時期：堆積土出土遺物から、3-1期に位置付けられる。

【SK284 フラスコ状土坑】（第136図、写真図版66・67）

位置：S-12・E-20

規模：最大長1.24m、最大幅1.19m、面積約1.06㎡、容積0.44㎡程度

形態：平面形は略円形で、断面形は深さ0.84mの三角フラスコ形を呈する。底面は略円形を呈し、平坦である。

堆積土：16層に細分される。ロームブロック、焼土・炭化物粒を含む黒褐色・暗褐色・褐色シルトである。2～16層は人為的埋土と考えられる。

出土遺物：堆積土などから少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器0.2kg、石器2点、礫石器2点である。図示した遺物はない。石器は二次加工ある剥片・剥片がある。礫石器は石皿がある。

機能時期：推定の根拠に乏しく不詳である。

【SK292 フラスコ状土坑】（第132図、写真図版61・62）

位置：S-12・E-17

規模：最大長2.12m以上、最大幅1.85m以上、面積1.33㎡以上

形態：平面形は不整形を呈するとみられる。断面形は深さ0.82mのスタンプ形を呈する。底面は略円形を呈するとみられ、平坦である。

堆積土：8層に細分される。ロームブロック、焼土・炭化物粒を含む黒褐色・暗褐色シルトである。3・7層が崩落土、6・8層が人為的埋土と考えられる。

出土遺物：堆積土などから少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器0.5kg、石器4点、礫石器4点である。このうち、石器1点（第3分冊：図版317、第4分冊：写真図版307）を図示した。石器は石匙・剥片がある。礫石器は石皿・磨石類がある。

機能時期：推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の重複関係ではSK244 フラスコ状土坑（2-2期）より古く位置付けられる。以上より機能時期は2-2期以前と考えられる。

【SK315 フラスコ状土坑】（第136図、写真図版67）

位置：S-16・E-18

規模：長軸2.42m、短軸2.36m、面積約3.83㎡、容積2.72㎡程度

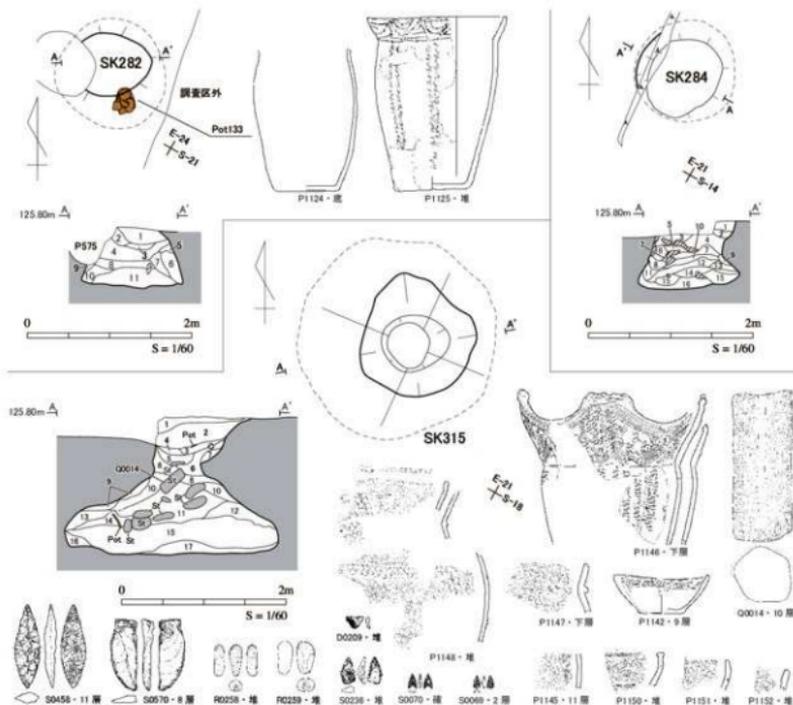
形態：平面形は略円形で、断面形は深さ1.69mの三角フラスコ形を呈する。底面は略円形を呈し、平坦である。

堆積土：17層に細分される。ローム・焼土ブロック、黒色土・暗褐色土ブロック、炭化物粒、焼骨片を含む黒色・

第3章 調査の成果

黒褐色・褐色シルトである。3～8・10～15層は人為の埋土、9・16・17層は崩落土と考えられる。堆積土中層の10・11・14層を中心に礫石器・礫を多量に含む。8層は焼土ブロックを多量に含む。

出土遺物：堆積土中・下層から縄文土器深鉢（P1146）、浅鉢（P1142）の復元個体各1点が出土している。こ



SK282 フラスコ状土坑 A-A'			含有物等 (備考)		
No.	土色	土質	No.	土色	土質
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	12	10YR4/4 褐色	シルト
2	10YR2/2 黒褐色	シルト	13	10YR2/3 黒褐色	シルト
3	10YR2/2 黒褐色	シルト	14	10YR2/3 黒褐色	シルト
4	10YR2/2 黒褐色	シルト	15	10YR3/4 暗褐色	シルト
5	10YR2/3 黒褐色	シルト	16	10YR4/4 褐色	シルト
6	10YR4/4 褐色	シルト	17	10YR2/2 黒褐色	シルト
7	10YR2/3 黒褐色	シルト	18	10YR2/2 黒褐色	シルト
8	10YR2/2 黒褐色	シルト	19	10YR2/3 黒褐色	シルト
9	10YR4/6 褐色	シルト	20	10YR2/2 黒褐色	シルト
10	10YR2/3 黒褐色	シルト	21	10YR2/2 黒褐色	シルト
11	10YR3/4 暗褐色	シルト	22	10YR2/2 黒褐色	シルト

SK284 フラスコ状土坑 A-A'			含有物等 (備考)		
No.	土色	土質	No.	土色	土質
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	1	10YR2/2 黒褐色	シルト
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	2	10YR2/2 黒褐色	シルト
3	10YR3/4 暗褐色	シルト	3	10YR2/3 黒褐色	シルト
4	10YR4/4 褐色	シルト	4	10YR2/2 黒褐色	シルト
5	10YR4/4 褐色	シルト	5	10YR2/2 黒褐色	シルト
6	10YR4/4 褐色	シルト	6	10YR2/3 黒褐色	シルト
7	10YR2/3 黒褐色	シルト	7	10YR2/3 黒褐色	シルト
8	10YR2/3 黒褐色	シルト	8	10YR2/3 黒褐色	シルト
9	10YR4/6 褐色	シルト	9	10YR2/2 黒褐色	シルト
10	10YR2/3 黒褐色	シルト	10	10YR2/2 黒褐色	シルト
11	10YR3/4 暗褐色	シルト	11	10YR2/2 黒褐色	シルト
			12	10YR2/2 黒褐色	シルト
			13	10YR2/3 黒褐色	シルト
			14	10YR2/1 黒褐色	シルト
			15	10YR2/3 黒褐色	シルト
			16	10YR4/6 褐色	シルト

SK315 フラスコ状土坑 A-A'			含有物等 (備考)		
No.	土色	土質	No.	土色	土質
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	1	10YR2/2 黒褐色	シルト
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	2	10YR2/2 黒褐色	シルト
3	10YR2/3 黒褐色	シルト	3	10YR2/3 黒褐色	シルト
4	10YR2/2 黒褐色	シルト	4	10YR2/2 黒褐色	シルト
5	10YR2/3 黒褐色	シルト	5	10YR2/3 黒褐色	シルト
6	10YR2/3 黒褐色	シルト	6	10YR2/3 黒褐色	シルト
7	10YR2/3 黒褐色	シルト	7	10YR2/3 黒褐色	シルト
8	10YR2/3 黒褐色	シルト	8	10YR2/3 黒褐色	シルト
9	10YR2/3 黒褐色	シルト	9	10YR2/2 黒褐色	シルト
10	10YR2/2 黒褐色	シルト	10	10YR2/2 黒褐色	シルト
11	10YR2/2 黒褐色	シルト	11	10YR2/2 黒褐色	シルト
12	10YR2/2 黒褐色	シルト	12	10YR2/2 黒褐色	シルト
13	10YR2/3 黒褐色	シルト	13	10YR2/3 黒褐色	シルト
14	10YR2/1 黒褐色	シルト	14	10YR2/1 黒褐色	シルト
15	10YR2/3 黒褐色	シルト	15	10YR2/3 黒褐色	シルト
16	10YR2/3 黒褐色	シルト	16	10YR2/3 黒褐色	シルト
17	10YR4/6 褐色	シルト	17	10YR4/6 褐色	シルト

第136図 SK282・284・315 フラスコ状土坑

遺構と遺物の詳細
フラスコ状土坑

のほか、堆積土などから多くの遺物が出土している。

遺物の数量は縄文土器 10.5kg、土製品 1 点、石器 64 点、石製品 2 点である。このうち、縄文土器 12 点（第3分冊：図版 76～78、第4分冊：写真図版 85・86）、土製品 1 点（図版 282、写真図版 263）、石器 5 点（図版 317、写真図版 308）、石器 3 点（図版 405、写真図版 426）、石製品 2 点（図版 454、写真図版 465）を図示した。

縄文土器は深鉢・浅鉢があり、Ⅱ群 1 類（深鉢：P1146）、Ⅱ群 2 類（浅鉢：P1142）の復元個体各 1 点がある。土製品は土器片加工品（三角形）がある。石器は石鏃・尖頭器・石匙・楔形石器・微細刺離ある剥片・剥片がある。S0458 は珪質頁岩製の木葉形尖頭器で、長さ 8.4cm、幅 2.5cm、厚さ 1.2cm、重量 20.2g である。全体に入念な調整が施され、均整の取れた形態である。図示していないが、宮城県宮崎産黒曜石製の剥片（S0378）がある。石器は石皿・敲石・磨石類がある。石製品は棒状石製品（Q0006・0014）で、溶結凝灰岩・デイサイトの柱状節理による棒状亜角礫を素材とする。その他、焼成粘土塊 1 点（写真図版 284）・焼骨（ニホンジカ・哺乳類）・炭化種実（オニグルミ）が出土している。

年代測定：AMS 測定により、堆積土 9 層出土木炭で $4,500 \pm 30$ yrBP の放射性炭素年代が得られている。暦年較正年代（1σ）は 5,285～5,055calBP の間に 6 つの範囲で示される。

機能時期：堆積土中・下層出土遺物から、2-2 期に位置付けられる。

【SK317 フラスコ状土坑】（第 137 図、写真図版 67）

位置：N・2・E-5

規模：最大長 0.88m 以上、最大幅 0.32m 以上、面積 0.23m²以上、容積約 0.73m³

形態：平面形は略円形を呈するとみられる。断面形は調査区壁断面で深さ 1.29m のピーカー形を呈する。底面は略円形を呈するとみられ、平坦である。

堆積土：15 層に細分される。ロームブロック、炭化物片、焼土粒を含む黒褐色・暗褐色シルトである。3・4・6～15 層は人為的埋土、5 層は崩落土と考えられる。8 層は炭化物片を多量に含む。

出土遺物：堆積土などからごく少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器 0.2kg、石器 1 点である。このうち、縄文土器 1 点（第3分冊：図版 78、第4分冊：写真図版 86）、石器 1 点（図版 405、写真図版 426）を図示した。縄文土器は深鉢の破片（P1153）である。石器は磨石類がある。

機能時期：推定の根拠に乏しく不詳である。

【SK321 フラスコ状土坑】（第 137 図、写真図版 68）

位置：S・6・E-15

規模：最大長 1.36m、最大幅 1.29m、面積約 1.02m²、容積約 0.33m³

形態：平面形は略円形で、断面形は深さ 0.30m のスタンプ形を呈する。底面は略円形を呈し、平坦である。

堆積土：7 層に細分される。ロームブロックを含む黒褐色・暗褐色シルトである。すべて人為的埋土と考えられる。

出土遺物：底面から縄文土器深鉢の口縁部（P1154）が出土している。このほか、堆積土などからも少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器 1.9kg、石器 2 点、石器 1 点である。このうち、縄文土器 1 点（第3分冊：図版 78、第4分冊：写真図版 86）を図示した。縄文土器は深鉢の口縁部（P1154；Ⅱ群 1 類）である。石器は剥片がある。石器は石皿がある。

機能時期：底面出土遺物から、2-2 期に位置付けられる。

【SK347 フラスコ状土坑】（第 137 図）

位置：S・17・E-2

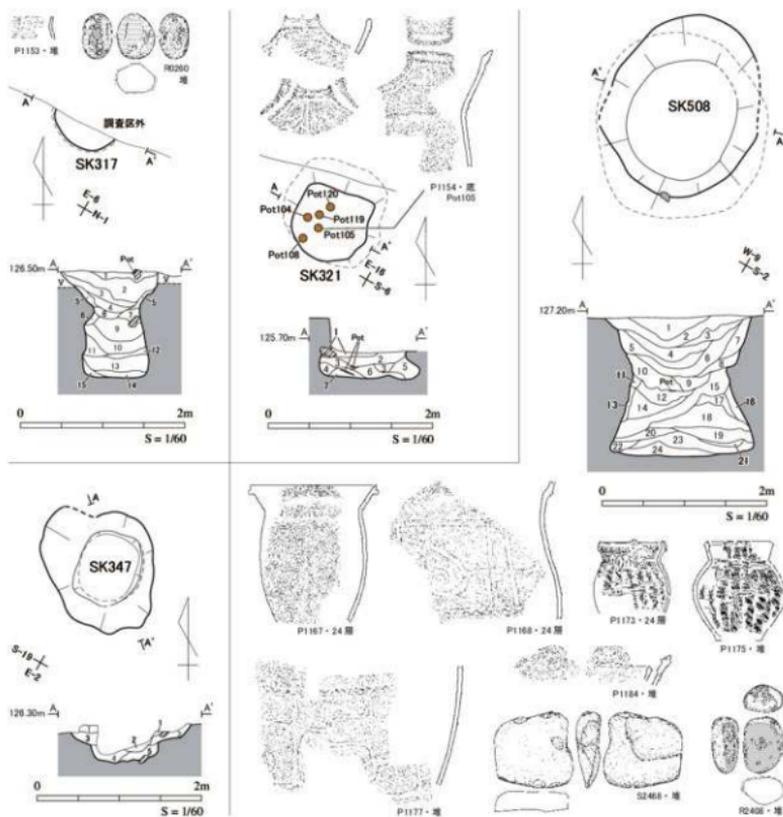
規模：最大長 1.59m、最大幅 1.30m、面積約 1.39m²、容積約 0.39m³

形態：平面形は不整楕円形で、断面形は深さ 0.46m のピーカー形を呈する。底面は径約 0.8m の略円形で、皿状を呈する。

第3章 調査の成果

堆積土：5層に細分される。ロームブロック、黒色・黒褐色・暗褐色土ブロックを含む黒色・黒褐色・暗褐色・褐色土である。2・4層が人為的埋土と考えられる。

出土遺物：堆積土などからごく少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器0.02kgである。図示した遺



SK317 フラスコ状土坑 A-A'		含有物等 (備考)	SK321 フラスコ状土坑 A-A'		含有物等 (備考)
No.1	上部	上部	No.1	上部	上部
1	10YR2/3 黒褐色	シルト	1	10YR3/4 暗褐色	シルト
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	2	10YR2/3 黒褐色	シルト
3	10YR2/3 黒褐色	シルト	3	10YR2/3 黒褐色	シルト
4	10YR2/3 黒褐色	シルト	4	10YR2/3 黒褐色	シルト
5	10YR2/3 黒褐色	シルト	5	10YR2/3 黒褐色	シルト
6	10YR3/3 暗褐色	シルト	6	10YR2/2 黒褐色	シルト
7	10YR3/4 暗褐色	シルト	7	10YR2/2 黒褐色	シルト
8	10YR2/2 黒褐色	シルト			
9	10YR2/2 黒褐色	シルト			
10	10YR2/3 黒褐色	シルト			
11	10YR2/3 黒褐色	シルト			
12	10YR2/2 黒褐色	シルト			
13	10YR2/2 黒褐色	シルト			
14	10YR2/3 黒褐色	シルト			
15	10YR2/3 黒褐色	シルト			

第137図 SK317・321・347・508 フラスコ状土坑

物はない。

機能時期：推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の重複関係ではS122 竪穴住居跡・SX4 竪穴状遺構（4-1期）より古く位置付けられる。以上より機能時期は4-1期以前と考えられる。

【SK508 フラスコ状土坑】（第137・138図、写真図版68・69・72）

位置：N・O・S・W-11

規模：最大長2.28m、最大幅2.11m、面積約2.82㎡、容積約2.97㎡

形態：平面形は楕円形で、断面形は深さ1.80mの鼓形を呈する。底面は略円形を呈し、平坦である。

堆積土：24層に細分される。ローム・焼土ブロック、焼土粒、炭化物・焼骨片を含む黒褐色・暗褐色・褐色シルトである。1～6・9～14・20～24層は人為的埋土、17・18層は崩落土と考えられる。3層は炭化物片を多量に含む。

出土遺物：堆積土最下層から縄文土器深鉢の復元個体2点（P1167・P1173）が出土している。このほか、堆積土などから多くの遺物が出土している。

遺物の数量は縄文土器8.5kg、石器19点、礫石器10点である。このうち、縄文土器20点（第3分冊：図版78～81、第4分冊：写真図版87～89）、石器1点（図版318、写真図版308）、礫石器1点（図版405、写真図版426）を図示した。

縄文土器は深鉢・小型深鉢・小型浅鉢があり、復元個体3点（P1167・1173・1175）と大型破片（P1168・1177・1179）を含むⅣ群1類の土器が主体を占める。石器は楔形石器・不定形石器・二次加工ある剥片・微細剥離ある剥片・剥片がある。礫石器は石皿・敲石・磨石類がある。

年代測定：AMS測定により、堆積土24層出土土器付着炭化物で4,320±30yrBP（P1173：Ⅳ群1類）の放射性炭素年代が得られている。暦年較正年代（1σ）は4,953～4,841calBPの間に2つの範囲で示される。

機能時期：堆積土出土遺物および放射性炭素年代から、4-2期に位置付けられる。

【SK534 フラスコ状土坑】（第138図、写真図版69）

位置：S-4・W-11

規模：最大長1.56m、最大幅1.36m、面積約1.39㎡、容積約1.64㎡

形態：平面形は略円形で、断面形は深さ1.24mのピーカー形を呈する。底面は略円形を呈し、平坦である。

堆積土：12層に細分される。ロームブロック、炭化物片を含む黒褐色・暗褐色・褐色シルトである。すべて人為的埋土と考えられる。

出土遺物：堆積土最下層から縄文土器深鉢の復元個体1点（P1232）、大型破片2点（P1231・1234）、底部1点（P0716）が出土している。このほか、堆積土などから多くの遺物が出土している。

遺物の数量は縄文土器8.3kg、土製品1点、石器2点である。このうち、縄文土器6点（第3分冊：図版81～83、第4分冊：写真図版90・91）、土製品1点（図版282、写真図版263）を図示した。

縄文土器は深鉢があり、Ⅱ群3類の復元個体1点（P1232）、Ⅲ群1類の大型破片2点（P1231・1234）がある。土製品は三脚形土製品（D0144）がある。最大長7.1cm、最大幅7.3cm、最大厚2.4cmの三叉状を呈する。裏面側は平滑で逆反りに湾曲し、正面側は丸みを持った形状を呈する。正面側上部に縦位沈線文、母指状の各先端部に渦巻状沈線文を施す。石器は二次加工ある剥片・剥片がある。

機能時期：堆積土下層出土遺物から、2-2期に位置付けられる。

【SK592 フラスコ状土坑】（第138図、写真図版69・70）

位置：S-32・W-13

規模：最大長1.82m、最大幅1.70m、面積約2.01㎡、容積約1.81㎡

形態：平面形は略円形で、断面形は深さ1.56mの三角フラスコ形を呈する。底面は略円形を呈し、大小の地山

第3章 調査の成果

礎が露出している。

堆積土：8層に細分される。ロームブロック、焼土・炭化物粒を含む黒褐色・暗褐色シルトである。4・8層は人為的埋土、5層は前落土と考えられる。

出土遺物：堆積土などからごく少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器0.1kgである。図示した遺物はない。

機能時期：推定の根拠に乏しく不詳である。

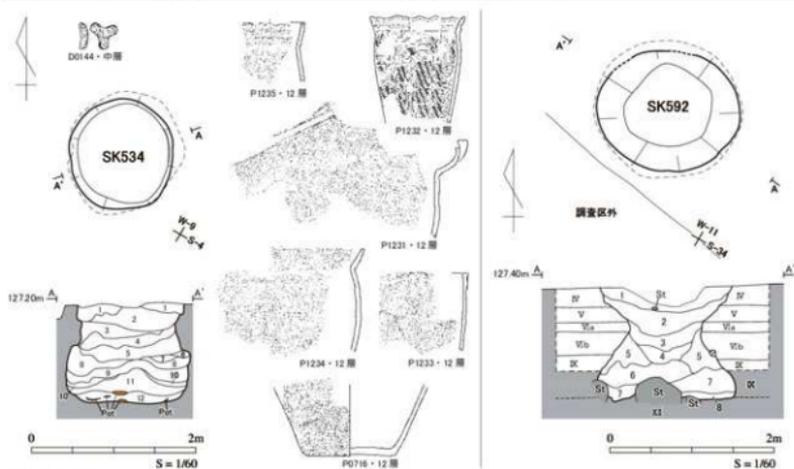
[SK606 フラスコ状土坑] (第139図, 写真図版70~72)

位置：S・29・W-4

規模：最大長2.51m、最大幅2.32m、面積約3.55㎡、容積約2.70㎡

SK508 フラスコ状土坑 A-A

No.	土色	土性	含有物等(備考)	No.	土色	土性	含有物等(備考)
1	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・炭化物・焼土粒、炭化物片極少量。(人高)	11	10YR3/3 暗褐色	シルト	ロームブロック・粒。(人高)
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・炭化物・焼土粒、ローム小・焼土小ブロック、炭化物少量。(人高)	12	10YR3/3 暗褐色	シルト	ロームブロック多量、炭化物粒少量、炭化物片極少量。(人高)
3	10YR2/3 黒褐色	シルト	炭化物多量、ローム・焼土小ブロック、焼土粒。(人高)	13	10YR3/3 暗褐色	シルト	ロームブロック、炭化物粒少量。(人高)
4	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・焼土・炭化物粒、ロームブロック、焼土片少量。(人高)	14	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック、ローム粒少量、炭化物粒少量。(人高)
5	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム・焼土・炭化物粒、ローム小・焼土小ブロック、炭化物少量。(人高)	15	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム・ブロック多量、ローム・粒。炭化物粒少量。
6	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム・焼土・炭化物粒少量、焼土片極少量。(人高)	16	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム・焼土多量。
7	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック多量、炭化物粒少量。(人高)	17	10YR3/4 暗褐色	シルト	ローム・ブロック多量。(順)
8	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・焼土・炭化物粒少量、焼土片極少量。(人高)	18	10YR4/4 暗褐色	シルト	ローム・ブロック多量。(順)
9	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム・焼土・炭化物粒少量、焼土片極少量。(人高)	19	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・ブロック少量、炭化物粒極少量。
10	10YR3/4 暗褐色	シルト	ローム・焼土・炭化物粒少量、焼土片極少量。(人高)	20	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム・ブロック多量、焼土片、炭化物粒少量。(人高)
				21	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・ブロック多量。(人高)
				22	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム・ブロック多量。(人高)
				23	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム・ブロック多量、炭化物粒少量。(人高)
				24	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム・ブロック多量、炭化物粒少量。(人高)



SK534 フラスコ状土坑 A-A

No.	土色	土性	含有物等(備考)	No.	土色	土性	含有物等(備考)
1	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム・ブロック多量。(人高)	11	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム・ブロック多量、炭化物粒少量。(人高)
2	10YR4/4 暗褐色	シルト	ローム土塊。(人高)	12	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・ブロック少量、炭化物片極少量。(人高)
3	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・ブロック・粒、炭化物粒少量。(人高)	SK592 フラスコ状土坑 A-A			
4	10YR3/4 暗褐色	シルト	ローム・ブロック多量、ローム小ブロック、炭化物粒極少量。(人高)	No.	土色	土性	含有物等(備考)
5	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム・焼土・小ブロック、炭化物粒少量。(人高)	1	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム・粒・小ブロック・ブロック、炭化物・焼土粒極少量。
6	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム・小ブロック、炭化物粒少量。(人高)	2	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・粒・小ブロック・ブロック、炭化物粒少量。
7	10YR2/3 黒褐色	シルト	炭化物粒少量、ローム・小ブロック少量。(人高)	3	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・粒・小ブロック・ブロック、炭化物粒少量。(人高)
8	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・小ブロック、ローム土塊少量、炭化物片極少量。(人高)	4	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・粒・小ブロック、炭化物粒少量。(人高)
9	10YR3/4 暗褐色	シルト	ローム・小ブロック、ローム土塊少量、炭化物粒少量。(人高)	5	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム・粒・小ブロック多量、炭化物粒極少量。(順)
10	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・焼土・炭化物粒少量、炭化物片少量。(人高)	6	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム・ブロック・粒、炭化物粒少量。
				7	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム・ブロック・粒。
				8	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム・ブロック少量。(人高)

第138図 SK508・534・592 フラスコ状土坑

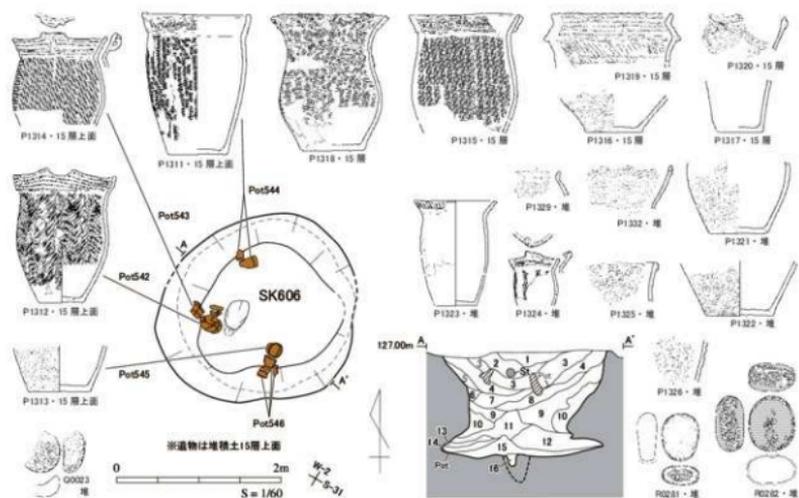
形態:平面形は略円形で、断面形は深さ1.46mのスタンプ形を呈する。底面は略円形を呈し、やや凹凸が見られる。底面の中央部に柱穴1基を伴う。

堆積土:16層に細分される。ローム・青灰色火山砂ブロック、炭化物片、焼土粒を含む黒色・黒褐色・暗褐色シルトである。4層は青灰色火山砂ブロックを含む。2・11～16層は人為的埋土、6・10層は前落土と考えられる。3・11層は炭化物片、5層は焼土粒を多量に含む。

出土遺物:堆積土最下層および最下層上面から縄文土器深鉢の復元個体5点(P1311・1312・1314・1315・1318)、大型破片1点(P1319)、底部3点(P1313・1316・1317)、堆積土から深鉢の復元個体1点(P1323)、底部2点(P1321・1322)、小型深鉢の復元個体1点(P1324)などが出土している。このほか、堆積土などから多くの遺物が出土している。

遺物の数量は縄文土器12.7kg、石器21点、礫石器8点、石製品1点である。このうち、縄文土器21点(第3分冊:図版83～86、第4分冊:写真図版5・92～94)、礫石器2点(図版406、写真図版426)、石製品1点(図版454、写真図版465)を図示した。

縄文土器は深鉢・小型深鉢があり、深鉢の略完形・復元個体6点(P1311・1312・1314・1315・1318・1323)、大型破片1点(P1319)を含む皿群1類である。石器は石鏃・二次加工ある剥片・剥片がある。礫石器は石皿・敲石・磨石類がある。石製品は乳鉢状石製品(Q0023)で、緑色凝灰岩の楕円礫の上面に椀形の凹部を作出するものである。その他、炭化種実(オニグルミ・クリ・トチノキ・サンショウ)が出土している。



SK606 フラスコ状土坑 A-A

No.	土色	土質	含有物等(備考)	No.	土色	土質	含有物等(備考)
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒、炭化物片、ロームブロック少量、焼土粒極少量。	9	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム粒多量、ロームブロック少量、焼土粒、炭化物片極少量。
2	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒、炭化物片多量、ロームブロック、焼土粒少量。(人高)	10	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック主体、炭化物片少量。(人高)
3	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒、炭化物片多量。	11	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム粒と小ブロック、炭化物片多量、焼土粒極少量。(人高)
4	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒、炭化物片、青灰色火山砂ブロック、焼土粒極少量。	12	10YR3/3 暗褐色	シルト	ロームブロック多量、ローム粒、炭化物片、焼土粒少量。(人高)
5	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム粒、焼土粒多量。	13	10YR2/1 黒色	シルト	ローム粒多量、ロームブロック、炭化物片少量。(人高)
6	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック主体、ローム粒、焼土粒極少量。(人高)	14	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック多量、炭化物片少量、焼土粒少量。(人高)
7	10YR3/2 黒褐色	シルト	ローム粒多量、炭化物片、焼土粒少量。	15	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒多量、ロームブロック、炭化物片少量。(人高)
8	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒、ロームブロック、炭化物・焼土粒少量。	16	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム粒と大ブロック、炭化物片極少量。(人高)

第139図 SK606 フラスコ状土坑

機能時期：堆積土下層出土遺物から、3-1期に位置付けられる。

【SK612 フラスコ状土坑】(第140図, 写真図版72・73)

位置：S-1・W-13

規模：最大長2.50m以上、最大幅2.56m、面積約4.96㎡、容積約2.82㎡

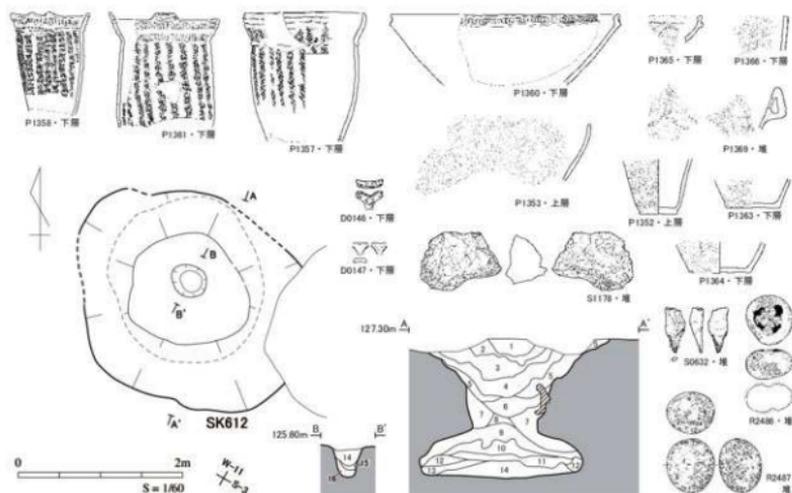
形態：平面形は不整楕円形で、断面形は深さ1.79mのスタンプ形を呈する。底面は略円形を呈し、平坦である。

底面の中央部に柱穴1基を伴う。

堆積土：14層に細分される。ローム・焼土ブロック、炭化物・焼骨片を含む黒褐色・暗褐色・にぶい黄褐色シルト・粘質シルトである。3・4・8～16層は人為的埋土と考えられる。3層は焼土ブロック、炭化物片、10層は炭化物片、13層は炭化物粒を多量に含む。底面の小穴は3層に細分される。ロームブロック、炭化物片を含む黒褐色・暗褐色シルト・砂質シルトで、すべて人為的埋土と考えられる。上部の堆積土は土坑底面を覆う堆積土と共通し、同時に埋め戻されていると考えられる。

出土遺物：堆積土下層から縄文土器深鉢の復元個体3点(P1357・1358・1361)、底部4点(P1359・1362・1363・1364)、浅鉢の大型破片1点(P1360)、土製品2点(三脚形土製品：D0146・0147)などが出土している。このほか、堆積土などから多くの遺物が出土している。

遺物の数量は縄文土器12.8kg、土製品2点、石器16点、礫石器9点である。このうち、縄文土器18点(第3分冊：図版87～89、第4分冊：写真図版5・95・96)、土製品2点(図版282、写真図版263)、石器2点(図版318、



SK612 フラスコ状土坑 A-A 断面中穴 B-B

No.	土層	土性	含有物等(備考)	No.	土層	土性	含有物等(備考)
1	10YR3/4 暗褐色	シルト	ローム・炭化物粒、ロームブロック少量。	10	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物片多量、ローム・焼土ブロック。(人高)
2	10YR3/2 暗褐色	シルト	ローム粒多量、炭化物粒少量。	11	10YR6/3 にぶい黄褐色	粘質シルト	ロームブロック多量、炭化物粒。(人高)
3	10YR3/2 暗褐色	シルト	焼土ブロック、炭化物片多量、ローム粒・小ブロック。(人高)	12	10YR3/2 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒。(人高)
4	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	ロームブロック多量、炭化物粒少量。(人高)	13	10YR3/2 暗褐色	シルト	ローム・炭化物粒多量。(人高)
5	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒少量。	14	10YR3/2 暗褐色	シルト	ローム・小ブロック、炭化物粒。(人高)
6	10YR3/4 暗褐色	シルト	ローム・炭化物粒少量。	15	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム・小ブロック多量。(人高)
7	10YR3/4 暗褐色	シルト	ローム粒・小ブロック、炭化物粒少量。	16	10YR3/2 黒褐色	シルト	ローム小ブロック。(人高)
8	10YR2/3 暗褐色	シルト	炭化物粒。(人高)				
9	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	ロームブロック・粒、炭化物粒、焼土粒、焼骨片。(人高)				

第140図 SK612 フラスコ状土坑

写真図版309)、礫石器3点(図版406、写真図版426・427)を図示した。

縄文土器は深鉢・浅鉢があり、深鉢の略完形・復元個体3点(P1357・1358・1361)、浅鉢の大型破片1点(P1360)を含むⅢ群1類である。土製品は三脚形土製品(DO146)である。残存長5.0cm、最大幅7.4cm、最大厚2.5cmの三叉状を呈し、下端部を折損する。裏面側は平滑で逆反りに弯曲し、正面側は丸みを持った形状を呈する。正面側中央に指頭状押印文、中央と左右両端部に渦巻状押印文、側面に一条の沈線文が全周する。石器は石錐・楔形石器・磨製石斧・不定形石器・剥片・石核がある。礫石器は磨石類がある。その他、焼成粘土塊1点(写真図版284)・焼骨(哺乳綱)・炭化材(クリ・アサダ)が出土している。また、土壌の花粉分析でトウヒ属、ギンギシ属、キク亜科の花粉を検出した。

年代測定: AMS測定により、堆積土下層出土木炭で $4,510 \pm 30$ yrBPの放射性炭素年代が得られている。暦年較正年代(1 σ)は5,291～5,064calBPの間に4つの範囲で示される。

機能時期: 堆積土下層出土遺物および放射性炭素年代から、3-1期に位置付けられる。

【SK721 フラスコ状土坑】(第141図、写真図版73～75)

位置: S-5・W-10

規模: 最大長2.20m、最大幅2.16m、面積約3.07㎡、容積約4.54㎡

形態: 平面形は略円形で、断面形は深さ1.73mの鼓形を呈する。底面は略円形を呈し、平坦である。

堆積土: 20層に細分される。ローム・スコリア・白色粘土・焼土ブロック、炭化物・焼骨片を含む黒褐色・暗褐色・褐色・黄褐色・にぶい黄褐色・灰黄褐色・褐灰色シルトである。1・2・17～19層は人為的埋土と考えられる。

5層は炭化物・焼骨片を均一に含み、10層は炭化物粒を多量に含む。

出土遺物: 堆積土最下層とその直上層から縄文土器深鉢の復元個体4点(P1473・1475・1479・1481)、底部1点(P1480)、浅鉢の大型破片1点(P1474)、堆積土上層から小型深鉢の復元個体1点(P1469)などが出土している。このほか、堆積土などから多くの遺物が出土している。

遺物の数量は縄文土器13.7kg、土製品1点、石器30点、礫石器22点、石製品1点である。このうち、縄文土器29点(第3分冊: 図版89～93、第4分冊: 写真図版6・97～100)、石器5点(図版318、写真図版309)、礫石器5点(図版407、写真図版427)を図示した。

縄文土器は深鉢・小型深鉢・浅鉢があり、深鉢の略完形・復元個体3点(P1473・1479・1481)、浅鉢の大型破片1点(P1474)を含むⅢ群1類が主体である。土製品は土偶がある。石器は石錐・尖頭器・楔形石器・不定形石器・二次加工ある剥片・微細剥離ある剥片・剥片がある。礫石器は石皿・敲石・磨石類がある。その他、焼成粘土塊1点(写真図版284)・焼骨(ニホンジカ・哺乳綱)・炭化材(クリ)・炭化種実(オニグルミ)が出土している。

年代測定: AMS測定により、堆積土20層出土木炭で $4,550 \pm 30$ yrBP、15層出土木炭で $4,530 \pm 30$ yrBP、10層出土木炭で $4,540 \pm 30$ yrBP、5層出土木炭で $4,520 \pm 30$ yrBP、3層出土木炭で $4,550 \pm 30$ yrBP、4層出土土器付着炭化物で $4,440 \pm 30$ yrBP(P1469: IV群1類)の放射性炭素年代が得られている。暦年較正年代(1 σ)は5,312～5,076calBP、5,305～5,068calBP、5,309～5,074calBP、5,297～5,065calBP、5,310～5,076calBP、5,260～4,970calBPの間にそれぞれ複数の範囲で示される。

機能時期: 堆積土下層出土遺物および放射性炭素年代から、3-2期に位置付けられる。

【SK723 フラスコ状土坑】(第142・143図、写真図版75)

位置: N-2・W-10

規模: 最大長2.58m以上、最大幅0.75m以上、面積1.10㎡以上、容積5.30㎡程度

形態: 平面形は略円形を呈するとみられる。断面形は調査区壁断面で深さ1.62mの三角フラスコ形を呈する。

底面は略円形を呈するとみられ、平坦である。

第3章 調査の成果

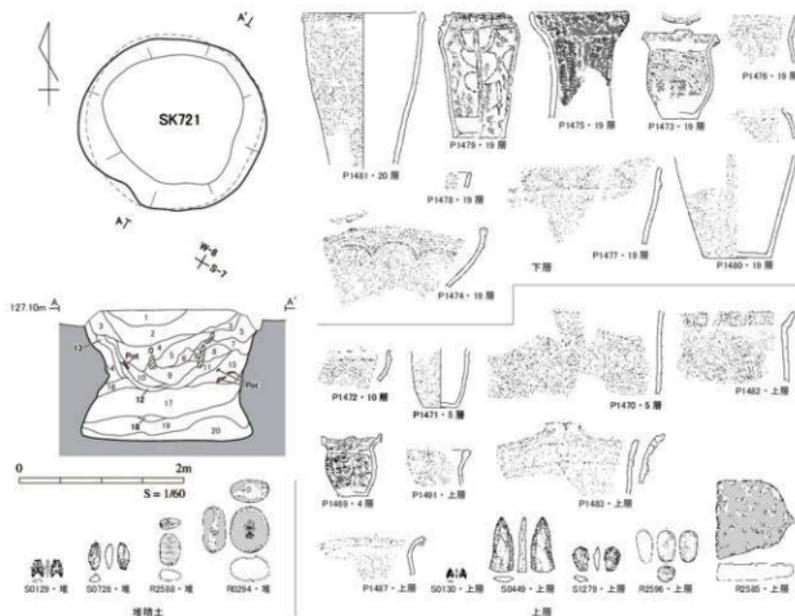
堆積土：27層に細分される。ロームブロック、炭化物・焼骨片、焼土粒を含む黒褐色・暗褐色・褐色・にぶい黄褐色シルトである。16～27層は人為的埋土、6・12～15層は崩落土と考えられる。19・22・24・26・27層は炭化物粒を多量に含む。

出土遺物：堆積土などから少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器 1.0kg、石器 5点、礫石器 1点である。このうち、縄文土器 1点（第3分冊：図版93、第4分冊：写真図版100）を図示した。縄文土器は深鉢の破片（P1498：Ⅱ群1類）である。石器は不定形石器・剥片がある。礫石器は敲石がある。その他、炭化種実（オニグルミ・クリ・トチノキ・キハダ）が出土している。土壌の花粉分析でクリ属近似種、アブラナ科、ヨモギ属、タンポポ垂科の花粉を検出した。

機能時期：堆積土下層出土遺物から2-2期に位置付けられる可能性がある。

[SK1006 フラスコ状土坑]（第142・143図）

位置：S-49・E-18



SK721 フラスコ状土坑 A-A'		No.		土色	土質	含有物等(備考)	含有物等(鑑別)
1	10YR4/4 褐色	シルト	10	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物粒多量、白色鹹上ブロック・粘、焼土粒、焼骨片多量。	
2	10YR4/2 灰黒褐色	シルト	11	10YR4/1 黒灰色	シルト	ローム・炭化物粒少量、焼土粒極少量。	
3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	12	10YR3/1 黒褐色	シルト	ローム小ブロック、炭化物少量。	
4	10YR4/2 灰黒褐色	シルト	13	10YR3/2 黒褐色	シルト	ローム・アブラナ科多量、炭化物粒少量。	
5	10YR3/2 黒褐色	シルト	14	10YR3/2 黒褐色	シルト	ローム・アブラナ科、ローム粒少量。	
6	10YR4/2 灰黒褐色	シルト	15	10YR3/2 黒褐色	シルト	ローム・アブラナ科・粘多量、炭化物粒少量。	
7	10YR4/4 褐色	シルト	16	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム粘多量、炭化物粒少量。	
8	7.5YR4/4 褐色	シルト	17	10YR3/5 黄褐色	シルト	ブロック状の白鹹スコリア等、炭化物粒少量。(人高)	
9	7.5YR4/4 褐色	シルト	18	10YR4/1 黒灰色	シルト	ローム・アブラナ科多量、炭化物粒少量。(人高)	
10	10YR4/1 黒灰色	シルト	19	10YR4/1 黒灰色	シルト	ローム小ブロック、炭化物粒少量、焼骨片極少量。(人高)	
			20	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム・アブラナ科、ローム粘少量。	

第141図 SK721 フラスコ状土坑

規模：最大長 1.14m 以上、最大幅 0.82m、面積約 0.47㎡、容積約 0.26㎡

形態：平面形は楕円形を呈するとみられる。断面形は深さ 0.96m のピーカー形を呈する。底面は楕円形を呈するとみられ、平坦である。

堆積土：14 層に細分される。ロームブロック、炭化物片、焼土粒を含む黒褐色・暗褐色シルトである。5～9・11～14 層は人為的埋土、10 層は崩落土と考えられる。

出土遺物：堆積土などから少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器 1.4kg、石器 3 点である。このうち、縄文土器 2 点（第 3 分冊：図版 93、第 4 分冊：写真図版 100）を図示した。縄文土器は深鉢の破片（P1516：Ⅲ群 1 類）、小型深鉢（P1515：Ⅳ群 1 類）である。石器は二次加工ある剥片・微細剥離ある剥片・剥片がある。機能時期：堆積土出土遺物から 4-1 期に位置付けられる可能性がある。

【1 区南東隅土坑群】（第 142・143 図、写真図版 75・76）

調査経過：1 区南東隅の S-29・E-25 付近において、最大長 4.5m 以上、最大幅 2.2m 以上で調査区外の東・南側へ延びる不整形の遺構プランを確認した。確認面の堆積土は黒色シルトで少量の遺物を含む。当初、大型の土坑あるいは竪穴住居跡などの大型遺構の一部と想定し、SX371 性格不明遺構として堆積土の掘削を行なったところ、壁面が壊れており複数のフラスコ状土坑が重複している可能性が考えられた。このため掘削を一時中断して堆積土を精査したものの、位相の変化を認め難かったことから粘土採掘坑などの大型遺構を想定しながら掘削を進め、底面の検出に至った。底面はいくつかの段と凹部を形成しており、複数の掘り込みの重複とも考えられた。掘削の完了後に土層断面を精査したところ、底面形状に対応する形で最終的に 7 基のフラスコ状土坑（SK83・84・86・124・368・369・370）の重複を確認した。堆積土はほぼ全てローム粒を含む黒色・黒褐色シルトからなり、部分的にロームブロックを含む。

出土遺物：上述の経過の通り一括して掘削を行なったため各遺構への帰属は不明であるが、堆積土などから少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器 6.2kg、石器 8 点、礫石器 33 点である。このうち、縄文土器 15 点（第 3 分冊：図版 94、第 4 分冊：写真図版 101）、石器 2 点（図版 319、写真図版 309）、礫石器 5 点（図版 408、写真図版 428）を図示した。縄文土器は深鉢・浅鉢の破片が主体で、Ⅱ群 1 類、Ⅲ群 1 類、Ⅳ群 1 類の土器がある。石器は石錐・石匙・剥片がある。S0008 は山形県月山産黒曜石製の石匙である。礫石器は石皿・磨石類がある。

【SK83 フラスコ状土坑】（第 142・143 図、写真図版 75・76）

位置：S-29・E-24

規模：最大長 1.95m 以上、最大幅 1.67m 以上、面積 1.60㎡以上、容積約 2.02㎡

形態：平面形は楕円形を呈するとみられる。断面形は深さ 1.26m のピーカー形を呈する。底面は楕円形を呈するとみられ、平坦である。

堆積土：18 層に細分される。ロームブロック、黒褐色土ブロックを含む黒色・黒褐色シルトである。8～18 層は人為的埋土と考えられる。

機能時期：推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の新旧関係では SK86 フラスコ状土坑（4-2 期以降）より新しく位置付けられる。以上より機能時期は 4-2 期以降と考えられる。

【SK84 フラスコ状土坑】（第 142・143 図、写真図版 75・76）

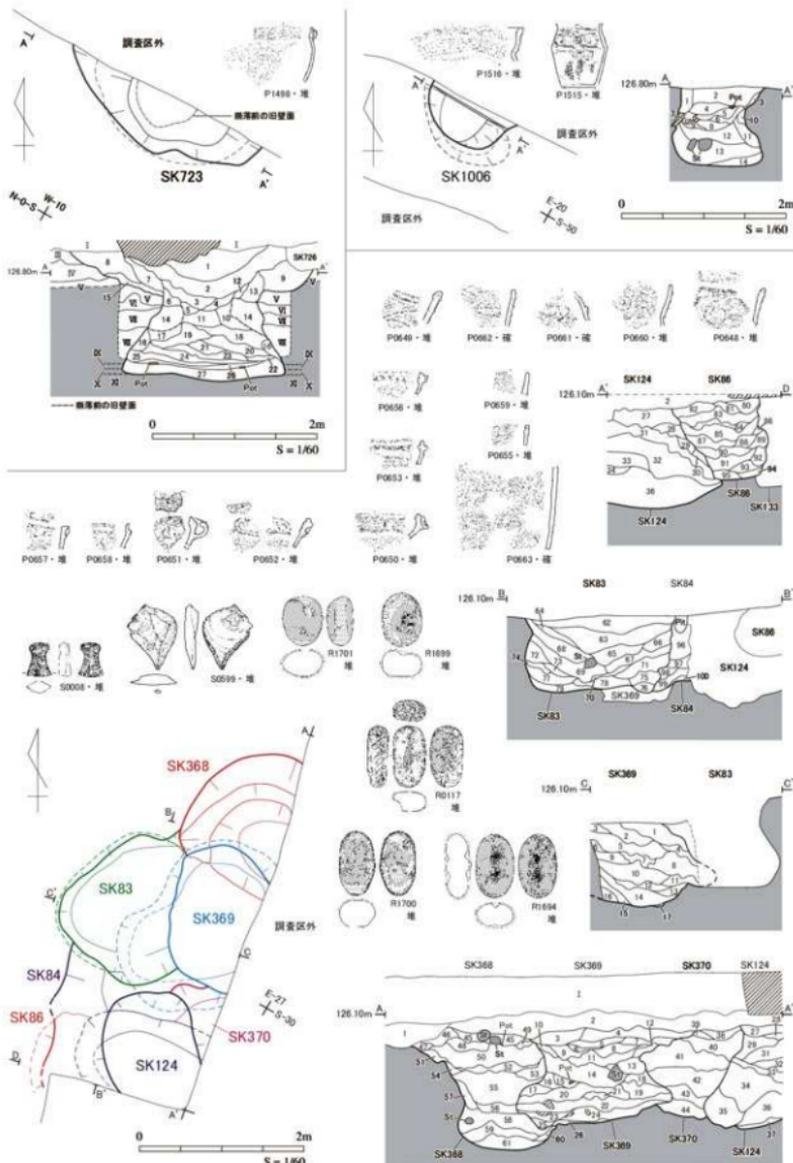
位置：S-30・E-25

規模：最大長 0.91m 以上、面積 0.52㎡以上

形態：平面・断面形は不明である。深さ 1.13m である。底面は残存していない。

堆積土：5 層に細分される。ロームブロック、黒色土ブロックを含む黒色シルトである。全て人為的埋土と考えられる。

第3章 調査の成果



※ 1区南東隅土坑群：SK83・84・86・124・368・369・370 フラスコ状土坑

第142図 SK723・1006 フラスコ状土坑。1区南東隅土坑群（フラスコ状土坑）(1)

SK723 フラスコ状土坑 A-A				No.	土色	土性	含有物等 (備考)
1	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム多量, 炭化物多量。	30	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム, (SK124-4層, 層)
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム多量, 炭化物多量。	31	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム/小ブロック, 黒褐色土/ブロック少量, (SK124-5層, 大)
3	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム多量, 炭化物多量, 炭化物片少量。	32	10YR2/3 黒褐色	シルト	黒褐色土/ブロック多量, ローム少量, (SK124-6層, 大)
4	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム多量, ローム/小ブロック, 炭化物片少量。	33	7.5YR2/2 黒褐色	シルト	ローム/黒土, 黒褐色土/ブロック少量, (SK124-7層, 大)
5	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム多量, 炭化物多量。	34	7.5YR2/2 黒褐色	シルト	黒褐色土/ブロック多量, ローム/小ブロック, (SK124-8層, 大)
6	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム/ブロック, 炭化物多量。	35	10YR2/3 黒褐色	シルト	黒褐色土/黒褐色土/ブロック少量, (SK124-9層, 大)
7	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム多量, ローム/ブロック少量。(層)	36	5YR2/1 黒色	シルト	ローム/黒褐色土/ブロック少量, ローム/黒土, (SK124-10層, 大)
8	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム多量, 炭化物多量, 炭化物粒少量。	37	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム/黒土, ローム/ブロック, (SK124-11層, 大)
9	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム多量, 炭化物多量, 炭化物粒少量。	38	10YR1/7 黒色	シルト	炭化物粒, (SK370-1層, 大)
10	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム多量, 炭化物多量, ローム/小ブロック多量。(層)	39	10YR1/7 黒色	シルト	炭化物粒, (SK370-2層, 大)
11	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム多量, 炭化物多量, ローム/ブロック, 炭土粒少量。	40	10YR1/7 黒色	シルト	炭化物粒, (SK370-3層, 大)
12	10YR4/3 に近い 黄褐色	シルト	ローム/ブロック, ローム少量。(層)	41	10YR2/2 黒褐色	シルト	黒褐色土/小ブロック少量, ローム/黒土/小ブロック少量, (SK370-4層, 大)
13	10YR4/3 黒褐色	シルト	ローム多量, ローム/ブロック, 炭化物粒少量。(層)	42	7.5YR2/1 黒色	シルト	黒褐色土/黒褐色土/ブロック少量, (SK370-5層, 大)
14	10YR4/3 黒褐色	シルト	ローム/ブロック少量。(層)	43	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム多量, 炭褐色土/小ブロック, (SK370-6層, 大)
15	10YR4/3 黒褐色	シルト	ローム多量, 炭化物粒少量。(層)	44	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム/ブロック多量, 黒褐色土/小ブロック, (SK370-7層, 大)
16	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム多量, ローム/ブロック少量。(大)	45	10YR1/7 黒色	シルト	人遺物, 炭化物粒, ローム粒少量。(SK368-1層)
17	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム多量, 炭化物粒少量。(大)	46	10YR2/1 黒色	シルト	人遺物, (SK368-2層)
18	10YR3/4 暗褐色	シルト	ローム多量, 炭化物粒少量。(大)	47	10YR1/7 黒色	シルト	黒褐色土/小ブロック, (SK368-3層)
19	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム多量, 炭化物粒少量。(大)	48	7.5YR1/7 黒色	シルト	ローム/黒土, ローム/小ブロック少量, (SK368-4層)
20	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム多量, 炭化物粒少量。(大)	49	7.5YR2/1 黒色	シルト	ローム粒少量, (SK368-5層)
21	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム多量, 炭化物粒少量。(大)	50	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム/ブロック少量, 炭褐色土/ブロック, (SK368-6層, 大)
22	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム多量, 炭化物粒少量。(大)	51	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム粒少量, (SK368-7層, 大)
23	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム多量, 炭化物粒少量。(大)	52	10YR2/2 暗褐色	シルト	炭褐色土/ブロック多量, ローム粒少量, (SK368-8層, 大)
24	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム多量, 炭化物粒少量。(大)	53	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム粒多量, ローム/小ブロック, 炭褐色土/ブロック少量, (SK368-9層, 大)
25	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム多量, 炭化物粒少量。(大)	54	10YR3/2 暗褐色	シルト	ローム粒少量, (SK368-10層, 大)
26	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム多量, 炭化物粒少量。(大)	55	10YR2/2 暗褐色	シルト	ローム/ブロック, 黒褐色土/ブロック少量, (SK368-11層, 大)
27	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム多量, 炭化物粒少量, ローム/小ブロック/大ブロック少量。(大)	56	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム/小ブロック, (SK368-12層, 大)
SK1006 フラスコ状土坑 A-A				57	7.5YR2/2 暗褐色	シルト	ローム粒, 黒褐色土/小ブロック, (SK368-13層, 大)
1	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒少量。	58	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム/小ブロック多量, ローム/小ブロック, 黒褐色土/小ブロック少量, (SK368-14層, 大)
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒少量, ローム/小ブロック, 炭土粒少量。	59	10YR2/2 暗褐色	シルト	黒褐色土/小ブロック少量, ローム/小ブロック, (SK368-15層, 大)
3	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム粒少量。	60	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム粒少量, (SK368-16層, 大)
4	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒少量, 炭化物粒少量。	61	暗褐色		ローム粒/小ブロック/ブロック多量, 炭土上/ブロック少量, (SK368-17層, 大)
5	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒少量, 炭化物粒少量。(大)	62	7.5YR1/7 黒色	シルト	ローム粒少量, (SK363-1層)
6	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・小ブロック/炭土粒少量。(大)	63	7.5YR1/7 黒色	シルト	ローム粒少量, (SK363-2層)
7	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム/小ブロック, ローム粒少量。(大)	64	7.5YR1/7 黒色	シルト	ローム粒少量, (SK363-3層)
8	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・黒土/粘着性。(大)	65	10YR1/7 黒色	シルト	ローム粒少量, (SK363-4層)
9	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム/ブロック。(大)	66	10YR1/7 黒色	シルト	ローム粒少量, (SK363-5層)
10	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム/ブロック, ローム粒少量。(層)	67	10YR2/1 黒色	シルト	ローム粒少量, (SK363-6層)
11	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム/ブロック/小ブロック/粒, 炭化物粒少量。(大)	68	10YR2/1 黒色	シルト	ローム粒少量, (SK363-7層)
12	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒, 炭化物粒少量。(大)	69	10YR2/1 黒色	シルト	ローム粒, ローム/ブロック, 炭褐色土, (7.5YR3/1) ブロック少量, (SK363-8層, 大)
13	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム/ブロック/粘着性。(大)	70	10YR2/2 暗褐色	シルト	ローム粒少量, (SK363-9層, 大)
14	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム/ブロック/粘着性。(大)	71	10YR2/2 暗褐色	シルト	ローム/ブロック/粘着性, (SK363-10層, 大)
15	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム/ブロック/粘着性。(大)	72	7.5YR2/1 黒色	シルト	ローム/ブロック/粘着性, (SK363-11層, 大)
16	10YR2/2 暗褐色	シルト	ローム粒少量, (SK369-1層)	73	10YR2/1 黒色	シルト	ローム/粘着性, (SK363-12層, 大)
17	7.5YR2/1 黒色	シルト	ローム粒少量, (SK369-2層)	74	10YR2/2 暗褐色	シルト	ローム粒少量, (SK363-13層, 大)
18	7.5YR1/7 黒色	シルト	黒褐色土/ブロック, (SK369-3層, 大)	75	10YR2/1 黒色	シルト	ローム粒, ローム/ブロック, 炭褐色土, (10YR3/2) ブロック少量, (SK363-14層, 大)
19	10YR1/7 黒色	シルト	ローム粒, 黒褐色土, (SK369-4層, 大)	76	10YR2/2 暗褐色	シルト	ローム/ブロック/粘着性, (SK363-15層, 大)
20	10YR2/1 黒色	シルト	黒褐色土粒少量, (SK369-5層, 大)	77	10YR2/2 暗褐色	シルト	ローム/ブロック/粘着性, (SK363-16層, 大)
21	10YR1/7 黒色	シルト	黒褐色土粒少量, (SK369-6層, 大)	78	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム/ブロック/粘着性, (SK363-17層, 大)
22	7.5YR2/1 黒色	シルト	黒褐色土/小ブロック, ローム粒少量, (SK369-9層, 大)	79	7.5YR1/7 黒色	シルト	ローム/ブロック/粘着性, (SK363-18層, 大)
23	10YR2/2 暗褐色	シルト	黒褐色土/小ブロック, (SK369-10層, 大)	80	10YR2/1 黒色	シルト	ローム/粘着性, (SK366-1層)
24	10YR2/2 暗褐色	シルト	黒褐色土/小ブロック, (SK369-10層, 大)	81	10YR1/7 黒色	シルト	ローム粒, (SK366-2層)
25	10YR2/2 暗褐色	シルト	ローム粒/小ブロック, 炭褐色土/小ブロック少量, (SK369-11層, 大)	82	10YR2/2 暗褐色	シルト	オリーブ炭, (5Y2-2) 砂質シルト/ブロック, ローム少量, (SK366-3層)
26	10YR2/2 暗褐色	シルト	ローム/ブロック/粘着性, 炭褐色土/小ブロック, (SK369-12層, 大)	83	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム粒少量, オリーブ炭/砂質シルト/ブロック多量, (SK366-4層)
27	10YR2/2 暗褐色	シルト	炭褐色土/小ブロック, 炭褐色土, (SK369-13層, 大)	84	10YR1/7 黒色	シルト	炭褐色土/砂質シルト/ブロック, (SK366-5層)
28	10YR2/2 暗褐色	シルト	黒褐色土/小ブロック, 炭褐色土, (SK369-14層, 大)	85	10YR1/7 黒色	砂質シルト	炭褐色土/砂質シルト/ブロック, オリーブ炭/砂質シルト/ブロック, ローム少量, (SK366-6層, 大)
29	10YR2/2 暗褐色	シルト	ローム粒, 炭褐色土/ブロック, (SK369-16層, 大)	86	10YR2/2 暗褐色	シルト	ローム粒少量, (SK367-1層, 大)
30	10YR2/3 暗褐色	シルト	ローム粒/小ブロック多量, 炭褐色土/小ブロック, (SK369-17層, 大)	87	10YR1/7 黒色	砂質シルト	炭褐色土/ブロック, (SK368-8層)
31	7.5YR1/7 黒色	砂質シルト	黒褐色土・炭褐色土/ブロック多量, ローム粒少量, (SK369-18層, 大)	88	10YR2/2 暗褐色	粘質シルト	ローム粒少量, (SK369-9層, 大)
32	7.5YR2/1 黒色	シルト	ローム粒, 炭褐色土/小ブロック, (SK369-19層, 大)	89	10YR2/2 暗褐色	シルト	ローム粒少量, (SK369-10層, 大)
33	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム・黒褐色土/小ブロック少量, (SK369-20層, 大)	90	10YR2/2 暗褐色	シルト	炭褐色土/ブロック多量, (SK369-12層, 大)
34	10YR2/2 暗褐色	シルト	ローム/小ブロック多量, 炭褐色土/小ブロック少量, (SK369-21層, 大)	91	10YR2/3 暗褐色	粘質シルト	ローム粒少量, ローム/小ブロック少量, (SK369-13層, 大)
35	10YR2/2 暗褐色	シルト	ローム粒/小ブロック多量, 炭褐色土/小ブロック少量, (SK369-22層, 大)	92	10YR2/3 暗褐色	粘質シルト	ローム/ブロック少量, (SK369-14層, 大)
36	7.5YR2/2 暗褐色	シルト	ローム粒少量, 炭褐色土/小ブロック少量, (SK369-23層, 大)	93	10YR2/2 暗褐色	粘質シルト	ローム/ブロック少量, (SK369-15層, 大)
37	10YR5/8 黄褐色	シルト	ローム・砂質シルト/ローム/小ブロック/粘着性, (SK369-24層, 大)	94	10YR2/3 暗褐色	粘質シルト	ローム/ブロック少量, (SK369-16層, 大)
38	10YR1/7 黒色	シルト	均質土, (SK124-1層)	95	7.5YR2/1 黒色	シルト	下部ローム/ブロック少量, ローム粒, (SK384-1層, 大)
39	10YR2/1 黒色	シルト	ローム粒少量, (SK124-2層, 層)	96	7.5YR2/2 暗褐色	シルト	ローム粒, (SK384-2層, 大)
40	10YR2/2 暗褐色	シルト	黒褐色土/ブロック, ローム粒/小ブロック少量, (SK124-3層, 層)	97	7.5YR1/7 黒色	シルト	ローム粒少量, (SK384-3層, 大)
41	10YR2/2 暗褐色	シルト	黒褐色土/ブロック, ローム粒/小ブロック少量, (SK124-3層, 層)	98	7.5YR2/1 黒色	シルト	ローム粒, 炭褐色土/ブロック少量, (SK384-4層, 大)
42	10YR2/2 暗褐色	シルト	ローム粒多量, (SK384-5層, 大)	99	10YR2/1 黒色	シルト	ローム粒多量, (SK384-5層, 大)
43	10YR2/2 暗褐色	シルト	ローム粒多量, (SK384-5層, 大)	100	10YR2/1 黒色	シルト	ローム粒多量, (SK384-5層, 大)

第143図 SK723・1006 フラスコ状土坑, 1区南東隅土坑群(フラスコ状土坑)(2)

機能時期：推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の新旧関係ではSI20 堅穴住居跡（4-1期）より新しく位置付けられる。以上より機能時期は4-1期以降と考えられる。

〔SK86 フラスコ状土坑〕（第142・143図，写真図版75・76）

位置：S-31・E-25

規模：最大長1.15m以上、面積0.45㎡以上

形態：平面・断面形は不明である。調査区壁断面で深さ1.07mを測る。底面は残存していない。

堆積土：16層に細分される。ロームブロック、オリブ黒色・黒褐色砂質シルトブロック、黒色・黒褐色土ブロックを含む黒色・黒褐色シルト・砂質シルト・粘質シルトである。4～6・8・9・11・12・16層は人為的埋土、7・10・13～15層は崩落土と考えられる。

機能時期：推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の新旧関係ではSK133 フラスコ状土坑（4-2期）より新しく位置付けられる。以上より機能時期は4-2期以降と考えられる。

〔SK124 フラスコ状土坑〕（第142・143図，写真図版75・76）

位置：S-31・E26

規模：最大長1.52m以上、最大幅1.03m以上、面積1.14㎡以上

形態：平面形は楕円形で、断面形は調査区壁断面で深さ1.39mの三角フラスコ形を呈する。底面は楕円形を呈するとみられ、底面は皿状である。

堆積土：12層に細分される。ロームブロック、黒色・暗褐色土ブロックを含む黒色・黒褐色・極暗褐色・暗褐色シルトである。2～4層は崩落土、5～11層は人為的埋土と考えられる。

機能時期：推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の新旧関係ではSK86 フラスコ状土坑（4-2期以降）より新しく位置付けられる。以上より機能時期は4-2期以降と考えられる。

〔SK368 フラスコ状土坑〕（第142・143図，写真図版75・76）

位置：S-28・E-25

規模：最大長1.74m以上、最大幅1.24m以上、面積1.39㎡以上

形態：平面形は略円形を呈するとみられる。断面形は調査区壁断面で深さ1.53mのピーカー形を呈する。底面は楕円形を呈するとみられ、皿状である。

堆積土：17層に細分される。ロームブロック、黒色・黒褐色・暗褐色土ブロック、人頭礫、炭化物片を含む黒色・黒褐色・暗褐色シルトである。6～17層は人為的埋土と考えられる。

機能時期：推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の新旧関係ではSK83 フラスコ状土坑（4-2期以降）より新しく位置付けられる。以上より機能時期は4-2期以降と考えられる。

〔SK369 フラスコ状土坑〕（第142・143図，写真図版75・76）

位置：S-29・E-25

規模：最大長2.18m以上、最大幅1.81m以上、面積21.6㎡以上、容積約1.98㎡

形態：平面形は楕円形を呈するとみられる。断面形は調査区壁断面から深さ1.29mの三角フラスコ形を呈する。底面は不整楕円形を呈するとみられ、平坦である。

堆積土：24層に細分される。ローム・砂礫混じりロームブロック、黒色・暗褐色土ブロックを含む黒色・黒褐色・暗褐色・黄褐色シルトである。3～24層は人為的埋土と考えられる。

機能時期：推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の新旧関係ではSK83 フラスコ状土坑（4-2期以降）より新しく位置付けられる。以上より機能時期は4-2期以降と考えられる。

〔SK370 フラスコ状土坑〕（第142・143図，写真図版75・76）

位置：S-30・E-26

規模：最大長0.78m以上、面積0.22㎡以上

形態：平面・断面形は不明である。調査区壁断面で深さ1.21mを測る。底面は皿状を呈するとみられる。

堆積土：7層に細分される。ロームブロック、黒色・暗褐色土ブロック、炭化物片を含む黒色・黒褐色・暗褐色シルトである。4～7層は人為的埋土と考えられる。

機能時期：推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の新旧関係ではSK124 フラスコ状土坑（4・2期以降）より古く位置付けられる。

7. 落とし穴状土坑

2基確認した。調査区西部に分布する。平面形は溝形で、断面形はV字形を呈する。平面規模は長さ2.8m程度、幅0.6m程度、深さ0.8m程度である。まとまった遺物の出土は見られず、遺構の重複関係から集落期より新しい時期の遺構と考えられる。以下、各遺構について詳述する。

【SK583 落とし穴状土坑】（第144図）

位置：S-17・W-9

規模：長さ2.76m、幅0.64m、面積約1.14㎡

形態：平面形は溝形で、短軸方向の断面形は深さ0.82mのV字形を呈する。

堆積土：5層に細分される。ロームブロック、炭化物粒を含む黒色・黒褐色・暗褐色シルトである。

出土遺物：堆積土などから出土している。縄文土器は小破片であることから、出土した遺物は後世の周囲からの流れ込みと考えられる。遺物の数量は縄文土器4.1kg、石器27点、礫石器9点である。このうち、縄文土器2点（第3分冊：図版95、第4分冊：写真図版101）、礫石器1点（図版408、写真図版428）を図示した。縄文土器は深鉢の破片である。石器は石筥・楔形石器・二次加工ある剥片・微細剥離ある剥片・剥片がある。礫石器は敲石・磨石類がある。その他、焼骨（ニホンジカ・哺乳類）が出土している。

機能時期：推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の新旧関係ではSX610 遺物包含層（3～4期）より新しく位置付けられる。集落期より新しい時期の遺構と考えられる。

【SK594 落とし穴状土坑】（第144図）

位置：S-19・W-17

規模：長さ0.66m以上、幅0.16m以上、面積0.20㎡以上

形態：平面形は溝形で、短軸方向の断面形は深さ0.82mのV字形を呈する。

堆積土：1層で、ロームブロック、炭化物粒を含む黒色シルトである。

出土遺物：堆積土などからごく少量の遺物が出土している。縄文土器は小破片であることから、出土した遺物は後世の周囲からの流れ込みと考えられる。遺物の数量は縄文土器0.2kg、石器1点である。図示した遺物はない。石器は剥片がある。

機能時期：推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の新旧関係ではSX610 遺物包含層（3～4期）より新しく位置付けられる。集落期より新しい時期の遺構と考えられる。

8. 土坑

396基確認した。調査区全体に分布し、複数基の重複関係も多数見られる。規模・形態は多様であるが、径0.4～1.0m程度の小型で平面形が略円形基調のもの、長さ1.0～1.5m、幅0.5～1.0m程度の中型で平面形が略円形基調ないしは楕円形を呈するものが主体を占める。小型のものは深さ0.1～0.2m程度の皿状、中型のものは断面形が深さ0.2～0.4m程度の皿状ないしは逆台形を呈するものが多い。このほか、長さ1.0～3.0m、幅1.0～2.5m程度的大型で平面形が楕円形ないしは不整形を呈するものがある。まとまった遺物が出土している土坑は少ない。

第3章 調査の成果

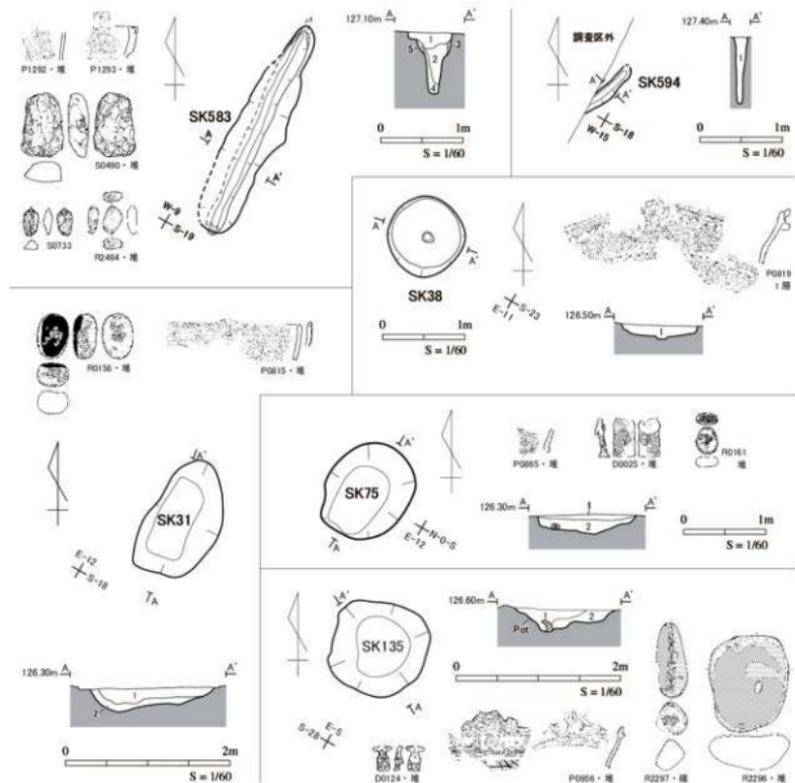
が、SK171・519・591・651・656・662 土坑では大型の縄文土器深鉢、SK255・303・359・511・524・609・614・654・1007 土坑では複数個体の縄文土器がまとめて出土している。以下、主要な遺構について詳述する。

【SK31 土坑】 (第 144 図、写真図版 77)

位置：S-16・E-12

規模：長さ 1.52m、幅 0.88m、面積約 0.96㎡

形態：平面形は不整楕円形で、断面形は深さ 0.38m の逆台形を呈する。底面は平面形が隅丸長方形で皿状である。



SK583 落とし穴状土坑 A-A				SK31 土坑 A-A			
No.	土色	土質	含有物等 (備考)	No.	土色	土質	含有物等 (備考)
1	10YR2/1 黒褐色	シルト	ローム状。	1	10YR1.7/1 黒褐色	シルト	ロームブロック・粒少量。
2	10YR2/2 茶褐色	シルト	ローム状。	2	10YR2/1 黒褐色	シルト	ロームブロック少量。ローム粒極少量。
3	10YR2/3 黒褐色	シルト	炭化物粒極少量。(明)	SK75 土坑 A-A			
4	10YR3/2 黒褐色	シルト	ロームブロック、ローム粒少量。(明)	No.	土色	土質	含有物等 (備考)
5	10YR3/4 暗褐色	シルト	ローム粒極少量。(明)	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒少量。
SK594 落とし穴状土坑 A-A				2	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒、黒色土ブロック少量。
No.	土色	土質	含有物等 (備考)	SK135 土坑 A-A			
1	10YR2/1 黒褐色	シルト	ロームブロック・炭化物粒。	No.	土色	土質	含有物等 (備考)
SK38 土坑 A-A				1	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物粒少量。ローム粒極少量。
No.	土色	土質	含有物等 (備考)	2	10YR2/3 黒褐色	シルト	炭化物・ローム粒極少量。
1	10YR2/1 黒褐色	シルト	暗褐色土ブロック少量。				

第 144 図 SK583・594 落とし穴状土坑、SK31・38・75・135 土坑

堆積土：2層に細分される。ロームブロックを含む黒色シルトである。

出土遺物：堆積土などから少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器 1.1kg、石器 8点、礫石器 3点である。このうち、縄文土器 1点（第3分冊：図版95、第4分冊：写真図版102）、礫石器 1点（図版409、写真図版429）を図示した。縄文土器は深鉢があり、縄文時代後期前葉の綱取Ⅱ式である。石器は不定形石器・剥片がある。礫石器は敲石・磨石類がある。

機能時期：堆積土出土遺物から、縄文時代後期前葉に位置付けられる。

【SK38 土坑】（第144図、写真図版77）

位置：S-22・E-9

規模：長さ1.00m、幅0.94m、面積約0.60㎡

形態：平面形は略円形で、断面形は深さ0.20mの皿形を呈する。底面は皿状で、中央部に径15cm、深さ5cmほどのピット状の凹み部を持つ。掘り込みの浅い小型のフラスコ状土坑の底部が残存したものと考えられる。

堆積土：1層で、暗褐色土ブロックを含む黒色シルトである。

出土遺物：堆積土などから少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器 1.1kg、土製品 1点、石器 4点である。このうち、縄文土器 1点（第3分冊：図版95、第4分冊：写真図版102）を図示した。縄文土器は深鉢の破片（P0819：Ⅳ群1類）である。土製品は土偶がある。石器は剥片がある。

機能時期：堆積土出土遺物から、4期に位置付けられる可能性がある。遺構の新旧関係ではSX3 竪穴状遺構（4-2期）より新しく位置付けられる。

【SK75 土坑】（第144図）

位置：N-1・E-11

規模：長さ1.22m、幅1.02m、面積約0.90㎡

形態：平面形は不整形円形で、断面形は深さ0.21mの皿形を呈する。底面は皿状である。

堆積土：2層に細分される。ローム粒、黒色土ブロックを含む黒褐色シルトである。

出土遺物：堆積土などから少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器 0.3kg、土製品 1点、石器 2点、礫石器 2点である。このうち、縄文土器 1点（第3分冊：図版98、第4分冊：写真図版104）、土製品 1点（図版282、写真図版264）、礫石器 1点（図版410、写真図版429）を図示した。縄文土器は深鉢の破片（P0865：Ⅱ群1類）がある。土製品は土偶である。中型品の下半身で、腹部に菱形・渦巻状沈線文、脚部に斜線集合沈線文を施文する（D0025）。石器は不定形石器・二次加工ある剥片がある。礫石器は磨石類がある。

機能時期：推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の新旧関係ではSX288 土器埋設遺構（4期）より新しく位置付けられる。以上より機能時期は4期以降と考えられる。

【SK119 土坑】（第145図）

位置：S-23・E-20

規模：長さ1.92m、幅1.38m、面積約1.57㎡

形態：平面形は楕円形で、断面形は深さ0.20mの皿形を呈する。底面は平坦である。

堆積土：1層で、黒褐色土ブロックを含む暗褐色シルトである。

出土遺物：底面から礫石器 4点（石皿：R2253・2255・4456、磨石：R2254）が出土している。このほか、堆積土などから少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器 2.5kg、土製品 1点、石器 5点、礫石器 6点である。このうち、縄文土器 1点（第3分冊：図版99、第4分冊：写真図版105）、土製品 1点（図版282、写真図版264）を図示した。縄文土器は浅鉢の破片である。土製品は土器片加工品（三角形：D0179）で、土器片を打ち欠きにより三叉状に成形し、縁辺に研磨を加えている。石器は剥片がある。礫石器は石皿・磨石類がある。

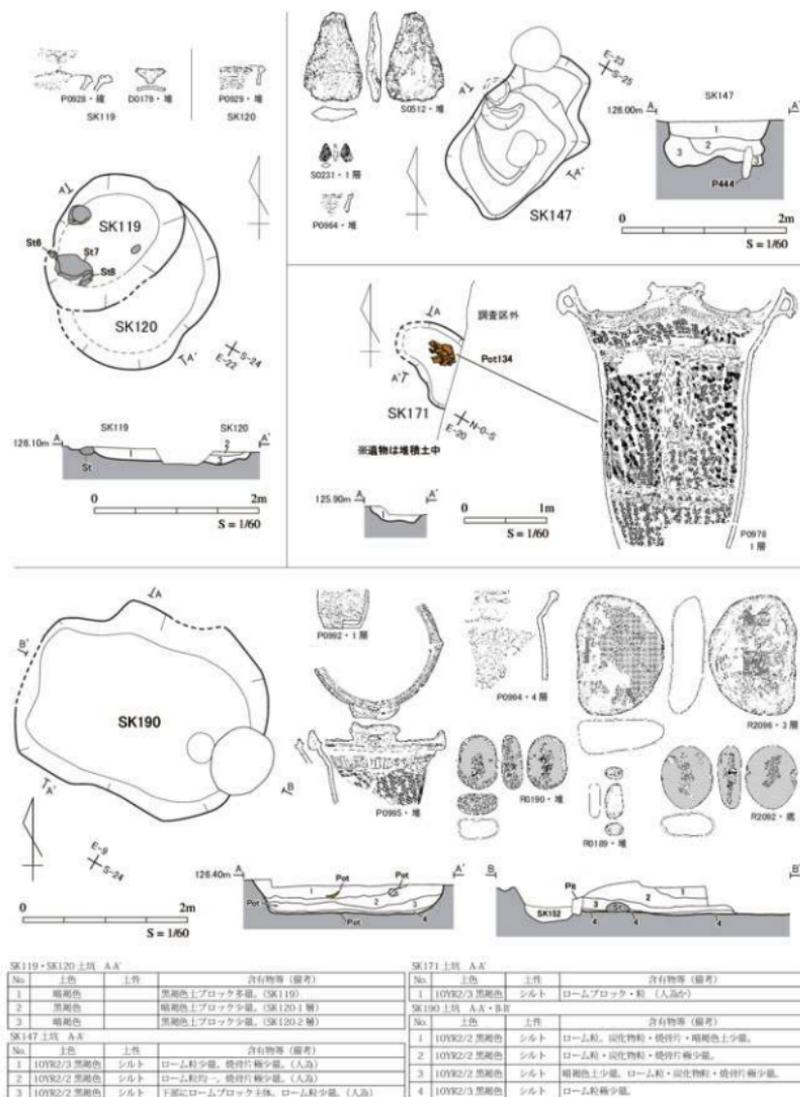
機能時期：推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の新旧関係ではSX402 焼土集積（3-2期以降）より新しく位

第3章 調査の成果

置付けられる。以上より機能時期は3-2期以降と考えられる。

【SK120土坑】(第145図)

位置：S-23・E-20



第145図 SK119・120・147・171・190土坑

規模：長さ 2.18m、幅 1.02m 以上、面積約 1.53㎡

形態：平面形は略円形を呈する。断面形は深さ 0.18m の皿形を呈する。底面は平坦である。

堆積土：2層に細分される。黒褐色・暗褐色土ブロックを含む黒褐色・暗褐色シルトである。

出土遺物：堆積土などから少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器 0.2kg、石器 3点、礫石器 2点である。

このうち、縄文土器 1点（第3分冊：図版 99、第4分冊：写真図版 105）を図示した。縄文土器は深鉢の破片である。石器は微細剥離ある剥片・剥片がある。礫石器は磨石類がある。

機能時期：推定の根拠に乏しく不詳である。

【SK135 土坑】（第 144 図、写真図版 77）

位置：S-26・E-24

規模：長さ 1.15m、幅 1.15m、面積約 0.94㎡

形態：平面形は不整形で、断面形は深さ 0.37m の逆台形を呈する。底面は平坦で、東側が階段状に窪む。

堆積土：2層に細分される。ローム・炭化物粒を含む黒褐色シルトである。

出土遺物：堆積土などから少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器 1.1kg、土製品 1点、礫石器 3点である。このうち、縄文土器 3点（第3分冊：図版 99、第4分冊：写真図版 106）、土製品 1点（図版 282、写真図版 264）、礫石器 2点（図版 411、写真図版 430）を図示した。縄文土器は深鉢の破片（PO956：IV群 1類）である。土製品は土偶である。頭部のみを欠く小型品（DO124）で、胸部にクランク状・渦巻状沈線文、側腹部に渦巻状沈線文、脚部に横位集合沈線文を施文する。礫石器は石皿・磨石類がある。

機能時期：堆積土出土遺物から、4期に位置付けられる可能性がある。

【SK147 土坑】（第 145 図）

位置：S-26・E-22

規模：長さ 2.16m、幅 1.35m、面積約 1.92㎡

形態：平面形は不整形で、断面形は深さ 0.69m の逆台形を呈する。底面は階段状に掘り込まれており、西壁の一部で下部が抉れて張り出す。

堆積土：3層に細分される。ロームブロック、焼骨片を含む黒褐色シルトである。すべて人為的埋土と考えられる。

出土遺物：堆積土などから少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器 0.5kg、石器 10点、礫石器 4点、石製品 1点である。このうち、縄文土器 1点（第3分冊：図版 99、第4分冊：写真図版 106）、石器 2点（図版 320、写真図版 310）、石製品 1点（図版 455、写真図版 465）を図示した。縄文土器は深鉢の破片がある。石器は石鏝・石筥・両面加工石器・二次加工ある剥片・微細剥離ある剥片・剥片がある。礫石器は石皿・磨石類がある。石製品は異形石器がある。

機能時期：推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の重複関係では S120 竪穴住居跡・SK28 プラスコ状土坑(4-1期)より新しく位置付けられる。以上より機能時期は 4-1期以降と考えられる。

【SK171 土坑】（第 145 図）

位置：N-1・E-19

規模：長さ 0.82m 以上、幅 0.59m 以上、面積 0.44㎡以上

形態：平面形は不整形円形を呈するとみられる。断面形は深さ 0.18m の逆台形を呈する。底面は皿状である。

堆積土：1層で、ロームブロックを含む黒褐色シルトである。

出土遺物：堆積土から大型の縄文土器深鉢の復元個体 1点（PO978）などが出土している。遺物の数量は縄文土器 5.2kg、石器 5点、礫石器 2点である。このうち、縄文土器 2点（第3分冊：図版 101、第4分冊：写真図版 107・108）を図示した。縄文土器は大型の深鉢の復元個体（PO978：IV群 1類）がある。波状縁で複合橋状突起を持ち、口縁部に小波状隆線文、S字状隆線文、胸部に区画沈線文を施文する。石器は剥片がある。礫石器

第3章 調査の成果

は磨石類がある。

機能時期：堆積土出土土器から、4-1期に位置付けられる。

【SK190土坑】(第145図, 写真図版78)

位置：S-22・E-8

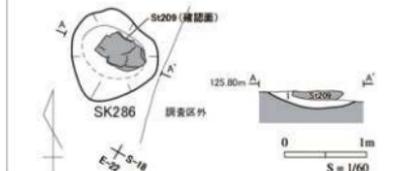
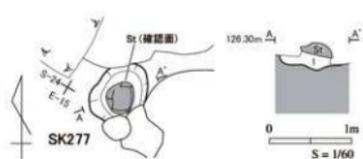
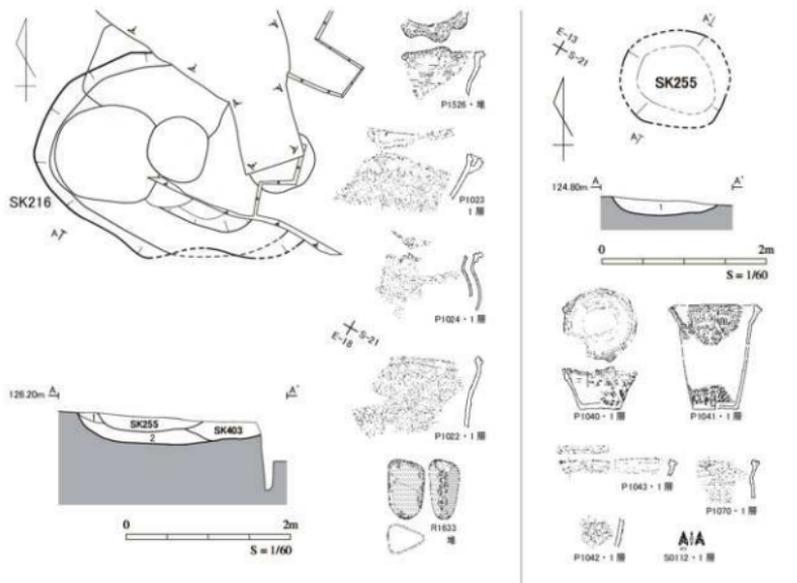
規模：長さ2.90m以上、幅2.44m、面積5.73㎡程度

形態：平面形は不整形形で、断面形は深さ0.45mの逆台形を呈する。底面は平坦である。

堆積土：4層に細分される。ローム粒、暗褐色土ブロック、炭化物粒、焼骨片を含む黒褐色シルトである。

出土遺物：堆積土などから多くの遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器7.4kg、石器29点、礫石器

14点である。このうち、縄文土器11点(第3分冊：図版103・104、第4分冊：写真図版109)、礫石器4点(図



SK216 土坑 A-A			
No.	土色	土性	含有物等(備考)
1	黒褐色		ローム粒、焼骨片、炭化物粒少量、暗褐色土ブロック多量。
2	黒褐色		ローム・粘土・暗褐色土粒少量、焼骨片粒少量。

SK255 土坑 A-A			
No.	土色	土性	含有物等(備考)
1	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック、炭化物粒・焼骨片少量。

SK277 土坑 A-A			
No.	土色	土性	含有物等(備考)
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	黒色土ブロック、ローム・炭化物・焼土粒粒少量。

SK286 土坑 A-A			
No.	土色	土性	含有物等(備考)
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ロームブロック、焼土粒粒少量。

第146図 SK216・255・277・286土坑

版412・413、写真図版431・432)を図示した。縄文土器は深鉢・浅鉢の破片で、深鉢はIV群1類の大型破片(P0995)がある。石器は石鏃・楔形石器・不定形石器・二次加工ある剥片・微細剥離ある剥片・剥片がある。礫石器は石皿・敲石・磨石類がある。

機能時期：堆積土出土遺物から、4期に位置付けられる。

【SK216 土坑】 (第146図)

位置：S-20・E-15

規模：長さ3.49m程度、幅2.20m程度、面積4.26㎡以上

形態：平面形は不整楕円形を呈するとみられる。断面形は深さ0.40mの皿形を呈する。底面は平坦で、東側中央部に段を持つ。

堆積土：2層に細分される。ローム粒、暗褐色土ブロック、焼土・炭化物粒、焼骨片を含む黒褐色土である。

出土遺物：堆積土などから出土している。遺物の数量は縄文土器1.6kg、土製品1点、石器23点、礫石器6点である。このうち、縄文土器6点(第3分冊：図版104、第4分冊：写真図版109・110)、礫石器1点(図版413、写真図版432)を図示した。縄文土器は深鉢・浅鉢の破片で、IV群1類の土器が主体である。土製品は土偶がある。石器は石鏃・楔形石器・二次加工ある剥片・剥片がある。礫石器は石皿・磨石類がある。

機能時期：堆積土出土遺物から、4期に位置付けられる。

【SK255 土坑】 (第146図、写真図版79)

位置：S-20・E-14

規模：長さ1.32m、幅1.20m程度、面積約1.14㎡

形態：平面形は略円形を呈するとみられる。断面形は深さ0.18mの皿形を呈する。底面は皿状である。

堆積土：1層で、ロームブロック、炭化物粒、焼骨片を含む黒褐色シルトである。

出土遺物：堆積土などから出土している。遺物の数量は縄文土器3.8kg、石器14点、礫石器2点である。このうち、縄文土器6点(第3分冊：図版105、第4分冊：写真図版6・111)、石器1点(図版322、写真図版311)を図示した。縄文土器は深鉢(P1041)・小型浅鉢(P1040)の略完形・復元個体を含むIV群1類の土器である。石器は石鏃・楔形石器・二次加工ある剥片・剥片がある。礫石器は石皿がある。

機能時期：堆積土出土遺物から、4-1期に位置付けられる。

【SK277 土坑】 (第146図)

位置：S-23・E-15

規模：長さ0.80m、幅0.58m以上、面積0.44㎡以上

形態：平面形は楕円形を呈するとみられる。断面形は深さ0.15mの皿形を呈する。底面は皿状で中央部に凹部を持つ。土坑中央付近の確認面から長軸40cm、短軸35cm、厚さ15cmの自然石(河床礫)が水平に近い状態で出土しており、土器埋設遺構の下部が残存したものと考えられる。

堆積土：1層で、ローム粒、黒色土ブロック、炭化物・焼土粒を含む黒褐色シルトである。

出土遺物：確認面から大型の自然石が出土している。このほか、堆積土などからごく少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器0.3kg、礫石器1点である。図示した遺物はない。礫石器は磨石類である。

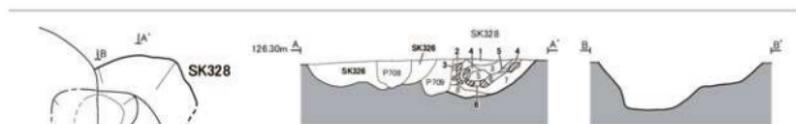
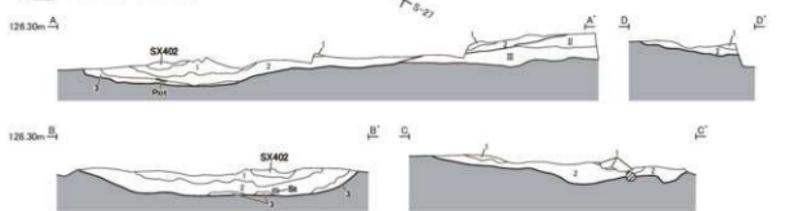
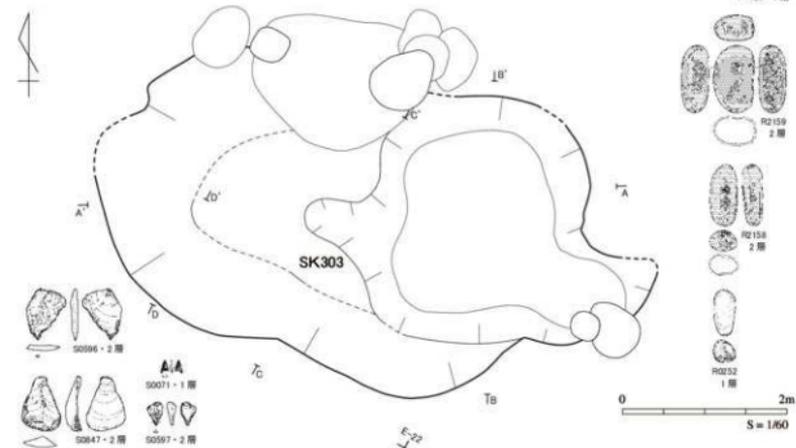
機能時期：推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の重複関係ではSX215土器埋設遺構(4-2期)より古く位置付けられる。以上より機能時期は4-2期以前と考えられる。

【SK286 土坑】 (第146図)

位置：S-16・E-22

規模：長さ1.07m、幅1.04m、面積約0.81㎡

形態：平面形は不整円形で、断面形は深さ0.20mの皿形を呈する。底面は皿状である。土坑中央付近の確認面



SK303 上段 A・A'・B・E・C・C'・D・D'

No.	土色	土性	含有物等(備考)
1	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム小ブロック・焼土粒、炭化物粒極少量。
2	10YR2/1 黒色	シルト	ローム小ブロック、焼土粒・炭化物粒・砂・焼骨片少量。
3	10YR2/2 黒褐色	シルト	ロームブロック多量。

SK328 上段 A・A'

No.	土色	土性	含有物等(備考)
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	砂粒多量。(人高)
2	10YR2/3 暗褐色	シルト	砂粒多量。(人高)
3	10YR2/3 暗褐色	シルト	砂粒少量、ローム粒極少量。(人高)
4	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒、砂粒少量。(人高)
5	暗褐色	シルト	ローム粘土体。(人高)
6	暗褐色	黒褐色上、ローム粒少量。(人高)	
7	黒褐色	暗褐色上小ブロック少量。	
8	暗褐色	黒褐色上ブロック。	

第147図 SK303・328土坑

から最大長65cm、最大幅41cm、厚さ10cmの石皿（R4444+4445）が水平に近い状態で出土しており、土器埋設遺構の下部が残存したものとみられる。

堆積土：1層で、ロームブロック、焼土粒を含む黒褐色シルトである。

出土遺物：確認面から礫石器（石皿）が出土している。このほか、堆積土などからごく少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器0.1kg、礫石器4点である。図示した遺物はない。礫石器は石皿・磨石類がある。

機能時期：推定の根拠に乏しく不詳である。

【SK303 土坑】（第147図、写真図版79～81）

位置：S-24・E-18

規模：長さ6.76m以上、幅3.73m、面積18.75㎡以上

形態：平面形は不整形円形で、断面形は深さ0.46mの皿形を呈する。底面は皿状である。

堆積土：3層に細分される。ロームブロック、砂・焼土・炭化物粒、焼骨片を含む黒色・黒褐色シルトである。

出土遺物：堆積土などから多くの遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器12.1kg、石器80点、礫石器16点である。このうち、縄文土器13点（第3分冊：図版106・107、第4分冊：写真図版7・111・112）、石器4点（図版322、写真図版311）、礫石器3点（図版415、写真図版433）を図示した。縄文土器は深鉢があり、復元個体2点（P1135・1138）を含むⅢ群1類の土器が主体である。石器は石鏃・石錐・楔形石器・磨製石斧・不定形石器・二次加工ある剥片・剥片がある。礫石器は石皿・巖石・磨石類がある。その他、炭化材（ニレ属）が出土している。

機能時期：堆積土出土遺物から、3-2期に位置付けられる。

【SK307 土坑】（第148図）

位置：S-17・E-15

規模：長さ0.92m以上、幅0.64m以上、面積0.98㎡以上

形態：残存部が少なく平面形は不明である。断面形は深さ0.32mの逆台形を呈するとみられる。底面は平坦である。

堆積土：4層に細分される。ロームブロック、焼土・炭化物粒を含む黒褐色シルトである。

出土遺物：堆積土などから少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器0.9kg、石器11点、礫石器5点である。このうち、縄文土器2点（第3分冊：図版108、第4分冊：写真図版113）、石器1点（図版322、写真図版312）、礫石器1点（図版415、写真図版433）を図示した。縄文土器は深鉢があり、大型破片（P1139）を含むⅣ群1類の土器である。石器は石鏃・二次加工ある剥片・剥片・石核がある。礫石器は石皿・磨石類がある。

機能時期：堆積土出土遺物から、4-1期に位置付けられる。

【SK328 土坑】（第147図）

位置：S-18・E-9

規模：長さ2.20m、幅1.88m、面積2.46㎡程度

形態：平面形は楕円形を呈するとみられる。断面形は深さ0.61mの逆台形を呈する。底面は皿状で、北側が階段状に窪む。

堆積土：8層に細分される。ローム粒、黒褐色・暗褐色土ブロック、砂を含む黒褐色・暗褐色シルトである。1～6層は人為的埋土と考えられる。

出土遺物：堆積土などから少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器0.9kg、土製品1点、石器6点である。このうち、縄文土器2点（第3分冊：図版108、第4分冊：写真図版113）、土製品1点（図版282、写真図版264）を図示した。縄文土器は深鉢の破片（P1157：Ⅳ群1類）である。土製品はミニチュア土器（浅鉢：D0231）である。石器は剥片がある。

第3章 調査の成果

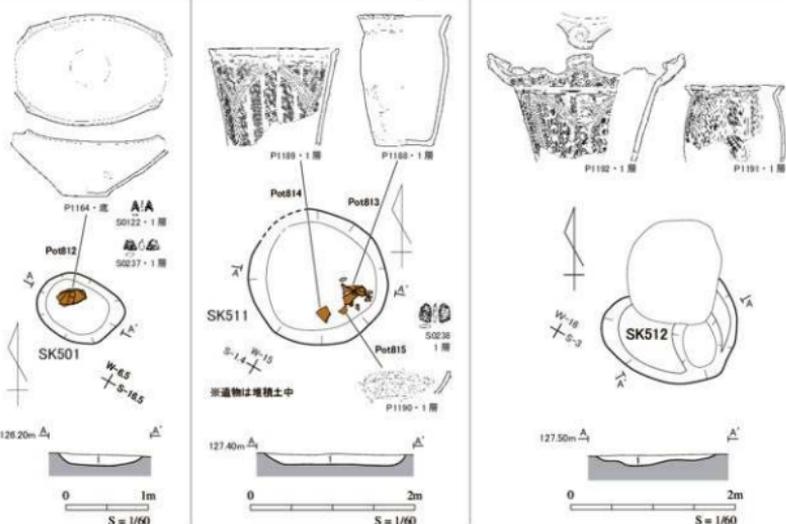
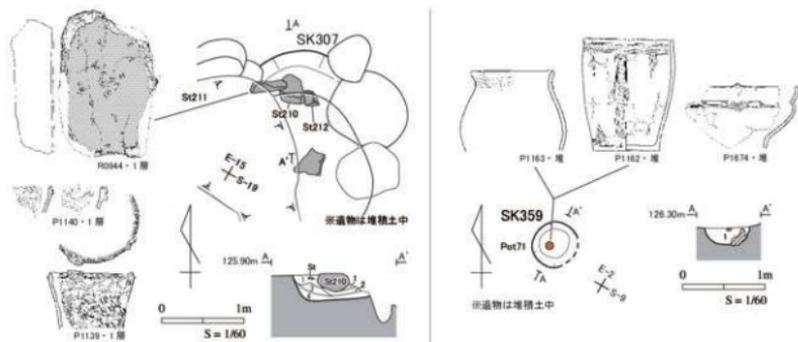
機能時期：堆積土出土遺物から、4期に位置付けられる可能性がある。

【SK359 土坑】(第148図)

位置：S-8・E-1

規模：長さ0.56m、幅0.45m以上、面積0.24㎡程度

形態：平面形は略円形で、断面形は深さ0.24mのU字形を呈する。底面は皿状である。



SK307 土坑 A-A				SK501 土坑 A-A			
No.	土色	土質	含有物等 (備考)	No.	土色	土質	含有物等 (備考)
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・炭化物・礫・砂少量。	1	10YR2/1 黒褐色	シルト	暗褐色シルトブロック多量。炭化物粒少量。
2	10YR2/2 黒褐色	シルト	ロームブロック・粒。炭化物粒少量。	SK511 土坑 A-A			
3	10YR2/2 黒褐色	シルト	ロームブロック・粒。炭化物粒少量。	No.	土色	土質	含有物等 (備考)
4	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック多量。ローム・炭化物粒少量。	1	10YR2/1 黒色	シルト	暗褐色土ブロック多量。
SK359 土坑 A-A				SK512 土坑 A-A			
No.	土色	土質	含有物等 (備考)	No.	土色	土質	含有物等 (備考)
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒。炭化物粒・砂粒片少量。	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物粒少量。

第148図 SK307・359・501・511・512土坑

堆積土：1層で、ローム・炭化物粒、焼骨片を含む黒褐色シルトである。

出土遺物：堆積土1層から縄文土器深鉢の復元個体2点（P1162・1163）、大型破片1点（P1674）が出土している。このほか、堆積土などからごく少量の遺物が出土している。

遺物の数量は縄文土器3.8kg、礫石器1点である。このうち、縄文土器3点（第3分冊：図版109、第4分冊：写真図版7・113・114）を図示した。

縄文土器は深鉢で、Ⅱ群2類の略丸形・復元個体2点（P1162・1163）、大型破片1点（P1674）があり、胎土・焼成状態が類似する。P1162は円筒形で胴上部から口縁部が緩く内湾し、胴下部は外傾する。口縁上端部に連続短沈線文、胴部に縦位・横位平行半隆起線文と連続三角形彫去文・連続刺突文、渦巻状半隆起線文などを施文する。P1674は頸部と胴中位に二つの屈曲部を持ち、口縁部が内湾しながら外傾し、胴上部は球状に膨らみ、胴下部は円筒状を呈する。口縁上端部に連続短沈線文、頸部に横位平行沈線文とこれに沿う連続刺突文を施文する。P1163は口縁部が外傾し、胴下部が膨らむ。口縁部外面に3～4段の粘土紐の積み上げ痕跡を残す。礫石器は磨石類がある。

年代測定：AMS測定により、堆積土出土土器付着炭化物で4560±30yrBP（P1162：Ⅱ群2類）の放射性炭素年代が得られている。暦年較正年代（1σ）は5.316～5.077calBPの間に3つの範囲で示される。

機能時期：堆積土出土遺物および放射性炭素年代から、2-2期に位置付けられる。

【SK501 土坑】（第148図、写真図版81）

位置：S-15・W-10

規模：長さ1.00m、幅0.79m、面積約0.51㎡

形態：平面形は隅丸方形で、断面形は深さ0.14m程度の皿形を呈する。底面は平坦である。

堆積土：1層で、暗褐色シルトブロック、炭化物粒を含む黒色シルトである。

出土遺物：底面から縄文土器浅鉢の復元個体1点（P1164）が出土している。このほか、堆積土などからごく少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器2.3kg、石器5点、礫石器1点である。このうち、縄文土器1点（第3分冊：図版110、第4分冊：写真図版115）、石器2点（図版323、写真図版312）を図示した。縄文土器は上面観が楕円形を呈する浅鉢の略丸形個体（P1164：Ⅱ群2類）である。石器は石鎌・剥片がある。礫石器は磨石類がある。

機能時期：底面出土遺物から、2-2期に位置付けられる。

【SK511 土坑】（第148図、写真図版81）

位置：N-O-S・W-15

規模：長さ1.70m、幅1.60m、面積1.72㎡程度

形態：平面形は略円形で、断面形は深さ0.16mの逆台形を呈する。底面は平坦である。

堆積土：1層で、暗褐色土ブロックを含む黒色シルトである。

出土遺物：堆積土1層から縄文土器2個体（P1188・1189）が出土している。このほか、堆積土などからごく少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器3.0kg、石器8点、礫石器3点である。このうち、縄文土器3点（第3分冊：図版111、第4分冊：写真図版115）、石器1点（図版323、写真図版312）を図示した。縄文土器は深鉢があり、Ⅲ群1類の復元個体（P1188）、Ⅱ群2類の大型破片（P1189）が各1点ある。石器は石鎌・微細剥離ある剥片・剥片がある。礫石器は磨石類がある。

機能時期：堆積土出土遺物から、2-2期に位置付けられる。

【SK512 土坑】（第148図）

位置：S-2・W-15

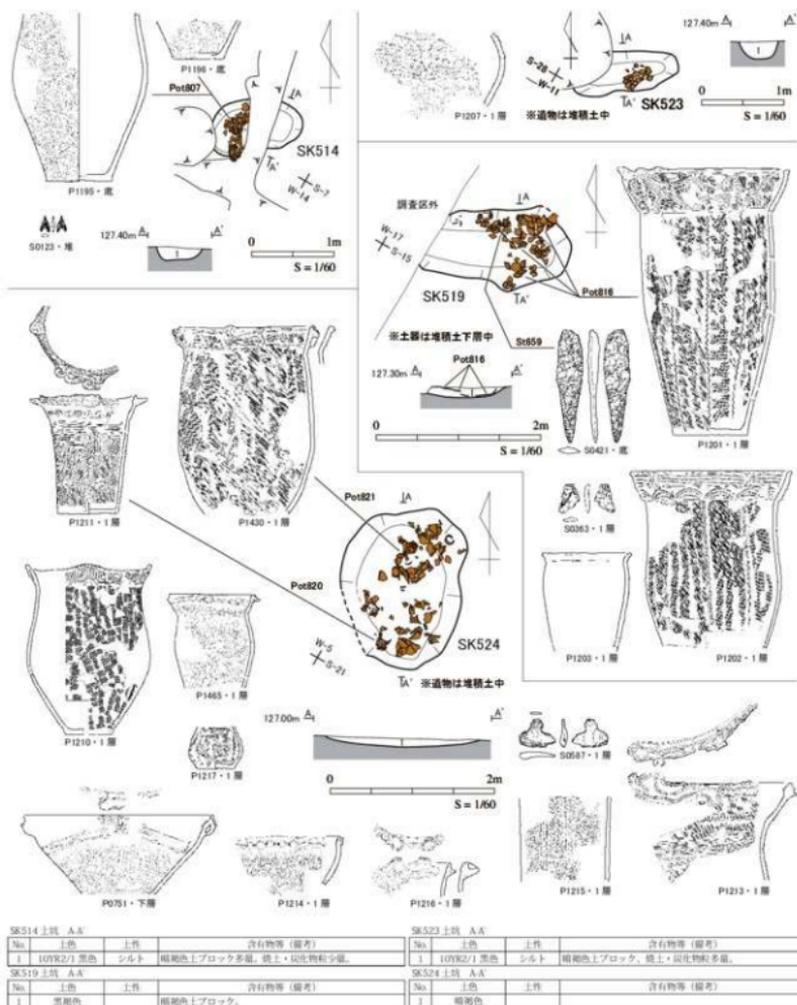
規模：長さ1.65m、幅1.18m以上、面積約1.05㎡

第3章 調査の成果

形態：平面形は不整楕円形で、断面形は深さ0.13mの皿形を呈する。底面は皿状である。

堆積土：1層で、炭化物粒を含む黒褐色土である。

出土遺物：堆積土1層から縄文土器2個体（P1191・P1192）が出土している。このほか、堆積土などからごく少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器2.5kg、石器1点、礫石器2点である。このうち、縄文土器2点（第3分冊：図版111・112、第4分冊：写真図版8・116）を図示した。縄文土器は深鉢があり、Ⅱ群2類



第149図 SK514・519・523・524土坑

(P1192)、Ⅲ群1類(P1191)で各1点の大型破片がある。石器は剥片がある。礫石器は石皿がある。

機能時期：堆積土出土遺物から、2-2期に位置付けられる。

【SK514 土坑】 (第149図, 写真図版81)

位置：S-6・W-15

規模：長さ1.06m、幅0.65m、面積約0.54㎡

形態：平面形は不整形円形で、断面形は深さ0.13mのU字形を呈する。底面は皿状である。

堆積土：1層で、暗褐色土ブロック、焼土・炭化物粒を含む黒色シルトである。

出土遺物：底面から縄文土器深鉢(P1195)、浅鉢(P1196)の大型破片各1点などが出土している。このほか、堆積土などからごく少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器3.5kg、石器1点である。このうち、縄文土器2点(第3分冊：図版113、第4分冊：写真図版117)、石器1点(図版323、写真図版312)を図示した。縄文土器は深鉢(P1195：V群2類)、浅鉢(P1196：Ⅱ群2類)の大型破片各1点がある。石器は石鏃がある。

機能時期：推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の重複関係ではSX608遺物包含層(3-1期)より新しく位置付けられる。以上より機能時期は3-1期以降と考えられる。

【SK519 土坑】 (第149図, 写真図版81・82)

位置：S-14・W-16

規模：長さ1.71m、幅1.00m、面積1.21㎡以上

形態：平面形は不整形円形で、断面形は深さ0.16mの皿形を呈する。底面は皿状である。

堆積土：1層で、暗褐色土ブロックを含む黒褐色シルトである。

出土遺物：堆積土1層から大型品を含む縄文土器深鉢の復元個体3点(P1201・1202・1203)が出土している。このほか、堆積土などから少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器12.0kg、石器5点である。このうち、縄文土器3点(第3分冊：図版115・116、第4分冊：写真図版8・118～120)、石器2点(図版323、写真図版312)を図示した。縄文土器は深鉢があり、Ⅲ群1類で大型品を含む2点(P1201・1202)、V群2類で1点(P1203)の復元個体がある。石器は尖頭器・微細剥離ある剥片・剥片がある。S0363は栃木県高野山産黒曜石製の微細剥離ある剥片である。

機能時期：堆積土出土遺物から、3-1期に位置付けられる。

【SK523 土坑】 (第149図, 写真図版82)

位置：S-27・W-11

規模：長さ1.00m、幅0.48m、面積0.50㎡以上

形態：平面形は長楕円形で、断面形は深さ0.23mの椀形を呈する。底面は皿状である。

堆積土：1層で、暗褐色土ブロック、焼土・炭化物粒を含む黒色シルトである。

出土遺物：堆積土などから少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器2.2kgである。このうち、縄文土器3点(第3分冊：図版118、第4分冊：写真図版120)を図示した。縄文土器は深鉢の破片(P1207：Ⅲ群1類など)である。

機能時期：堆積土出土遺物から、3期に位置付けられる可能性がある。

【SK524 土坑】 (第149図, 写真図版82・83)

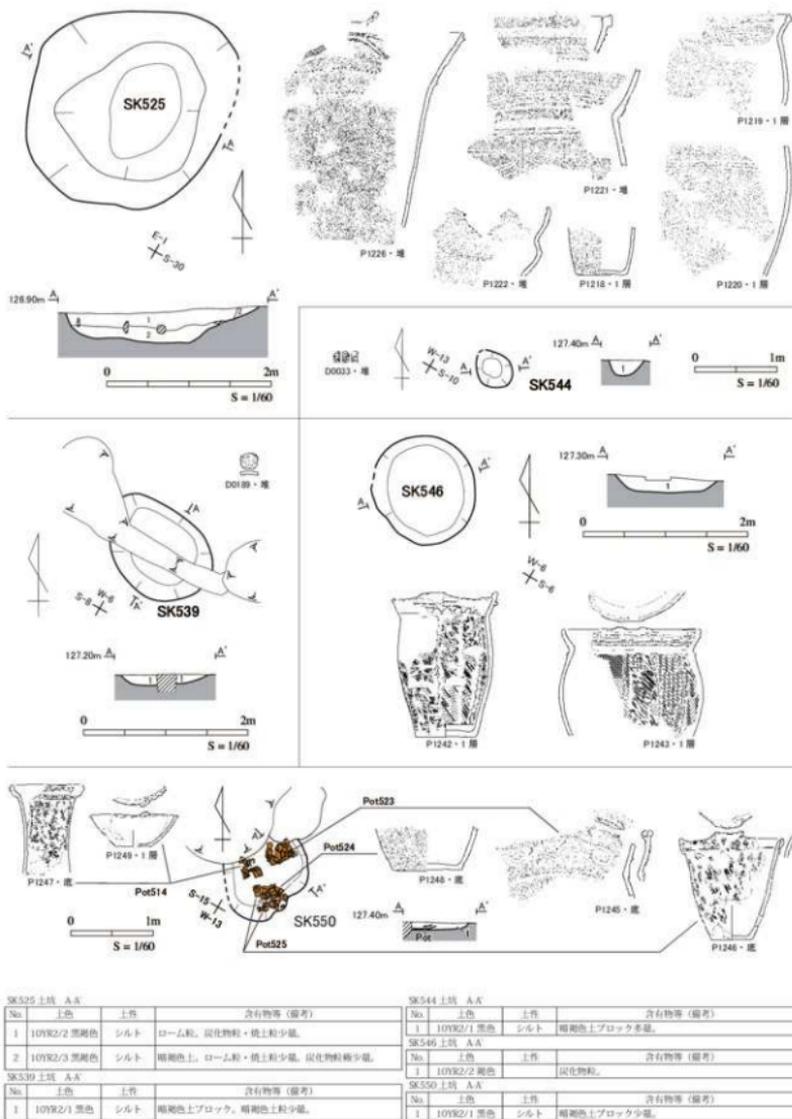
位置：S-19・W-5

規模：長さ1.92m、幅1.52m、面積約1.76㎡

形態：平面形は不整形円形で、断面形は深さ0.17mの逆台形を呈する。底面は皿状である。

堆積土：1層で、暗褐色土である。

出土遺物：堆積土1層から縄文土器深鉢4点(P1210・P1211・P1430・P1465)、浅鉢1点(P0751)、小型



第150図 SK525・539・544・546・550土坑

深鉢1点(P1217)の復元個体が出土している。このほか、堆積土などから多くの遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器14.9kg、石器21点、礫石器2点である。このうち、縄文土器13点(第3分冊:図版118~122、第4分冊:写真図版9・121~124)、石器1点(図版324、写真図版313)を図示した。縄文土器は深鉢3点(P1211・P1430・P1465)、浅鉢1点(P0751)、小型深鉢1点(P1217)の略完形・復元個体を含むIV群1類の土器が主体である。石器は石鏃・石匙・楔形石器・微細剥離ある剥片・剥片がある。礫石器は磨石類がある。

機能時期:堆積土出土遺物から、4-1期に位置付けられる。

【SK525 土坑】(第150図, 写真図版83・84)

位置:S-28・W-1

規模:長さ2.76m、幅2.44m、面積約4.62㎡

形態:平面形は略円形を呈し、断面形は深さ0.44mの逆台形を呈する。底面は平坦である。

堆積土:2層に細分される。ローム粒、暗褐色土ブロック、焼土・炭化物粒を含む黒褐色シルトである。

出土遺物:堆積土などから多くの遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器13.2kg、石器19点、礫石器9点である。このうち、縄文土器9点(第3分冊:図版122~124、第4分冊:写真図版124・125)を図示した。縄文土器は深鉢の大型破片(P1219・1221・1226:Ⅲ群1類)がある。石器は石鏃・楔形石器・微細剥離ある剥片・剥片がある。礫石器は磨石類がある。

機能時期:堆積土出土遺物から、3-2期に位置付けられる可能性がある。

【SK539 土坑】(第150図)

位置:S-6・W-6

規模:長さ1.43m、幅1.04m、面積1.06㎡程度

形態:平面形は楕円形で、断面形は深さ0.15mの皿形を呈する。底面は皿状である。

堆積土:1層で、暗褐色土ブロックを含む黒色シルトである。

出土遺物:堆積土などからごく少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器0.2kg、土製品1点、石器1点である。このうち、土製品1点(第3分冊:図版283、第4分冊:写真図版264)を図示した。土製品は土器片加工品(円盤形)がある。石器は剥片がある。

機能時期:推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の重複関係ではSX717遺物包含層(2~3期)より新しく位置付けられる。以上より機能時期は2期以降と考えられる。

【SK544 土坑】(第150図)

位置:S-9・W-13

規模:長さ0.43m、幅0.42m、面積0.20㎡程度

形態:平面形は隅丸方形で、断面形は深さ0.19mの逆台形を呈する。底面は平坦である。

堆積土:1層で、暗褐色土ブロックを含む黒色シルトである。

出土遺物:堆積土などからごく少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器0.3kg、土製品1点である。このうち、土製品1点(第3分冊:図版283、第4分冊:写真図版264)を図示した。土偶の中型品の一部(D0033)で、脚部に押引による横位集合沈線を施文する。

機能時期:推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の重複関係ではSX717遺物包含層(2~3期)より新しく位置付けられる。以上より機能時期は2期以降と考えられる。

【SK546 土坑】(第150図)

位置:S-5・W-8

規模:長さ1.31m、幅1.25m、面積1.17㎡程度

形態:平面形は円形で、断面形は深さ0.18mの逆台形を呈する。底面は平坦である。

第3章 調査の成果

堆積土：1層で、炭化物粒を含む褐色土である。

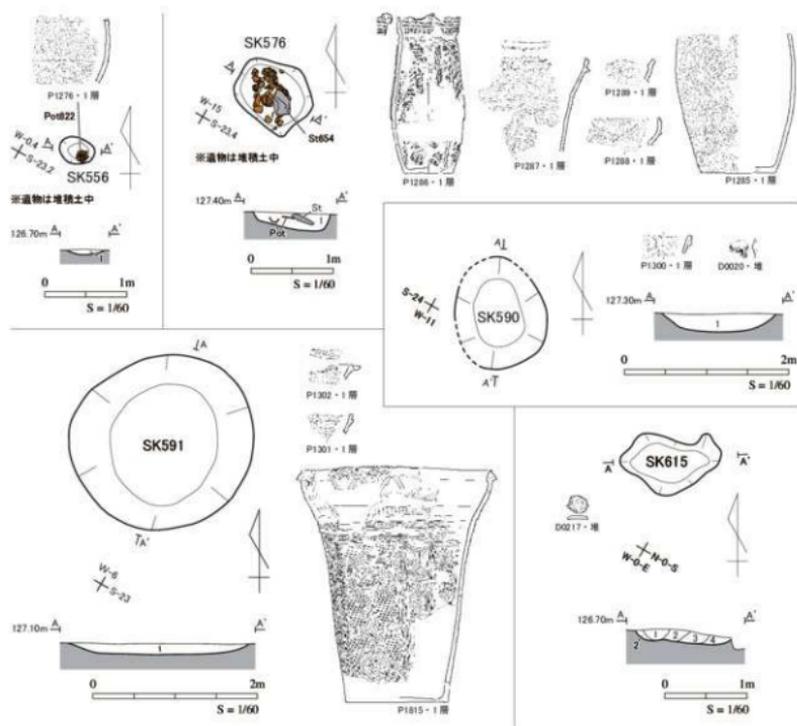
出土遺物：堆積土などから少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器4.1kg、石器6点である。このうち、縄文土器3点（第3分冊：図版126、第4分冊：写真図版9・126・127）を図示した。縄文土器は深鉢があり、深鉢の略完形・復元個体2点（P1242・1243）を含むⅢ群1類の土器である。石器は楔形石器・不定形石器・剥片がある。その他、焼骨（イノシシ・哺乳類）が出土している。

機能時期：堆積土出土遺物から、3-1期に位置付けられる。

【SK550 土坑】（第150図、写真図版84）

位置：S-14・W-11

規模：長さ1.86m以上、幅2.04m、面積0.70m以上



SK556 土坑 A-A'				SK591 土坑 A-A'			
No.	土色	土性	含有物等(備考)	No.	土色	土性	含有物等(備考)
1	10YR2/2 黒褐色	シルト		1	10YR2/1 黒色		暗褐色土ブロック少量。
SK576 土坑 A-A'				SK615 土坑 A-A'			
No.	土色	土性	含有物等(備考)	No.	土色	土性	含有物等(備考)
1	10YR2/1 黒色	シルト	暗褐色土ブロック。	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	褐色(7.5YR4/6) 焼土ブロック多量、炭化物粒。
SK590 土坑 A-A'				SK591 土坑 A-A'			
No.	土色	土性	含有物等(備考)	No.	土色	土性	含有物等(備考)
1	10YR2/3 黄褐色	シルト	焼土粒少量、炭化物粒微量。	2	10YR2/3 黄褐色	シルト	焼土粒少量、炭化物粒微量。
1	10YR2/3 黄褐色	シルト	焼土粒少量。	3	10YR2/3 黄褐色	シルト	焼土粒少量。
1	10YR2/1 黒色	シルト	暗褐色土ブロック・粒少量。	4	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・焼土粒少量。

第151図 SK556・576・590・591・615土坑

形態：平面形は不整楕円形で、断面形は深さ0.11mの皿形を呈する。底面は平坦である。

堆積土：1層で、暗褐色土ブロックを含む黒色シルトである。

出土遺物：底面から縄文土器深鉢の復元個体2点（P1246・1247）、底部1点（P1248）、大型破片1点（P1245）などが出土している。このほか、堆積土などから少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器4.9kg、石器3点、礫石器3点である。このうち、縄文土器5点（第3分冊：図版126・127、第4分冊：写真図版10・127）を図示した。縄文土器は深鉢・浅鉢があり、深鉢の復元個体2点（P1246・1247）を含むⅢ群1類の土器が主体である。石器は二次加工ある剥片・剥片がある。礫石器は磨石類・敲石がある。

機能時期：底面出土遺物から、3-2期に位置付けられる。

【SK556 土坑】（第151図、写真図版85）

位置：S-22・W-0-E

規模：長さ0.42m、幅0.32m、面積約0.13㎡

形態：平面形は楕円形で、断面形は深さ0.07mの皿形を呈する。底面は皿状を呈する。

堆積土：1層で、黒褐色シルトである。

出土遺物：堆積土などから少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器0.6kg、礫石器6点である。このうち、縄文土器1点（第3分冊：図版128、第4分冊：写真図版128）を図示した。縄文土器は深鉢の破片（P1276：Ⅱ群1類）である。礫石器は敲石・磨石類がある。

機能時期：推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の重複関係ではSX2 竅穴状遺構（4-1期）より新しく位置付けられる。以上より機能時期は4-1期以降と考えられる。

【SK576 土坑】（第151図、写真図版85）

位置：S-22・W-15

規模：長さ0.97m、幅0.40m、面積約0.47㎡

形態：平面形は不整形で、断面形は深さ0.15mの逆台形を呈する。底面は皿状である。

堆積土：1層で、暗褐色土ブロックを含む黒色シルトである。

出土遺物：堆積土1層から縄文土器深鉢の復元個体1点（P1286）などが出土している。このほか、堆積土などから少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器5.0kg、石器3点、礫石器1点である。このうち、縄文土器5点（第3分冊：図版129、第4分冊：写真図版129）を図示した。縄文土器は深鉢で、Ⅱ群1類の復元個体1点がある。石器は二次加工ある剥片・剥片がある。礫石器は石皿がある。

機能時期：堆積土出土遺物から、2-2期に位置付けられる。

【SK590 土坑】（第151図）

位置：S-23・W-11

規模：長さ1.31m、幅1.11m、面積約0.91㎡

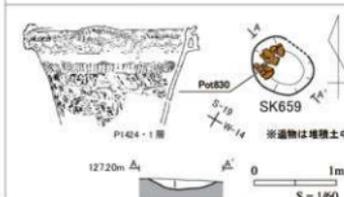
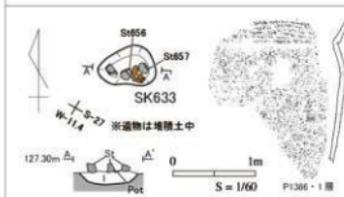
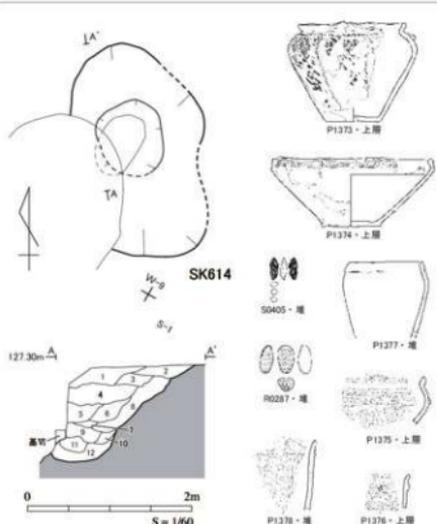
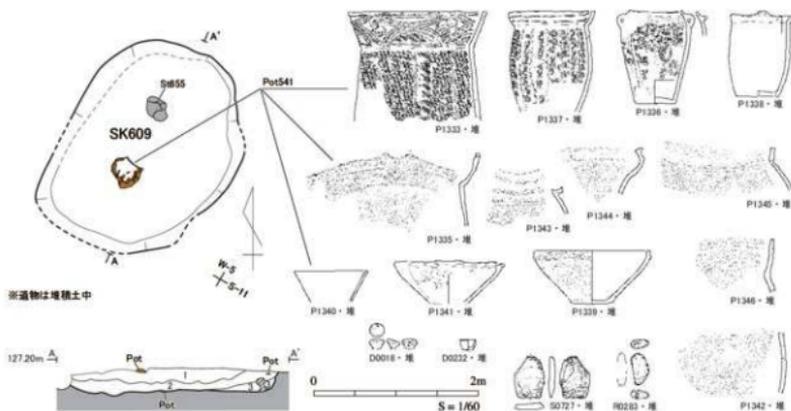
形態：平面形は楕円形で、断面形は深さ0.29mの皿形を呈する。底面は皿状である。

堆積土：1層で、暗褐色土ブロックを含む黒色シルトである。

出土遺物：堆積土などから少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器1.7kg、土製品1点、石器13点、礫石器2点である。このうち、縄文土器1点（第3分冊：図版130、第4分冊：写真図版130）、土製品1点（図版283、写真図版265）を図示した。縄文土器は深鉢の破片である。土製品は土偶で、中型品の臀部の一部（D0020）である。横位集合沈線文、渦巻状沈線文が見られる。石器は石匙・楔形石器・二次加工ある剥片・微細剥離ある剥片・剥片がある。礫石器は磨石類がある。

機能時期：推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の重複関係ではSX610 遺物包含層（3～4期）より新しく位置付けられる。以上より機能時期は3期以降と考えられる。

第3章 調査の成果



SK609 土坑 A-A'			
No.	土色	土質	含有物等(備考)
1	10YR2/3 黒褐色	シルト	焼土粒少量、ローム粒、炭化物粒、焼骨片少量。
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	焼土粒少量、ローム粒、炭化物粒、焼骨片少量。
3	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム、炭化物粒少量。
SK614 土坑 A-A'			
No.	土色	土質	含有物等(備考)
1	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒・炭化物粒多量、ロームブロック少量。
2	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物粒多量、ローム粒・焼土ブロック。
3	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム粒・炭化物粒。
4	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒・炭化物粒少量。
5	10YR4/4 褐色	粘質シルト	ロームブロック多量。
6	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒・炭化物粒、焼土粒少量。
7	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒多量、炭化物粒少量。
8	10YR3/3 暗褐色	シルト	黒褐色シルトブロック多量、ローム粒・炭化物粒。
SK625 土坑 A-A'			
No.	土色	土質	含有物等(備考)
9	10YR2/3 黒褐色	シルト	暗褐色シルトブロック多量、炭化物粒・焼土粒少量。
10	10YR3/3 暗褐色	シルト	ロームブロック多量。
11	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック多量。
12	10YR4/6 褐色	粘質シルト	ロームブロック多量。
SK633 土坑 A-A'			
No.	土色	土質	含有物等(備考)
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	暗褐色土ブロック、ローム粒・炭化物粒、焼骨片少量。(人高)
SK659 土坑 A-A'			
No.	土色	土質	含有物等(備考)
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ロームブロック・炭化物粒。
SK659 土坑 A-A'			
No.	土色	土質	含有物等(備考)
1	10YR3/1 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒少量。

第152図 SK609・614・625・633・659土坑

【SK591 土坑】 (第151図)

位置：S-21・W-7

規模：長さ2.24m、幅2.06m、面積約3.42㎡

形態：平面形は略円形で、断面形は深さ0.13mの皿形を呈する。底面は平坦である。

堆積土：1層で、暗褐色土ブロックを含む黒色シルトである。

出土遺物：堆積土1層から大型の縄文土器深鉢の復元個体1点(P1815)が出土している。このほか、堆積土などから少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器3.6kg、石器11点、礫石器1点である。このうち、縄文土器3点(第3分冊：図版131、第4分冊：写真図版131・132)を図示した。縄文土器は大型の深鉢(P1815：Ⅳ群1類)がある。石器は楔形石器・磨製石斧・不定形石器・剥片がある。礫石器は磨石類がある。

機能時期：堆積土出土遺物から、4-2期に位置付けられる。

【SK609 土坑】 (第152図、写真図版85)

位置：S-10・W-7

規模：長さ2.69m程度、幅2.06m、面積約4.01㎡

形態：平面形は不整楕円形で、断面形は深さ0.32mの逆台形を呈する。底面は平坦である。

堆積土：3層に細分される。ローム・焼土粒、炭化物・焼骨片を含む黒褐色シルトである。

出土遺物：堆積土から縄文土器深鉢5点(P1333・1336・1337・P1338・1775)、浅鉢2点(P1339・1341)の略完形・復元個体が出土している。このほか、堆積土などから多くの遺物が出土している。

遺物の数量は縄文土器19.6kg、土製品2点、石器83点、礫石器13点である。このうち、縄文土器20点(第3分冊：図版133～135、第4分冊：写真図版10・134～136)、土製品2点(図版283、写真図版265)、石器1点(図版324、写真図版313)、礫石器1点(図版416、写真図版434)を図示した。

縄文土器は深鉢・浅鉢・小型浅鉢があり、深鉢3点(P1333・1336・1337・P1338)、浅鉢2点(P1339・1341)の復元個体を含むⅢ群1類の土器が主体である。土製品は土偶・ミニチュア土器がある。土偶は中型品の頭部(D0018)である。石器は石鏃・石鎌・楔形石器・両面加工石器・二次加工ある剥片・微細剥離ある剥片・剥片がある。礫石器は石皿・敲石・磨石類がある。その他、焼成粘土塊1点(写真図版284)・焼骨(哺乳類)・炭化材(マツ属複雑管束亜属)が出土している。

機能時期：堆積土出土遺物から、3-1期に位置付けられる。

【SK614 土坑】 (第152図、写真図版86)

位置：N-1・W-11

規模：長さ軸2.60m、幅1.58m、面積約2.76㎡

形態：平面形は楕円形を呈するとみられる。断面形は深さ1.13mの漏斗形を呈する。底面は皿状である。

堆積土：12層に細分される。ロームブロック、黒褐色・暗褐色シルトブロック、焼土ブロック、炭化物片を含む黒褐色・暗褐色・褐色シルト・粘質シルトである。

出土遺物：堆積土から縄文土器深鉢2点(P1373・P1374)、浅鉢1点(P1377)の復元個体などが出土している。

遺物の数量は縄文土器4.1kg、石器7点、礫石器7点である。このうち、縄文土器8点(第3分冊：図版136、第4分冊：写真図版11・137)、石器1点(図版324、写真図版314)、礫石器1点(図版416、写真図版434)を図示した。

縄文土器は深鉢・浅鉢があり、深鉢の復元個体1点(P1373)を含むⅡ群1・2類の土器が主体である。なお、Ⅲ群1類として分類した浅鉢の復元個体1点(P1374)も出土状況からほぼ同時期のものと考えられる。石器は石鏃・剥片がある。礫石器は敲石・磨石類がある。その他、縄文土器深鉢(P1374)で堅果類の圧痕を確認した。

第3章 調査の成果

機能時期：堆積土出土遺物から、2-2期に位置付けられる。

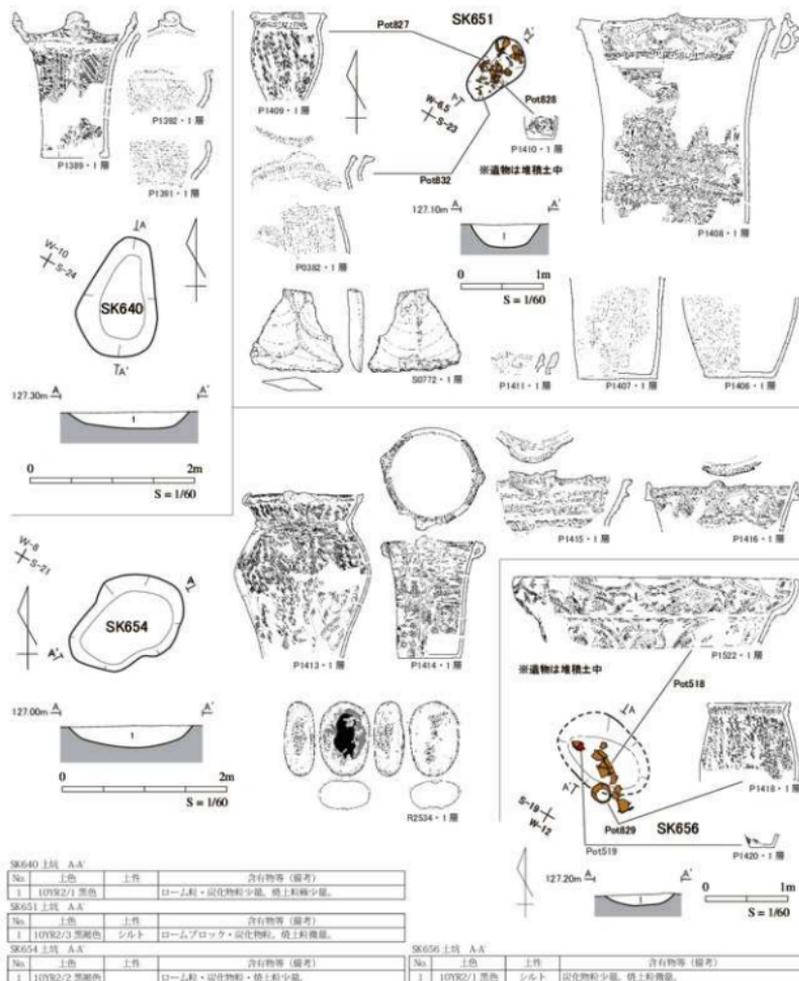
【SK615土坑】(第151図)

位置：N-2・W-1

規模：長さ1.28m、幅0.74m、面積約0.54㎡

形態：平面形は不整楕円形で、断面形は深さ0.16mの皿形を呈する。底面は平坦で東部に凹部を持つ。

堆積土：4層に細分される。ローム粒、焼土ブロック、炭化物粒を含む黒褐色シルトである。



第153図 SK640・651・654・656土坑

出土遺物: 堆積土などからごく少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器 0.3kg、土製品 1点、石器 2点、礫石器 1点である。このうち、土製品 1点（第3分冊：図版 283、第4分冊：写真図版 265）を図示した。土製品は土器片加工品（円盤形）である。石器は剥片がある。礫石器は磨石類がある。

機能時期: 推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の重複関係ではSB740掘立柱建物跡（2期以前）より古く位置付けられる。

【SK625 土坑】（第152図）

位置: S-1・W-7

規模: 長さ 0.35m、幅 0.32m、面積約 0.13㎡

形態: 平面形は略円形で、断面形は深さ 0.13m の逆台形を呈する。底面は平坦である。

堆積土: 1層で、ローム粒、暗褐色土ブロック、炭化物粒、焼骨片を含む黒褐色土である。

出土遺物: 堆積土などからごく少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器 0.04kg、礫石器 2点である。

図示した遺物はない。礫石器は石皿・磨石類がある。

機能時期: 推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の重複関係ではSB611掘立柱建物跡（4-2期）より新しく位置付けられる。以上より機能時期は4-2期以降と考えられる。

【SK633 土坑】（第152図）

位置: S-26・W-12

規模: 長さ 1.34m、幅 1.01m、面積約 0.26㎡

形態: 平面形は不整楕円形で、断面形は深さ 0.17m の逆台形を呈する。底面は皿状である。

堆積土: 1層で、ロームブロック、炭化物粒を含む黒褐色シルトである。

出土遺物: 堆積土などから少量の遺物が出土している。

遺物の数量は縄文土器 1.1kg、礫石器 2点、石製品 1点である。このうち、縄文土器 1点（第3分冊：図版 137、第4分冊：写真図版 138）、石製品 1点（図版 451、写真図版 462）を図示した。

縄文土器は深鉢の大型破片である。礫石器は石皿・磨石類がある。石製品は有頭石棒の軸部（Q0070）で、SK40 フラスコ状土坑底面出土の頭部（Q0001）、SX717 遺物包含層出土の軸部下端部（Q0069）と接合関係を持つ。デイサイトの柱状節理礫を素材として敲打による入念な整形加工を施し、長さ 37.7cm、幅 10.8cm、厚さ 9.6cm で頭部は中位で括れる鼓形を呈する。

機能時期: 推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の重複関係ではSX610 遺物包含層（3～4期）より古く位置付けられる。以上より機能時期は4期以前と考えられる。

【SK640 土坑】（第153図）

位置: S-24・W-9

規模: 長さ 1.47m、幅 1.00m、面積約 0.87㎡

形態: 平面形は不整楕円形で、断面形は深さ 0.20m の逆台形を呈する。底面は皿状である。

堆積土: 1層で、ローム・焼土・炭化物粒を含む黒色土である。

出土遺物: 堆積土 1層から縄文土器深鉢の復元個体 1点（P1389）が出土している。このほか、堆積土などから少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器 4.2kg、石器 6点、礫石器 1点である。このうち、縄文土器 4点（第3分冊：図版 138、第4分冊：写真図版 139）を図示した。縄文土器は深鉢の復元個体 1点（P1389：Ⅱ群2類）がある。石器は二次加工ある剥片・剥片がある。礫石器は磨石類がある。

年代測定: AMS測定により、堆積土 1層出土土器付着炭化物で 4.580 ± 30yrBP（P1389：Ⅱ群2類）の放射性炭素年代が得られている。暦年較正年代（1σ）は 5.436 ~ 5.093calBP の間に 4つの範囲で示される。

機能時期: 堆積土出土遺物および放射性炭素年代から、2-2期に位置付けられる。

【SK651 土坑】 (第153図, 写真図版86)

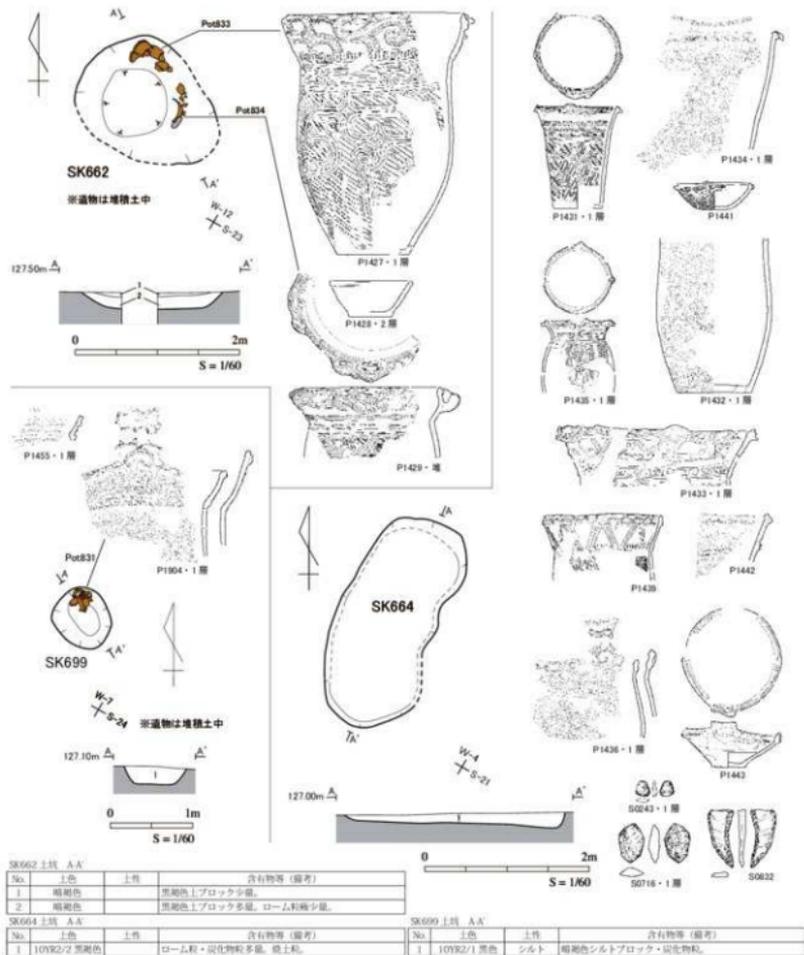
位置: S-22・W-7

規模: 長さ0.85m、幅0.50m、面積約0.35㎡

形態: 平面形は楕円形で、断面形は深さ0.28mの逆台形を呈する。底面は皿状である。

堆積土: 1層で、ロームブロック、焼土・炭化物粒を含む黒褐色シルトである。

出土遺物: 堆積土1層から大型の縄文土器深鉢1点 (P1408)、深鉢1点 (P1409)、大型破片3点 (P0382・1406・1407) などが出土している。このほか、堆積土などから少量の遺物が出土している。遺物の数量は繩



第154図 SK662・664・699土坑

文土器 6.6kg、石器 7点、礫石器 4点である。このうち、縄文土器 7点（第3分冊：図版140・141、第4分冊：写真図版140・141）、石器 1点（図版325、写真図版314）を図示した。縄文土器は深鉢・小型深鉢があり、大型の深鉢（P1408）、深鉢（P1409）の復元個体を含むIV群1類の土器である。石器は楔形石器・不定形石器・微細剥離ある剥片・剥片がある。礫石器は石皿・磨石類がある。

機能時期：堆積土出土遺物から、4-2期に位置付けられる。

【SK654 土坑】（第153図）

位置：S-21・W-7

規模：長さ1.28m、幅1.05m、面積約1.08㎡

形態：平面形は不整楕円形で、断面形は深さ0.28mの皿形を呈する。底面は皿状である。

堆積土：1層で、ローム・焼土・炭化物粒を含む黒褐色土である。

出土遺物：堆積土1層から縄文土器深鉢の復元個体2点（P1413・1414）、口縁部1点（P1416）が出土している。このほか、堆積土などから少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器5.8kg、石器5点、礫石器3点である。このうち、縄文土器4点（第3分冊：図版141・142、第4分冊：写真図版141・142）、礫石器1点（図版417、写真図版435）を図示した。縄文土器は深鉢があり、復元個体2点（P1413・1414）を含むIV群1類の土器である。石器は磨製石斧・剥片がある。礫石器は磨石類・有溝砥石がある。

その他、縄文土器深鉢（P1415）で堅果類の圧痕を確認した。

機能時期：堆積土出土遺物から、4-2期に位置付けられる。

【SK656 土坑】（第153図、写真図版86）

位置：S-18・W-12

規模：長さ1.20m程度、幅0.82m、面積約0.59㎡

形態：平面形は楕円形を呈するとみられる。断面形は深さ0.11mの皿形を呈する。底面は皿状である。

堆積土：1層で、焼土・炭化物粒を含む黒色シルトである。

出土遺物：堆積土1層から大型の縄文土器深鉢の口縁部1点（P1522）、深鉢の復元個体1点（P1418）が出土している。このほか、堆積土などから少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器5.2kg、土製品1点、石器3点、礫石器1点である。このうち、縄文土器4点（第3分冊：図版143、第4分冊：写真図版143）、土製品1点（図版283、写真図版265）を図示した。縄文土器は深鉢・小型深鉢があり、III群1類の大型深鉢の口縁部1点（P1522）、深鉢の復元個体1点（P1418）がある。土製品は土器片加工品（円盤形）がある。石器は剥片がある。礫石器は磨石類がある。

機能時期：堆積土出土遺物から、3-1期に位置付けられる。

【SK659 土坑】（第152図、写真図版86）

位置：S-17・W-14

規模：長さ0.80m、幅0.64m、面積0.32㎡以上

形態：平面形は楕円形で、断面形は深さ0.12mの皿形を呈する。底面は平坦である。

堆積土：ローム・炭化物粒を含む黒褐色シルトである。

出土遺物：堆積土などから少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器2.0kgである。このうち、縄文土器3点（第3分冊：図版144、第4分冊：写真図版144）を図示した。縄文土器は深鉢の大型破片（P1424：IV群1類）がある。

機能時期：堆積土出土遺物から、4-1期に位置付けられる可能性がある。

【SK662 土坑】（第154図、写真図版86）

位置：S-22・W-14

第3章 調査の成果

規模：長さ1.85m程度、幅1.43m程度、面積1.80㎡以上

形態：平面形は楕円形を呈するとみられる。深さ0.22mである。底面は平坦である。

堆積土：2層に細分される。黒褐色土ブロック、ローム粒を含む暗褐色シルトである。

出土遺物：堆積土1層から大型の縄文土器深鉢1点（P1427）、堆積土2層から浅鉢1点（P1428）の復元個体が出土している。このほか、堆積土などから少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器3.8kg、石器6点、礫石器2点である。このうち、縄文土器3点（第3分冊：図版145、第4分冊：写真図版12・145・146）を図示した。縄文土器は深鉢・浅鉢があり、IV群1類の大型深鉢の復元個体1点（P1427）、深鉢の大型破片1点（P1429）がある。石器は楔形石器・打製石斧・剥片がある。礫石器は磨石類がある。

機能時期：堆積土出土遺物から、4-2期に位置付けられる。

【SK664 土坑】（第154図、写真図版87）

位置：S-19・W-6

規模：長さ2.66m、幅1.20m、面積2.55㎡以上

形態：平面形は楕円形で、断面形は深さ0.20mの逆台形を呈する。底面は平坦である。

堆積土：1層で、ローム・炭化物・焼土粒を含む黒褐色土である。

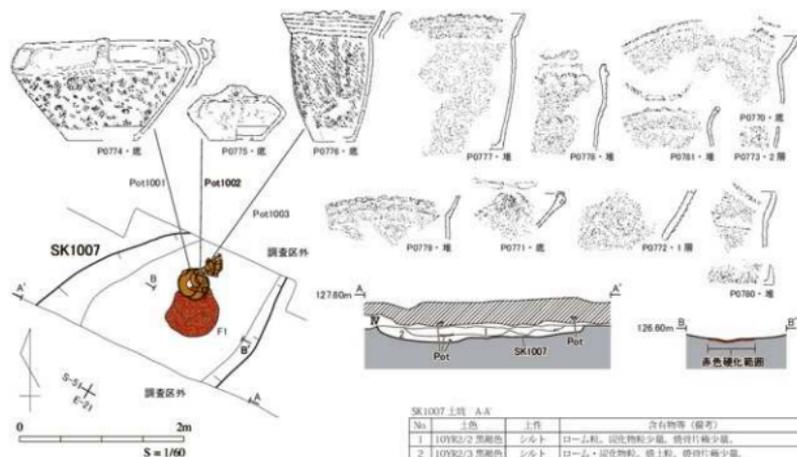
出土遺物：堆積土などから縄文土器深鉢の復元個体3点（P1431・1432・1435）、口縁部2点（P1433・1439）、底部1点（P1440）、浅鉢の復元個体2点（P1441・1443）など多くの遺物が出土している。

遺物の数量は縄文土器13.6kg、石器26点、礫石器7点である。このうち、縄文土器13点（第3分冊：図版146～148、第4分冊：写真図版12・147～149）、石器3点（図版326、写真図315）を図示した。

縄文土器は深鉢・浅鉢・小型浅鉢があり、深鉢（P1431・1435）、浅鉢（P1441・1443）の略完形・復元個体各2点を含むIV群1類の土器が主体である。石器は石織・楔形石器・不定形石器・二次加工ある剥片・剥片がある。礫石器は磨石類がある。その他、焼成粘土塊2点（写真図版284）が出土している。

機能時期：堆積土出土遺物から、4-2期に位置付けられる。

【SK699 土坑】（第154図）



第155図 SK1007土坑

位置：S-23・W-8

規模：長さ0.73m、幅0.64m、面積約0.32㎡

形態：平面形は楕円形で、断面形は深さ0.21mの逆台形を呈する。底面は平坦である。

堆積土：1層で、暗褐色シルトブロック、炭化物粒を含む黒色シルトである。

出土遺物：堆積土などから少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器1.2kg、石器1点、礫石器2点である。このうち、縄文土器2点（第3分冊：図版149、第4分冊：写真図版150）を図示した。縄文土器は深鉢の破片（P1904：Ⅲ群1類）がある。石器は剥片がある。礫石器は磨石類がある。

機能時期：堆積土出土遺物から、3-2期に位置付けられる可能性がある。

【SK1007土坑】（第155図、写真図版87・88）

位置：S-49・E-21

規模：長さ1.72m以上、幅1.98m、面積2.80㎡以上

形態：平面形は楕円形を呈するとみられる。断面形は深さ0.17mの不整逆台形を呈する。底面は平坦で、一部皿状に窪む。底面の中央部に地床炉1基がある。

炉跡：地床炉1基（F1）がある。炉底面は浅く皿状に窪む。長軸65cm、短軸60cmの略円形の赤色硬化範囲を確認した。被熱深度は約7cmである。

堆積土：2層に細分される。ローム粒、炭化物・焼土粒、焼骨片を含む黒褐色シルトである。

出土遺物：底面から縄文土器深鉢1点（P0776）、浅鉢2点（P0774・0775）の略完形・復元個体が出土している。このほか、堆積土などから多くの遺物が出土している。

遺物の数量は縄文土器13.0kg、石器14点、礫石器4点である。このうち、縄文土器17点（第3分冊：図版152～154、第4分冊：写真図版13・153～155）を図示した。

縄文土器は深鉢・浅鉢があり、深鉢の復元個体1点（P0776）、大型破片2点（P0770・0777）、浅鉢の復元個体1点（P0774）を含むⅢ群1・2類の土器が主体である。石器は不定形石器・剥片がある。礫石器は磨石・磨石類がある。その他、焼成粘土塊1点（写真図版284）が出土している。

機能時期：底面出土遺物から、3-1期に位置付けられる。

9. 配石遺構

1か所確認した。調査区南西部に位置する。最大長40～50cm、厚さ20cm前後の扁平な円礫を長さ1.62m、幅0.68mの線状に配置し、重複する9基の土坑を伴う。配石・土坑ともにまとまった遺物の出土は見られない。以下、詳述する。

【SX739配石遺構】（第156・157図、写真図版90・91）

位置：S-24・W-7

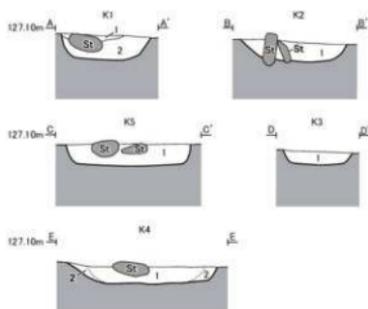
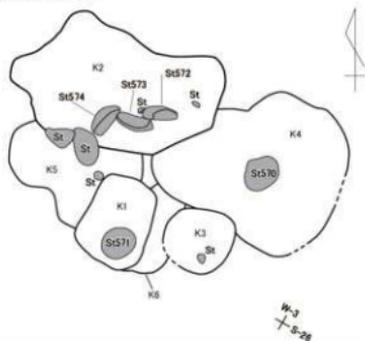
規模：長さ1.62m、幅0.68m、高さ0.30m

形態：最大長40～50cm、最大厚20cm前後の扁平な円礫5個を線状に配置し、やや離れて同様の円礫各1個を単独で配置する。石材は安山岩・花崗岩の河床礫である。これらの配石と重複して土坑9基（K1～K9）を確認した。線状配置の石材はK2土坑底面の南壁に沿って立位で配置し、単独配置の石材はK1・4土坑の堆積土上層に倒位でそれぞれ配置する。

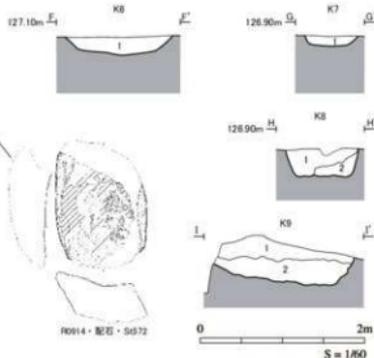
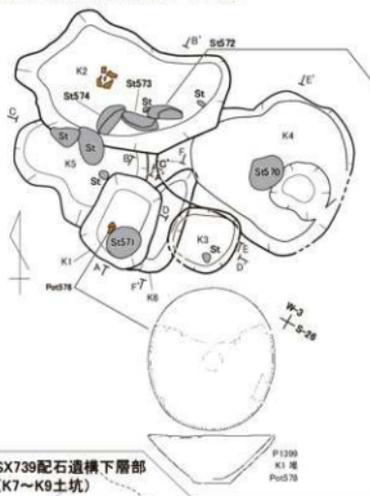
出土遺物：K2土坑底面に線状配置された石材5点のうち3点（St572：R0914、St573：R4484、St574：R0938）、K1・4土坑堆積土上層にそれぞれ単独配置された2点（St570：R0939、St571：R4443）が礫石器（石皿）である。このうち1点（R0914、第3分冊：図版329、第4分冊：写真図版157・158）を図示した。

形成時期：後述する各土坑の底面・堆積土出土遺物から、3-2期に位置付けられる。

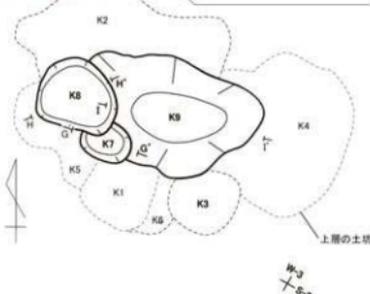
SX739配石遺構



SX739配石遺構上層部 (K1~K6土坑)



SX739配石遺構下層部 (K7~K9土坑)



SX739 配石遺構 K1 A-A'			含有物等 (備考)
No.	土層	土質	
1	10YR2/1 黒色	シルト	ロームブロック・粘土。炭化物粒少量。
2	10YR3/1 黒褐色	シルト	ロームブロック・粘土。炭化物粒少量。
SX739 配石遺構 K2 B-B'			
No.	土層	土質	含有物等 (備考)
1	黒褐色		
SX739 配石遺構 K5 C-C'			
No.	土層	土質	含有物等 (備考)
1	黒褐色		
SX739 配石遺構 K3 D-D'			含有物等 (備考)
No.	土層	土質	
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	黒色土ブロック・ローム粒。炭化物・焼土粒少量。
SX739 配石遺構 K4 E-E'			
No.	土層	土質	含有物等 (備考)
1	10YR2/1 黒色	シルト	ローム・炭化物粒少量。
2	10YR2/2 黒褐色	シルト	
SX739 配石遺構 K6 F-F'			
No.	土層	土質	含有物等 (備考)
1	10YR2/1 黒褐色	シルト	炭化物粒。ローム・焼土粒少量。
SX739 配石遺構 K7 G-G'			
No.	土層	土質	含有物等 (備考)
1	10YR2/1 黒色	シルト	黒褐色土ブロック・炭化物粒。焼土粒少量。
SX739 配石遺構 K8 H-H'			
No.	土層	土質	含有物等 (備考)
1	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒。暗褐色シルトブロック。
2	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム・炭化物粒。
SX739 配石遺構 K9 I-I'			含有物等 (備考)
No.	土層	土質	
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒。
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・焼土・炭化物粒。

第156図 SX739配石遺構(1)

〔K1土坑〕(第156・157図, 写真図版90・91)

位置: S-25・W-6

規模: 長さ1.09m, 幅0.87m

形態: 平面形は隅丸方形で断面形は深さ0.32mの逆台形を呈する。底面は平坦である。

堆積土: 2層に細分される。ロームブロック、炭化物粒を含む黒色・黒褐色シルトである。

出土遺物: 堆積土上層に石材1点を配置する。石材は扁平な円礫を素材とした礫石器(石皿, St571: R4443)である。このほか、堆積土などからごく少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器1.7kg、石器2点、礫石器2点である。このうち、縄文土器2点(第3分冊: 図版156, 第4分冊: 写真図版157)を図示した。縄文土器は深鉢・浅鉢があり、上面観が楕円形を呈する浅鉢の復元個体1点(P1399: V群2類)がある。石器は剥片である。礫石器は石皿・磨石類がある。

形成時期: 推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の重複関係ではSX739-K6土坑(3-2期?)より新しく、SX610遺物包含層(3~4期)より古く位置付けられる。

〔K2土坑〕(第156・157図, 写真図版90・91)

位置: S-24・W-7

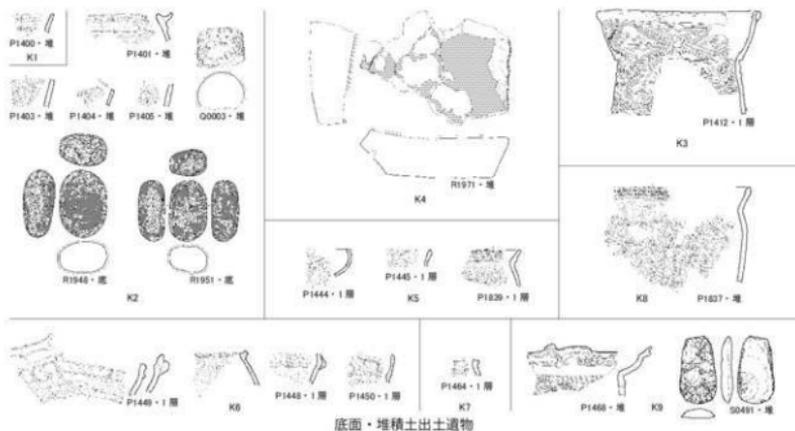
規模: 長さ2.56m, 幅1.51m

形態: 平面形は不整長楕円形で、断面形は深さ0.35mの逆台形を呈する。底面は平坦である。

堆積土: 1層で、黒褐色土である。

出土遺物: 底面に石材5点を線状に配置する。石材は扁平な円礫で、このうち3点が礫石器(石皿, St572: R0914, St573: R4484, St574: R0938)である。このほか、堆積土などから少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器5.7kg、石器5点、礫石器20点、石製品1点である。このうち、縄文土器4点(第3分冊: 図版156, 第4分冊: 写真図版157)、礫石器2点(図版419, 写真図版437)、石製品1点(図版455, 写真図版466)を図示した。縄文土器は深鉢の破片(P1401: III群1類など)である。石器は不定形石器、剥片がある。礫石器は石皿・敲石・磨石類がある。石製品は石棒(Q0003)で、敲打による人込な整形加工を施す。

形成時期: 底面・堆積土出土遺物から、3期に位置付けられる可能性がある。



底面・堆積土出土遺物

第157図 SX739配石遺構(2)

[K3 土坑] (第156・157図, 写真図版90・91)

位置: S-25・W-5

規模: 長さ0.84m, 幅0.78m

形態: 平面形は略円形で、断面形は深さ0.17mの逆台形を呈する。底面は皿状である。

堆積土: 1層で、黒色土ブロック、ローム・焼土・炭化物粒を含む黒褐色シルトである。

出土遺物: 堆積土などから少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器2.5kg、石器2点、礫石器1点である。このうち、縄文土器1点(第3分冊: 図版156, 第4分冊: 写真図版157)を図示した。縄文土器は深鉢の大型破片(P1412: III群1類)がある。石器は不定形石器、二次加工ある剥片がある。礫石器は敲石がある。

形成時期: 堆積土出土遺物から、3-2期に位置付けられる。

[K4 土坑] (第156・157図, 写真図版90・91)

位置: S-24・W-5

規模: 長さ2.37m, 幅2.20m

形態: 平面形は不整楕円形で、断面形は深さ0.29mの逆台形を呈する。底面は平坦である。

堆積土: 2層に細分される。ローム・炭化物粒を含む黒色・黒褐色シルトである。

出土遺物: 堆積土上層に石材1点を配置する。石材は扁平な円礫を素材とした礫石器(石皿, St570: R0939)である。このほか、堆積土などから少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器2.1kg、石器3点、礫石器9点である。このうち、礫石器1点(第3分冊: 図版420, 第4分冊: 写真図版437)を図示した。石器は二次加工ある剥片、剥片がある。礫石器は石皿・磨石類がある。

形成時期: 推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の重複関係ではSX739-K6土坑(3-2期?)より新しく、同K3土坑(3-2期)より古く位置付けられる。

[K5 土坑] (第156・157図, 写真図版90・91)

位置: S-25・W-7

規模: 長さ1.64m, 幅1.00m以上

形態: 平面形は不整楕円形で、断面形は深さ0.42mの逆台形を呈する。底面は皿状である。

堆積土: 1層で、黒褐色土である。

出土遺物: 堆積土などから少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器2.8kg、石器2点である。このうち、縄文土器3点(第3分冊: 図版156・157, 第4分冊: 写真図版157)を図示した。縄文土器は深鉢・浅鉢の破片である。石器は二次加工ある剥片、剥片がある。

形成時期: 推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の重複関係ではSX739-K8土坑(3期?)より新しく、同K2土坑(3期?)より古く位置付けられる。

[K6 土坑] (第156・157図, 写真図版90・91)

位置: S-25・W-5

規模: 長さ1.39m, 幅0.32m程度

形態: 平面形は不整楕円形で、断面形は深さ0.24mの逆台形を呈する。底面は皿状である。

堆積土: 1層で、ローム・焼土・炭化物粒を含む黒褐色シルトである。

出土遺物: 堆積土などからごく少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器0.9kg、礫石器2点である。このうち、縄文土器3点(第3分冊: 図版157, 第4分冊: 写真図版158)を図示した。縄文土器は深鉢の破片(P1448: III群1類, P1449: IV群1類など)である。礫石器は敲石・磨石類がある。

形成時期: 堆積土出土遺物から、3-2期に位置付けられる可能性がある。

[K7 土坑] (第156・157図, 写真図版90・91)

位置：S-25・W-6

規模：長さ0.63m、幅0.48m

形態：平面形は楕円形で、断面形は深さ0.13mの逆台形を呈する。底面は皿状である。

堆積土：1層で、黒褐色土ブロック、焼土・炭化物粒を含む黒色シルトである。

出土遺物：堆積土などからごく少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器0.2kg、礫石器1点である。

このうち、縄文土器1点（第3分冊：図版157、第4分冊：写真図版158）を図示した。縄文土器は深鉢の破片である。礫石器は磨石類がある。

形成時期：推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の重複関係ではSX739-K2土坑（3期?）より古く位置付けられる。

[K8土坑]（第156・157図、写真図版90・91）

位置：S-25・W-7

規模：長さ0.98m、幅0.86m

形態：平面形は不整形楕円形で、断面形は深さ0.35mの逆台形を呈する。底面はほぼ平坦である。

堆積土：2層に細分される。暗褐色シルトブロック、ローム・炭化物粒を含む黒褐色・暗褐色シルトである。

出土遺物：堆積土などからごく少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器1.4kg、石器1点、礫石器1点である。このうち、縄文土器1点（第3分冊：図版157、第4分冊：写真図版158）を図示した。縄文土器は深鉢の大型破片（P1837；Ⅲ群1類）である。石器は剥片である。礫石器は磨石類がある。

形成時期：堆積土出土遺物から、3期に位置付けられる可能性がある

[K9土坑]（第156・157図、写真図版90・91）

位置：S-24・W-6

規模：長さ1.84m程度、幅1.41m

形態：平面形は不整形楕円形で、断面形は深さ0.47mの椀形を呈する。底面は皿状である。

堆積土：2層に細分される。ローム・焼土・炭化物粒を含む黒褐色シルトである。

出土遺物：堆積土などからごく少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器1.1kg、石器1点である。このうち、縄文土器1点（第3分冊：図版157、第4分冊：写真図版158）、石器1点（図版329、写真図版317）を図示した。縄文土器は深鉢の破片（P1468；Ⅳ群1類）である。石器は石篋である。

形成時期：推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の重複関係ではSX739-K3土坑（3-2期）より古く位置付けられる。

10. 土器埋設遺構

12基確認した。調査区北東部に弧状に分布する。径0.3～0.5m程度の略円形基調の小型の土坑に縄文土器深鉢を正位または逆位に埋設する。底面に石皿を据えるもの、あらかじめ底部を欠失する深鉢を用いるものがある。埋設土器内部に伴う出土遺物は得られていない。以下、各遺構について詳述する。

[SX180土器埋設遺構]（第158図、写真図版92）

位置：S-18・E-5

規模：長軸0.44m以上、短軸0.41m

形態：土坑底面に石皿を据え、その直上に深鉢を逆位に埋設する。

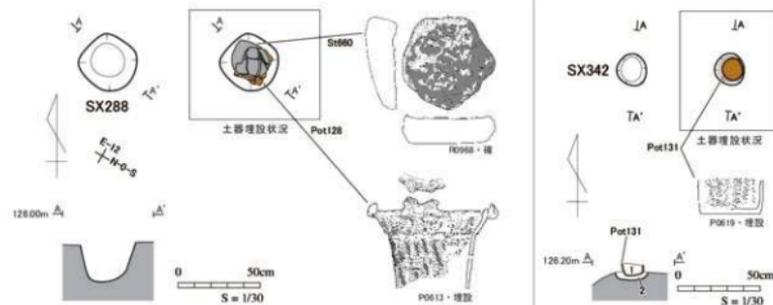
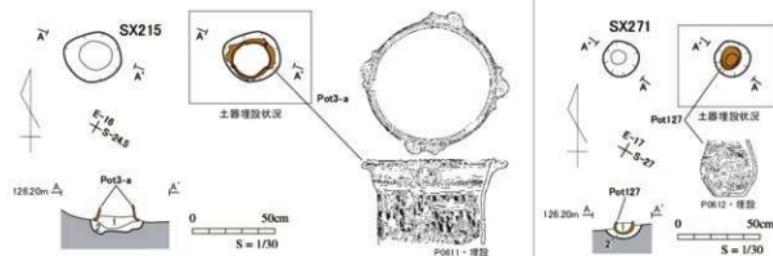
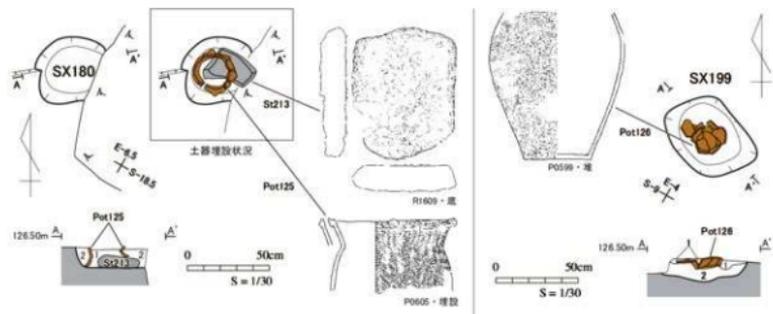
土坑：平面形は楕円形で、断面形は深さ0.12mの逆台形を呈する。底面は平坦である。上部が削平を受けており、確認面に土器の欠損部が露出していた。

堆積土：2層に細分される。1層は埋設土器内部の堆積土でローム・炭化物・焼土粒を含む黒褐色シルト、2層は外周の堆積土でローム粒を含む黒褐色シルトである。

第3章 調査の成果

埋設土器：口径23.6cm、残存高15.3cmの深鉢（Pot125：P0605）である。土坑上部の削平により下半部を欠損する。

出土遺物：埋設土器1点のほか、ごく少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器1.0kg、石器1点、



SX180 土器埋設遺構 A-A'				SX271 土器埋設遺構 A-A'			
No.	土色	土質	含有物等 (備考)	No.	土色	土質	含有物等 (備考)
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・炭化物・焼土粒少量。	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	砂粒少量。
2	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒少量。	2	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・砂粒少量。(人高)
SX199 土器埋設遺構 A-A'				SX288 土器埋設遺構 A-A'			
No.	土色	土質	含有物等 (備考)	No.	土色	土質	含有物等 (備考)
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	焼土粒、焼片片断少量。	1	黒褐色		
2	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・焼土粒少量。(人高)				
SX215 土器埋設遺構 A-A'				SX342 土器埋設遺構 A-A'			
No.	土色	土質	含有物等 (備考)	No.	土色	土質	含有物等 (備考)
1	10YR3/3 黒褐色	シルト	砂粒少量。	1	褐色		
2	10YR2/2 黒褐色	シルト	砂粒少量。(人高)	2	黒褐色		

第158図 SX180・199・215・271・288・342土器埋設遺構

礎石器1点である。このうち、縄文土器1点(第3分冊:図版158、第4分冊:写真図版159)、礎石器1点(図版421、写真図版438)を図示した。縄文土器は深鉢の上半部(P0605:IV群1類)である。石器は剥片がある。礎石器は石皿がある。

形成時期:埋設土器の特徴から、4-1~4-2期に位置付けられる可能性がある。遺構の新旧関係では、SX3 竪穴状遺構(4-2期)より新しく位置付けられる。以上より、形成時期は4-2期と考えられる。

【SX199 土器埋設遺構】(第158図、写真図版92)

位置:S-8・E-4

規模:長軸0.52m、短軸0.40m

形態:土坑底面から7.8cm上位の掘方埋土上面に深鉢を正位に埋設する。

土坑:平面形は隅丸形で、断面形は深さ0.19mの逆台形を呈する。底面は皿状である。上部が削平を受けており、確認面に土器の欠損部が露出していた。

堆積土:2層に細分される。1層は埋設土器を覆う堆積土で焼土粒、焼骨片を含む黒褐色シルト、2層は埋設土器より下位の堆積土でローム・焼土粒を含む黒褐色シルトである。

埋設土器:残存高13.5cmの深鉢(Pot126)である。土坑上部の削平により上半部が欠損するが、重複するSX155 竪穴状遺構の堆積土で出土した胴上部が接合し、底部から頸部までの残存高32.5cm(P0599)に復元された。

出土遺物:埋設土器1点のほか、ごく少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器2.0kgである。このうち、縄文土器1点(第3分冊:図版53、第4分冊:写真図版64)を図示した。口縁部を欠く深鉢(P0599:V群1類)である。その他、焼骨(哺乳類)が出土している。

形成時期:推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の新旧関係ではSX155 竪穴状遺構(2-2期)より新しく位置付けられる。しかし、埋設土器の上部が竪穴状遺構の堆積土より出土していることから、土器埋設遺構は埋没が進行した竪穴状遺構の周縁部に構築され、後に一部が壊されて遺物が竪穴状遺構内部の堆積土上層に混入したと考えられる。

【SX215 土器埋設遺構】(第158図、写真図版92)

位置:S-24・E-15

規模:長軸0.35m、短軸0.31m

形態:土坑底面から5.7cm上位の掘方埋土上面に深鉢を逆位に埋設する。

土坑:平面形は略円形で、断面形は深さ0.14mの逆台形を呈する。底面はやや凹凸がある。上部が削平を受けており、確認面に土器の欠損部が露出していた。

堆積土:2層に細分される。1層は埋設土器内部の堆積土で砂粒を含む暗褐色シルト、2層は埋設土器より下位の堆積土で砂粒を含む黒褐色シルトである。

埋設土器:口径26.0cm、残存高17.6cmの深鉢(Pot3・P0611)である。土坑上部の削平により下半部が欠損する。

出土遺物:埋設土器1点のほか、ごく少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器1.2kgで、このうち1点(第3分冊:図版158、第4分冊:写真図版159)を図示した。深鉢の上半部(P0611:IV群1類)である。

形成時期:埋設土器の特徴から、4-2期に位置付けられる。

【SX271 土器埋設遺構】(第158図、写真図版92・93)

位置:S-26・E-16

規模:長軸0.22m、短軸0.21m

形態:土坑底面から2.7cm上位の掘方埋土上面に深鉢を正位に埋設する。

土坑:平面形は略円形で、断面形は深さ0.08mの碗形を呈する。底面は皿状である。上部が削平を受けており、確認面に土器の欠損部が露出していた。

堆積土:2層に細分される。1層は埋設土器内部の堆積土で砂粒を含む黒褐色シルト、2層は埋設土器より下位

第3章 調査の成果

の堆積土でローム・砂粒を含む黒褐色シルトである。

埋設土器：残存高 11.6cm の深鉢 (Pot127・P0612) である。土坑上部の削平により上半部を欠損する。

出土遺物：埋設土器 1 点のほか、ごく少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器 0.2kg、石器 1 点である。このうち、縄文土器 1 点 (第 3 分冊：図版 159、第 4 分冊：写真図版 160) を図示した。口縁部を欠く小型深鉢 (P0612：IV 群 1 類) である。石器は二次加工ある剥片がある。

形成時期：埋設土器の特徴から、4-2 期に位置付けられる。

[SX288 土器埋設遺構] (第 158 図, 写真図版 93)

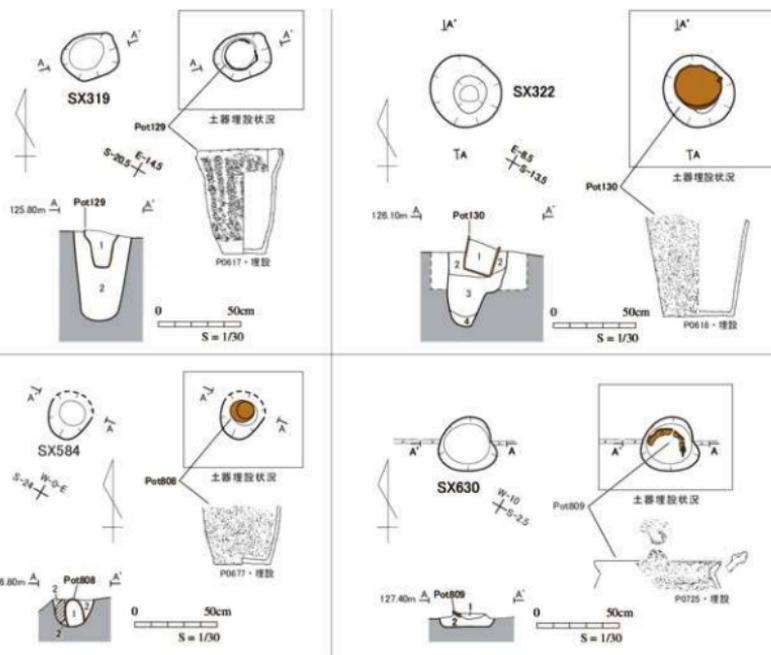
位置：N-1・E-11

規模：長軸 0.34m、短軸 0.32m

形態：深鉢を逆斜位に埋設し、上部に扁平礫を据える。

土坑：平面形は隅丸方形で、断面形は深さ 0.24m の U 字形を呈する。底面は皿状である。

堆積土：1 層で暗褐色土である。



SX319 土器埋設遺構 A-A

No	土色	土色	含有物等 (備考)
1	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・ブロック変量、焼土粒・炭化物片。
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・ブロック変量。

SX322 土器埋設遺構 A-A

No	土色	土色	含有物等 (備考)
1	黒褐色	シルト	ローム・砂粒、炭化植物粒少量。
2	10YR3/3 暗褐色	シルト	ローム・砂粒、炭化植物粒少量。(人骨か)
3	10YR3/4 暗褐色	シルト	ローム粒。(人骨)
4	10YR3/2 黒褐色	シルト	ローム粒、黒色シルトブロック。(人骨)

SX584 土器埋設遺構 A-A

No	土色	土色	含有物等 (備考)
1	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・炭化物粒少量。
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒、炭オリブ (SV5/3) 砕質シルトブロック炭化物粒少量。(人骨か)

SX630 土器埋設遺構 A-A

No	土色	土色	含有物等 (備考)
1	10YR2/3 黒褐色	シルト	炭化物・焼土粒少量。
2	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム・炭化物・焼土粒。(人骨)

第 159 図 SX319・322・584・630 土器埋設遺構

埋設土器：口径22.4cm、残存高16.3cmの深鉢（Pot128・P0613）である。埋設時点で下半部を欠損する。

出土遺物：埋設土器のほか、ごく少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器1.0kg、礫石器1点である。

このうち、縄文土器1点（第3分冊：図版159、第4分冊：写真図版160）、礫石器1点（図版421、写真図版438）を図示した。縄文土器は深鉢の上半部（P0613：IV群1類）である。礫石器は石皿がある。

形成時期：埋設土器の特徴から、4期に位置付けられる。

【SX319 土器埋設遺構】（第159図、写真図版93）

位置：S-20・E-13

規模：長軸0.30m、短軸0.26m

形態：土坑底面から30.0cm上位に深鉢を正位に埋設する。

土坑：平面形は略円形で、断面形は深さ0.53mのU字形を呈する。底面は平坦である。確認面に土器の口縁部および欠損部が露出していた。

堆積土：2層に細分される。1層は埋設土器内部の堆積土でロームブロック、焼土粒、炭化物片を含む黒褐色シルト、2層は埋設土器の外周および下位の堆積土でロームブロックを含む黒褐色シルトである。

埋設土器：口径16.9cm、器高21.5cmの深鉢（Pot129・P0617）である。土坑上部の削平により口縁部の一部を欠損しているが、略完形である。

出土遺物：埋設土器のほか、ごく少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器1.3kg、石器2点である。

このうち、縄文土器1点（第3分冊：図版159、第4分冊：写真図版160）を図示した。略完形の深鉢（P0617：III群1類）である。石器は剥片がある。その他、炭化種実（オニグルミ・クリ・ツタウルシまたはヤマウルシ・トチノキ・サンショウ）が出土している。

形成時期：埋設土器の特徴から、3期に位置付けられる。

【SX322 土器埋設遺構】（第159図、写真図版93）

位置：S-13・E-8

規模：長軸0.46m、短軸0.43m

形態：土坑底面から32.1cm上位に深鉢を正位に埋設する。

土坑：平面形は略円形で、断面形は深さ0.46mのU字形を呈する。北壁の中段に段を持つ。底面は皿状である。上部が削平を受けており、確認面に土器の欠損部が露出していた。

堆積土：4層に細分される。1層は埋設土器内部の堆積土でローム・砂・炭化物粒を含む黒褐色土、2～4層は埋設土器の外周および下位の堆積土で黒色シルトブロック、ローム・砂・炭化物粒を含む黒褐色・暗褐色シルトである。

埋設土器：残存高21.1cmの深鉢（Pot130・P0618）である。土坑上部の削平により上半部を欠損する。

出土遺物：埋設土器のほか、ごく少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器1.7kg、石器7点である。

このうち、縄文土器1点（第3分冊：図版159、第4分冊：写真図版160）を図示した。深鉢の下半部（P0618）である。石器は剥片がある。その他、焼骨（哺乳綱）・炭化種実（オニグルミ・クリ・トチノキ・キハダ・ニワトコ）が出土している。

形成時期：推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の新旧関係ではSX17遺物包含層（3～4期）より古く位置付けられる。以上より形成時期は3期以前と考えられる。

【SX342 土器埋設遺構】（第158図、写真図版93）

位置：S-16・E-9

規模：長軸0.18m、短軸0.17m

形態：土坑底面から1.5cm上位の掘方埋土上面に深鉢を正位に埋設する。

第3章 調査の成果

土坑：平面形は略円形で、断面形は深さ0.04mのU字形を呈する。底面は皿状である。上部が削平を受けており、確認面に土器の欠損部が露出していた。

堆積土：2層に細分される。1層は埋設土器内部の堆積土で砂粒を含む褐色土、2層は砂粒を含む黒褐色土である。

埋設土器：残存高7.5cm以上の深鉢（Pot131・PO619）である。土坑上部の削平により上半部を欠損する。

出土遺物：埋設土器のほか、ごく少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器0.7kg、石器15点である。

このうち、縄文土器1点（第3分冊：図版160、第4分冊：写真図版161）を図示した。深鉢の下部（PO619：IV群1類）である。石器は剥片がある。その他、炭化材（クリ）・炭化種実（トチノキ）が出土している。

形成時期：埋設土器の特徴から、4期に位置付けられる。

【SX584 土器埋設遺構】（第159図、写真図版93）

位置：S-23・W-1

規模：長軸0.25m以上、短軸0.27m

形態：土坑底面直上に深鉢を逆位に埋設する。

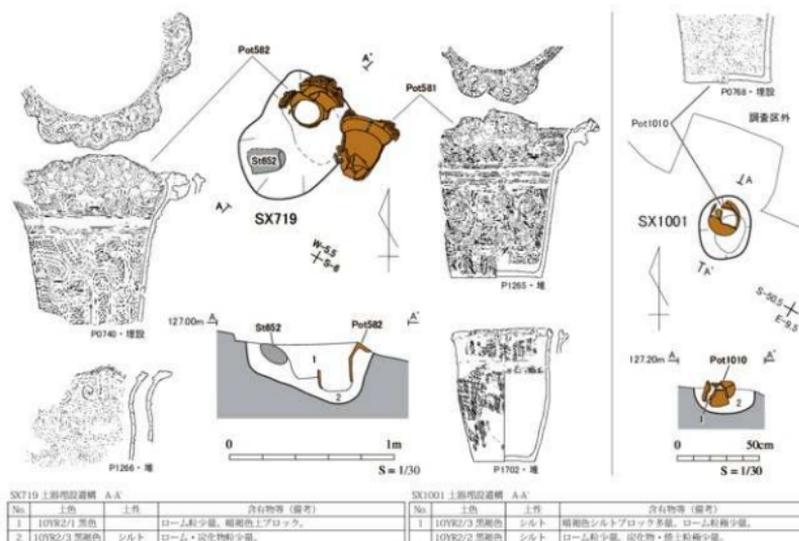
土坑：平面形は略円形で、断面形は深さ0.16mのU字形を呈する。底面は皿状である。確認面に土器の底部が露出していた。

堆積土：2層に細分される。1層は埋設土器内部の堆積土でローム・炭化物粒を含む黒褐色シルト、2層は外周の堆積土で灰オリブ砂質シルトブロック、ローム・炭化物粒を含む黒褐色シルトである。

埋設土器：残存高11.8cm以上の深鉢（Pot808：PO677）である。埋設時点で上半部を欠損する。

出土遺物：図示した埋設土器1点（0.7kg）で、縄文土器深鉢の下部（PO677、第3分冊：図版160、第4分冊：写真図版161）である。

形成時期：推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の新旧関係ではSX2 整穴状遺構（4-1期）より新しく位置付けられる。以上より形成時期は4-1期以降と考えられる。



第160図 SX719・1001 土器埋設遺構

【SX630 土器埋設遺構】 (第159図, 写真図版93)

位置: S-2・W-11

規模: 長軸0.34m、短軸0.16m以上

形態: 土坑底面から5.7cm上位の掘方埋土上面に深鉢を逆位に埋設する。

土坑: 平面形は略円形で、断面形は深さ0.08mの逆台形を呈する。底面は平坦である。上部が削平を受けており、確認面に土器の欠損部が露出していた。

堆積土: 2層に細分される。1層は埋設土器内部の堆積土で炭化物・焼土粒を含む黒褐色シルト、2層は埋設土器より下位の堆積土でローム・炭化物・焼土粒を含む黒褐色シルトである。

埋設土器: 口径25.8cm程度、残存高5.7cmの深鉢(Pot809・P0725)である。土坑上部の削平により下半部を欠損する。

出土遺物: 埋設土器のほか、ごく少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器0.7kgである。このうち1点(第3分冊: 図版160, 第4分冊: 写真図版161)を図示した。深鉢の口縁部(P0725: II群1類)である。

形成時期: 埋設土器の特徴から、2-2期に位置付けられる。

【SX719 土器埋設遺構】 (第160図, 写真図版94)

位置: S-5・W-6

規模: 長軸0.80m、短軸0.54m

形態: 土坑内の底面から約9.0cm上位に深鉢(Pot582)を正位で埋設し、上層に大型の礫石器(S652)を据える。また、土坑上面で深鉢(Pot581-c)が横位に出土した。

土坑: 平面形は不整楕円形で、断面形は土器埋設部が深く掘り込まれて北向に傾斜し、深さ0.34mの不整逆台形を呈する。底面は皿状である。

堆積土: 2層に細分される。1層は埋設土器内部の堆積土で暗褐色土ブロック、ローム粒を含む黒色シルト、2層は埋設土器の外周および下位の堆積土でローム・炭化物粒を含む黒褐色シルトである。

埋設土器: 残存高31.3cmの深鉢(Pot582: P0740)である。埋設時点で底部を欠損する。また、後世の攪乱により上部の一部を欠損する。

出土遺物: 埋設土器のほか、土坑上面で縄文土器深鉢の復元個体2点(P1265・1702)、大型破片1点(P1266)が出土している。遺物の数量は縄文土器10.4kg、石器6点、礫石器4点、石製品1点である。このうち、縄文土器5点(第3分冊: 図版160~162, 第4分冊: 写真図版14・161~164)を図示した。深鉢の復元個体3点(P0740・1265・1702)、大型破片1点(P1266)があり、IV群1類の土器である。石器は剥片がある。礫石器は磨石類がある。石製品は異形石器がある。

形成時期: 埋設土器の特徴から、4-2期に位置付けられる。

【SX1001 土器埋設遺構】 (第160図, 写真図版94)

位置: S-50・E-8

規模: 長軸0.38m、短軸0.32m

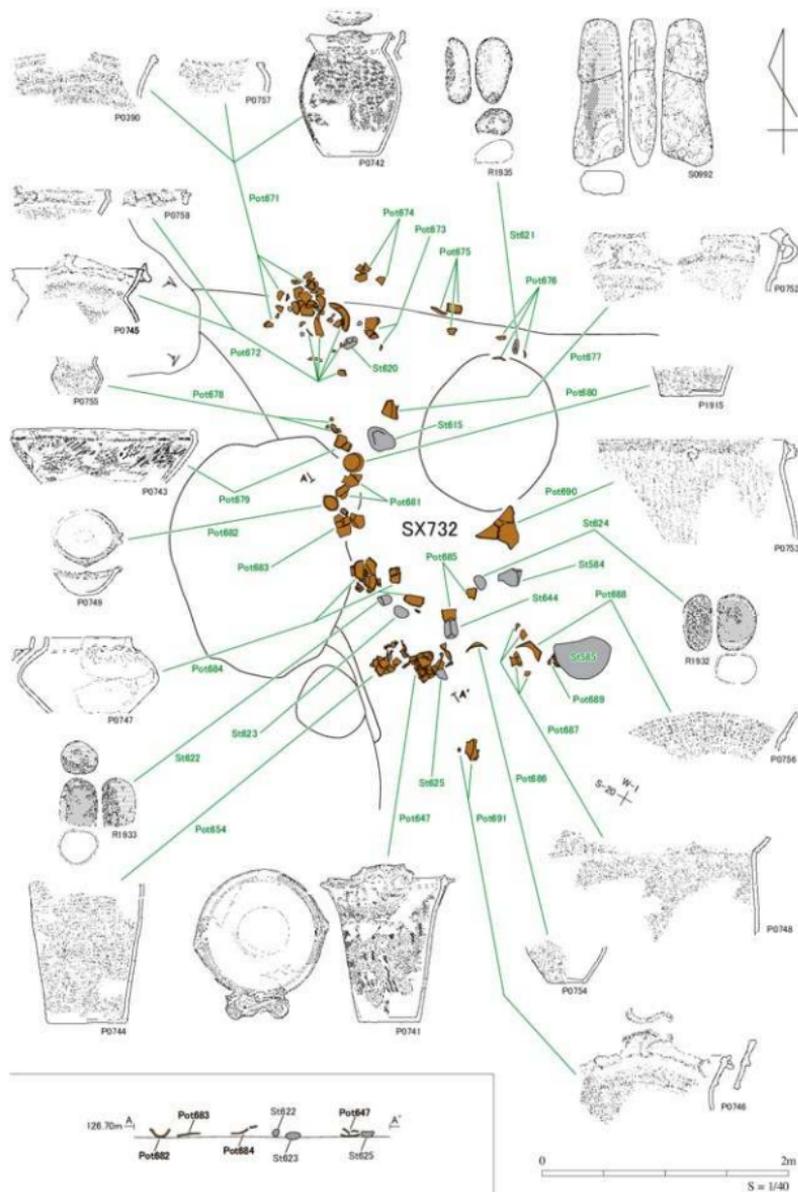
形態: 土坑底面から3.9cm上位に深鉢を逆位に埋設する。

土坑: 平面形は楕円形で、断面形は深さ0.21mのU字形を呈する。底面は皿状である。上部が削平を受けており、確認面に土器の底部が露出していた。

堆積土: 2層に細分される。1層は埋設土器内部の堆積土で暗褐色シルトブロック、ローム粒を含む黒褐色シルト、2層はローム・焼土・炭化物粒を含む黒褐色シルトである。

埋設土器: 残存高14.1cm以上の深鉢(Pot1010: P0768)である。埋設時点で上半部を欠損する。

出土遺物: 図示した埋設土器1点(1.7kg)で、縄文土器深鉢の下部(P0768、第3分冊: 図版163, 第4分冊: 写



第161図 SX732遺物集中

真図版 165) である。

形成時期：推定の根拠に乏しく不詳である。

11. 遺物集中

基本層中で確認した遺物の集中部で、1か所確認した。調査区西部に位置する。ほぼ平坦な同一面上で縄文土器などの遺物がまとめて出土している。以下、詳述する。

【SX732 遺物集中】 (第161図, 写真図版95)

位置：S-19・W-4

規模：長軸4.34m程度、短軸3.57m程度、深さ0.18m

形態：基本層Ⅲ層中で確認した遺物の集中部である。ほぼ平坦な同一面上で縄文土器などの遺物がまとめて出土した。

出土遺物：縄文土器深鉢3点 (P0741・0742・0744)、浅鉢1点 (P0743)、小型浅鉢1点 (P0749)、壺1点 (P0747) の復元個体のほか、石器・礫石器が出土している。

遺物の数量は縄文土器20.0kg、石器12点、礫石器9点である。このうち、縄文土器19点 (第3分冊：図版163～166、第4分冊：写真図版13・165～169)、石器1点 (図版329、写真図版317)、礫石器3点 (図版422、写真図版439) を図示した。

縄文土器は深鉢・浅鉢・小型浅鉢・壺があり、深鉢3点 (P0741・0742・0744)、小型浅鉢1点 (P0749) の略完形・復元個体を含むⅣ群1類の土器が主体である。石器は磨製石斧・剥片がある。S0992+0991は硬質凝灰岩製の乳棒状磨製石斧で使用による刃部の損傷が顕著である。礫石器は石皿・敲石・磨石類がある。

形成時期：出土遺物の特徴から、4-1期に位置付けられる。

12. 石器集積

6か所確認した。調査区中央部から北部に点在する。石器・剥片および碎片の小規模な集積で、袋状の容器に収められていたと考えられるものがある。以下、主要な遺構について詳述する。

【SX137 石器集積】 (第162図, 写真図版96)

位置：S-19・E-4

規模：長軸0.56m、短軸0.44m、深さ0.13m

形態：SX17遺物包含層の確認面で確認した石器の集中部である。浅い皿状の窪みの中央部に剥片・碎片の密集部があり、やや離れて石錐・剥片数点が出土した。密集部は長軸11cm、短軸10cm、深さ8cmの団塊状を呈し、袋状の容器に収められていた可能性がある。

堆積土：1層でローム・炭化物・焼土粒を含む黒褐色シルトである。

出土遺物：石錐1点 (2.0g)、剥片109点 (39.1g)、碎片5077点 (64.5g) の石器計5,188点 (105.6g) と縄文土器0.03kgが出土している。このうち、石器1点 (S0611：石錐、第3分冊：図版329、第4分冊：写真図版319) を図示した。石器の石材は母岩1aに分類されるガラス質流紋岩が主体である。

形成時期：推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の重複関係ではSX17遺物包含層 (3～4期) より新しく位置付けられる。以上より形成時期は3期以降と考えられる。

【SX144 石器集積】 (第163図, 写真図版96・97)

位置：S-21・E-2

規模：長軸0.28m程度、短軸0.24m程度、深さ0.08m程度

形態：SX2堅穴状遺構の確認面で確認した石器の集中部である。石器と剥片・碎片の密集部がある。密集部は

第3章 調査の成果

長軸 14cm、短軸 10cm、深さ 8cm の団塊状を呈し、袋状の容器に取められていた可能性がある。

出土遺物：楔形石器 1 点 (1.8g)、両面加工石器 2 点 (74.8g)、二次加工ある剥片 1 点 (14.8g)、石核 6 点 (160.2g)、剥片 271 点 (307.3g)、碎片 1,253 点 (35.8g) の石器計 1,533 点 (594.7g) と縄文土器 0.1kg が出土している。このうち、石器 3 点 (S1057: 両面加工石器、S1068・1070: 石核、第 3 分冊: 図版 329、第 4 分冊: 写真図版 318) を図示した。その他、焼成粘土塊 1 点 (写真図版 285)・炭化種実 (オニグルミ・クリ・トチノキ) が出土している。

石器の石材は母岩 1a に分類されるガラス質流紋岩が主体で、接合資料 4 点 (接合資料 1～3・5) がある。接合資料 1 は小型の石核 2 点、接合資料 2 は石核 2 点と剥片 1 点、接合資料 3 は折損した両面加工石器 2 点と剥片 1 点、接合資料 5 は石核 1 点と剥片 1 点の接合である。

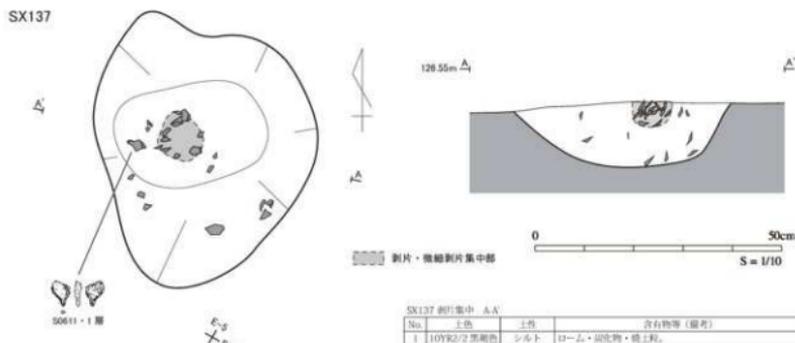
形成時期：推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の重複関係では SX2 竅穴状遺構 (4-1 期) より新しく位置付けられる。以上より形成時期は 4-1 期以降と考えられる。

【SX177 石器集積】 (第 164 図, 写真図版 97)

位置：S-6・E-8

規模：長軸 0.37m 以上、短軸 0.34m、深さ 0.08m

形態：SX361 遺物包含層の確認面で確認した石器の集中部である。浅い皿状の窪みの内部に石器と剥片の集中部がある。



石器組成表

単位	器種	石核		剥片				機能剥片						合計						総計							
		石核	注記なし	注記あり																							
線状出土	点数	0	0	0	0	0	7	7	56	6	0	2	6	328	12	1	411	56	6	0	2	6	0	335	12	1	418
	重量	0	0	0	0	0	1.7	1.7	0.6	0.2	0	0.1	0.2	3.9	0.3	0.1	5.4	0.6	0.2	0	0.1	0.2	0	5.6	0.3	0.1	7.1
塊状土層	点数	1	1	5	2	1	95	103	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	2	0	0	0	1	95	0	0	104
	重量	0.2	0.2	6.4	0.7	0.2	30.1	37.4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.9	0.6	0.7	0	0	0	0.2	30.1	0	0
剥片集中部	点数	0	0	0	0	0	0	0	125	2	0	32	15	4492	11	0	4666	125	2	9	32	15	0	1492	11	0	4666
	重量	0	0	0	0	0	0	0	1.5	0.1	0.1	0.1	0.1	57.0	0.2	0	59.1	1.5	0.1	0.1	0.1	0.1	0	57.0	0.2	0	59.1
(合計)	点数	1	1	5	2	1	102	110	181	8	9	14	21	4820	23	1	5077	187	10	9	14	21	1	4932	23	1	5186
	重量	0.2	0.2	6.4	0.7	0.2	31.8	39.1	2.1	0.3	0.1	0.2	0.3	60.9	0.5	0.1	64.5	8.7	1.0	0.1	0.2	0.3	0.2	82.7	0.5	0.1	103.8

第 162 図 SX137 石器集積

堆積土：1層で、ローム粒を含む黒褐色シルトである。

出土遺物：二次加工ある剥片2点(83.6g)、剥片23点(1193.5g)、石核2点(118.5g)の石器計27点(1395.6g)と縄文土器0.2kgが出土している。図示した遺物はない。石器の石材は母岩3に分類される珪化凝灰岩が主体で、接合資料4点(接合資料15～17・19)がある。接合資料15は剥片3点、接合資料16・17はそれぞれ石核と剥片各1点、接合資料19は剥片2点の接合である。

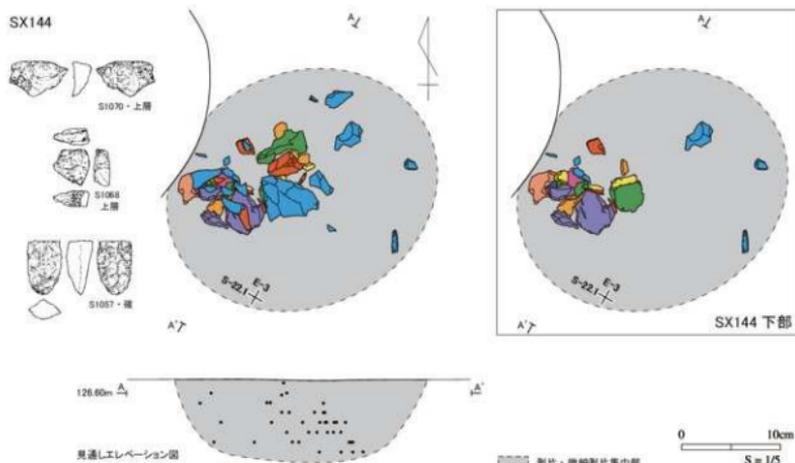
形成時期：推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の重複関係ではSX361遺物包含層(2-2期)より新しく位置付けられる。以上より形成時期は2-2期以降と考えられる。

【SX745 石器集積】(第164図、写真図版97)

位置：N-2・W-3

規模：長軸0.14m程度、短軸0.11m程度、深さ0.03m程度

形態：SB611掘立柱建物跡より古いSK668土坑の確認で確認した石器の集中部である。石器と剥片の密集部



石器組成表

層位	燧石		燧石加工石器		二次加工ある剥片		石核		剥片										接合資料				合計				総計				
	大形	小形	大形	小形	大形	小形	大形	小形	片状剥片	片状剥片	片状剥片	片状剥片	片状剥片	片状剥片	片状剥片	片状剥片	片状剥片	片状剥片	片状剥片	片状剥片	片状剥片	片状剥片	片状剥片	片状剥片	片状剥片	片状剥片		片状剥片	片状剥片		
種別	1c	1a	1a	1a	1a	1a	1a	1a	1a	1a	1a	1a	1a	1a	1a	1a	1a	1a	1a	1a	1a	1a	1a	1a	1a	1a	1a	1a	1a		
燧石	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
燧石加工石器	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
二次加工ある剥片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
石核	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
剥片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
接合資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
合計	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
重量	1.8	1.8	42.6	42.6	14.8	14.8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
割合	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
面積	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
合計	1	1	2	2	1	1	5	3	2	1	264	1	271	191	7	13	7	8	1003	24	125.3	1	0	0	0	0	0	606	12	1	630
重量	1.8	1.8	74.8	74.8	14.8	14.8	160.2	160.2	1.3	0.3	62.304.2	1.3	307.2	2.1	0.1	0.1	0.1	0.1	32.5	0.8	25.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	229.0	0.3	1.3	531.5	

第163図 SX144石器集積

第3章 調査の成果

がある。密集部の底面は皿状を呈し、袋状ないしは皿状の容器に収められていた可能性がある。

出土遺物：楔形石器1点(7.5g)、二次加工ある剥片1点(2.0g)、微細剥離ある剥片2点(22.7g)、剥片30点(275.8g)の石器計34点(308.0g)が出土している。図示した遺物はない。石器の石材は母岩5に分類される碧玉(黄)が主体で、接合資料4点(接合資料30～33)がある。接合資料30・31はそれぞれ剥片3点、接合資料32・33はそれぞれ剥片2点の接合である。

形成時期：推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の新旧関係ではSB611掘立柱建物跡(4-2期)より古く位置付けられる。以上より形成時期は4-2期以前と考えられる。

13. 焼土集積

19か所確認した。調査区東部に点在する。長軸0.7～1.6m、短軸0.5～1.2m程度の土坑堆積土中あるいは皿状の窪みの内部で確認した焼土ブロックの集積である。上面に赤色硬化面を形成し下層に向かって層相が遷移するが跡とは異なり、二次的に移動された焼土である。以下、各遺構について詳述する。

【SX192 焼土集積】(第165図)

位置：N-2・E-6

規模：長軸0.68m、短軸0.34m程度

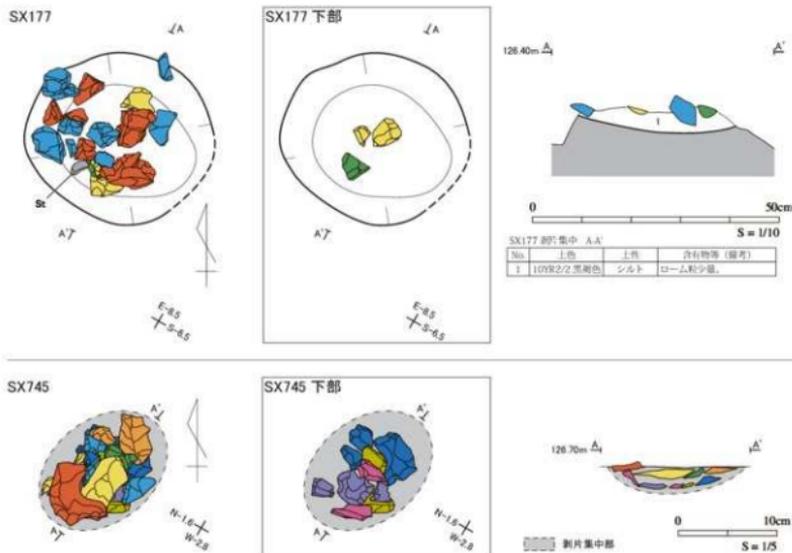
堆積土：1層で、明赤褐色焼土ブロックを主体とする赤褐色シルトである。

出土遺物：堆積土から縄文土器0.1kgが出土している。図示した深鉢の口縁部1点(PO606：IV群1類)である。

形成時期：推定の根拠に乏しく不詳である。

【SX193 焼土集積】(第165図, 写真図版08)

位置：S-5・W-0-E



第164図 SX177・745 石器集積

規模：長軸0.65m、短軸0.59m程度

堆積土：2層に細分される。明赤褐色焼土ブロックを主体とし、黒褐色土ブロックを含む黒褐色シルトである。

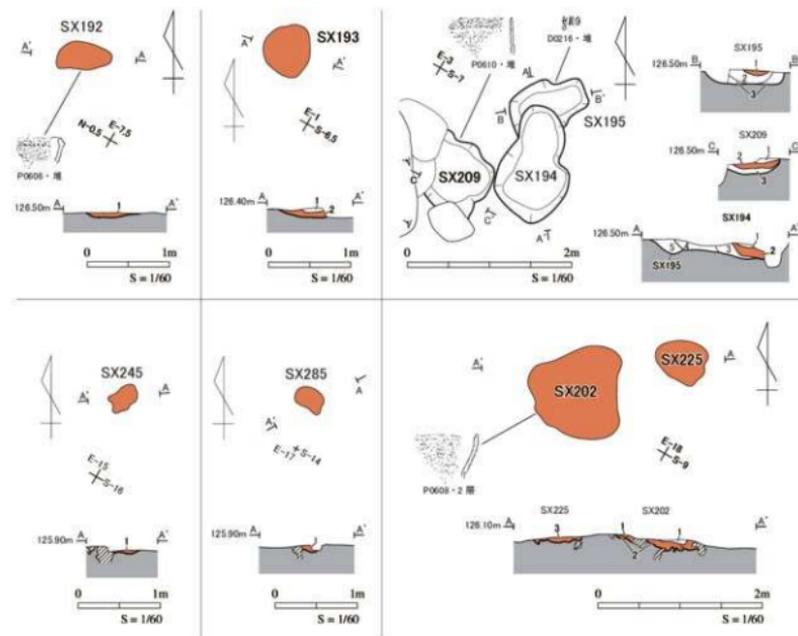
出土遺物：堆積土から縄文土器0.1kg、石器1点が出土している。図示した遺物はない。石器は微細剥離ある剥片がある。

形成時期：推定の根拠に乏しく不詳である。

【SX194 焼土集積】(第165図, 写真図版98)

位置：S・7・E-5

規模：長軸1.42m、短軸0.88m程度



SX192 焼土集積 A-A'				SX209 焼土集積 C-C'			
No.	土色	土性	含有物等(備考)	No.	土色	土性	含有物等(備考)
1	5YR4/6 赤褐色	シルト	明赤褐色焼土ブロック多量。	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	焼土粒少量。ローム粒少量。
SX193 焼土集積 A-A'				2	10YR2/3 黒褐色	シルト	褐色土ブロック多量。焼土粒、黒褐色土ブロック少量、ローム粒少量。
No.	土色	土性	含有物等(備考)	3	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム・焼土粒少量。
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	黒褐色土ブロック。焼土粒少量。	SX202・SX225 焼土集積 A-A'			
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	明赤褐色焼土ブロック多量。黒褐色土ブロック少量。	No.	土色	土性	含有物等(備考)
SX194・SX195 焼土集積 A-A'				1	7.5YR3/2 黒褐色	シルト	焼土粒、ローム粒少量。(SX202・1層)
No.	土色	土性	含有物等(備考)	2	10YR2/3 黒褐色	シルト	明赤褐色焼土ブロック。焼土粒、ローム粒少量。(SX202・2層)
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	焼土・炭化物粒。(SX194・1層)	3	10YR2/3 黒褐色	シルト	褐色土ブロック多量。焼土粒、ローム粒、黒褐色土ブロック少量。炭化物粒少量。(SX225層)
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	明赤褐色土ブロック多量。黒褐色土ブロック少量。(SX194・2層)	SX245 焼土集積 A-A'			
3	10YR2/2 黒褐色	シルト	焼土粒、焼骨片粒少量。(SX194・3層)	No.	土色	土性	含有物等(備考)
4	10YR2/2 黒褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒、焼骨片粒少量。(SX194・4層)	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	明赤褐色焼土ブロック主体。暗赤褐色焼土ブロック多量。炭化物粒少量。
5	10YR2/3 黒褐色	シルト	黒褐色土ブロック。焼土粒、焼骨片粒少量。(SX195層)	SX285 焼土集積 A-A'			
SX195 焼土集積 B-B'				No.	土色	土性	含有物等(備考)
No.	土色	土性	含有物等(備考)	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ロームブロック・粒、褐色土ブロック、焼骨片。
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ロームブロック・粒、褐色土ブロック、焼骨片。	2	10YR2/3 黒褐色	シルト	黒褐色土ブロック。焼土粒、焼骨片粒少量。
2	10YR2/3 黒褐色	シルト	黒褐色土ブロック。焼土粒、焼骨片粒少量。	3	10YR2/3 黒褐色	シルト	暗赤褐色土ブロック。暗褐色土ブロック。
3	10YR2/3 黒褐色	シルト	暗赤褐色土ブロック。暗褐色土ブロック。				

第165図 SX192・193・194・195・202・209・225・245・285 焼土集積

第3章 調査の成果

堆積土：4層に細分される。明赤褐色焼土を主体とし、黒褐色土ブロック、炭化物粒、焼骨片を含む黒褐色シルトである。

出土遺物：堆積土から縄文土器0.6kg、石器3点、礫石器1点が出土している。図示した遺物はない。石器は二次加工ある剥片・剥片がある。礫石器は磨石類がある。

形成時期：推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の重複関係ではSX155 竪穴状遺構（2-2期）より新しく位置付けられる。以上より形成時期は2-2期以降と考えられる。

【SX195 焼土集積】（第165図、写真図版98）

位置：S-6・E-5

規模：長軸0.96m、短軸0.64m

堆積土：3層に細分される。橙色焼土ブロックを主体とし、ローム・黒褐色土・暗褐色土ブロック、焼骨片を含む黒褐色シルトである。

出土遺物：堆積土から縄文土器0.2kg、土製品1点、石器1点が出土している。このうち、土製品1点（D0216：円環形土製品、第3分冊：図版284、第4分冊：写真図版266）を図示した。石器は楔形石器がある。

形成時期：推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の重複関係ではSX155 竪穴状遺構（2-2期）より新しく位置付けられる。以上より形成時期は2-2期以降と考えられる。

【SX202 焼土集積】（第165図）

位置：S-8・E-16

規模：長軸1.06m程度

堆積土：2層に細分される。明赤褐色焼土ブロックを主体とし、ローム粒を含む黒褐色シルトである。

出土遺物：堆積土から縄文土器0.8kg、石器6点、礫石器4点が出土している。このうち、縄文土器2点（第3分冊：図版167、第4分冊：写真図版170）を図示した。深鉢の口縁部（P0608：Ⅲ群1類）などである。石器は石錐・微細剥離ある剥片・剥片がある。礫石器は石皿・蔽石・磨石類がある。

形成時期：推定の根拠に乏しく不詳である。

【SX209 焼土集積】（第165図、写真図版98）

位置：S-8・E-3

規模：長軸0.89m以上、短軸0.85m以上

堆積土：橙色焼土ブロックを主体とし、黒褐色土ブロック、ローム粒を含む黒褐色シルトである。

出土遺物：堆積土から縄文土器0.3kg、石器1点が出土している。このうち、縄文土器1点（第3分冊：図版167、第4分冊：写真図版170）を図示した。深鉢の口縁部である。石器は剥片がある。

形成時期：推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の重複関係ではSX155 竪穴状遺構（2-2期）より新しく位置付けられる。以上より形成時期は2-2期以降と考えられる。

【SX225 焼土集積】（第165図）

位置：S-7・E-17

規模：長軸0.61m程度

堆積土：橙色焼土ブロックを主体とし、黒色土ブロック、ローム・炭化物粒を含む黒褐色シルトである。

出土遺物：堆積土から縄文土器0.04kg、石器1点、礫石器1点が出土している。図示した遺物はない。石器は剥片がある。礫石器は石皿がある。

形成時期：推定の根拠に乏しく不詳である。

【SX245 焼土集積】（第165図）

位置：S-14・E-15

規模：長軸0.35m程度

堆積土：1層で、にぶい赤褐色・暗赤褐色焼土ブロックを主体とし、炭化物粒を含む黒褐色シルトである。

出土遺物：堆積土から縄文土器0.01kg、石器1点が出土している。図示した遺物はない。石器は剥片がある。

形成時期：推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の新旧関係ではSX290 遺物包含層（3期）より新しく位置付けられる。以上より形成時期は3期以降と考えられる。

【SX285 焼土集積】（第165図）

位置：S-13・E-16

規模：短軸0.23m程度

堆積土：1層で、暗赤褐色焼土ブロックを主体とする黒褐色シルトである。

出土遺物：堆積土から縄文土器0.1kgが出土している。図示した遺物はない。

形成時期：推定の根拠に乏しく不詳である。

【SX402 焼土集積】（第166図、写真図版98）

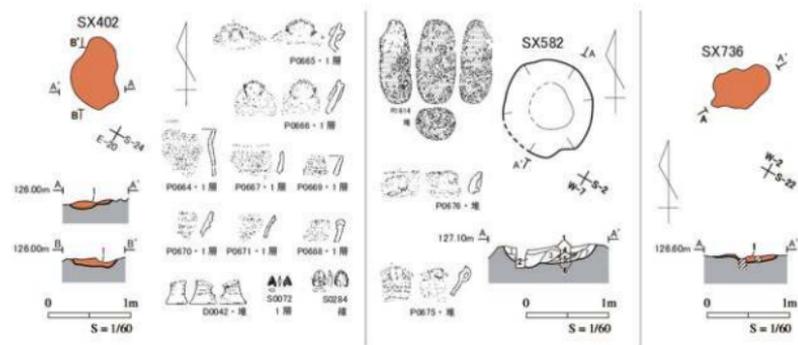
位置：S-23・E-19

規模：長軸0.88m、短軸0.52m

堆積土：明赤褐色焼土ブロックを主体とする黒褐色シルトである。

出土遺物：堆積土から縄文土器3.8kg、土製品1点、石器39点、礫石器5点が出土している。このうち、縄文土器8点（第3分冊：図版167、第4分冊：写真図版170）、土製品1点（図版284、写真図版266）、石器2点（図版329、写真図版319）を図示した。深鉢の破片（P0664・P0665・P0666；Ⅱ群1類、P0667；Ⅱ群2類）である。土製品は土偶で、大型品の脚部（D0042）である。横位集合辻線文を施文する。石器は石鏃・石錐・楔形石器・不定形石器・二次加工ある剥片・微細剥離ある剥片・剥片・石核がある。礫石器は敲石・磨石類がある。その他、焼骨（ニホンジカ・哺乳類）が出土している。

形成時期：推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の重複関係ではSK303 土坑（3-2期）より新しく位置付けられ



SX402 焼土集積 A-A'				SX582 焼土集積 A-A'			
No.	土色	土性	含有物等(備考)	No.	土色	土性	含有物等(備考)
1	10YR2/3 黒褐色	シルト	明赤褐色焼土ブロック主体。	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒、炭化物粒多量、焼土粒。(人海)
				2	10YR2/3 黒褐色	シルト	ローム粒多量、ロームブロック、炭化物粒。(人海)
				3	10YR2/3 黒褐色	シルト	ロームブロック・粘多量、焼土粒。(人海)
				4	10YR3/3 暗褐色	シルト	橙色焼土ブロック主体、ローム粒多量。(人海)
				5	10YR3/4 暗褐色	シルト	ロームブロック主体、ローム粒多量。(人海)
				6	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土粒多量、ローム粒。(人海)
				7	10YR2/2 黒褐色	シルト	ローム粒、焼土粒少量、炭化物粒少量。(人海)

第166図 SX402・582・736 焼土集積

第3章 調査の成果

る。以上より形成時期は3-2期以降と考えられる。

【SX582 焼土集積】(第166図)

位置：S-1・W-8

規模：長軸1.14m、短軸1.11m

堆積土：7層に細分される。橙色焼土ブロックとロームブロックを主体とし、炭化物片を含む黒褐色・暗褐色シルトである。

出土遺物：堆積土から縄文土器1.0kg、石器13点、礫石器4点が出土している。このうち、縄文土器2点(第3分冊：図版167、第4分冊：写真図版170)、礫石器1点(図版422、写真図版439)を図示した。縄文土器は深鉢の口縁部(P0675：Ⅳ群1類)がある。石器は楔形石器・剥片がある。礫石器は敲石・磨石類がある。

形成時期：推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の重複関係ではSB611掘立柱建物跡(4-2期)より新しく位置付けられる。以上より形成時期は4-2期以降と考えられる。

【SX736 焼土集積】(第166図、写真図版98)

位置：S-21・W-3

規模：長軸1.02m、短軸0.50m

堆積土：1層で、橙色焼土ブロックを主体とする明褐色砂質シルトである。

出土遺物：遺物は出土していない。

形成時期：推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の重複関係ではSX610遺物包含層(3~4期)より古く位置付けられる。以上より形成時期は4期以前と考えられる。

14. 遺物包含層

9か所確認した。調査区内を広範囲に覆う層厚0.1~0.7mの堆積層である。調査区北東部に分布するSX14・17・290・353・361遺物包含層とSX717遺物包含層北部は掘立柱建物跡A(SB167・256・358・362・363・741)の床面を覆う堆積層となっている。南西部のSX608・610・666遺物包含層とSX717遺物包含層南部の分布域には建物跡が分布せずその他の遺構の分布密度も相対的に低い。以下、各遺構について詳述する。

【SX14 遺物包含層】(第167・168図、写真図版99・100)

位置：S-19・E-13

規模：長軸7.44m、短軸5.70m以上、面積28.56㎡以上

形態：最大層厚58cmで、底面は北東側に向かって緩やかに傾斜している。南端と北端の比高0.31m、西端と東端の比高0.21mで、北東方向に4.86~4.31%の勾配を持つ。本遺物包含層とSX290遺物包含層はともにSB256・363掘立柱建物跡の床面を覆う一連の堆積層である。

堆積土：1層で、ローム・焼土・炭化物粒、焼骨片を含む黒褐色シルトである。

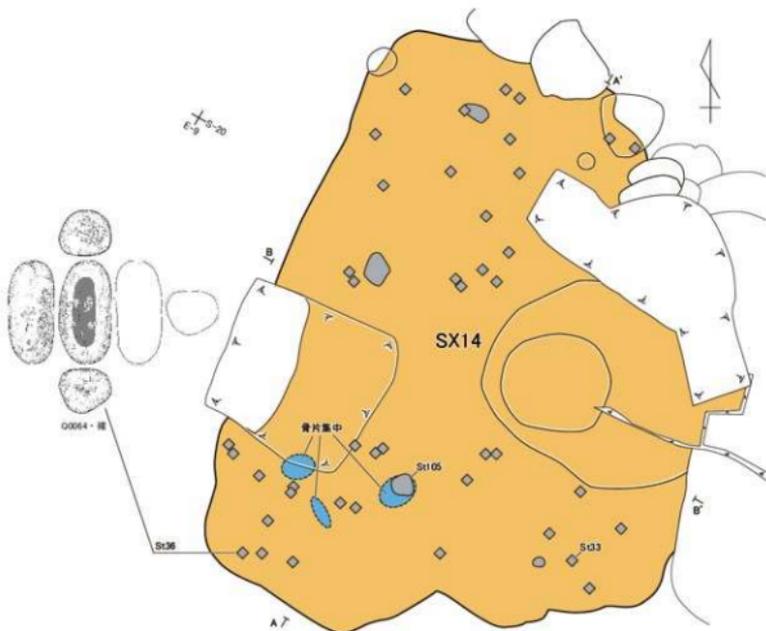
出土遺物：層中から多量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器48.9kg、土製品6点、石器220点、礫石器138点、石製品1点である。このうち、縄文土器37点(第3分冊：図版173~177、第4分冊：写真図版174~177)、土製品5点(図版285、写真図版267・268)、石器17点(図版335・336、写真図版325・326)、礫石器8点(図版425・426、写真図版442・443)、石製品1点(図版458、写真図版468)を図示した。

縄文土器は深鉢・浅鉢・小型深鉢で、Ⅲ群1類・Ⅳ群1類の土器が主体である。Ⅳ群1類に復元個体1点がある。土製品は土偶・ミニチュア土器があり、土偶は大型品の頭部(D0055)、中型品の頭部(D0054・D0056)、下半身(D0024)が見られる。中型品の下半身(D0024)は下腹部に左右一対の膨らみを持ち、側腹部に渦巻状沈線文、脚部に横位集合沈線、菱形状沈線文を施す。石器は石畿・尖頭器・石錐・石匙・石篋・楔形石器・打製石斧・磨製石斧・不定形石器・二次加工ある剥片・微細剥離ある剥片・剥片・石核がある。S0357は

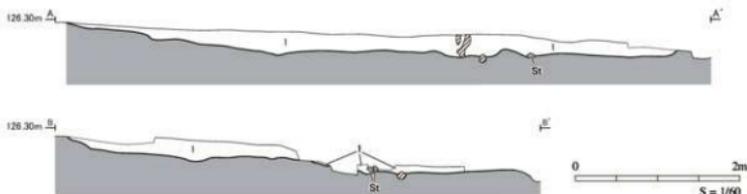
山形県飯豊山黒曜石製の楔形石器である。礫石器は石皿・敲石・磨石類がある。S1027は粘板岩製で小型の定角式磨製石斧である。石製品は棒状石製品(Q0064)があり、最大長28.1cmで輝石安山岩製の楕円形棒状礫を素材とし、上下両端に敲打痕と衝撃による亀裂が見られる。その他、焼成粘土塊2点(写真図版285)・焼骨(ツグミ科?・鳥綱・イノシシ・ニホンジカ・大型哺乳綱・哺乳綱)・炭化種実(オニグルミ・クリ・トチノキ)が出している。

年代測定：AMS測定により、堆積土1層出土土器付着炭化物で $4,410 \pm 30\text{yrBP}$ (P0510：Ⅲ群1類)の放射性炭素年代が得られている。暦年較正年代(1 σ)は5,043～4,890calBPの間に3つの範囲で示される。

形成時期：出土遺物から、4期に位置付けられる。



SX14 遺物包含層 A-A'・B-B'			
層	土色	土質	含む物等(備考)
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	図説物粒、破砕片、ローム粒少量、焼土和焼少量。



第167図 SX14 遺物包含層(1)

【SX17 遺物包含層】(第169・170図, 写真図版101～107)

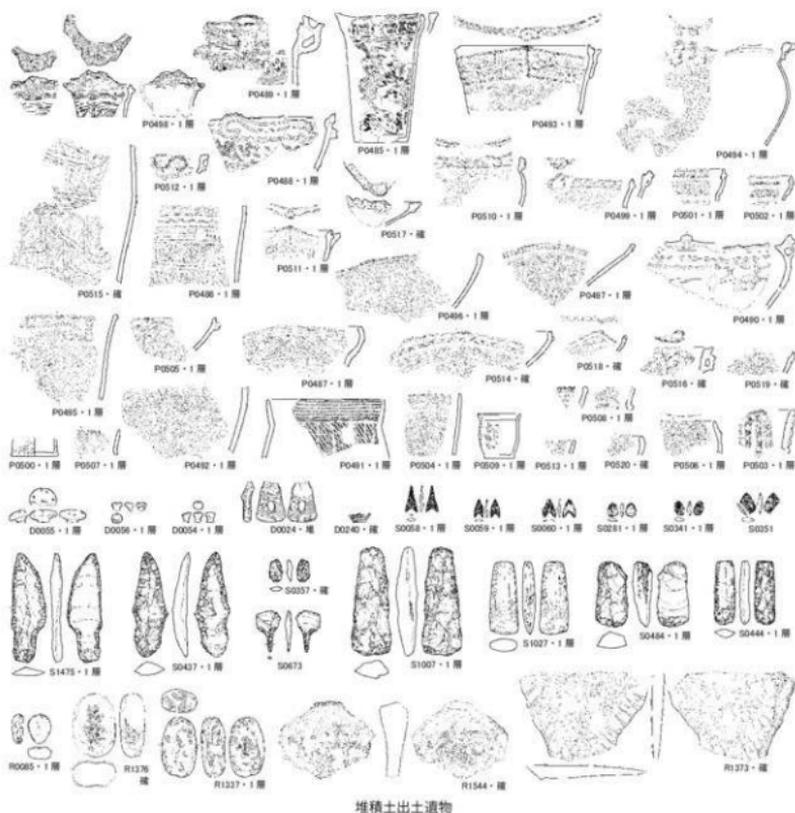
位置: S-14・E-9

規模: 長軸 15.20m, 短軸 7.36m, 面積 64.5㎡以上

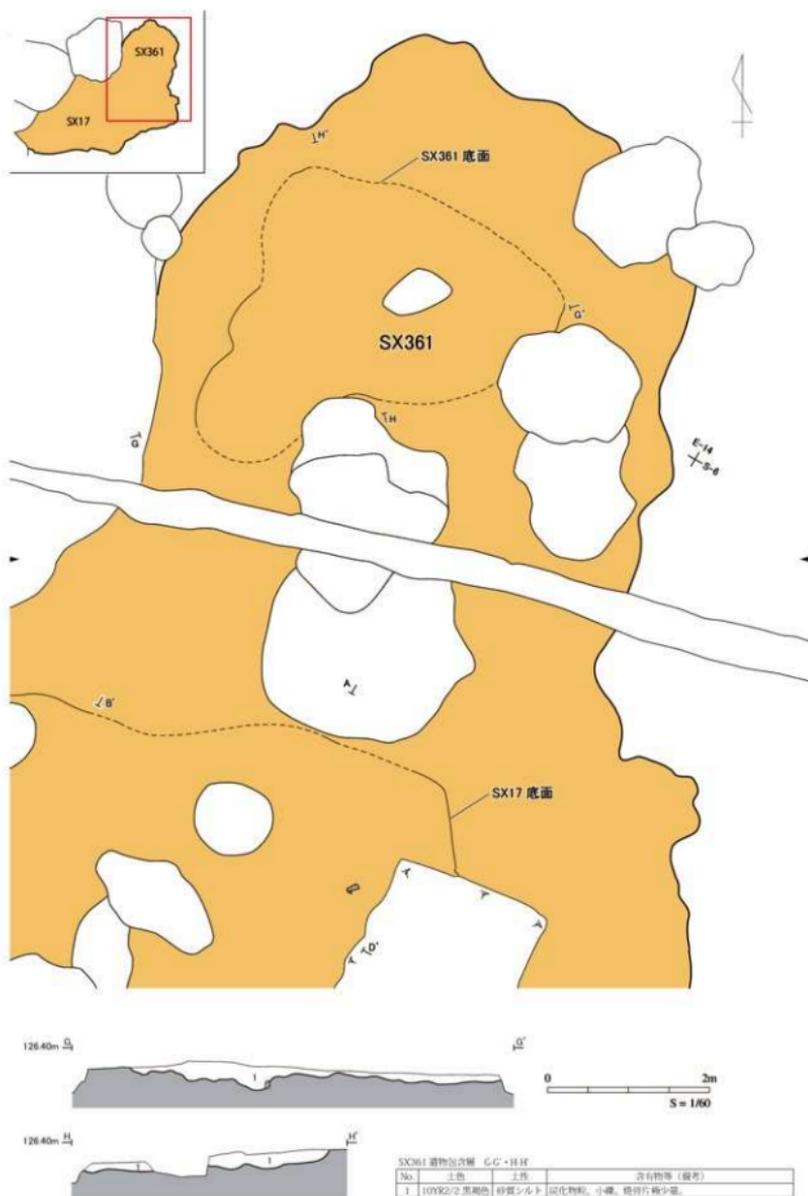
形態: 最大層厚 27cm で、底面は浅く皿状に窪み、北東側に向かって緩やかに傾斜している。南端と北端の比高 0.21m、西端と東端の比高 0.36m で、北東方向に 4.07～3.46%の勾配を持つ。本遺物包含層と SX353 遺物包含層はともに SB358・362 掘立柱建物跡の床面を覆う一連の堆積層である。

なお、本遺物包含層と SX361 遺物包含層は重複関係にあったとみられるが、境界付近における遺構の重複が著しく、掘り下げ時に設定した土層観察用ベルトがその後に確認された遺構の重複などによって機能しなかったため、堆積の前後関係を十分に明らかにすることはできなかった。

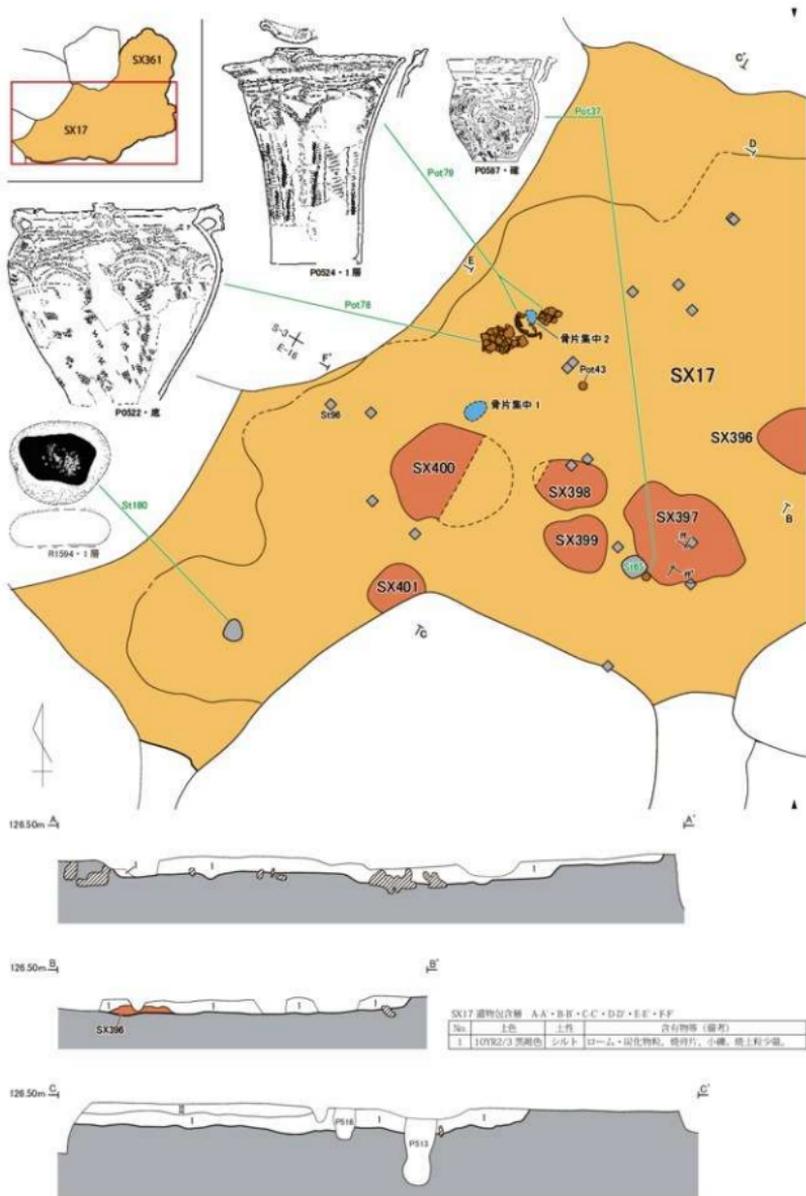
骨片集中: 西部の堆積層中で骨片集中 2 か所(骨片集中 1・2)を確認した。すべて焼骨片でニホンジカ、イノシシ、大型哺乳綱、哺乳綱、鳥綱がある。



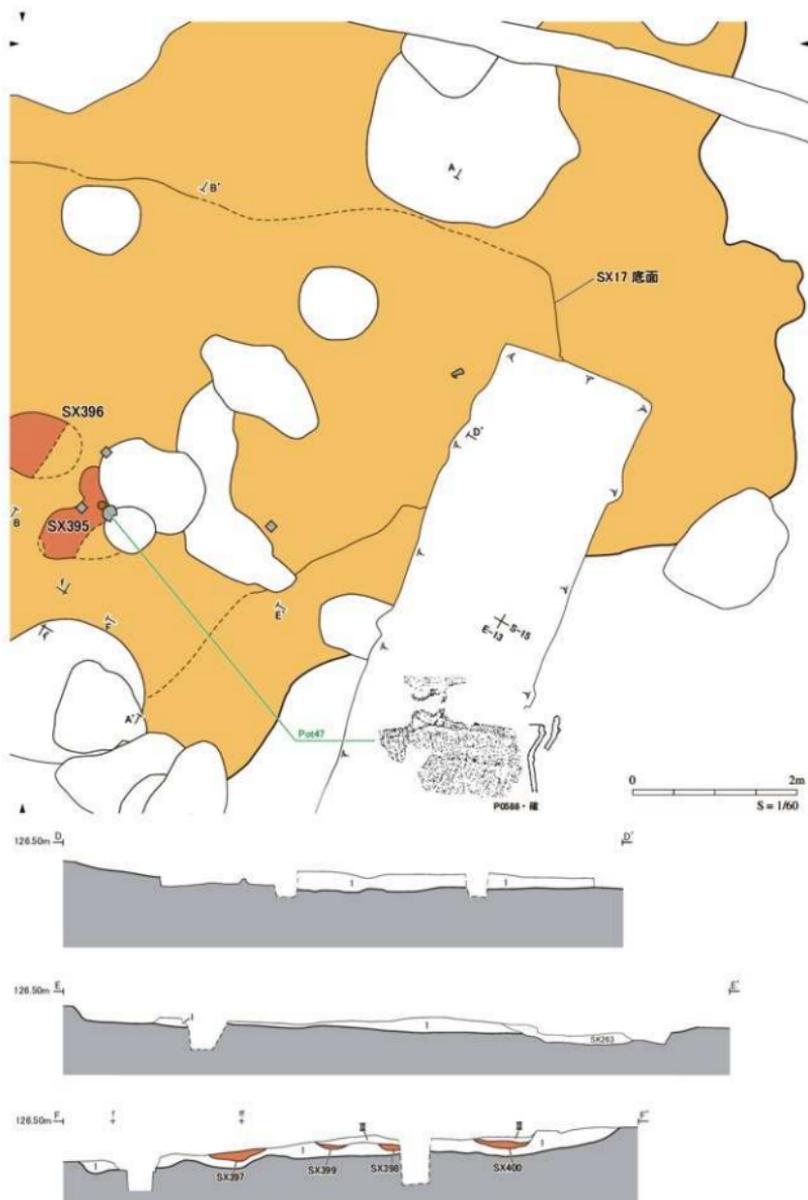
第168図 SX14 遺物包含層 (2)



第169-1 図 SX17・361 遺物包含層, SX395・396・397・398・399・400・401 焼土集積 (1)



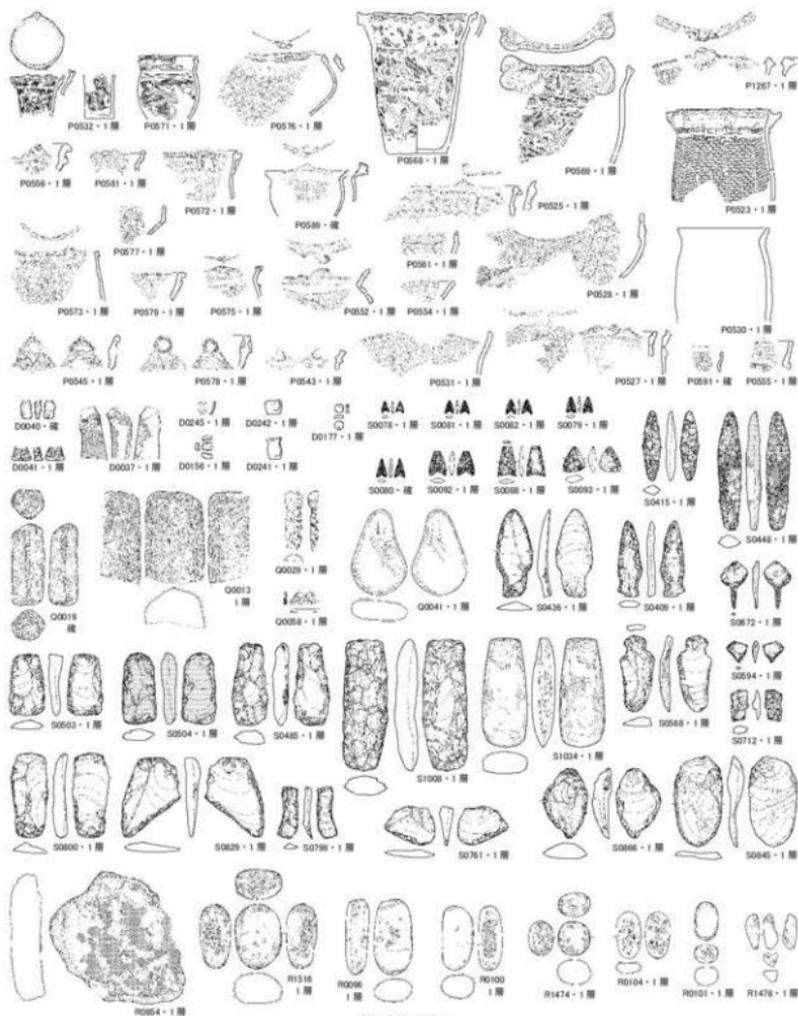
第169-2図 SX17・361 遺物包含層, SX395・396・397・398・399・400・401 焼土集積 (2)



遺構と遺物の詳説
遺物包含層

第169-3図 SX17・361 遺物包含層, SX395・396・397・398・399・400・401 焼土集積 (3)

焼土集積：中央～西部の堆積層中で焼土集積7か所(SX395～401)を確認した。平面形は長軸0.67～1.56m、短軸0.31～1.18mの楕円形ないしは不整形を呈し、概ね東西方向に線状に並ぶ。
 堆積土：1層で、ローム・焼土・炭化物粒、小礫、焼骨片を含む黒褐色シルトである。
 出土遺物：堆積層中から多量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器70.8kg、土製品13点、石器601点、



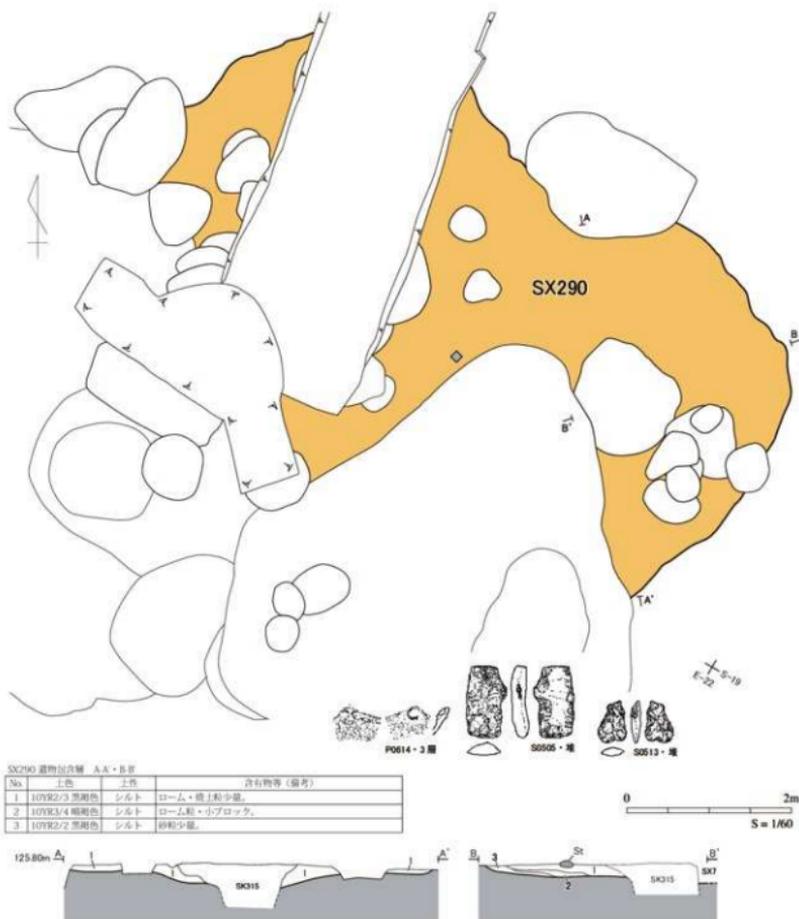
堆積土出土遺物
 第170図 SX17 遺物包含層

遺物と遺物の群説
 遺物包含層

礫石器 150点、石製品 5点である。このうち、縄文土器 53点（第3分冊：図版 337～341、第4分冊：写真図版 15・178～182）、土製品 9点（図版 286、写真図版 268・269）、石器 43点（図版 337～341、写真図版 178～182）、礫石器 14点（図版 427～429、写真図版 443～445）、石製品 5点（図版 459、写真図版 468・469）を図示した。

縄文土器は深鉢・小型深鉢・浅鉢があり、Ⅲ群1類・Ⅳ群1類の土器が主体である。Ⅲ群1類で3点、Ⅳ群1類で4点の復元個体がある。

土製品は土偶・円盤状土製品、ミニチュア土器がある。土偶は大型品の脚部（D0037）、中型品の脚部（D0039・D0041）、小型品の下半身（D0040）がある。大型品の脚部（D0037）は側腰部に渦巻状沈線文、脚部に横位集合沈線文を施文する。中型品の脚部（D0041）は押しによる横位集合沈線文を施文する。



第171図 SX290遺物包含層

石器は石鏃・尖頭器・石錐・石匙・石筥・楔形石器・打製石斧・磨製石斧・不定形石器・両面加工石器・二次加工ある剥片・微細剥離ある剥片・剥片・石核がある。S0415は珪質頁岩製で小型の有肩尖頭器である。全体に入念な調整が施され、均整の取れた柳葉形を呈する。S0448は珪質頁岩製の柳葉形尖頭器で、やや厚手だが全体に入念な調整を施す。基部を除く全体に顕著な黒色付着物が認められる。S1034は蛇紋岩製の定角式磨製石斧である。全体に入念な研磨調整を加えるが、部分的に剥離による整形の痕跡を残す。図示していないが、栃木県高野山産黒曜石製の剥片(S0384)がある。

礫石器は石皿・敲石・磨石類がある。

石製品は小型石棒・棒状石製品・線刻礫・不明石製品がある。小型石棒(Q0029)は凝灰岩を素材とする残存長6.1cmの有頭石棒で、ケズリ調整の後に研磨を加える。頭部に斜位短沈線文と横位沈線文を施文する。棒状石製品(Q0013・Q0019)は溶結凝灰岩の柱状節理による棒状礫を素材とし、全体に敲打による整形加工を加える。上下両端に顕著な敲打痕とこれに伴う剥離痕が見られる(Q0019)。

その他、焼成粘土塊7点(写真図版285)・焼骨(鳥鋼・イノシシ・ニホンジカ・大型哺乳鋼・哺乳鋼)・炭化材(クリ)・炭化種実(オニグルミ・クリ・サンショウ)が出土している。また、縄文土器深鉢(P0522)でサンショウ属?果実の圧痕を確認した。

年代測定: AMS測定により、堆積土1層の骨片集中出土木炭で $4,500 \pm 30$ yrBP、同層出土土器付着炭化物で $4,450 \pm 30$ yrBP(P0575: III群1類)の放射性炭素年代が得られている。暦年較正年代(1 σ)は5,283~5,054calBP、5,269~4,975calBPの間にそれぞれ複数の範囲で示される。

形成時期: 堆積層出土遺物と放射性炭素年代から、3~4期に位置付けられる。

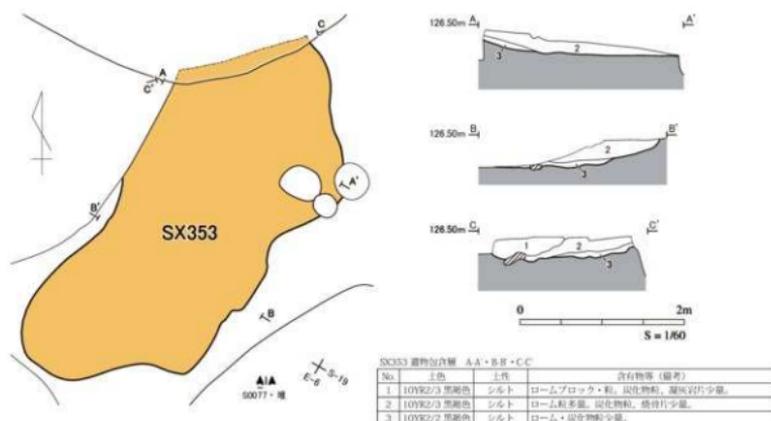
【SX290 遺物包含層】(第171図)

位置: S-17・E-17

規模: 長軸8.26m以上、短軸4.85m以上、面積約22.93㎡

形態: 最大層厚69cm以上である。本遺物包含層とSX14遺物包含層はともにSB256・363掘立柱建物跡の床面を覆う一連の堆積層である。

堆積土: 3層に細分される。ロームブロック、焼土粒、砂粒を含む黒褐色・暗褐色シルトである。



第172図 SX353 遺物包含層

出土遺物：堆積層中から少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器 3.1kg、石器 24 点、礫石器 2 点である。このうち、縄文土器 1 点（第 3 分冊：図版 183、第 4 分冊：写真図版 182）、石器 2 点（図版 342、写真図版 330）を図示した。縄文土器は浅鉢の破片（PO614：Ⅲ群 1 類）である。石器は石鏃・石筥・楔形石器・不定形石器・二次加工ある剥片・微細剥離ある剥片・剥片・石核がある。礫石器は磨石類がある。

形成時期：推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の新旧関係では SX372 炉跡（SB256 掘立柱建物跡、2-2 期）より新しく、SK307 土坑（4-1 期）より古く位置付けられる。以上より形成時期は概ね 3 期と考えられる。

【SX353 遺物包含層】（第 172 図）

位置：S-17・E-3

規模：長軸 5.80m 以上、短軸 2.19m 以上、面積 8.16m²以上

形態：最大層厚 34cm で、底面は北東側に向かって緩やかに傾斜している。本遺物包含層とその上層を広範囲に覆う SX17 遺物包含層とともに SB358・362 掘立柱建物跡の床面を覆う一連の堆積層である。

堆積土：3 層に細分される。ロームブロック、凝灰岩片、炭化物粒、焼骨片を含む黒褐色シルトである。

出土遺物：堆積層中から少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器 0.8kg、石器 13 点、礫石器 2 点である。このうち、石器 1 点（第 3 分冊：図版 342、第 4 分冊：写真図版 330）を図示した。石器は石鏃・楔形石器・二次加工ある剥片・剥片がある。礫石器は磨石類がある。

形成時期：推定の根拠に乏しく不詳である。遺構の新旧関係では SB358 掘立柱建物跡（3 期）より新しく、SI22 竪穴住居跡・SX4 竪穴状遺構（4-1 期）より古く位置付けられる。以上より、形成時期は 3～4 期と考えられる。

【SX361 遺物包含層】（第 169・173 図、写真図版 108）

位置：S-4・E-10

規模：長軸 4.69m 以上、短軸 2.96m 以上、面積 8.52m²以上

形態：最大層厚 29cm 以上で、北東側に向かって緩やかに傾斜している。本遺物包含層は SB167 掘立柱建物跡の床面を覆う堆積層である。なお、SX17 遺物包含層との関係については既述の通りである。

骨片集中：堆積層中で骨片集中 1 か所を確認した。ニホンジカ、イノシシ、哺乳綱がある。

堆積土：1 層で、小礫、炭化物粒、焼骨片を含む黒褐色砂質シルトである。

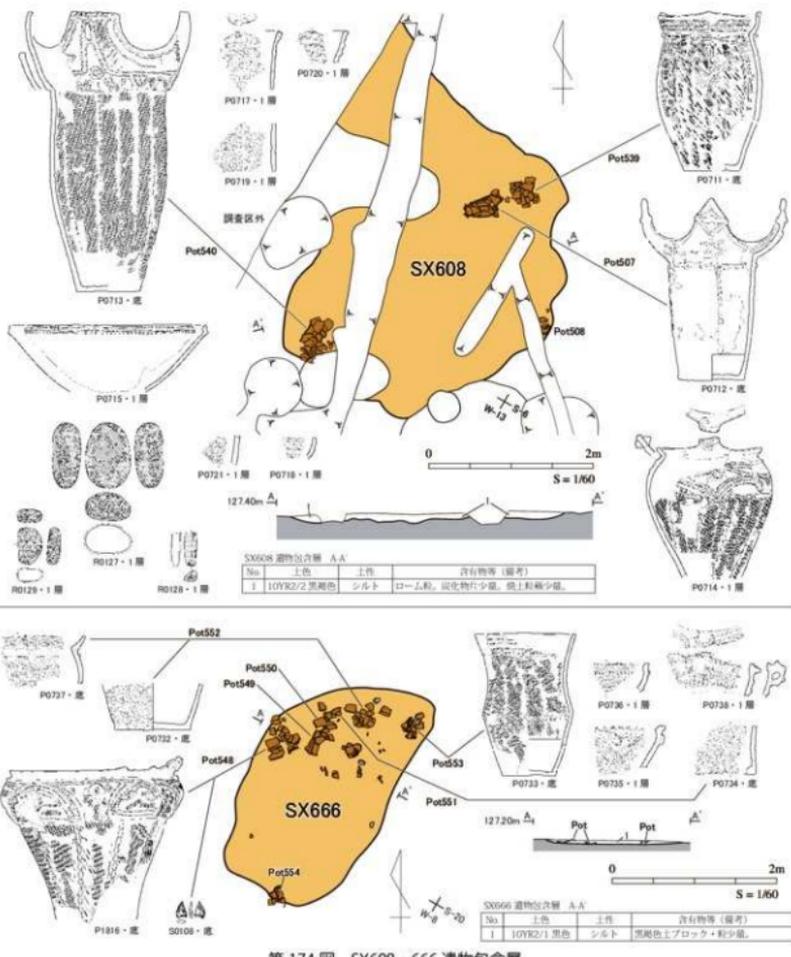


第 173 図 SX361 遺物包含層

第3章 調査の成果

出土遺物：堆積層中から多量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器24.0kg、土製品1点、石器109点、礫石器41点である。このうち、縄文土器28点（第3分冊：図版184～186、第4分冊：写真図版183～185）、土製品1点（図版286、写真図版269）、石器6点（図版342、写真図版331）、礫石器4点（図版430、写真図版445）を図示した。

縄文土器は深鉢・浅鉢で、Ⅱ群1類・Ⅱ群2類の土器が主体である。土製品は土偶で、中型品の頭部（D0043）である。石器は石鍬・石匙・石笏・磨製石斧・不定形石器・二次加工ある剥片・微細刺離ある剥片・剥片・石核がある。礫石器は石皿・敲石・磨石類がある。その他、焼成粘土塊2点（写真図版286）・焼骨（イノシシ・



第174図 SX608・666遺物包含層

ニホンジカ・哺乳綱)・炭化材(ヤマグワ)・炭化種実(オニグルミ・クリ・トチノキ)が出土している。

年代測定: AMS測定により、堆積土骨片集中出土木炭で $4,540 \pm 30\text{yrBP}$ 、炭化種実で $4,540 \pm 30\text{yrBP}$ 、堆積土出土土器付着炭化物で $4,390 \pm 30\text{yrBP}$ (P0644: II群2類)の放射性炭素年代が得られている。暦年較正年代(1 σ)は $5,309 \sim 5,072\text{calBP}$ 、 $5,307 \sim 5,071\text{calBP}$ 、 $5,030 \sim 4,878\text{calBP}$ の範囲にそれぞれ複数の範囲で示される。木炭・炭化種実の年代はほぼ同一の範囲を示すが、土器付着炭化物の年代とは誤差の範囲でも重ならない。土器付着炭化物の年代は土器の型式編年から想定される年代よりも新しく、4期で示される放射性炭素年代および暦年較正年代範囲と近似していることから、何らかの理由で4期に由来する炭素が測定された可能性がある。

形成時期: 堆積層出土遺物と放射性炭素年代から、2-2期に位置付けられる。

【SX608 遺物包含層】 (第174図, 写真図版109)

位置: S-5・W-15

規模: 長軸3.93m以上、短軸3.88m、面積9.31m²以上

形態: 最大層厚16cmである。

堆積土: 1層で、ローム・焼土粒、炭化物片を含む黒褐色シルトである。

出土遺物: 堆積層中から少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器10.2kg、石器20点、礫石器14点である。このうち、縄文土器10点(第3分冊: 図版186~189, 第4分冊: 写真図版15・185~188)、礫石器3点(図版431, 写真図版446)を図示した。縄文土器は深鉢・浅鉢があり、III群1類・III群2類の土器が主体である。石器は石鏃・楔形石器・微細剥離ある剥片・剥片がある。礫石器は石皿・敲石・磨石類がある。

形成時期: 堆積層出土遺物から、3-1期に位置付けられる。

【SX610 遺物包含層】 (第175・176図, 写真図版110)

位置: S-24・W-9

規模: 長軸18.40m以上、短軸10.70m以上、面積119.88m²以上

形態: 最大層厚18cmで、底面は南東側に向かって緩やかに傾斜している。北西端と南東端の比高0.42mで2.94%の勾配を持つ。

堆積土: 1層で、ローム・焼土・炭化物粒を含む黒色シルトである。

出土遺物: 堆積層中から多量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器121.2kg、土製品9点、石器366点、礫石器99点、石製品2点である。このうち、縄文土器88点(第3分冊: 図版190~202, 第4分冊: 写真図版16・188~198)、土製品6点(図版287・288, 写真図版269・270)、石器11点(図版342・343, 写真図版331・332)、礫石器3点(図版431, 写真図版446)、石製品1点(図版459, 写真図版469)を図示した。

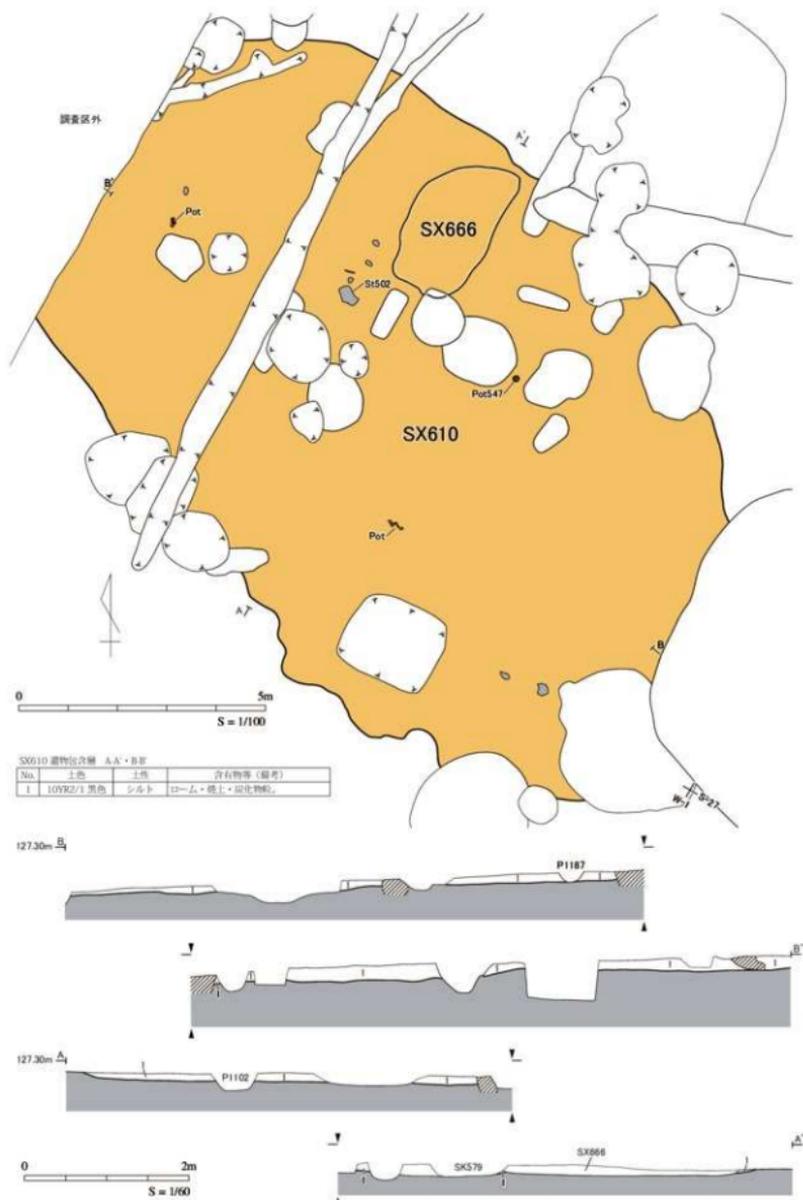
縄文土器は深鉢・小型深鉢・浅鉢・小型脚付壺があり、II群1類で2点、II群3類で1点、III群1類で2点、III群3類で2点、IV群1類で2点、V群1類で1点の計10点の略完形・復元個体がある。破片も含めて上述の各類が出土しているが、III群1類・IV群1類の土器が主体である。

土製品は土偶・ミニチュア土器・土器片加工品(円盤形)があり、土偶は中型品の上半身(D0046・D0052)、胴部(D0048)、頭部を欠く小型品(D0047)がある。豆粒状の貼り付けによる乳房(D0046・D0047・D0048)、側腹部に渦巻状沈線文を施すもの(D0048)が見られる。

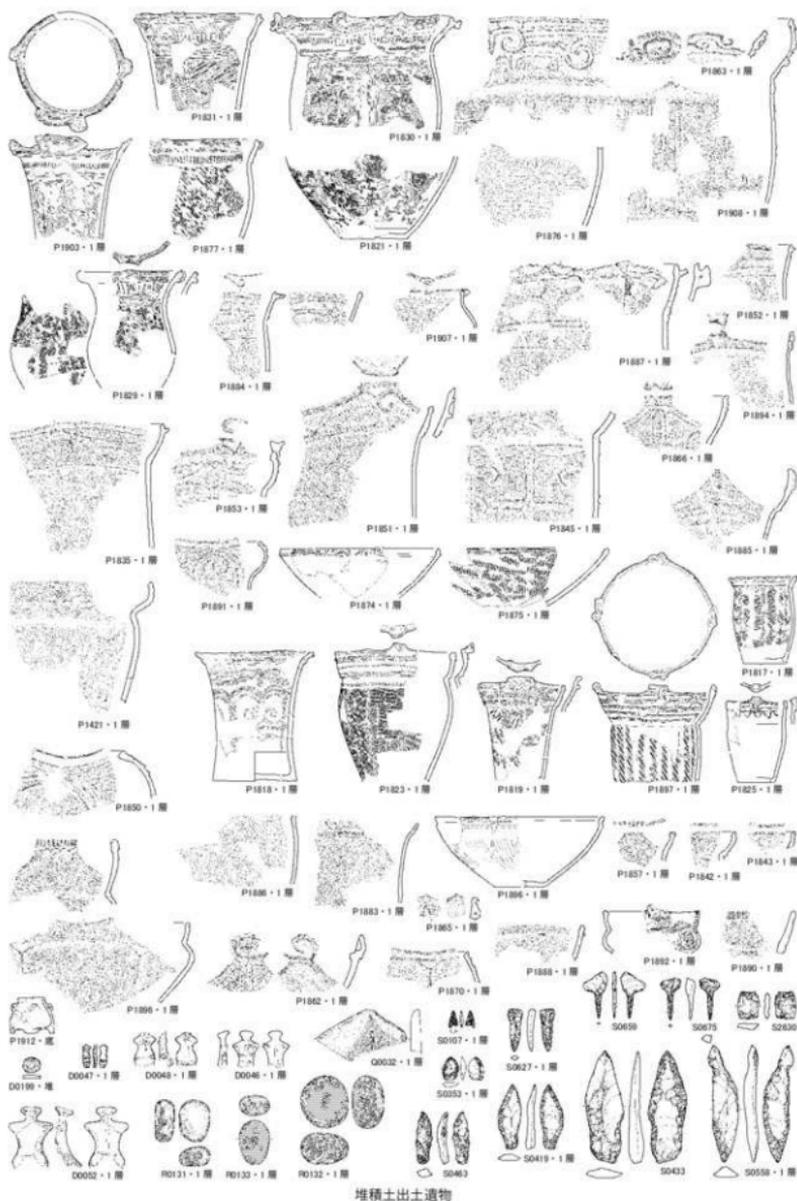
石器は石鏃・尖頭器・石鏃・石匙・石筥・楔形石器・磨製石斧・不定形石器・両面加工石器・二次加工ある剥片・微細剥離ある剥片・剥片・石核がある。

礫石器は石皿・敲石・磨石類がある。S0355は栃木県高麗山産黒曜石製の両面加工石器である。図示していないが、同様の黒曜石製の剥片(S0375)もある。

石製品は棒状石製品・線刻礫があり、線刻礫(Q0032)は緑色凝灰岩の礫面に逆さ扇状の線刻が見られる。その他、焼成粘土塊11点(写真図版286)が出土している。



第175図 SX610・666遺物包含層



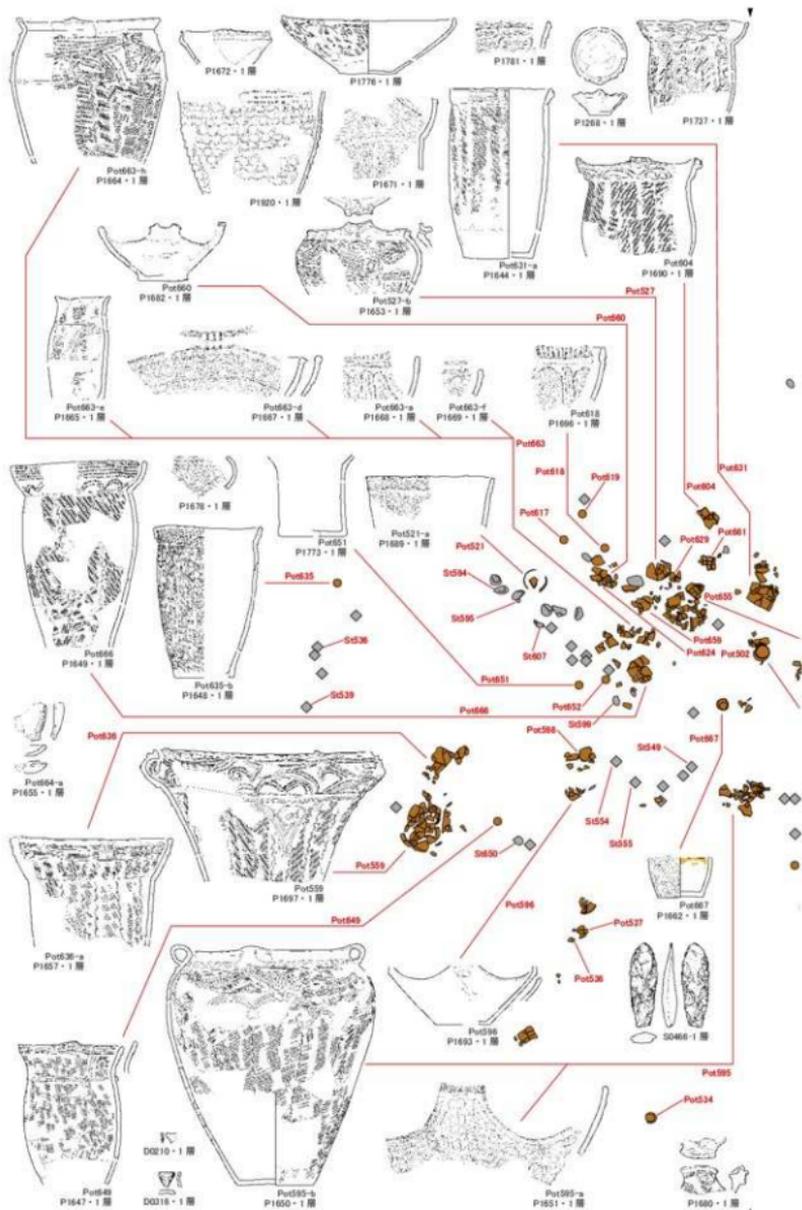
堆積土出土遺物

第176図 SX610遺物包含層



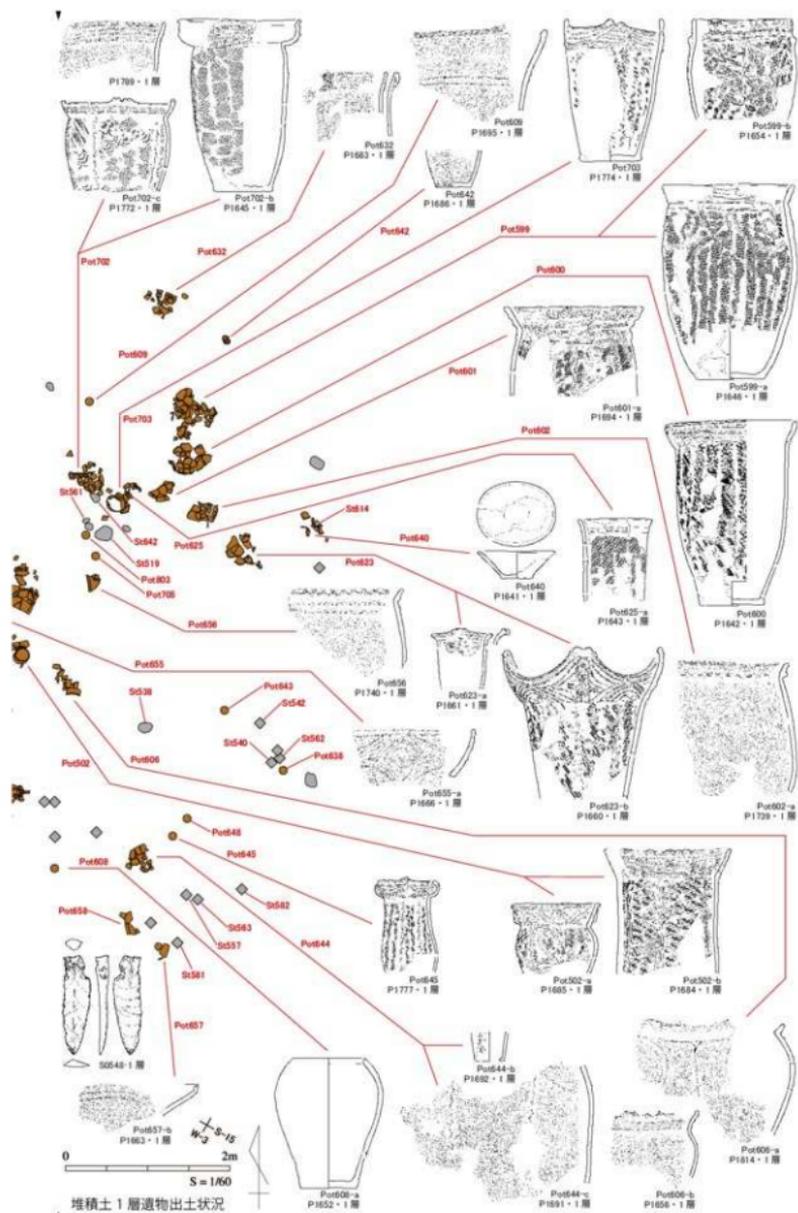


第177-2図 SX717 遺物包含層(2)

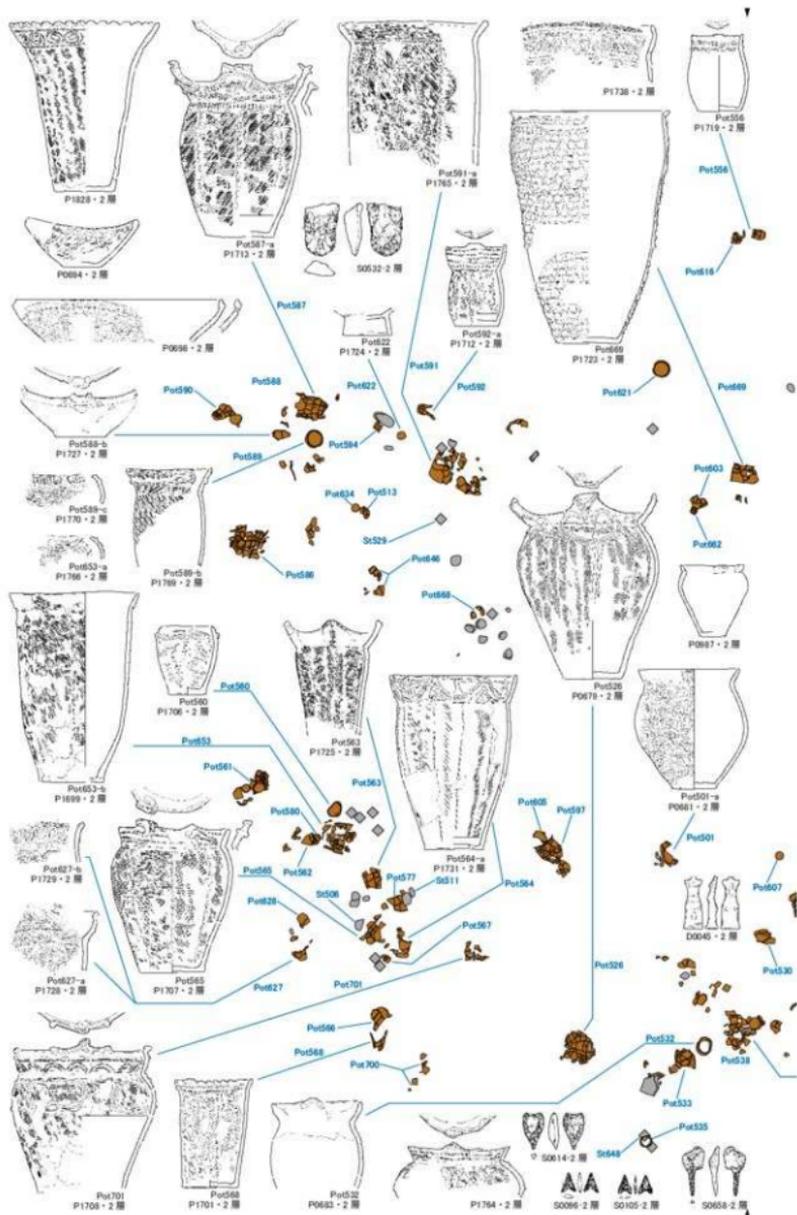


第178-1図 SX717遺物包含層(3)

遺物と遺物の群集
遺物包含層

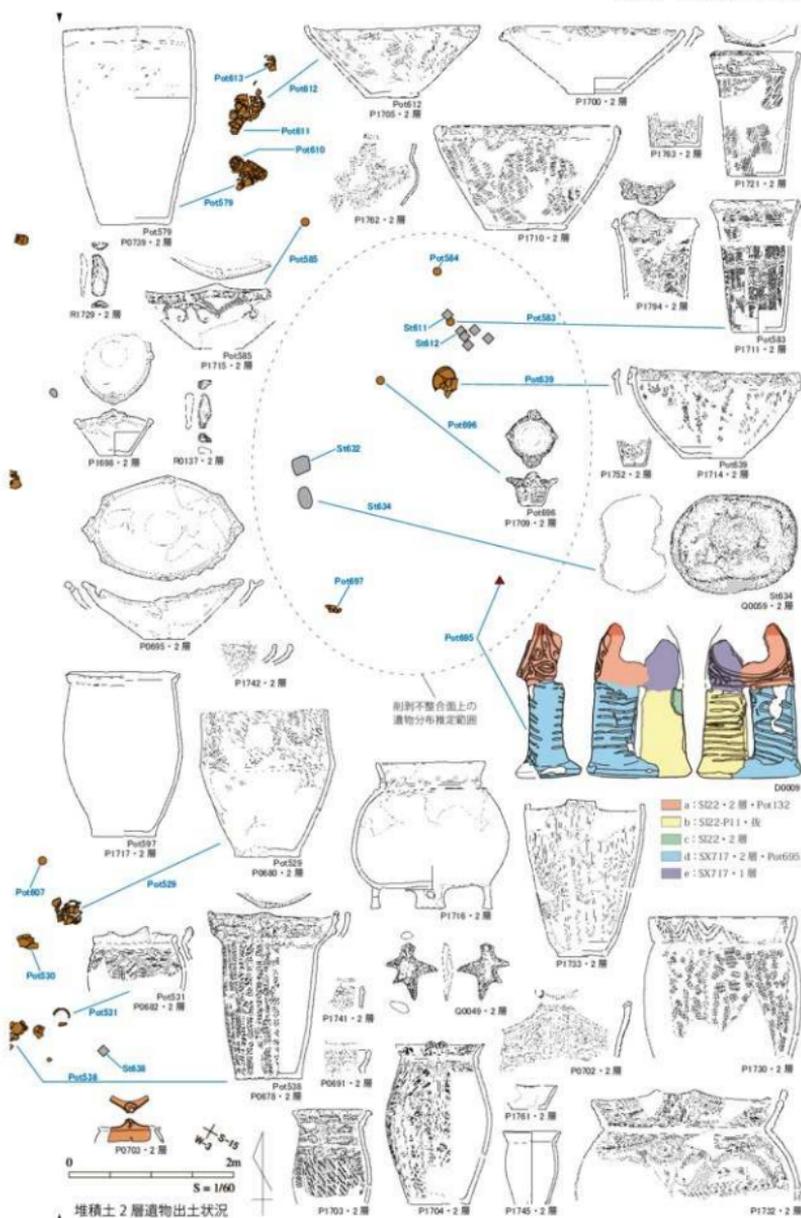


第178-2図 SX717 遺物包含層(4)



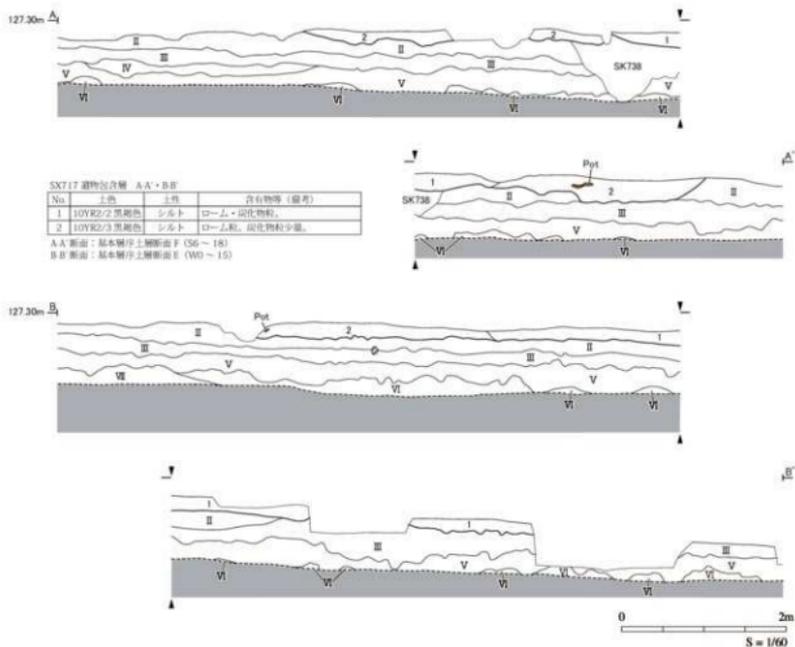
第179-1図 SX17 遺物包含層 (5)

遺物と遺物の解説
遺物包含層



第179-2図 SX717 遺物包含層 (6)

第3章 調査の成果



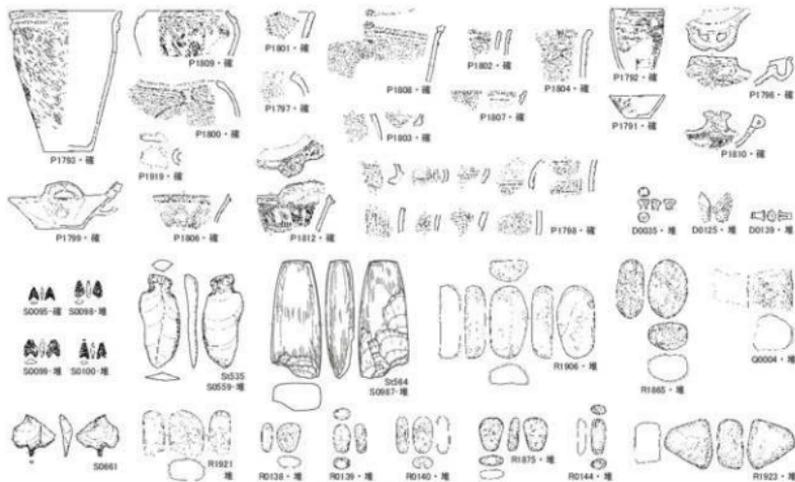
SX717 遺物包含層 A.A・B.B

No.	土色	土質	含有物等 (備考)
1	10YR2/2 黒褐色	シルト	砂-土・炭化物粒、
2	10YR2/2 黒褐色	シルト	砂-土粒、炭化物粒少量、

A.A 断面：基本層序上層断面 (S6～18)
 B.B 断面：基本層序上層断面 (W0～15)

遺物と遺物の解説

遺物包含層



確認図・堆積土出土遺物

第180図 SX717 遺物包含層 (7)

年代測定：AMS測定により、堆積土1層出土土器付着炭化物で4,510 ± 30yrBP (P1892：Ⅱ群2類)の放射性炭素年代が得られている。暦年較正年代(1σ)は5,292～5,063calBPの間に4つの範囲で示される。

形成時期：堆積層出土遺物から、3～4期に位置付けられる。

【SX666 遺物包含層】(第174・175図、写真図版110・111)

位置：S-19・W-10

規模：長軸2.96m、短軸1.78m、面積4.30㎡以上

形態：最大層厚22cmである。広範囲に分布するSX610遺物包含層と底面が一致しており、本遺物包含層はSX610遺物包含層と一連の堆積層の一部で、部分的な堆積状況の違いと考えられる。

堆積土：1層で、黒褐色土ブロックを含む黒色シルトである。

出土遺物：堆積層中から少量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器7.9kg、石器9点、礫石器4点である。このうち、縄文土器8点(第3分冊：図版203・204、第4分冊：写真図版199・200)、石器1点(図版343、写真図版332)を図示した。縄文土器は深鉢があり、Ⅲ群1類の土器が主体である。石器は石鏃・剥片がある。礫石器は磨石類がある。その他、縄文土器深鉢(P0733)で堅果類の圧痕を確認した。

形成時期：堆積層出土遺物から、3-1期に位置付けられる。

【SX717 遺物包含層】(第177～180図、写真図版8～10、111～119)

位置：S-10・W-9

規模：長軸15.00m、短軸11.00m、面積約135.88㎡

形態：最大層厚30cmで、底面は南東側に向かって緩やかに傾斜している。北端と南端の比高0.21m、西端と東端の比高0.4mで、南東方向に4.18～2.90%の勾配を持つ。北部ではSB741掘立柱建物跡の床面を覆う。

堆積土：2層に細分される。ローム・炭化物粒を含む黒褐色シルトである。

出土遺物：堆積層中から多量の遺物が出土している。遺物の数量は縄文土器321.1kg、土製品11点、石器754点、礫石器103点、石製品5点である。このうち、縄文土器212点(第3分冊：図版205～243、第4分冊：写真図版16・17・200～230)、土製品7点(図版288、写真図版270・271)、石器30点(図版344～347、写真図版332～335)、礫石器17点(図版432～434、写真図版447～449)、石製品4点(図版460、写真図版469)を図示した。

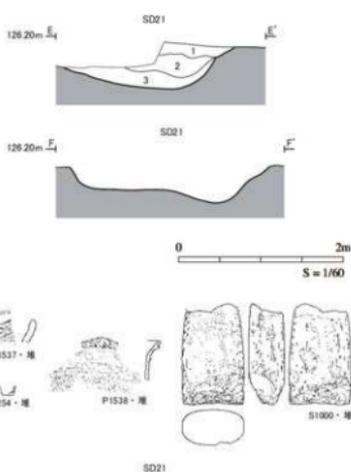
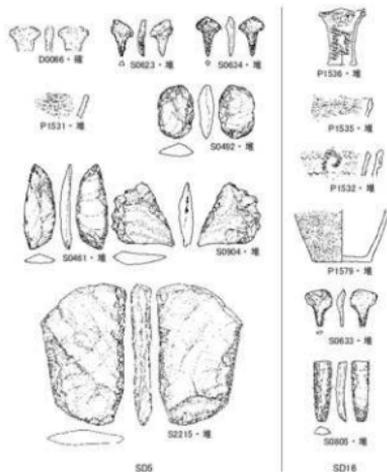
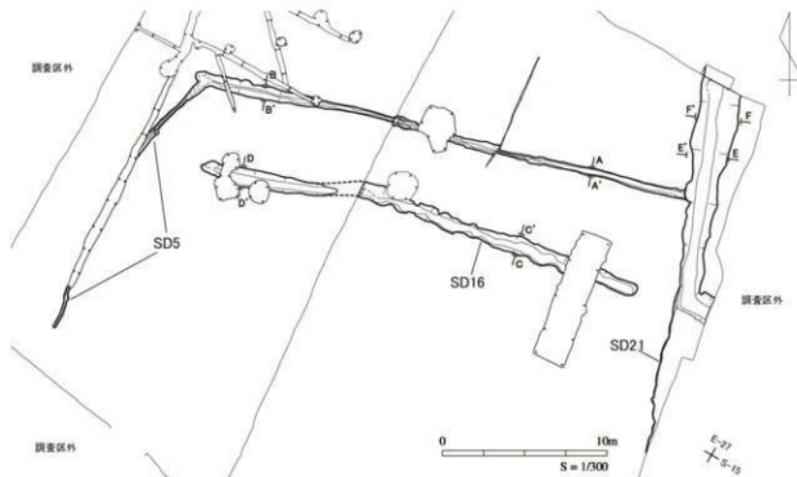
縄文土器は深鉢・小型深鉢・浅鉢・小型浅鉢・台付浅鉢・脚付壺・注口土器があり、Ⅱ群1類で20点、Ⅱ群3類で1点、Ⅲ群1類で36点、Ⅲ群2類で2点、Ⅲ群3類で6点、Ⅳ群1類で8点、Ⅴ群1類で1点、Ⅴ群2類で1点の計75点の完形・略完形・復元個体がある。破片も含めてⅠ～Ⅴ群の各層が出土しているが、完形・略完形・復元個体を中心として主体を占めるのはⅡ群1類・Ⅲ群1類の土器である。各層の出土状況では堆積層1層はⅢ群1類、2層はⅡ群1類の土器を主体としている。

なお、Ⅳ群1類の土器は北東部の一角(第179-2図：右上破線内)にまとまって分布し、隣接するSI22竪穴住居跡と接合関係のある大型土偶(D009)の破片もここから出土している。北東部の堆積層上部は削刺不整合面となっており、遺物の出土状況からⅣ群1類の土器を含む堆積層が不整合面を薄く被覆していたと推定されるが、包含層掘削時に層の末端付近における分層が不十分で混同を生じたものと考えられる。

土製品は土偶・三脚形土製品・ミニチュア土器・土器加工品(三角形)・耳飾がある。土偶は頭部のみを欠く中型品(D0045)、中型品の頭部(D0035)、大型品の臀部の一部(D0125)がある。中型品(D0045)はW字状に突出する乳房と乳線による正中線、腹部と臀部の膨らみを均整の取れた造形で表現する。

石器は石鏃・尖頭器・石鏃・石匙・石鏟・楔形石器・打製石斧・磨製石斧・不定形石器・両面加工石器・二次加工ある剥片・微細剥離ある剥片・剥片・石核がある。S0987はドレライト製の定角式磨製石斧である。使用による刃部の損傷が顕著である。図示していないが、宮城県川崎産黒曜石製の剥片(S0368)がある。

礫石器は石皿・有溝砥石・敲石・磨石類がある。



SD5 溝跡 A-A'・B-B'

No.	上層	上層	含有物等 (備考)
1	10YR2/1 黒色	シルト	ロームブロック少量。
2	10YR2/2 黒褐色	シルト	ロームブロック。

SD16 溝跡 C-C' D-D'

No.	上層	上層	含有物等 (備考)
1	7.5YR2/1 黒色	シルト	ローム粒少量。
2	7.5YR4/3 褐色	シルト	ローム粒少量。

SD21 溝跡 E-E'

No.	上層	上層	含有物等 (備考)
1	7.5YR3/1 黒褐色	シルト	女闘土。
2	10YR2/2 黒褐色	シルト	ロームブロック少量。
3	10YR4/3 に近い 黄褐色	シルト	ロームブロック多量。

第181図 SD5・16・21 溝跡

石製品は異形石器・石棒・乳鉢状石製品・不明石製品がある。

その他、焼成粘土塊7点(写真図版287)・焼骨(ニホンジカ・哺乳類)・炭化材(スギ・クリ)・炭化種実(オニグルミ)が出土している。また、縄文土器深鉢で種実・葉脈圧痕(P1654:堅果類、P1917:ワラビ小羽片、P1918:ワラビ裂片)を確認した。

年代測定: AMS測定により、堆積土2層のPot597内出土木炭で4,590 ± 30yrBP、1層の骨片混入黒色土出土木炭で4,490 ± 30yrBP、確認面出土土器付着炭化物で4,500 ± 30yrBP(P1808: II群2類後半期)の放射性炭素年代が得られている。暦年較正年代(1σ)は5,438 ~ 5,290calBP、5,281 ~ 5,052calBP、5,282 ~ 5,054calBPの間に複数の範囲で示される。

形成時期: 堆積層出土遺物と放射性炭素年代から、堆積層1層は3期を中心とした時期、2層は2期を中心とした時期に位置付けられる。

15. 溝跡

3条確認した。調査区東端にSD21溝跡、調査区中央を横断するSD5・16溝跡がある。SD21溝跡は上幅2.6m程度で南北方向に伸び、南側で東へ折れる。SD5溝跡は上幅1.0m程度で東西方向に伸び、西側で南へ折れる。SD16溝跡は上幅1.1m程度でSD5溝跡の南側に約4.5mの間隔で平行して東西方向に伸びる。SD5・16溝跡が平行し、SD21溝跡とほぼ直交することからこれらの溝跡は同一の地割に沿って掘られたものと考えられる。機能時期を示す出土遺物は得られていないが、確認した遺構の重複関係では最も新しく、後世の比較的新しい時期の遺構と考えられる。以下、各遺構について詳述する。

【SD5 溝跡】 (第181図, 写真図版89)

位置: 調査区中央部

規模: 上幅0.16 ~ 0.96m、底幅0.06 ~ 0.32m、延長47.60m(東西29.90m + 南北17.70m)以上

形態: 東西・南北方向にL字形に直線的に伸びる溝跡である。断面形は深さ0.05 ~ 0.49mの逆台形・V字形・皿形を呈する。底面は北東側に向かって緩やかに傾斜しており、南西端と東端の比高1.64mである。南北方向の勾配2.44%(南西端と北西端の比高0.41m)、東西方向の勾配4.07%(北西端と東端の比高1.23m)である。

堆積土: 2層に細分される。ロームブロックを含む黒色・黒褐色シルトである。

出土遺物: 堆積土などから多くの遺物が出土している。縄文土器は小破片が主体であることから、出土した遺物は後世の周囲からの流れ込みと考えられる。遺物の数量は縄文土器10.0kg、土製品1点、石器70点、礫石器15点である。このうち、縄文土器1点(第3分冊: 図版155、第4分冊: 156)、土製品1点(図版283、写真図版265)、石器6点(図版327・328、写真図版316)を図示した。縄文土器は深鉢の破片である。土製品は土偶で、中型品の胴上部である(D0066)。石器は尖頭器・石錐・石筥・楔形石器・不定形石器・両面加工石器・二次加工ある剥片・微細剥離ある剥片・剥片がある。礫石器は敲石・磨石類がある。その他、焼骨(哺乳類)が出土している。

機能時期: 遺構の新旧関係と規模・構造、堆積土の状態などから比較的新しい時期と考えられる。

【SD16 溝跡】 (第181図, 写真図版89)

位置: 調査区中央部

規模: 上幅0.48 ~ 1.12m、底幅0.16 ~ 0.68m、延長27.20m以上

形態: 東西方向に直線的に伸びる溝跡である。SD5溝跡東西部の南側に3.50 ~ 5.20mの間隔で平行する。断面形は深さ0.07 ~ 0.29mの皿形を呈し、底面は東側に向かって緩やかに傾斜している。西端と東端の比高0.86mで、3.32%の勾配を持つ。

堆積土: 2層に細分される。ローム粒を含む黒色・褐色シルトである。

出土遺物: 堆積土などから多くの遺物が出土している。縄文土器は小破片が主体であることから、出土した遺物は後世の周囲からの流れ込みと考えられる。遺物の数量は縄文土器 8.7kg、土製品 4 点、石器 39 点、礫石器 11 点である。このうち、縄文土器 6 点 (第 3 分冊: 図版 155、第 4 分冊: 写真図版 156)、土製品 1 点 (図版 283、写真図版 265)、石器 2 点 (図版 328、写真図版 317) を図示した。縄文土器は深鉢・小型深鉢がある。土製品は土偶・ミニチュア土器・土器片加工品 (円盤形) がある。石器は石鏃・石錐・石篋・楔形石器・不定形石器・二次加工ある剥片・微細剥離ある剥片・剥片がある。図示していないが、宮城県秋保産黒曜石製の剥片 (S0374) がある。礫石器は石皿・磨石類がある。

機能時期: 遺構の新旧関係と規模・構造、堆積土の状態などから比較的新しい時期と考えられるが、対応する時期の出土遺物がなく不詳である。

【SD21 溝跡】 (第 181 図、写真図版 89)

位置: 調査区北東部

規模: 上幅 1.23 ~ 2.56m 程度、底幅 0.55 ~ 1.92m 程度、延長 25.01m (東西 2.05m + 南北 22.96m) 以上
形態: T 字形に直線的に伸びるとみられる溝跡である。分岐部分より北側・東側は南側より一段深く掘り込まれており、掘り直しが行われていると考えられる。断面形は深さ 0.02 ~ 0.49m の皿形を呈し、底面は南側に向かって僅かに傾斜している。北端と南端の比高 0.17m で、1.24% の勾配を持つ。

堆積土: 3 層に細分される。1 層は均質な黒褐色シルト、2・3 層はロームブロックを含む黒褐色・にぶい黄褐色シルトである。

出土遺物: 堆積土などから少量の遺物が出土している。縄文土器は小破片が主体であることから、出土した遺物は後世の周囲からの流れ込みと考えられる。遺物の数量は縄文土器 1.9kg、土製品 1 点、石器 22 点、礫石器 17 点である。このうち、縄文土器 2 点 (第 3 分冊: 図版 155、第 4 分冊: 写真図版 156)、土製品 1 点 (図版 283、写真図版 265)、石器 1 点 (図版 328、写真図版 317) を図示した。縄文土器は深鉢がある。土製品はミニチュア土器がある。石器は石鏃・楔形石器・磨製石斧・不定形石器・二次加工ある剥片・微細剥離ある剥片・剥片がある。S1000 はホルンフェルス製の乳棒状磨製石斧で、刃部を折損後に剥離と研磨による再加工を加えている。礫石器は石皿・敲石・磨石類がある。その他、炭化材 (クリ) が出土している。

機能時期: 遺構の新旧関係と規模・構造、堆積土の状態などから比較的新しい時期と考えられるが、対応する時期の出土遺物がなく不詳である。

16. 柱穴

確認した柱穴は 1,213 基で、このうち竪穴住居跡に伴うもの 89 基、掘立柱建物跡に伴うもの 140 基である。組み合わせが不明な柱穴は 984 基ある。これらの中には柱痕跡と掘方埋土などが明瞭に認識され、柱材の据え穴としての性格を持つものも多く確認しており、調査で認識できなかった掘立柱建物跡などの施設が複数存在したと考えられる。

組み合わせが不明な柱穴から出土した遺物の総量は縄文土器 99.63kg、土製品 12 点、焼成粘土塊 8 点、石器 661 点、礫石器 168 点、石製品 6 点である。このうち、縄文土器 34 点 (第 3 分冊: 図版 168 ~ 172、第 4 分冊: 写真図版 171 ~ 173)、土製品 9 点 (図版 284・285、写真図版 266・267)、石器 38 点 (図版 330 ~ 334、写真図版 320 ~ 324)、礫石器 13 点 (図版 423・424、写真図版 440・441)、石製品 6 点 (図版 456 ~ 458、写真図版 466 ~ 468) を図示した。

縄文土器は深鉢・浅鉢・壺がある。Pit1202 柱穴では堆積土 1 層から縄文土器深鉢の上半部 1 点 (P1577: I 群 1 類) が出土し、1 期に帰属する遺構の存在を示す可能性がある。これ以外の柱穴ではあまりまとまった遺物の出土は見られないが、Pit263 (P1552)・Pit545 (P1565)・Pit548 (P1566)・Pit1009 (P1570)・

Pit1007 柱穴 (P1574) でⅡ群Ⅰ類、Pit88 (P1547)・Pit567 (P1568)・Pit753 (P1569)・Pit1055 柱穴 (P1572) でⅡ群Ⅱ類、Pit430 柱穴 (P1561) でⅡ群Ⅲ類、Pit41 (P1541)・Pit377 (P1555)・Pit405 (P1559)・Pit513 (P1563)・Pit1133 柱穴 (P1575) でⅢ群Ⅰ類、Pit46 (P1542)・Pit50 (P1544・1545)・Pit93 (P1548)・Pit235 (P1578)・Pit258 (P1551)・Pit396 (P1557)・Pit535 (P1564)・Pit563 (P1567)・Pit1063 柱穴 (P1573) でⅣ群Ⅰ類の深鉢・浅鉢の破片が出土している。

土製品は土偶・ミニチュア土器・三脚形土製品・土器片加工品 (円盤形) がある。土偶は大型土偶の頭部 (D0057・0061・0064)、中型土偶の胸部 (D0063)・脚部 (D0059)、小型土偶の腹部 (D0207) があり、頭部に押圧縄文または沈線、胸部に押引文を施文するものがある。

石器は石錐・尖頭器・石錐・石匙・石笄・楔形石器・不定形石器・打製石斧・磨製石斧・両面加工石器・二次加工ある剥片・微細剥離ある剥片・剥片・石核がある。定型石器では石笄がやや多く、Pit397 (S0447)・Pit480 (S0478)・Pit606 (S0884)・Pit615 (S0487)・Pit710 (S0472)・Pit838 (S0473・0474) で出土している。Pit838 柱穴では柱材抜き取り穴から2点を立て並べた状態で出土した。Pit847 では打製石斧 (S1009)、Pit336 柱穴では中型の打製石斧 (P1006) が出土している。Pit1251 柱穴では蛇紋岩製の定角式磨製石斧 (S1030) が出土している。基部を欠損するが、入念に研磨調整され円弧状の刃部を持つ均整の取れた形態で、比較的大型の製品と考えられる。Pit1130 柱穴では石笄または尖頭器の未成品と考えられる両面加工石器 (S1078) が出土している。母岩 1a に分類されるガラス質流紋岩を素材としている。図示していないが、Pit1264 柱穴では新潟県新発田産黒曜石製の楔形石器 (S0358)、Pit1153 柱穴では栃木県高麗山産、Pit523 柱穴では山形県月山産黒曜石製の剥片 (S0383) が出土している。

礫石器は石皿・台石・敲石・磨石類がある。

石製品は異形石器・三脚石器・棒状石製品がある。棒状石製品は長楕円形的大型円礫を素材とするもので、Pit421 (Q0065)・Pit1158 (Q0066)・Pit2014 柱穴 (Q0063) で出土している。

その他、焼成粘土塊 8 点 (写真図版 285) が出土している。また、縄文土器浅鉢 (P1564) でワラビ? 裂片の葉脈圧痕を確認した。

17. 遺構外出土遺物

遺構確認面および基本層出土遺物と、その他の出土遺物について述べる。

〔遺構確認面〕

縄文土器 555.4kg、土製品 71 点、焼成粘土塊 19 点、石器 2,933 点、礫石器 1,003 点、石製品 18 点が出土した。総重量は 1,317.8kg で、出土遺物全体の 15.9% を占める。調査経過で述べた通り、通常の遺構確認面出土遺物のほか、主に 1 区の遺構確認作業で実施した面的な掘り下げによる出土遺物を含んでおり、本来は遺物包含層のほか各遺構に帰属する遺物が相当数含まれていると考えられる。このうち、縄文土器 174 点 (第3分冊: 図版 244~261、第4分冊: 写真図版 231~246)、土製品 42 点 (図版 289~292、写真図版 271~276)、石器 127 点 (図版 329・348~360、写真図版 317・336~346)、礫石器 40 点 (図版 435~443、写真図版 450~456)、石製品 16 点 (図版 461~463、写真図版 470~472) を図示した。

縄文土器は深鉢・小型深鉢・浅鉢・台付浅鉢・壺・台付土器がある。Ⅱ群Ⅰ類で2点 (P1606・2160)、Ⅱ群Ⅱ類で3点 (P2022・2023・2158)、Ⅲ群Ⅰ類で1点 (P1964)、Ⅲ群Ⅱ類で2点 (P1992・2004)、Ⅳ群Ⅰ類で3点 (P1614・2019・2021)、Ⅴ群Ⅱ類で2点 (P1627・P2003) の略完形・復元個体がある。P2021 は大型の深鉢である。

土製品は土偶・ミニチュア土器・耳飾・三脚形土製品・円環形土製品・土器片加工品などがある。土偶は大型品の胸部 (D0060・0126)・胸部 (D0067)・脚部 (D0079・0108)、頭部のみを欠く中型品 (D0091)、中型

品の頭部 (D0073)・胸部 (D0068・0072・0093)・胴部 (D0075・0076)・下半身 (D0038・0084)・腹部 (D0086)・脚部 (D0089)、小型品の上半身 (D0074)・腹部 (D0069・0080)・下半身 (D0077・0078) がある。D0073 は顔面表現の可能性があり、D0126 は内面に粘土紐の積み上げ痕跡を残す乳房部分の破片で、中空土偶の可能性があり、D0077・0080 は柱状の粘土塊を接合し、D0076 は柱状の粘土塊の中に芯棒痕が観察される。

石器は石鏃・尖頭器・石錐・石匙・石篋・楔形石器・打製石斧・磨製石斧・不定形石器・両面加工石器・二次加工ある剥片・微細剥離ある剥片・剥片・石核・原石がある。S1029 は小型の定角式磨製石斧 (ホルンフェルス製) で、顕著な被熱痕が観察される。身体に被熱していない部分が帯状に残り、着柄の状態を示すと考えられる。S0984 はドレライト製、S1049 は花崗閃緑岩製の乳棒状磨製石斧、S1024・1025 は緑色岩 (アオトラ石) 製の定角式磨製石斧である。S0364 は宮城県川崎産黒曜石製の微細剥離ある剥片、S0389 は蔵王産黒曜石製の楔形石器である。また、図示していないが、栃木県高原山産 (S0372: 剥片)、宮城県川崎産 (S0361: 楔形石器、S0362: 二次加工ある剥片、S0369・0370: 剥片)、秋保産 (S0365・0381・0382: 剥片)、宮崎産 (S0377: 剥片)、産地不明 (S0390: 原石) の黒曜石製石器がある。

礫石器は石皿・台石・有溝砥石・敲石・磨石類がある。

石製品は垂飾品・異形石器・石棒・棒状石製品・乳鉢状石製品・浮子状石製品・三脚石器・円盤状石製品・板状有溝石製品・鋸歯緑石製品・線刻礫がある。Q0030 はヒスイ輝石岩製の垂飾品である。透過性が高く良質で色調は半透明の淡緑色を呈する。入念な研磨により扁平で下部が幅狭な短冊形に整形し、断面形は非対称な凸レンズ状を呈する。

その他、焼成粘土塊 19 点 (写真図版 287・288) が出土している。また、縄文土器深鉢 (P1632) でワラビ裂片の葉脈圧痕を確認した。

【基本層】

縄文土器 269.7kg、土製品 35 点、焼成粘土塊 6 点、石器 1096 点、礫石器 482 点、石製品 3 点が出土した。総重量は 830.1kg で、出土遺物全体の 10.4% を占める。層別の重量は I 層: 435.4kg (52.5%)、II 層: 28.4kg (3.4%)、III 層: 275.1kg (33.1%)、IV 層: 11.5kg (1.4%)、V 層: 27.8kg (3.4%)、その他: 52.0kg (6.3%) で、I 層は表土および現代の耕作土層であるから、帰属層位としては III 層が突出する。これは、大多数の遺構の掘り込み面が III 層上面および同層中と考えられることと符合し、III 層が集落期の堆積層であることを示している。なお、IV・V 層の出土遺物は遺構精査終了後の基本層掘削で出土した遺物であるが、上層の出土遺物と比較して際立って古く位置付けられるものはなく、後世の自然営為の攪乱によって上層から混入したものと判断される。

(I 層)

縄文土器 129.2kg、土製品 10 点、焼成粘土塊 1 点、石器 242 点、礫石器 211 点、石製品 1 点が出土した。このうち、縄文土器 16 点 (第 3 分冊: 図版 262・263、第 4 分冊: 写真図版 247)、土製品 7 点 (図版 292・293、写真図版 276・277)、石器 7 点 (図版 361、写真図版 347)、礫石器 3 点 (図版 444、写真図版 457)、石製品 1 点 (図版 464、写真図版 472) を図示した。

縄文土器は深鉢・浅鉢がある。III 群 I 類 (P2174)、III 群 3 類 (P2173) で各 1 点の復元個体がある。土製品は土偶・ミニチュア土器・土器片加工品がある。土偶は大型品の上半身 (D0116)・胸部 (D0120)・脚部 (D0117)、中型品の胸部 (D0119)、小型品の左半身 (D0123) がある。石器は石鏃・尖頭器・石錐・石匙・石篋・楔形石器・磨製石斧・不定形石器・両面加工石器・二次加工ある剥片・微細剥離ある剥片・剥片・石核がある。礫石器は石皿・台石・有溝砥石・敲石・磨石類がある。石製品は砥石 (Q0034) で古墳時代以降ないしは比較的新しい時期のものと考えられる。その他、焼成粘土塊 1 点 (写真図版 288) が出土している。また、縄文土器 (P1638) でコナラ属コナラ節効果の圧痕、深鉢 (P1639) でワラビ裂片の葉脈圧痕を確認した。

(II 層)

縄文土器 13.3kg、土製品 2点、石器 81点、礫石器 19点が出土した。このうち、縄文土器 10点（第3分冊：図版 263・264、第4分冊：写真図版 248）、土製品 1点（図版 293、写真図版 277）、石器 7点（図版 361・362、写真図版 347）を図示した。

縄文土器は深鉢・浅鉢がある。Ⅱ群 2類（P2030）、Ⅴ群 2類（P2029）で各 1点の復元個体がある。また、Ⅳ群 1類（P2028）の口縁部、Ⅲ群 1類（P2037）の破片がある。土製品はミニチュア土器・土器片加工品がある。石器は石鏃・楔形石器・不定形石器・二次加工ある剥片・微細剥離ある剥片・剥片・石核がある。S0169は岩手県北上川産黒曜石製の石鏃である。図示していないが、宮城県蔵王産黒曜石製の剥片（S0367）がある。礫石器は石皿・敲石・磨石類がある。

（Ⅲ層）

縄文土器 110.1kg、土製品 16点、焼成粘土塊 3点、石器 406点、礫石器 187点、石製品 1点が出土した。このうち、縄文土器 38点（第3分冊：図版 264～270、第4分冊：写真図版 249～253）、土製品 10点（図版 293、写真図版 277・278）、石器 32点（図版 362～365、写真図版 348～350）、礫石器 11点（図版 444～446、写真図版 457・458）、石製品 1点（図版 464、写真図版 472）を図示した。

縄文土器は深鉢・小型深鉢・浅鉢・台付土器がある。Ⅱ群 1類で 2点（P2040・2041）、Ⅲ群 1類で 7点（P2039・2044・2045・2050・2056・2071・2074）、Ⅳ群 1類で 3点（P0750・2046・2047）の略完形・復元個体がある。また、Ⅱ群 2類（P2063・2049・2075・2057）の破片がある。土製品は土偶・ミニチュア土器・耳飾・土器片加工品がある。土偶は中型品の頭部（D0095・0098）、小型品の脚部（D0097）がある。石器は石鏃・尖頭器・石錐・石匙・石筥・楔形石器・磨製石斧・不定形石器・両面加工石器・二次加工ある剥片・微細剥離ある剥片・剥片・石核がある。S1032は蛇紋岩製の定角式磨製石斧である。図示していないが、新潟県新発田産黒曜石製の剥片（S0379）がある。礫石器は石皿・有溝砥石・敲石・磨石類がある。石製品は異形石器である。その他、焼成粘土塊 3点（写真図版 288）が出土している。

（Ⅳ層）

縄文土器 5.7kg、土製品 2点、焼成粘土塊 2点、石器 121点、礫石器 16点が出土した。このうち、縄文土器 12点（第3分冊：図版 271、第4分冊：写真図版 253・254）、土製品 1点（図版 294、写真図版 278）、石器 5点（図版 365・366、写真図版 351）を図示した。

縄文土器は深鉢の大型破片（P2086：Ⅲ群 1類）、破片（P2087：Ⅱ群 1類、P2080・2083・2085・2095：Ⅱ群 2類、P2088：Ⅲ群 3類）がある。土製品は土偶・土器片加工品がある。石器は石鏃・尖頭器・石筥・楔形石器・磨製石斧・不定形石器・二次加工ある剥片・微細剥離ある剥片・剥片・石核がある。S0356は山形県月山産黒曜石製の楔形石器である。礫石器は石皿・敲石・磨石類がある。その他、焼成粘土塊 2点（写真図版 288）が出土している。

（Ⅴ層）

縄文土器 3.3kg、石器 61点、礫石器 10点が出土した。このうち、縄文土器 3点（第3分冊：図版 271、第4分冊：写真図版 254）、石器 5点（図版 366、写真図版 351）を図示した。

縄文土器は深鉢・浅鉢の破片（P2091：Ⅱ群 1類、P2093：Ⅱ群 2類、P2092：Ⅲ群 1類）がある。石器は石鏃・石錐・楔形石器・磨製石斧・不定形石器・二次加工ある剥片・微細剥離ある剥片・剥片・石核がある。S0360は宮城県蔵王産黒曜石製の楔形石器である。礫石器は石皿・磨石類がある。

（その他）

Ⅱ～Ⅴ層のいずれかに帰属するもので、縄文土器 8.1kg、土製品 5点、石器 185点、礫石器 39点、石製品 1点が出土した。このうち、縄文土器 7点（第3分冊：図版 272、第4分冊：写真図版 254・255）、土製品 5点（図版 294、写真図版 278）、石器 11点（図版 367・368、写真図版 352・353）を図示した。

縄文土器は深鉢の復元個体 (P2100・Ⅳ群1類)、深鉢・浅鉢の破片 (P2096・2099:Ⅱ群1類、P2097:Ⅲ群1類)がある。土製品はミニチュア土器・円環形土製品・土器片加工品がある。D0175は円環形土製品で扁平な円環状を呈し、両面と側面に充填・連続刺突文を施文する。側面に小さな貫通孔を持ち、垂飾品と考えられる。石器は石鏃・尖頭器・石錐・石匙・石篋・楔形石器・磨製石斧・不定形石器・二次加工ある剥片・微細剥離ある剥片・剥片がある。S1046は花崗閃緑岩製、S1048は細粒斑れい岩製の乳棒状磨製石斧である。いずれも使用による刃部の損傷が顕著に認められる。礫石器は石皿・敲石・磨石類がある。石製品は棒状土製品がある。

【その他】

攪乱層出土および排土・表面採集による遺物で、縄文土器 246.5kg、土製品 38点、焼成粘土塊 5点、石器 1,094点、礫石器 483点、石製品 6点がある。総重量は 1157.7kgで、出土遺物全体の 14.5%を占める。このうち、縄文土器 50点 (第3分冊:図版 273～275、第4分冊:写真図版 255～257)、土製品 26点 (図版 294～296、写真図版 278～281)、石器 51点 (図版 359～369～373、写真図版 345・353～357)、礫石器 15点 (図版 446～449、写真図版 459～461)、石製品 4点 (図版 464・465、写真図版 472・473)を图示した。

縄文土器は深鉢・小型深鉢・浅鉢がある。Ⅱ群1類 (P2134)、Ⅲ群1類 (P2121)、Ⅴ群2類 (P2115)で各1点の復元個体がある。また1群2類 (P2147)、Ⅱ群2類 (P2103・2104・2105・2129・2142・2185など)、Ⅱ群3類 (P2124・2136)、Ⅲ群2類 (P2127・2128・2131・2141)の破片がある。

土製品は土偶・ミニチュア土器・耳飾・土器片加工品などがある。土偶は大型品の頸部 (D0111)・胸部 (D0106・0112・0102)・腹部 (D0105)・脚部 (D0101)、中型品の頸部 (D0104・0114)・胸部 (D0031・0109・0215)・下半身 (D0113)、小型品の胴体 (D0115)・下半身 (D0103)がある。D0101は脚部の底面に径2.0～2.4cm、深さ3.6cmの穿孔がある。D0272は波状縁の深鉢形のミニチュア土器である。

石器は石鏃・尖頭器・石錐・石匙・石篋・楔形石器・磨製石斧・不定形石器・両面加工石器・二次加工ある剥片・微細剥離ある剥片・剥片・石核がある。S0261は珪質頁岩製で、残存長5.3cm、幅1.8cm、厚さ0.6cm、重量4.5gの長身の凹基無茎石鏃である。S0268は中型の凹基無茎石鏃で基部に顕著な黒色付着物が観察される。S1050は花崗閃緑岩製の乳棒状磨製石斧、S1026は緑色岩 (アオトラ石)製の定角式磨製石斧の基部である。S0017は宮城県川崎産黒曜石製の石匙、S0359は蔵王産黒曜石製の楔形石器である。また、图示していないが、栃木県高原山産 (S0376)、宮城県秋保産 (S0373)黒曜石製の剥片がある。

礫石器は石皿・有溝砥石・敲石・磨石類がある。

石製品は棒状土製品・三脚石器・鋸歯緑石製品・砥石がある。鋸歯緑石製品 (Q0026)は扁平な垂円礫の周縁に剥離による抉入部4か所を作出する。棒状土製品 (Q0005)は五角柱状の垂円礫 (柱状節理)を素材として側縁の稜上と上端部を中心に剥離と敲打による整形加工を加える。砥石 (Q0035)は古墳時代以降ないしは比較的新しい時期のものと考えられる。

その他、焼成粘土塊5点 (写真図版 288)が出土している。また、土偶 (D0118)で不明種実の圧痕を確認した。

写真図版



1. 遺構確認状況 1区(南西から)



2. 遺構確認状況 1区南東部(西から)



1. 遺構確認状況 2区（南西から）



2. 遺構確認状況 2区（北から）



1. 遺構確認状況 2区（北東から）



2. 調査区全景 1・2区（南から）



1. 調査区全景 1・2区 (北東から)



2. 調査区全景 1・2区 (南から)



1. 調査区全景 1区（北東から）



2. 遺構確認状況 3区東部（南から）



3. 遺構確認状況 3区南部（北西から）



4. 遺構確認状況 3区西部（南西から）



1. 土層断面 A (S21 ~ S22, 北西から)



2. 土層断面 A (S22 ~ S24, 北西から)



3. 土層断面 A (S24 ~ S25, 北西から)



4. 土層断面 A (S25 ~ S27, 北西から)



5. 土層断面 A (S27 ~ S28, 北西から)



6. 土層断面 A (S28 ~ S30, 北西から)



7. 土層断面 A (S30 ~ S31, 北西から)



8. 土層断面 A (S31 ~ S34, 北西から)



1. 土層断面 B1 (E15～E18, 南西から)



2. 土層断面 B1 (E18～E22, 南から)



3. 土層断面 B2 (E9～E12, 南西から)



4. 土層断面 B2 (E12～E15, 南西から)



5. 土層断面 B3 (E0～E3, 南西から)



6. 土層断面 B3 (E3～E7, 南西から)



7. 土層断面 B4 (W1～W3, 南西から)



8. 土層断面 C1 (S24～S28, 南東から)



1. 土層断面 C2 (S18～S22, 南東から)



2. 土層断面 D1 (E15～E19, 南西から)



3. 土層断面 D2 (S8～S14, 南東から)



4. 土層断面 E (W12～W16, 南西から)



5. 土層断面 E (W9～W12, 南西から)



6. 土層断面 E (W6～W9, 南西から)



7. 土層断面 E (W3～W6, 南西から)



8. 土層断面 E (W0～W3, 南西から)



1. 土層断面 F (N1～S3, 北西から)



2. 土層断面 F (S3～S6, 北西から)



3. 土層断面 F (S6～S9, 北西から)



4. 土層断面 F (S9～S12, 北西から)



5. 土層断面 F (S12～S15, 北西から)



6. 土層断面 F (S15～S18, 北西から)



7. 土層断面 F (S18, 北西から)



8. 土層断面 F (S18～S21, 北西から)



1. 土層断面 F (S21～S24, 北西から)



2. 土層断面 F (S24～S27, 北西から)



3. 土層断面 F (S27～S30, 北西から)



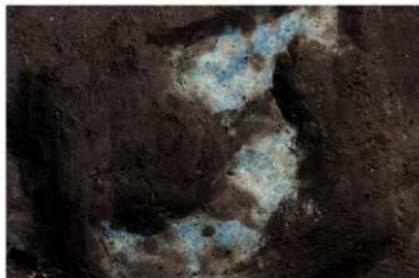
4. 土層断面 F (S30～S33, 北西から)



5. 土層断面 G (S51 付近, 北東から)



6. 基本層 II d 層火山砂ブロック検出状況 (土層断面 F S12～15 南東側, 南西から)



7. 基本層 II d 層火山砂ブロック検出状況 (土層断面 F S12～15, 南東側, 南西から)



8. 基本層 II d 層火山砂ブロック検出状況 (土層断面 F S15～18 南東側, 南西から)



1. 基本層Ⅱ d層火山砂ブロック検出状況(土層断面F S15～18南東側、南西から)



2. 基本層Ⅱ d層火山砂ブロック堆積状況(土層断面E W11、南西から)



3. 基本層Ⅱ d層火山砂ブロック堆積状況(土層断面F S17、北西から)



4. 基本層 掘削状況(1区北部、西から)



5. 基本層 掘削状況(1区南部、北東から)



6. 基本層 掘削状況(2区北部、南東から)



7. 基本層 掘削状況(2区南東部、南西から)



8. 基本層 掘削状況(SK244・276・292、南西から)



1. S11 竪穴住居跡 床面 確認状況（東から）



2. S11 竪穴住居跡 基本層掘削状況（東から）



3. S11 竪穴住居跡 A 断面（東から）



1. S11 竪穴住居跡 A 断面南半部（東から）



2. S11 竪穴住居跡 A 断面北半部（東から）



3. S11 竪穴住居跡 B 断面（南から）



4. S11 竪穴住居跡 B 断面西半部（南から）



5. S11 竪穴住居跡 B 断面東半部（南から）



1. SI1 竪穴住居跡 赤色硬化範囲確認状況 (南東から)



2. SI1 竪穴住居跡 A断面 (赤色硬化範囲, 東から)



3. SI1 竪穴住居跡 A断面 (P1, 東から)



4. SI1 竪穴住居跡 C断面 (P2, 南から)



5. SI1 竪穴住居跡 D断面 (P3, 東から)



6. SI1 竪穴住居跡 G断面 (P7, 南西から)



7. SI1 竪穴住居跡 遺物出土状況 (北西から)



8. SI1 竪穴住居跡 遺物出土状況 (Pot16・49 周辺, 南から)



1. SI1 竪穴住居跡 確認状況（南西から）



2. SI1 竪穴住居跡 遺物出土状況（西から）



3. SI1 竪穴住居跡 遺物出土状況（南西から）



1. SI1 竪穴住居跡 赤色炭化・炭素化跡認認状況 遺物出土状況 (Pot62, 南西5)



2. SI1 竪穴住居跡 遺物出土状況 (Pot11)



3. SI1 竪穴住居跡 遺物出土状況 (Pot13)



4. SI1 竪穴住居跡 遺物出土状況 (Pot14)



5. SI1 竪穴住居跡 遺物出土状況 (Pot16・49)



6. SI1 竪穴住居跡 遺物出土状況 (Pot41・42, St120)



7. SI1 竪穴住居跡 遺物出土状況 (Pot44)



8. SI1 竪穴住居跡 遺物出土状況 (Pot55・39)



1. SI1 竪穴住居跡 掘削作業



2. SI1 竪穴住居跡 掘削作業



3. SI20 竪穴住居跡 床面 確認状況 (南西から)



4. SI20 竪穴住居跡 基本層掘削状況 (南西から)



1. SI20 竪穴住居跡 A 断面北半部 (北西から)



2. SI20 竪穴住居跡 A 断面南半部 (北西から)



3. SI20 竪穴住居跡 B 断面東半部 (北東から)



4. SI20 竪穴住居跡 B 断面西半部 (北から)



5. SI20 竪穴住居跡 赤色硬化範囲確認状況 (北から)



6. SI20 竪穴住居跡 C 断面 (赤色硬化範囲・P78・79, 南から)



1. SI20 竪穴住居跡 C 断面 (P78, 南から)



2. SI20 竪穴住居跡 C 断面 (P79, 南から)



3. SI20 竪穴住居跡 C 断面 (P1, 北西から)



4. SI20 竪穴住居跡 J 断面 (P6, 南東から)



5. SI20 竪穴住居跡 L 断面 (P8, 北西から)



6. SI20 竪穴住居跡 M 断面 (P10・20, 西から)



7. SI20 竪穴住居跡 N 断面 (P13・21, 西から)



8. SI20 竪穴住居跡 O 断面 (P14, 東から)



1. SI20 竪穴住居跡 T 断面 (P22, 北西から)



2. SI20 竪穴住居跡 U 断面 (P23, 南から)



3. SI20 竪穴住居跡 X 断面 (P30・31, 南東から)



4. SI20 竪穴住居跡 Y 断面 (P33・34, 南から)



5. SI20 竪穴住居跡 AC 断面 (P43, 南西から)



6. SI20 竪穴住居跡 K5 完備状況 (南東から)



7. SI20 竪穴住居跡 骨片集中 確認状況



8. SI20 竪穴住居跡 炭化材出土状況



1. SI20 竪穴住居跡 遺物出土状況 (Pot63・64)



2. SI20 竪穴住居跡 遺物出土状況 (Pot65)



3. SI20 竪穴住居跡 遺物出土状況 (Pot135)



4. SI20 竪穴住居跡 遺物出土状況 (Pot67)



5. SI20 竪穴住居跡 遺物出土状況 (Pot68・69)



6. SI20 竪穴住居跡 遺物出土状況 (Pot72)



7. SI20 竪穴住居跡 遺物出土状況 (D0007)



8. SI20 竪穴住居跡 調査風景



1. SI20 竪穴住居跡 検出作業 (Pot65)



2. SI20 竪穴住居跡 掘削作業



3. SI20 竪穴住居跡 調査風景



4. SI20 竪穴住居跡 調査風景



5. SI20 竪穴住居跡 調査風景



6. SI20 竪穴住居跡 調査風景



7. SI20 竪穴住居跡 柱穴 掘削作業



8. SI20 竪穴住居跡 調査風景



1. SI22 竪穴住居跡 床面 確認状況（北西から）



2. SI22 竪穴住居跡 完掘状況（北西から）



3. SI22 竪穴住居跡 完掘状況 主柱穴位置（北西から）



1. SI22 竪穴住居跡 西半部確認状況（北から）



2. SI22 竪穴住居跡 A断面（南東から）



3. SI22 竪穴住居跡 B断面東半部（南西から）



4. SI22 竪穴住居跡 B断面西半部（北東から）



5. SI22 竪穴住居跡 火山砂ブロック堆積状況（北東から）



6. SI22 竪穴住居跡 赤色硬化範囲確認状況（南東から）



1. SI22 竪穴住居跡 D 断面 (K1, 東から)



2. SI22 竪穴住居跡 E 断面 (K2, 南から)



3. SI22 竪穴住居跡 F 断面 (P1ab, 南東から)



4. SI22 竪穴住居跡 H 断面 (P4, 北東から)



5. SI22 竪穴住居跡 J 断面 (P7, 南東から)



6. SI22 竪穴住居跡 P7 完掘状況 (南東から)



7. SI22 竪穴住居跡 P10 完掘状況 (南西から)



8. SI22 竪穴住居跡 L 断面 (P11ab, 北東から)



1. SI22 竪穴住居跡 M断面 (P12, 北東から)



2. SI22 竪穴住居跡 床面 遺物出土状況 (東から)



3. SI22 竪穴住居跡 床面 遺物出土状況 (北西から)



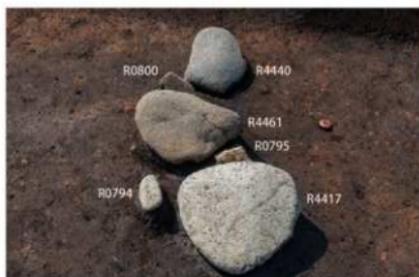
4. SI22 竪穴住居跡 3層 遺物出土状況 (P0205)



5. SI22 竪穴住居跡 1層 遺物出土状況 (P0206)



6. SI22 竪穴住居跡 2層 遺物出土状況 (D0009-a)



7. SI22 竪穴住居跡 遺物出土状況 (R0794・0795・0800・4417・4440・4461)



8. SI22 竪穴住居跡 東半部掘削作業



1. SB167 掘立柱建物跡 D断面 (P1, 北西から)



2. SB167 掘立柱建物跡 H断面 (P9, 南西から)



3. SX392・393・394 跡 C断面 (北から)



4. SB256 掘立柱建物跡 基本層掘削状況 (西から)



1. SB256 掘立柱建物跡 D 断面 (P2, 北西から)



2. SB256 掘立柱建物跡 E 断面 (P3, 西から)



3. SB256 掘立柱建物跡 C 断面 (P6, 北から)



4. SB256 掘立柱建物跡 H 断面 (P7, 北東から)



5. SB363 掘立柱建物跡 M 断面 (P8, 南東から)



6. SB363 掘立柱建物跡 N 断面 (P9, 南から)



7. SX372・373・374・375・377 柱跡 確認状況 (北東から)



1. SX372・373・374 炉跡 確認状況 (北東から)



2. SX375・377 炉跡 確認状況 (北東から)



3. SB358 掘立柱建物跡 G断面 (P1, 東から)



4. SB358 掘立柱建物跡 H断面 (P3, 南から)



5. SB358 掘立柱建物跡 I断面 (P4, 南西から)



6. SB358 掘立柱建物跡 J断面 (P5, 南東から)



7. SB358 掘立柱建物跡 K断面 (P6, 南から)



8. SB358 掘立柱建物跡 L断面 (P8, 西から)



1. SB362 掘立柱建物跡 Q断面 (P3, 北から)



2. SB362 掘立柱建物跡 R断面 (P4, 東から)



3. SB362 掘立柱建物跡 S断面 (P6, 西から)



4. SB362 掘立柱建物跡 V断面 (P9, 東から)



5. SX294 炉跡 B・C断面 (北西から)



6. SX294 炉跡 赤色硬化範囲確認状況 (東から)



7. SX295 炉跡 D断面 (赤色硬化範囲, 南東から)



8. SX295 炉跡 赤色硬化範囲確認状況 (南東から)



1. SX296 炉跡 赤色硬化範囲確認状況（北から）



2. SX296 炉跡 E 断面（北西から）



3. SX296 炉跡 赤色硬化範囲確認状況（北西から）



4. SB611 掘立柱建物跡 床面 確認状況（南西から）



1. SB611 掘立柱建物跡 床面 確認状況（東から）



2. SB611 掘立柱建物跡 柱穴 完掘状況（南から）



3. SB611 掘立柱建物跡 柱穴 完掘状況（東から）



1. SB611 掘立柱建物跡 A 断面南半部 (南東から)



2. SB611 掘立柱建物跡 A 断面北半部 (南東から)



3. SB611 掘立柱建物跡 B 断面西半部 (南西から)



4. SB611 掘立柱建物跡 B 断面東半部 (南西から)



5. SB611 掘立柱建物跡 J 断面 (P1c, 南西から)



6. SB611 掘立柱建物跡 K 断面 (P2abc, Ph1192, 北西から)



1. SB611 掘立柱建物跡 K 断面 (P2bc, Pt1192, 北西から)



2. SB611 掘立柱建物跡 L 断面 (P2c, 北東から)



3. SB611 掘立柱建物跡 M 断面 (P3b, 南から)



4. SB611 掘立柱建物跡 N 断面 (P3c, 南西から)



5. SB611 掘立柱建物跡 O 断面 (P4bc, 南東から)



6. SB611 掘立柱建物跡 P 断面 (P5b, 北西から)



7. SB611 掘立柱建物跡 Q 断面 (P5c, 南東から)



8. SB611 掘立柱建物跡 S 断面 (P6bc, 北東から)



1. SB611 掘立柱建物跡 骨片出土状況



2. SB611 掘立柱建物跡 骨片出土状況



3. SB611 掘立柱建物跡 骨片出土状況



4. SB611 掘立柱建物跡 骨片出土状況



5. SB611 掘立柱建物跡 骨片出土状況



6. SB611 掘立柱建物跡 遺物出土状況 (S1047)



7. SB611 掘立柱建物跡 清掃作業



8. SB611 掘立柱建物跡 調査風景



1. SB741 掘立柱建物跡 完掘状況 (東から)



2. SB741 掘立柱建物跡 D断面 (P1, 南西から)



3. SB741 掘立柱建物跡, SX733 炉跡 清掃作業



4. SX733 炉跡 赤色硬化範囲確認状況 (東から)



5. SX733 炉跡 A断面 (赤色硬化範囲, 東から)



6. SX733 炉跡 B断面 (赤色硬化範囲, 東から)



1. SB360 掘立柱建物跡 B 断面 (P2, 南西から)



2. SB360 掘立柱建物跡 E 断面 (P6, 南西から)



3. SB364 掘立柱建物跡 B 断面 (P5, 北から)



4. SB364 掘立柱建物跡 H 断面 (P14, 南西から)



5. SB364 掘立柱建物跡 J 断面 (P17, 西から)



6. SB366 掘立柱建物跡 A 断面 (P4, 北から)



7. SB740 掘立柱建物跡 B 断面 (P3, 北西から)



8. SB740 掘立柱建物跡 C 断面 (P6, 北から)



1. SX2 竪穴状遺構 底面 西半部確認状況 (北西から)



2. SX2 竪穴状遺構 A 断面 (南東から)



3. SX2 竪穴状遺構 B 断面東半部 (北東から)



4. SX2 竪穴状遺構 B 断面西半部 (北東から)



1. SX2 竪穴状遺構 遺物出土状況（北西から）



2. SX2 竪穴状遺構 遺物出土状況



3. SX2 竪穴状遺構 遺物出土状況



4. SX2 竪穴状遺構 遺物出土状況 (P0356)



5. SX2 竪穴状遺構 遺物出土状況 (P0365)



6. SX2 竪穴状遺構 遺物出土状況 (P0366)



7. SX2 竪穴状遺構 遺物出土状況 (D0050)



1. SX3 竖穴状遺構 底面 確認状況 (南西から)



2. SX3 竖穴状遺構 周辺遺構確認状況 (北西から)



3. SX3 竖穴状遺構 A 断面南半部 (東から)



4. SX3 竖穴状遺構 A 断面北半部 (南東から)



1. SX3 竪穴状遺構 B 断面 (北東から)



2. SX3 竪穴状遺構 遺物出土状況 (南西から)



3. SX3 竪穴状遺構 遺物出土状況 (P0403)



4. SX3 竪穴状遺構 遺物出土状況 (P0405・2024)



5. SX3 竪穴状遺構 清掃作業



6. SX4 竪穴状遺構 底面 確認状況 (南西から)



1. SX4 竪穴状遺構 赤色硬化範囲確認状況 (南西から)



2. SX4 竪穴状遺構 D断面 (K1, 南西から)



3. SX4 竪穴状遺構 A断面 (南東から)



4. SX4 竪穴状遺構 B断面 (北東から)



5. SX4 竪穴状遺構 遺物出土状況 (P0416)



6. SX4 竪穴状遺構 遺物出土状況 (P0408)



1. SX7 型穴状遺構 完備状況 (南から)



2. SX7 型穴状遺構 A 断面 (北西から)



3. SX7 型穴状遺構 A 断面南半部 (北西から)



4. SX7 型穴状遺構 A 断面北半部 (北西から)



1. SX7 竪穴状遺構 B 断面（北東から）



2. SX7 竪穴状遺構 B 断面東半部（北東から）



3. SX7 竪穴状遺構 B 断面西半部（北東から）



1. SX155 整穴状遺構 完掘状況 (南西から)



2. SX155 整穴状遺構 A 断面 (南東から)



3. SX155 整穴状遺構 B 断面西半部 (南西から)



4. SX155 整穴状遺構 B 断面東半部 (南西から)



1. SX510 竪穴状遺構 完掘状況（南東から）



2. SX510 竪穴状遺構 遺物出土状況 (Pot506, St653)



3. SX510 竪穴状遺構 遺物出土状況 (Pot506)



4. SX510 竪穴状遺構 遺物出土状況 (Pot522)



5. SX622 竪穴状遺構 底面 確認状況（北東から）



6. SX622 竪穴状遺構 A 断面（北東から）



7. SX647 竪穴状遺構 完掘状況（東から）



1. SX647 竪穴状遺構 A 断面東半部（北東から）



2. SX647 竪穴状遺構 A 断面西半部（北東から）



3. SX647 竪穴状遺構 B 断面（南東から）



1. SX1008 雙穴状遺構 完掘状況 (南から)



2. SX1018 雙穴状遺構 A断面 (北西から)



3. SX1018 雙穴状遺構 B断面 (赤色硬化範囲, 北から)



4. SX1018 雙穴状遺構 底面 赤色硬化範囲確認状況 (南西から)



5. SX1018 雙穴状遺構 掘削作業



1. SK28 フラスコ状土坑 底面 遺物出土状況, SK147・148 土坑 完掘状況 (南東から)



2. SK28 フラスコ状土坑, SK147 土坑 A 断面 (南西から)



3. SK28 フラスコ状土坑, SK147・148 土坑 B 断面 (北西から)



1. SK28 フラスコ状土坑 底面 遺物出土状況 (St163~168, 北から)



2. SK28 フラスコ状土坑 底面 遺物出土状況 (St163・164)



3. SK28 フラスコ状土坑 底面 遺物出土状況 (St163)



4. SK40 フラスコ状土坑 完掘状況 (北から)



5. SK40 フラスコ状土坑 A断面 (東から)



6. SK40 フラスコ状土坑 遺物出土状況 (P0823, 東から)



7. SK40 フラスコ状土坑 掘削作業



8. SK72 フラスコ状土坑 遺物出土状況 (Q0002)



1. SK41 フラスコ状土坑 完掘状況 (南西から)



2. SK41 フラスコ状土坑 A断面 (北東から)



3. SK41 フラスコ状土坑 A断面 (北から)



4. SK43 フラスコ状土坑 完掘状況 (南西から)



5. SK43 フラスコ状土坑, Pit430 柱穴 A断面 (西から)



6. SK43 フラスコ状土坑 掘削作業



7. SK72 フラスコ状土坑 完掘状況 (北東から)



8. SK72 フラスコ状土坑 A断面 (東から)



1. SK87 フラスコ状土坑 完掘状況 (南東から)



2. SK87 フラスコ状土坑 A 断面 (南から)



3. SK87 フラスコ状土坑 底面 遺物出土状況 (南から)



4. SK90 フラスコ状土坑 完掘状況 (北東から)



5. SK90 フラスコ状土坑 A 断面 (北東から)



6. SK90 フラスコ状土坑 B 断面 (底面 Pit, 北東から)



7. SK90 フラスコ状土坑 遺物出土状況 (P0877, 西から)



8. SK91 フラスコ状土坑 完掘状況 (北西から)



1. SK91 フラスコ状土坑 A 断面 (東から)



2. SK91 フラスコ状土坑 遺物出土状況 (北東から)



3. SK95・108 フラスコ状土坑 完掘状況 (南西から)



4. SK95 フラスコ状土坑 完掘状況 (北から)



5. SK95 フラスコ状土坑 A 断面 (北東から)



1. SK108 フラスコ状土坑 B断面 (南西から)



2. SK108 フラスコ状土坑 掘削作業



3. SK116 フラスコ状土坑 完掘状況 (南東から)



4. SK116 フラスコ状土坑 A断面 (南東から)



5. SK116 フラスコ状土坑 底面 遺物出土状況 (北西から)



6. SK116 フラスコ状土坑 遺物出土状況 (Pot122)



7. SK116 フラスコ状土坑 底面 遺物出土状況 (Pot123)



8. SK122・123・134 フラスコ状土坑 完掘状況 (北西から)



1. SK122・123 フラスコ状土坑 発掘状況 (南東から)



2. SK122・123 フラスコ状土坑 A断面 (南西から)



3. SK123 フラスコ状土坑 B断面 (北西から)



4. SK123 フラスコ状土坑 B断面 (北から)



5. SK122・134 フラスコ状土坑 C断面 (南西から)



1. SK126 フラスコ状土坑 完掘状況 (北西から)



2. SK126 フラスコ状土坑 A断面 (北西から)



3. SK126 フラスコ状土坑 遺物出土状況 (P0936, 南西から)



4. SK126 フラスコ状土坑 掘削作業



5. SK133 フラスコ状土坑 完掘状況 (北から)



6. SK133 フラスコ状土坑 完掘状況 (北東から)



7. SK133 フラスコ状土坑 A断面 (北東から)



8. SK133 フラスコ状土坑 底面 Pit・放射状小溝確認状況 (北から)



1. SK133 フラスコ状土坑 底面 Pit 断面 (北から)



2. SK191 フラスコ状土坑 完掘状況 (北から)



3. SK191 フラスコ状土坑 A 断面 (北から)



4. SK191 フラスコ状土坑 A 断面 (北西から)



5. SK196・197 フラスコ状土坑 完掘状況 (東から)



1. SK196・197 フラスコ状土坑 A 断面（北から）



2. SK196 フラスコ状土坑 A 断面（東から）



3. SK197 フラスコ状土坑 A 断面（東から）



4. SK196 フラスコ状土坑 底面 遺物出土状況（東から）



5. SK196 フラスコ状土坑 底面 遺物出土状況（P1007, 東から）



1. SK206・214 プラスコ状土坑 完備状況 (西から)



2. SK206・214 プラスコ状土坑 A断面 (西から)



3. SK206・214 プラスコ状土坑 A断面 (南西から)



1. SK222 フラスコ状土坑 完観状況 (北西から)



2. SK222 フラスコ状土坑 A断面 (北から)



3. SK222 フラスコ状土坑 A断面 (北西から)



4. SK241 フラスコ状土坑 完観状況 (北西から)



5. SK241 フラスコ状土坑 A断面 (北西から)



6. SK241 フラスコ状土坑 A断面 (北から)



1. SK242・244・276・292 フラスコ状土坑 完掘状況（北から）



2. SK242 フラスコ状土坑 完掘状況（北から）



3. SK242 フラスコ状土坑 A 断面（北東から）



4. SK242 フラスコ状土坑 A 断面（北から）



5. SK244 フラスコ状土坑 完掘状況（北東から）



1. SK244 フラスコ状土坑 B断面 (北東から)



2. SK244 フラスコ状土坑 B断面 (北から)



3. SK276 フラスコ状土坑 完掘状況 (東から)



4. SK276 フラスコ状土坑 C断面 (南東から)



5. SK292 フラスコ状土坑 完掘状況 (北東から)



6. SK292 フラスコ状土坑 D断面 (北東から)



7. SK253 フラスコ状土坑 完掘状況 (西から)



8. SK253 フラスコ状土坑 完掘状況 (北から)



1. SK253 フラスコ状土坑 底面 Pit 完掘状況 (西から)



2. SK253 フラスコ状土坑 A 断面 (南西から)



3. SK253 フラスコ状土坑 A 断面 (西から)



4. SK262 フラスコ状土坑 完掘状況 (北西から)



5. SK262 フラスコ状土坑 完掘状況 (南から)



6. SK262 フラスコ状土坑 A 断面 (北西から)



7. SK262 フラスコ状土坑 A 断面 (西から)



8. SK262 フラスコ状土坑 掘削作業



1. SK265 フラスコ状土坑 完掘状況 (南東から)



2. SK265 フラスコ状土坑 A断面 (南西から)



3. SK265 フラスコ状土坑 A断面 (南から)



4. SK265 フラスコ状土坑 遺物出土状況 (南から)



5. SK266 フラスコ状土坑 完掘状況 (南から)



6. SK267・268 フラスコ状土坑 完掘状況 (南西から)



7. SK268 フラスコ状土坑 完掘状況 (南西から)



8. SK267・268 フラスコ状土坑 A断面 (南西から)



1. SK268 フラスコ状土坑 A 断面 (南西から)



2. SK274 フラスコ状土坑 完掘状況 (西から)



3. SK274 フラスコ状土坑 A 断面 (北西から)



4. SK274 フラスコ状土坑 A 断面 (南西から)



5. SK274 フラスコ状土坑2層火山砂ブロック堆積状況(北西から)



6. SK280 フラスコ状土坑 完掘状況 (西から)



7. SK280 フラスコ状土坑 A 断面 (南西から)



8. SK280 フラスコ状土坑 底面 遺物出土状況 (Pot101・102, 南から)



1. SK280 フラスコ状土坑 底面 遺物出土状況 (Pot101, 東から)



2. SK280 フラスコ状土坑 底面 遺物出土状況 (Pot102, 南から)



3. SK280 フラスコ状土坑 遺物出土状況 (Pot102, St206, 南から)



4. SK282 フラスコ状土坑 完掘状況 (北から)



5. SK282 フラスコ状土坑 A断面 (南から)



6. SK282 フラスコ状土坑 底面 遺物出土状況 (Pot133, 北西から)



7. SK284 フラスコ状土坑 完掘状況 (北西から)



8. SK284 フラスコ状土坑 完掘状況 (南から)



1. SK284 フラスコ状土坑 A 断面 (北西から)



2. SK315 フラスコ状土坑 完備状況 (南から)



3. SK315 フラスコ状土坑 A 断面 (上部, 南から)



4. SK315 フラスコ状土坑 A 断面 (下部, 南から)



5. SK315 フラスコ状土坑 工具痕跡確認状況



6. SK315 フラスコ状土坑 襷出土状況 (南東から)



7. SK317 フラスコ状土坑 完備状況 (南西から)



8. SK317 フラスコ状土坑 A 断面 (南西から)



1. SK321 フラスコ状土坑 完掘状況 (南西から)



2. SK321 フラスコ状土坑 A断面 (南西から)



3. SK321 フラスコ状土坑 底面 遺物出土状況 (南東から)



4. SK508 フラスコ状土坑 底面 遺物出土状況 (北西から)



5. SK508 フラスコ状土坑 掘削作業



6. SK508 フラスコ状土坑 A断面 (北西から)



7. SK508 フラスコ状土坑 掘削作業



1. SK508・534 フラスコ状土坑 清掃作業 (南東から)



2. SK534 フラスコ状土坑 A断面 (北西から)



3. SK534 フラスコ状土坑 底面 遺物出土状況 (北西から)



4. SK534 フラスコ状土坑 底面 遺物出土状況 (P0716・1231・1234, 北西から)



5. SK592 フラスコ状土坑 完掘状況 (北東から)



1. SK592 フラスコ状土坑 完掘状況 (北東から)



2. SK592 フラスコ状土坑 A断面 (北東から)



3. SK592 フラスコ状土坑 A断面 (北東から)



4. SK606 フラスコ状土坑 A断面 (南西から)



1. SK606 フラスコ状土坑 4層火山砂ブロック堆積状況(南西から)



2. SK606 フラスコ状土坑 底面 Pit 完備状況(北東から)



3. SK606 フラスコ状土坑 遺物出土状況 (Pot542～546, 南西から)



4. SK606 フラスコ状土坑 遺物出土状況 (Pot542～546, 東から)



1. SK606 フラスコ状土坑 遺物出土状況 (Pot542・543, 東から)



2. SK606 フラスコ状土坑 遺物出土状況 (Pot545・546, P1320)



3. SK606 フラスコ状土坑 遺物取り上げ作業



4. SK508・612 フラスコ状土坑 完掘状況 (北から)



5. SK612 フラスコ状土坑 完掘状況 (北から)



1. SK612 フラスコ状土坑 A断面 (北西から)



2. SK612 フラスコ状土坑 A断面 (西から)



3. SK612 フラスコ状土坑 B断面 (底面 Pit, 北西から)



4. SK612 フラスコ状土坑 遺物出土状況 (P1367)



5. SK721 フラスコ状土坑 完備状況 (北から)



1. SK721 フラスコ状土坑 完掘状況（北西から）



2. SK721 フラスコ状土坑 A断面（南東から）



3. SK721 フラスコ状土坑 遺物出土状況（P1473）



4. SK721 フラスコ状土坑 調査風景



1. SK721 フラスコ状土坑 清掃作業



2. SK723 フラスコ状土坑 A断面 (南西から)



3. SK723 フラスコ状土坑 調査風景



4. SK723 フラスコ状土坑 断面実測作業



5. 1区南東隅土坑群 (フラスコ状土坑) 完掘状況 (南から)



6. 1区南東隅土坑群 (フラスコ状土坑) A断面 (北西から)



1. 1区南東隅土坑群（フラスコ状土坑）完掘状況（南西から）



2. 1区南東隅土坑群（フラスコ状土坑）完掘状況（北西から）



3. 1区南東隅土坑群（フラスコ状土坑）A・D断面（SK86・124、北から）



4. 1区南東隅土坑群（フラスコ状土坑）C断面（SK83・369、北から）



1. SK31 土坑 完掘状況 (南東から)



2. SK31 土坑 A断面 (南東から)



3. SK38 土坑 完掘状況 (北東から)



4. SK38 土坑 A断面 (南西から)



5. SK135 土坑 完掘状況 (北東から)



6. SK135 土坑 A断面 (北東から)



7. SK135 土坑 遺物出土状況 (D0124)



1. SK190 土坑 完掘状況 (北東から)



2. SK190 土坑 A 断面 (北西から)



3. SK190 土坑 B 断面 (北東から)



1. SK255 土坑 完掘状況 (南東から)



2. SK255 土坑 A断面 (南東から)



3. SK303 土坑 完掘状況 (東から)



1. SK303 土坑 完掘状況 (西から)



2. SK303 土坑, SX402 焼土集積 A 断面 (東から)



3. SK303 土坑, SX402 焼土集積 A 断面東部・B 断面北部 (北東から)



1. SK303 土坑, SX215 土器埋設遺構 遺物出土状況 (Pot3, R2171)



2. SK303 土坑 遺物出土状況 (R2165・2166)



3. SK501 土坑 遺物出土状況 (南西から)



4. SK501 土坑 遺物出土状況 (Pot812)



5. SK511 土坑 遺物出土状況 (Pot813～815, 南から)



6. SK511 土坑 遺物出土状況 (北東から)



7. SK514 土坑 底面 遺物出土状況



8. SK519 土坑 遺物出土状況 (Pot816)



1. SK519 土坑 遺物出土状況 (St659)



2. SK523 土坑 遺物出土状況 (北から)



3. SK524 土坑 遺物出土状況 (東から)



4. SK524 土坑 遺物出土状況



5. SK524 土坑 遺物出土状況 (Pot820)



1. SK524 土坑 遺物出土状況 (Pot821)



2. SK524 土坑 遺物検出作業



3. SK525 土坑 完掘状況 (北東から)



4. SK525 土坑 A断面 (北東から)



1. SK525 土坑 遺物出土状況（北東から）



2. SK550 土坑 底面 遺物出土状況（北から）



3. SK550 土坑 底面 遺物出土状況 (Pot514)



4. SK550 土坑 底面 遺物出土状況 (Pot523)



5. SK550 土坑 底面 遺物出土状況 (Pot524・525)



1. SK556 土坑 A 断面 (南から)



2. SK556 土坑 遺物出土状況 (Pot822)



3. SK576 土坑 遺物出土状況 (南西から)



4. SK576 土坑 遺物出土状況 (Pot824 ~ 826, St654)



5. SK609 土坑 遺物出土状況 (Pot541, St655, 南西から)



6. SK609 土坑 A 断面 (南東から)



7. SK609 土坑 遺物出土状況 (Pot541)



1. SK614 土坑 A 断面 (南東から)



2. SK642 土坑, SX610 遺物包含層 遺物出土状況 (P1395・1817)



3. SK651 土坑 遺物出土状況 (南東から)



4. SK656 土坑 遺物出土状況 (Pot518・829)



5. SK659 土坑 遺物出土状況 (Pot830)



6. SK662 土坑 遺物出土状況 (Pot833・834, 北西から)



1. SK664 土坑 完掘状況（北西から）



2. SK664 土坑 遺物出土状況（Pot555、北西から）



3. SK1007 土坑 完掘状況（北東から）



4. SK1007 土坑 A 断面（北東から）



5. SK1007 土坑 赤色硬化範囲確認状況（南西から）



1. SK1007 土坑 遺物出土状況



2. SK1007 土坑 遺物出土状況 (北西から)



3. SK1007 土坑 遺物出土状況 (Pot1001 ~ 1003)



4. SK1007 土坑 底面 遺物出土状況 (Pot1001)



5. SK1007 土坑 掘削作業



1. SD5 溝跡 完掘状況 (東から)



3. SD16 溝跡 完掘状況 (東から)



5. SD21 溝跡 完掘状況 (南から)



2. SD5 溝跡 B断面 (西から)



4. SD16 溝跡 C断面 (東から)



6. SD21 溝跡 E断面 (北から)



1. SX739 配石遺構 石材確認 (北東から)



2. SX739 配石遺構 石材確認 (S1572～574, 北から)



3. SX739 配石遺構 石材確認 (S1572～574, 東から)



4. SX739 配石遺構 石材確認 (S1572～574, 東から)



5. SX739 配石遺構 K1～K6 完掘状況, K7～K9 確認状況 (北東から)



1. SX739 配石遺構 K1 遺物出土状況 (Pot578, St571, 北西から)



2. SX739 配石遺構 K2 完備状況 (北から)



3. SX739 配石遺構 K2 遺物出土状況



4. SX739 配石遺構 K2 掘削作業



5. SX739 配石遺構 K7～K9 掘削状況 (北東から)



6. SX739 配石遺構 K9 1 断面 (南から)



1. SX180 土器埋設遺構 A断面（南から）



2. SX180 土器埋設遺構 遺物出土状況 (Pot125, St213)



3. SX180 土器埋設遺構 遺物出土状況 (St213)



4. SX199 土器埋設遺構 A断面（南西から）



5. SX199 土器埋設遺構 遺物出土状況 (Pot126)



6. SX215 土器埋設遺構 A断面（南西から）



7. SX215 土器埋設遺構 遺物出土状況 (PO611)



8. SX271 土器埋設遺構 A断面（北東から）



1. SX271 土器埋設遺構 遺物出土状況 (Pot127)



2. SX288 土器埋設遺構 遺物出土状況 (Pot128)



3. SX319 土器埋設遺構 遺物出土状況 (Pot129, 南東から)



4. SX322 土器埋設遺構 A断面 (Pot130, 東から)



5. SX342 土器埋設遺構 A断面 (Pot131, 西から)



6. SX584 土器埋設遺構 A断面 (北東から)



7. SX584 土器埋設遺構 遺物出土状況 (Pot808)



8. SX630 土器埋設遺構 A断面 (Pot809, 北から)



1. SX719 土器埋設遺構 A断面 (南東から)



2. SX719 土器埋設遺構 遺物出土状況 (Pot582, St652, 北西から)



3. SX719 土器埋設遺構 遺物出土状況 (Pot581・582, 南から)



4. SX719 土器埋設遺構 掘削作業



5. SX1001 土器埋設遺構 A断面 (西から)



1. SX732 遺物集中 確認状況 (北西から)



2. SX732 遺物集中 遺物出土状況 (北西から)



3. SX732 遺物集中 遺物出土状況 (南から)



4. SX732 遺物集中 遺物出土状況 (Pot678 ~ 683, 北西から)



5. SX732 遺物集中 調査風景



1. SX137 石器集積 遺物出土状況 (東から)



2. SX137 石器集積 遺物出土状況 (東から)



3. SX137 石器集積 A断面 (北から)



4. SX137 石器集積 A断面 (北から)



5. SX137 石器集積 完掘状況 (東から)



6. SX137 石器集積 掘削作業



7. SX144 石器集積 遺物出土状況 (上部, 南西から)



8. SX144 石器集積 遺物出土状況 (下部, 北東から)



1. SX144 石器集積 掘削作業



2. SX177 石器集積 A 断面 (北西から)



3. SX177 石器集積 遺物出土状況 (西から)



4. SX745 石器集積 遺物出土状況 (上部、南から)



5. SX745 石器集積 遺物出土状況 (下部、南から)



1. SX193 焼土集積 A断面 (南西から)



2. SX194・195 焼土集積 A断面 (西から)



3. SX209 焼土集積 C断面 (南西から)



5. SX395 焼土集積 確認状況 (南東から)



4. SX401 焼土集積 確認状況 (北東から)



6. SX402 焼土集積 焼土確認状況 (東から)



7. SX402 焼土集積 焼土確認状況 (東から)



8. SX736 焼土集積 確認状況 (南西から)



9. SX736 焼土集積 A断面 (南東から)



1. SX14 遺物包含層 遺物出土状況 (北から)



2. SX14 遺物包含層 A 断面南半部 (南東から)



3. SX14 遺物包含層 A 断面北半部 (南東から)



4. SX14 遺物包含層 B 断面南半部 (南西から)



5. SX14 遺物包含層 B 断面東半部 (南西から)



1. SX14 遺物包含層 遺物出土状況（北から）



2. SX14 遺物包含層 骨片集中 確認状況



3. SX14 遺物包含層 遺物出土状況（P0490・0497）



4. SX14 遺物包含層 遺物出土状況（P0485）



5. SX14 遺物包含層 遺物出土状況（R0966・1378・1380）



6. SX14 遺物包含層 掘削作業



1. SX17・361 遺物包含層 遺構確認状況（北から）



2. SX17・361 遺物包含層 遺構確認状況（南から）



1. SX17 遺物包含層 完掘状況 (東から)



2. SX17 遺物包含層 A断面北半部 (北西から)



3. SX17 遺物包含層 A断面南半部 (北西から)



4. SX17 遺物包含層 B断面 (南東から)



5. SX17 遺物包含層 B断面 (SX396 焼土集積, 南東から)



1. SX17 遺物包含層 C断面 (南から)



2. SX17 遺物包含層 C断面 (北東から)



3. SX17 遺物包含層 C断面南部 (南東から)



1. SX17 遺物包含層 C断面中央部 (南東から)



2. SX17 遺物包含層 C断面北部 (南東から)



3. SX17 遺物包含層 C断面北端部 (南東から)



1. SX17 遺物包含層 D断面中央部 (南西から)



2. SX17 遺物包含層 D断面東部 (南西から)



3. SX17 遺物包含層 F断面東部 (北東から)



4. SX17 遺物包含層 F断面中央部 (北東から)



5. SX17 遺物包含層 F断面西部 (北東から)



1. SX17 遺物包含層 骨片集中1確認状況



2. SX17 遺物包含層 骨片集中2確認状況



3. SX17 遺物包含層 遺物出土状況 (Pot78・79)



4. SX17 遺物包含層 遺物出土状況 (P0523)



5. SX17 遺物包含層 遺物出土状況 (S1034)



1. SX17 遺物包含層 遺物出土状況 (R0925)



2. SX17 遺物包含層 遺物出土状況 (Q0029)



3. SX17 遺物包含層 遺物検出作業 (Pot78・79)



5. SX17 遺物包含層 遺物検出作業 (Pot78・79)



4. SX17 遺物包含層 遺物検出作業 (Pot78・79)



1. SX361 遺物包含層 A 断面 (南から)



2. SX361 遺物包含層 B 断面 (東から)



3. SX361 遺物包含層 骨片集中 確認状況



4. SX361 遺物包含層 確認面 遺物出土状況 (P0639)



1. SX290 遺物包含層 完掘状況 (北西から)



2. SX608 遺物包含層 遺物出土状況 (南東から)



3. SX608 遺物包含層 底面 遺物出土状況 (Pot507・539)



4. SX608 遺物包含層 底面 遺物出土状況 (Pot539)



1. SX610 遺物包含層 遺物出土状況（北西から）



2. SX610 遺物包含層 底面 遺物出土状況 (Pot547)



3. SX610 遺物包含層 調査風景（北西から）



4. SX666 遺物包含層 遺物出土状況（北西から）



1. SX666 遺物包含層 遺物出土状況 (Pot548 ~ 552, 東から)



2. SX717 遺物包含層 2 層 遺物出土状況 (Pot532 周辺, 南東から)



3. SX717 遺物包含層 2 層 遺物出土状況 (Pot532 周辺, 南西から)



1. SX717 遺物包含層 2層 遺物出土状況 (Pot532 周辺, 南東から) 2. SX717 遺物包含層 2層 遺物出土状況 (Pot532・533・538, 南から)



3. SX717 遺物包含層 2層 遺物出土状況 (南西部 Pot563 周辺, 北西から)



4. SX717 遺物包含層 2層 遺物出土状況 (西部 Pot587 周辺, 北西から)



1. SX717 遺物包含層 2層 遺物出土状況 (Pot591 周辺, 北東から)



2. SX717 遺物包含層 2層, SX719 土器埋設遺構 遺物出土状況 (Pot581 周辺, 南西から)



3. SX717 遺物包含層 2層 覆土火山砂混入状況 (Pot639)



4. SX717 遺物包含層 2層, SX719 土器埋設遺構 遺物出土状況 (Pot581~584, 東から)



5. SX717 遺物包含層 2層, SX719 土器埋設遺構 遺物出土状況 (Pot581~582-639, 南から)



1. SX717 遺物包含層 2層 遺物出土状況



2. SX717 遺物包含層 2層 遺物出土状況 (St611・612)



3. SX717 遺物包含層 2層 遺物出土状況



4. SX717 遺物包含層 2層 遺物出土状況 (Pot501)



5. SX717 遺物包含層 2層 遺物出土状況 (Pot526)



6. SX717 遺物包含層 2層 遺物出土状況 (Pot556・616)



7. SX717 遺物包含層 2層 遺物出土状況 (Pot564)



8. SX717 遺物包含層 2層 遺物出土状況 (Pot587)



1. SX717 遺物包含層 2層 遺物出土状況 (Pot592)



2. SX717 遺物包含層 2層 遺物出土状況 (Pot597)



3. SX717 遺物包含層 2層 遺物出土状況 (Pot612, 東から)



4. SX717 遺物包含層 2層 遺物出土状況 (Pot622)



5. SX717 遺物包含層 2層 遺物出土状況 (Pot639)



6. SX717 遺物包含層 2層 遺物出土状況 (Pot653)



7. SX717 遺物包含層 2層 遺物出土状況 (Pot696)



8. SX717 遺物包含層 2層 遺物出土状況 (Pot695.D0009-d)



1. SX717 遺物包含層 2層 遺物出土状況 (D0045)



2. SX717 遺物包含層 2層 調査風景 (西部 S12W12 周辺, 北から)



3. SX717 遺物包含層 2層 清掃作業



4. SX717 遺物包含層 2層 遺物取り上げ作業 (Pot564)



5. SX717 遺物包含層 1・2層 遺物出土状況 (南西部 Pot563 周辺, 北西から)



1. SX717 遺物包含層 1層 遺物出土状況 (西部 St594 周辺, 北東から)



2. SX717 遺物包含層 1層 遺物出土状況 (Pot559・636, 北西から)



3. SX717 遺物包含層 1層 遺物出土状況 (Pot599～602, 東から)



1. SX717 遺物包含層 1 層 遺物出土状況 (Pot655 周辺, 南東から)



2. SX717 遺物包含層 1 層 遺物出土状況 (Pot666・667, 南東から)



1. SX717 遺物包含層 1 層 遺物出土状況 (Pot502)



2. SX717 遺物包含層 1 層 遺物出土状況 (Pot559)



3. SX717 遺物包含層 1 層 遺物出土状況 (Pot623)



4. SX717 遺物包含層 1 層 遺物出土状況 (Pot631)



5. SX717 遺物包含層 1 層 遺物出土状況 (Pot645)



6. SX717 遺物包含層 1 層 遺物出土状況 (Pot651 周辺)



7. SX717 遺物包含層 1 層 遺物出土状況 (Pot666 周辺, 東から)



8. SX717 遺物包含層 1 層 遺物出土状況 (Pot702・703)



1. Pit1251 柱穴 遺物出土状況 (S1030)



2. 遺構確認面 遺物出土状況 (Pot5)



3. 遺構確認面 遺物出土状況 (Pot7)



4. 遺構確認面 遺物出土状況 (Pot9)



5. 遺構確認面 遺物出土状況 (Pot29)



6. 遺構確認面 遺物出土状況 (Pot614・615)



7. 攪乱 遺物出土状況 (D0115)



8. 遺構確認面 遺物出土状況 (D0078)



9. 遺構確認面 遺物出土状況 (D0079)



1. 遺構確認面 遺物出土状況 (D0091)



2. 遺構確認面 遺物出土状況 (D0093)



3. 遺構確認面 遺物出土状況 (D0176)



4. 基本層Ⅲ層 遺物出土状況 (Pot637)



5. 基本層Ⅲ層 遺物出土状況 (Pot670)



6. 基本層Ⅲ層 遺物出土状況 (S1032)



7. SX17 遺物出土状況 (R1619)



8. 攪乱 遺物出土状況 (D0112)



9. 攪乱 遺物出土状況 (D0113)



1. 調査風景 (1区面整理)



2. 調査風景 (1区面整理, 北から)



3. 調査風景 (3区面整理, 西から)



4. 調査風景 (1区遺構確認, 北東から)



5. 調査風景 (1区遺構確認, 南東から)



6. 調査風景 (1区遺構掘削)



7. 調査風景 (1区遺構掘削)



8. 調査風景 (1区, 北から)



1. 調査風景 (1区, 北から)



2. 調査風景 (1区, 北東から)



3. 調査風景 (1区, 南西から)



4. 調査風景 (1・2区, 南から)



5. 調査風景 (1・2区, 南から)



7. 調査風景 (2区)



6. 調査風景 (2区, 東から)



1. 調査風景 (2区, 東から)



2. 調査風景 (2区)



3. 調査風景 (フラスコ状土坑 平面実測)



4. 調査風景 (遺構 断面実測)



5. 調査風景 (遺構 断面実測)



6. 調査風景 (2区 基本層掘削)



7. 調査風景 (2区 基本層Ⅱd層上面検出, 北東から)



1. 調査風景 (2区基本層掘削)



2. 調査風景 (2区基本層掘削, 東から)



3. 調査風景 (降雪時)



4. 調査風景 (凍結時)



5. 調査風景 (凍結時)



6. 発掘調査見学 (小学生)



7. 発掘調査見学 (小学生)



8. 発掘調査見学 (小学生)



1. 発掘調査見学 (小学生)



2. 発掘調査体験 (中学生)



3. 発掘調査体験 (高校生)



4. 発掘調査体験 (高校生)



5. 発掘調査体験 (高校生)



6. 整理作業体験 (高校生)



7. 整理作業体験 (高校生)



8. 発掘調査見学 (教職員)



1. 調査指導 (県教委)



3. 報道発表



2. 現場視察 (町長)



4. 報道発表



5. 発掘調査見学会



6. 発掘調査見学会



7. 発掘調査見学会



1. 整理作業 (遺物洗浄)



2. 整理作業 (遺物洗浄)



3. 整理作業 (遺物注記)



4. 整理作業 (遺物注記)



5. 整理作業 (遺物接合)



6. 整理作業 (遺物接合)



7. 整理作業 (遺物接合)



8. 整理作業 (遺物修復)



1. 整理作業 (遺物修復)



2. 整理作業 (遺物修復)



3. 整理作業 (遺物拓本)



4. 整理作業 (遺物実測)



5. 整理作業 (遺物実測)



6. 整理作業 (遺物実測)



7. 整理作業 (遺物実測)



8. 整理作業 (遺物実測)

印刷製本仕様

製 本：A4判(縦)、無線(あじろ)綴じ、並製本
ページ数：巻頭図版12p、本文318p、写真図版129p、計459p
(総ページ数506p)
印 刷：オフセット印刷、両面4色刷り、210線
用 紙：表 紙 コート225kg(PP貼加工)
見返し 上質135kg
本文等 マットコート90kg
巻頭図版・写真図版 コート110kg
原稿形式：Adobe® InDesign® CS5.5(7.5.3) PDF/X-1a:2001
(OS:Microsoft® Windows® 10 Pro)

ISSN 2188-2525

蔵王町文化財調査報告書 第26集

谷地遺跡

—消防庁舎建設計画に伴う緊急発掘調査—

第1分冊 調査記録編

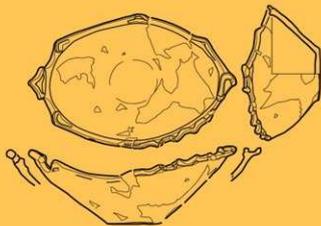
2021年(令和3年)12月20日 印刷・発行

編集・発行 蔵王町教育委員会

〒989-0821 宮城県刈田郡蔵王町円田字西浦5番地

T E L 0224-33-2018 F A X 0224-33-2019

印刷・製本 株式会社 津田印刷



Zao Town Cultural Property Survey Report Vol.26

YACHI SITE

Archaeological excavation of prehistoric Jomon settlement ruins.

Volume1: Survey Results.

2021.12

Zao Town Board of Education in Katta District, Miyagi Prefecture, Japan.